OLDCODEX表紙巻頭大特集! 付録ポスター&応募者全員サービスも!

音楽、人間マガジン バックステージ・パス

BACKSTAGE B-PASS

2017
8

バックステージ・パス8月号 2017年6月27日発行・発売(毎月27日発行・発売)
第33巻第8号通巻471号 昭和61年8月2日第3種郵便物認可

付録
両面ポスター
OLDCODEX



表紙巻頭特集30P

OLDCODEX

they go, Where?

道なき道を切り拓け!
2人のすべてが注がれた5thアルバムを最速特集!!

ゆず／Acid Black Cherry／UVERworld
miwa／flumpool／超特急／山崎育三郎
BREAKERZ／Sonar Pocket／DOBERMAN INFINITY／E-girls
GENERATIONS from EXILE TRIBE／THE RAMPAGE from EXILE TRIBE
羽多野渉／SUPER★DRAGON／go!go!vanillas／W♠PRINCE／Blu-BiLLioN and more

BACKSTAGE

B-PASS

CONTENTS

8

AUGUST
2017
NO.378











B-PASS8月号 表紙巻頭特集スペシャル OLDCODEX応募者全員サービス

OLDCODEX×B-PASS オリジナル・メモパッドを応募者すべての方へ

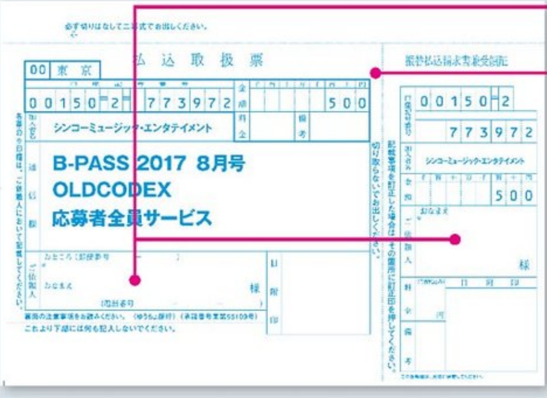
●OLDCODEXの撮りおろしフォトをデザインした特製メモ帳

表紙が観音開きのように2段階に開き、
中には4ブロックに分かれたメモ用紙を配置。
サイズ：縦11cm×横8cm×厚さ1.5cm

ご応募お待ちしております!



※写真はイメージです。実際のデザインではありません。



応募方法

1口につき500円（消費税込み／送料・手数料として）で応募できます。
※払込手数料はお客様のご負担となりますので、ご了承ください。

▶郵便振替

この号に付属の郵便振替払込用紙1枚につき、1口応募できます。
必ず今月号P.144についている払込用紙（応募券になっています）をご使用ください。

❶本誌から払込用紙（応募券）をきれいに切り取ってください。
❷払込用紙（応募券）の*印がある箇所、住所・氏名（フリガナ）・電話番号（市外局番から書いてください）を略さずに正確に書いてください。記入はすべて黒か青のボールペンで書いてください。
❸払込取扱票（左側）と振替払込請求書兼受領書（右側）の間のミシン目は切り離さないでください。
❹代金の払込は、郵便局またはゆうちょ銀行直営店の窓口か郵便振替自動受付機で行なってください。別途払込手数料がかかります。電信振替での申し込みは無効になりますので、必ず現金で払い込んでください。
❺払込後は、「振替払込請求書兼受領証」を受け取り、商品がお手元に届くまで、大切に保管してください。この受領証が入金した証拠になります。

▶銀行での振込をご希望の方

❶必ずご自身のお名前（フルネーム）と連絡先を記入または入力し、下記口座へ一口応募につき500円をお振込ください。別途振込手数料がかかります。
銀行名:三井住友銀行　支店名:浅草橋支店
種別:普通預金　口座番号:7329660
口座名義:株式会社シンコーミュージック・エンタテイメント
❷銀行振込の明細（控え）と今月号P.144についている払込用紙を応募券とさせて頂きます。銀行振込して頂いた際の明細（控え）のコピーと、本誌付属の払込用紙に住所・お名前・電話番号を記入したものを同封して、〈〒101-8450 東京都千代田区神田錦町1-14-2F B-PASS編集部「B-PASS8月号 OLDCODEX全員サービス」係〉へお送りください。

▶応募締切

2017年7月31日（月）
※商品のお届けは2017年10月中～下旬よりお送りする予定です。地域によって、お届け時期が前後する場合がございますので、ご了承ください。

▶注意点

※現金、為替、切手などによる応募は無効となります。お受けできませんので、編集部に送らないようにお願いします。返却はできません。※記入もれ、間違い、締切日までに入金されていない場合は、申し込み不備として応募は無効になります。ご注意ください。※払込金額が多くても返金できません。※お届け先は日本国内に限ります。※応募が無効になった場合以外の応募後のキャンセルはできませんので、ご了承ください。※今回、ご記入頂くお客様の個人情報は、こちらの全員サービス送付目的以外では使用いたしません。

◇応募に関するお問い合わせ

B-PASS 全員サービス係 TEL 03-3292-2868（14時～18時／土日祝祭日のぞく）

BACKSTAGE B-PASS

CONTENTS

8

AUGUST
2017
NO.378


044


052


060


068


078


084


090


098

Cover Artist
OLDCODEX
Cover Photo
小松陽祐(ODD JOB)
Art Director
鶴羽高章
Graphic Designers
鶴羽高章、桑名見智路、金子歩未(hive)
Editor in Chief
吉崎美也子
Deputy Editor
高橋波奈子
Editors
鈴木明日香、佐藤 恵

BACKSTAGE B-PASS


ODEX




O D E X


YORKE.
O L D C



『Fixed Engine』という、大きな節目となったシングル・コレクションの次の作品であったこと。
アルバム全曲を2人の手で作り出すという公言の下の制作であったこと。
そして、まったく予期せぬ別れ――。
今回の表紙巻頭特集は、期せずして、そんなオリジナル・アルバム制作の渦中にいる
OLDCODEXを追いかけることとなりました。
この瞬間だからこそキャッチできた、2人の裸の言葉と、『they go, Where?』に注ぐ強い想いをお届けします。



OLDC

they go, Where?

Text ⇒ 大西智之
Photo ⇒ 小松陽祐(ODD JOB)
Hair & Make-Up ⇒ 松井祥子(admix B.G)
Styling ⇒ Ta_2:久芳俊夫(BEAMS)
YORKE.:峰岸祐介(rouge)

5th Album "they go, Where?" 2shot Interview

アルバム制作真っ最中のレコーディング・スタジオにお邪魔して行なうこととなったインタビュー。現在進行形でその全体像が見え始めた"今"だからこそ語ることができる、リアルな想いを。











■本日はレコーディングにお邪魔しています。

YORKE.「レコーディング自体はもう終盤になってきました」

■今回は初めて全曲をTa_2さんが作曲、YORKE.さんが歌詞で作る。それを公言してのアルバムですね。

Ta_2「そこは絶対一度やっておきたくて。貫き通すことが大事だし。作家さんに入ってもらったり、みんなと一緒にやるのもいい刺激をもらうんだけど、まず2人の名前でクレジットを埋めたいってのは目標だったから。それを『Fixed Engine』というシングルコレクションの後にやるのはいいな、って」

YORKE.「Ta_2がそこに拘っていたし、それがよかった。Ta_2はこれまでも全体を見てたけど、ガッツリもの作りをやるクリエイティヴの現場でこれだけ長い間一緒にいるのって初めてだから。Ta_2自身も見えることがいっぱいあるだろうし。その時間を共有しているのは俺も楽しい。大変なこともあるけど、それは作って結果を出すしかないしね」

■Ta_2さん的にはどういう時間でしたか？

Ta_2「やってる内に不測の事態が起こっちゃったから……。約8年間共に進んできたディレクターが、チームから外れることになっちゃったんですよ。楽曲に対しての判断だったり、モチベーションの違いで。どういう音楽を作りたいという方向性のズレも大きくなって。たくさん話し合いを重ねて、このアルバムまでは続けていこうっていう話も出たんだけど、結局、まったく違う方向を向いたからうまくいかなくて。途中まで進めていたけど、そのまま。そこで、渡していた俺の曲もあやふやになっちゃったんですよね。そんな楽曲たちがこれから先良くなるとも思えないし、それでいったん一から作り直したり」

YORKE.「で、しわ寄せが全部今、大きな波のようにYORKE.へ(笑)。でも、全然かまわないよ。Ta_2は気が済むまでやればいい。俺がそこに言葉や色を付けるから。それよりも、俺たちのせいでもあるんだけど、ディレクターのムードが変わったのがキツかった。彼のケジメのつけ方がね……。ディレクターだった彼は、一緒にOLDCODEXをやってきた中で、ファンの人たちにも認知度が高い人だったから。B-PASSではリアルに書いてもらったほうがいいと思うんだよね。結果、彼は自分の意思でチームからはずれたよ。去っていったよ。その決断に対しては否定も肯定も、あまり特別な感情は持たないようにした。俺もTa_2と気持ちは一緒だけど、俺たちは2人だし、役割があるから、俺は冷静でいる必要があって。その立場と現場のムードを保つのが大変だったかな。笑っているのも正直結構ツラかったよ」

Ta_2「2人で再開した時は、『CONTRAST SILVER』の時みたいだったよね」

■R・O・Nさんが抜けて2人になった時。

YORKE.「でも、その時とは絶対的に違ってることがあって。『FIXED ENGINE』のツアー（『OLDCODEX Tour 2016-2017 FIXED ENGINE』）を廻って、メンタル的にも強くなれていたから。体制が変わることにビビらずにいられた。よりテンションと愛情の高い人間と一緒に作ろうと思えた。そこで決着つけるのは俺たちだからってところまでしっかりいけたよね」

■ものを作る時って、例えば負の感情がキッカケでできた曲もそのエネルギーをいい方向に回していく必要がありますよね。

YORKE.「そうそう。何年か経ったら、そういうこともあったなぁって薄れていくけど、作ったものは残るから。ものを作って形にする、それを後悔しないものにするのがまず大事だなって」

Ta_2「怒りも、曲全体がそうなっていることはないしね」

YORKE.「そうだね、原動力になってるんだけど、そこだけじゃない」

■そんなことがあって、今まさに集中して

制作しているんですね。アルバムの全体としては、何合目くらいまで登った状態ですか?

YORKE.「ジャケットワークまで含めると全然登っている途中だよね」

Ta_2「3合目差し掛かったあたり?」

YORKE.「リアルな話しちゃうと、あと3日で歌詞3曲とジャケットの入稿までやらないとならない。負けねぇぞ!っていうメンタル(笑)。ただ、今は目指すべき頂上が見えてる。走り出した時はどこが頂上かも見えない状態だったから。それで俺はアルバムタイトルを『they go, Where?』ってつけたんですよ。少し曖昧なタイトルで、〝どこに向かうんだ?〟って。答えをこのアルバムのツアーで探しにいくみたいなイメージでいたし。タイトルをつけることでTa_2もちょっと気がラクになるんじゃないかって。タイトルありきで進めていったら、曲もだんだん見えてきた。最初はこんなに散らばってるけど大丈夫?と思ったけど。そういう意味ではサウンドプロデュースでもみんなにお世話になって、客観的な目が入ったことで今までと違うものにもなったよね」

Ta_2「自分の中で瞬間的に生まれてくるものだったり、噛み締めてるものを、全部音にしたっていうのが素直な印象で。実験的な楽曲もあるし、今まで通りの楽曲もあるし……いろんな曲がある。かと思えば少し寂しげに聴こえる曲も多くて。やっぱりそうなるんだよね。俺、スタジオ行くと毎回救われてたな。YORKE.がいたし、リズム録りの日にも来てくれて。連絡入れてくれたりした」

YORKE.「俺、めずらしくまめにTa_2に電話してたね(笑)。心配だったのかも」

Ta_2「あと、いつも俺たちを支えてくれたメンバーもそう。こっちがびっくりするくらいあっけらかんと、〝大丈夫だよ。いいもん作ろうぜ〟って。ギリギリのアレンジ上がりでも、毎回最高なプレイをしてくれた」

YORKE.「Ta_2がその頃言ってた、〝OLDCODEX始めた時のヤツが誰もいなくなったよ〟って言葉が忘れられない。〝俺がいるじゃん!〟って俺、言ったんだよ(笑)。メンバーになったのはちょっと後だけど、最初からアートワークで関わってたから。コアの俺たちがしっかりしていれば、あとは回していくだけだからね」

Ta_2「そうやって、どんどんホッとしていったのは大きかったかな。アレンジだったり音作りも含めて、限りある時間の中で、こだわるだけこだわって。ギターの音ひとつ、ドラムの音ひとつ、ベースの音ひとつ全部にこだわって、丁寧にやってきた。全部タイムアップで終わっていくっていう流れだったから」

YORKE.「ってTa_2は言ってるけど、ほぼロスタイムだからね(笑)。でもTa_2は〝まだ大丈夫!〟っていう謎のタイム感でいて。Ta_2のすごいところが、ある程度作曲が終わった時に、〝俺の仕事終わったわぁ〟って俺の前で言う!?みたいな。俺はここから歌詞つけるんですけど!?って(笑)」

Ta_2「わははは。あとはよろしく~って。YORKE.なら大丈夫!って」

YORKE.「おーい!(笑)」

Ta_2「始まりとしては大変だったんだけど、今それをネタにしながら走っていけてるくらいの何かがあるから。底抜けに明るい曲があったりするしね」

YORKE.「いい感じですよ。歌詞もそういうムードで書けたし。ファンの皆の顔を思い浮かべながら、ライヴのMCで言ってるようなことを全部ぶち込もうとか」

Ta_2「最初からYORKE.と話してそういう曲を作ったんだよね」

YORKE.「そういう曲もあれば、こういう場では言えないような俺自身のことも歌詞にぶち込んで強い言葉を入れたり。〝F◯ck〟よりも強い言葉っていっぱいあるんだなって





思ったな。今まで、ポジティヴに書いていこうと思っていたから、そういう感情で歌詞を書くことってこれまであんまりなくて。そのネガティヴなものをそのまま吐き出すことも今回のアルバムではけっこうやってきた。社会に対するものより、個人へのメッセージのほうが人間の感情として強いんだなって、俺自身も歌詞を書きながら感じた。書きながら泣いたりもしたし」

■怒りから生まれるパワーってありますよね。そのエネルギーが聴いた人を奮い立たせたり。

Ta_2「オリジナルアルバム制作という、濃密な時間の中で、長い期間で経験するようなこともポンポンと起きたから。こと、モノ作りだったり、俺たちが進んでいく先に対して、いいものが舞い降りてるんだなって今は感じる。その苦しい壁があるから、どうしようって考えるし。だからこそいろいろ込めよう、とも思えたから」

■Ta_2さんの中では、向かう先が〝どこ?〟という迷いはなさそうですね。

Ta_2「うん」

■YORKE.さんはアルバムタイトルを付けた時と今と、タイトルに対する想いに変化はありました?

YORKE.「今思うと、その時は必死だったように思う。今までと流れが違いすぎて、言葉が全然見つからなかった。リード曲の〝Where'd They Go?〟もそうだったから、苦戦したんですよ。1曲書いたらバーっと出てくるようになったんだけど」

■「Where'd They Go?」を聴いて、『Fixed Engine』の時に、ここで線を引いて先に行くんだ、ということを言ってたのを思い出しましたよ。

Ta_2「シングルの流れ、〝Deal with〟、〝Scribble, and Beyond〟から連続性を持たせたいなってずっと思ってきたんですね。その中で今の自分たちが叩き起こしたいものってなんだろう?って思いながら作った楽曲なんです。厳密に言うと、このリズム録りまではディレクターがいてね」

YORKE.「後半にYORKE.の歌パートがあるんですけど、その歌詞を書いた時にはPeace outしてたから。そういうことを言ってる」

Ta_2「この曲は、アレンジもどれだけ煮詰めたかわからない。各アレンジャーに、まだやるの?っていうくらいリテイクをお願いしたし。バンドメンバーにも、どうしてほしいかを事細かく伝えて。イントロのシンセの使い方からそこに続くフレーズ、間奏のフレーズ……俺の頭の中身を全部ぶちまけたというか。今まで聴いてきた音楽だったり、フレーズやドラムパターン、ギターの拍が表から裏に変わって、とか。あらゆる箇所に自分の中に持っている可能性だったりを込めました」

■イントロのシンセの音から緊張感がありますし。そこからラウドに展開していて。

Ta_2「そうそう。初めて〝Wow wowow〟っていう歌詞をYORKE.が入れてくれたんですけど。ここはできれば歌詞をハメたくないっていう話を2人でして。なんとでも聴こえるし、シンプルな言葉で、表記すると〝wow〟っていうそれだけのもの。一番原始的なそこに意味を持たせたかったんです。いろんな思いを綯い交ぜにしながら、でした。ディレクターに対して、気づいてくれよという想いでもあるし。『FIXED ENGINE』のツアーで歩んできた時に、こんな俺たちにも好いてくれる人たちがいると感じたことだったり。ライヴハウス、ホール、武道館で、叫んでくれたり笑ってくれたり煽ってくれたり、背中押したり押されたりっていうこともあって。そういう人たちに届けたいなって。……なんか全部でしたね。ネ



ガティヴもポジティヴも1曲の中に入ってる」

■曲の根底にはラウドを置いているから、最近のOLDCODEXの流れの中にいるんだけど、それだけではないと思えて。

Ta_2「俺たちの基礎ってラウドバンドではないんだけど、一歩そこに入ってしまえばなんとでもできるよって。自分のポテンシャルを1回際限なく出したかった。それはこのアルバムのテーマのひとつでもありましたね」

■YORKE.さんにとってはどんな印象の曲になりました?

YORKE.「どこかノスタルジックだし、俺にはあんまり新しいっていう感覚はなくて。〝あの頃の俺たち、どこにいったんだろう?〟っていうメッセージ性を歌詞に与えたから」

■この音の中でYORKE.さんのリーディングというか、ヒリヒリしたつぶやきみたいなものが入ってくるのも良くて。歌でもラップでもないし。声を張ってないけど、印象に残るというか。これ今までのOLDCODEXで聴かないよな、とか。

YORKE.「ポエム的なね。これはTa_2のアイデアだね。仮歌の時は〝F◯ck!〟しか言ってなかったけど」

Ta_2「俺の声だけで完結する曲じゃないほうがいいなって感じたんです。お互い渦巻いてるものがたくさんあるし、〝この曲がOLDCODEXだ〟という新しい名刺を投げつけたいっていう想いもあったから。フラッシュアイデアに近かったんだけど、YORKE.の声で入れたいんだよねってサクっと投げた」

YORKE.「そういうTa_2の思いつきっておもしろくて。OLDCODEXで完結すればなんでもあり、っていう想いもあるしね。ライヴでやっていけばもっと前向きな曲に変わってくると思う」

■このYORKE.さんのパートを含め、歌詞に日本語を多く使っていることで、ドキッとするものになりましたね。言葉の強さみたいなものを感じる。

YORKE.「それはあるかもね。例えば〝覚えてる〟という言葉は、〝カタルリズム〟で使ってたし。そういうドラマがあった時から引っ張り出してきてるんだろうね」

■「カタルリズム」は、2人になる予感があったからYORKE.さんが歌詞を書いた曲。

YORKE.「そういうのを意識してたと思うけど。でもまぁ、言葉で突き刺してやろう!という感じ、思いっ切り言ってやろうっていう感覚で書いたから、結果的にですね」

■さきほどTa_2さんが歌入れしていた「Faith In Me」は、衝動の塊というか。

Ta_2「〝Faith In Me〟は、いろんなところに俺たちも出ていくことが増えたから、そこに持っていける武器がほしかったんです。去年1年いろいろ経験させてもらって感じていたことをそのまま形にした楽曲ですね。自分たちの荒々しいところを荒々しいまま出してみようっていう。ちゃんと構成を作って、というよりは、繰り返しもなしで、全部が素材みたいなもので1曲作ってもいいんじゃないかって。自分がライヴに行ってる時に、サークルモッシュに紛れ込んじゃったりして。音を聴いてるどころじゃないって状態に陥っちゃう。なのに、逆にそれが楽しくなってくることもある。その時って、音の奔流に飲まれてる感覚があって。この感覚を曲にできないかな?って。サビが1回しか出てこないからね(笑)。最後の日本語のところがサビになるんだけど」

YORKE.「歌詞は、根底に別れというものを意識してる。自分がもしも蜘蛛だったら……とか。リリックを書いてた時に部屋に蜘蛛がいたの。それを見て、こいつが今ここにいるってことは自分で糸を切ってきたんだなぁ、自由だなぁとか。だけど人間の部屋ってテリトリーに入り込んで、どこか自由じゃない気がするし」

■行ってみたいと思わないか、と突きつけてくる〝想像を越えていくあの裏側へ〟にはなにが見えてるんでしょう?

YORKE.「裏側っていうのは未来とか先のことじゃなくて、宇宙とか、雨が降ってる向こうの空、みたいのが近いかな。今見えないもののほうがリアリティのある感覚だった」

■では、現時点でアルバム全体像としては、どんなアルバムになりそうですか?

Ta_2「俺、個人的にはハッピーなものになりそうな気がする。〝Julio〟と〝Smiling〟という曲とかね」

YORKE.「〝Smiling〟はファンの皆へ向けて歌詞を書いたよ」

Ta_2「今日話している話って、いろんな苦しさだったり、なにかを乗り越えようとする、なにかを断ち切るってことが中心だけど、〝Julio〟と〝Smiling〟は、また全然違っていて。自分が受け取ってきたもの。俺たちのことを好きでいてくれてる、そんな人たちが俺らに作ってくれた気持ちがそのまま曲になったような感覚なんですよ。この曲ができた時、すごく嬉しかった。俺、こんな曲作れたんだ、と思って。今までいくら作ってってもしっくりこなかったけど、初めてスッと落ちてきた。ステージ上でなんだかんだ言ったりしてるけど、俺も背中を押してもらってるんだなぁっていうことがよくわかる楽曲になった」

■それがさっき言っていた底抜けに明るい曲。『FIXED ENGINE』のツアーで、日程が進むほどに、最後のブロックがハッピーな空気になりましたね。あの感じが曲になったような?

Ta_2「そうですね。受け取ってたのはわかってたんだけど、自分で思ってた以上にもらっていたんだなって。それが形になってる」

■いろんな感情が形になっていそうですね。

Ta_2「OLDCODEXがタフになれたアルバムかもね」

YORKE.「そうかも。でもまだ全部できてないから。ざわざわしてるけど(笑)」

Ta_2「繊細かつ、荒々しくて。わかりやすくいろいろまぜこぜになっているなっていうのがわかるアルバムかもしれない」

■これからいろんな方向に広がっていく可能性が詰まっている感じなんでしょうか。

Ta_2「やれることをここで出し切って、そこから次に行きたかったから。あとでいきなりやり始めてビックリされるんだったら、最初から手札を出しておきたいな、と思って。その上で、さつどこにいこう?っていうね」

YORKE.「7月からのスケジュールを見ても、いろんなところに行くからね(笑)。〝Where?〟とか言ってる場合じゃない」

■ツアーに出て、って……それって物理的ないろいろじゃないですか(笑)。今日は本当にありがとうございました。アルバム全曲が聴ける日を楽しみにしています! B

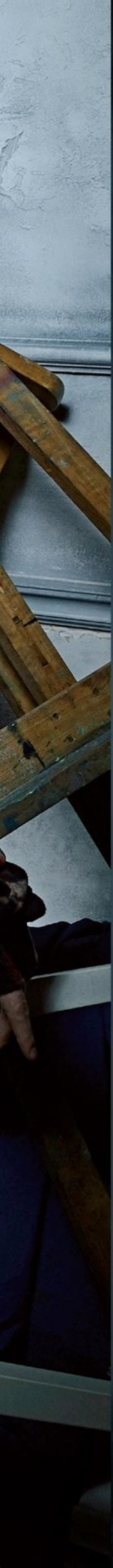


Solo Q & A about creation

Ta_2

撮影の合間を縫って、“音楽制作”にまつわる
あれやこれやをクエスチョン!
ニュー・アルバム『they go,Where?』の
根っこやカケラが散りばめられています





Q1 アイデアが閃く場所

■この制作で、アイデアがよく閃いた場所はありますか?

「やっぱりふと気を抜いた時に一番閃きが来ることが多いですね。あと、今回の制作で多かったのは走っている途中とか、トレーニングしている時。ずっと楽曲のことを考えているから、そういう別のことをした時にパッと思い浮かんだのが数曲ありました」

■ランニングは日課にしている?

「最近までは仕事から帰ってきてから屋外を5km、それをできる限り毎日続けるようにしていたんですよ。でも雨でできない、とかイレギュラーが嫌で。ついにスピンバイクを買っちゃいました。本気で始めるという」

■家のジム化?(笑)

「半ジム化していますね。ダンベルを買おうか、って気持ちになってきてるからマジでヤバいよ(笑)」

■走ってるとアイデアを思いつくことが多いですよね。

「なんか、ランニング中に会話すると頭の考えがまとまりやすい、という話があるらしいですよ。真偽はわからないですけど。アメリカかどこかで、走りながら会議をやるみたいな企業もあるという話を聞いたし(笑)。それに、走っていると無になれるよね。すると、意識していないところで、パズルが組み上がるみたいにメロディが形になっていることがある。そういう感じは、有酸素運動中か、風呂に入っている時。その2つが多いかな。あとは普通に曲作りのためパソコンにかじりついて作業している時ですね。全然できないから、ってまったく関係ない動画——それも普段は観ない、動物と戯れてる動画とかが流れていて。それをなんの気なしに観ていたらアイデアが出てくるみたいな。そういう時にかぎって、むっちゃ頭のおかしいメロディだったりする(笑)」

■浮かんだ時は変わらずiPhoneのボイスメモに吹き込んで?

「そうですね。1回、iPhoneを忘れた時に出てきたことがあって。ここだけは消えたら駄目だっていうメロディをずっと口の中でリフレインしながら、家まで猛ダッシュみたいな。しかも、運悪く、家まで500mくらい残っていて、ダッシュするには結構長い(笑)。到着するのが先か、息が切れてメロディを口ずさみ続けられなくなるのが先か、どっちだ!?みたいな(笑)。ギリッギリの状態で帰れて、吹き込むことができたんですよ。ただ録音している時に、まだ息が切れていてハァハァしながらだったから。後日聴き返した時に、俺死ぬんじゃね?くらい苦しそうな声しか入ってなかった。結局、あとから聴いても全然そのメロが頭に入ってこなかったという(笑)」

■ということは……(笑)。

「そっ、思い出すことはできたんだけど、吹き込んでいる自分のテンションがおかし過ぎて、全然いいと思えなくなってた。なんだよ、と(笑)。まったくダッシュした意味がなかったですね」

■そうやってメロディのカケラが降ってくる中で、残っていくな、というジャッジの基準みたいなものはあるんですか?

「2日、3日寝かしておいて、聴き返しても、なんか俺らっぽいな、って思うメロディは残すようにしていますね」

■“っぽい”っていうのは大事?

「そこは大事にしたいんです。そういうものって自分たちが培ってきた“イズム”が入っているだろうから。プラス、今回のアルバムで言うと、より自分の色を出したいな、と思っていたから。そういうところを凝縮してバージョンアップさせたかったんですね。現時点で、まだ2曲しか歌入れが終わってなくて。残り7曲。ギター録りしていない曲も5曲ぐらい。さらにリズム録りもまだなのが2曲……という状況だったりするから。それをここから2〜3週間でやり切るみたいな(笑)。しかも、制作に集中できればベストなんだけど、俺はソロワークスのほうも入り込んできていて。今日も2本、前にソロワークスを終わらせて、ここにいるしね(笑)。しかも、終わっても別現場に行く。そうなると頭の切り替えも必要だし、物理的に時間が足りないしで、キツかった。目が回るほどの忙しさって言うけれど、本当に目眩ってするんだ、ってことを初めて味わいました(笑)」

■そういう時、ああ、地球が回っているな、とか変なことを考えません?(笑)

「あるある!(笑) 家を出て鍵を締めたら、そのまま倒れそうになって、あれ?とか。普通に歩いているつもりが、斜めに歩いていたり。やたら何かにぶつかったり……」

■危険です(笑)。

Q2 クリエイティヴに必要なもの

■クリエイティヴの時に必要とするもの3つ挙げてください。

「ひとつは甘味です。特にパンケーキは何枚食べたかわからないくらい、今回の曲作りに欠かせなかった! メイプルシロップをかけて食べるのがお気に入りです」

■それは完成品を買ってきて?

「自分で焼くんです」

■特に気に入っている粉はあるんですか。

「いろいろ試してみて、今は絶対これ!というのがあるんですよ。スーパーで普通に売っている“昭和産業の『ケーキのようなホットケーキミックス』。必要なものの2つ目は、また食べ物になるんですが、豆苗(とうみょう)の肉巻き。自炊を始めてから口に合うものって、結局自分で作ったものが多くなってきてるんですね。で、制作に入ると、サクッと手早く作れて、気軽に食べられることが大切だから。朝は、パンケーキ




RUN THE

3、4枚焼いて。外で食べずに帰ってくる時には、豆苗を買ってきて、アスパラとかエノキ茸とかと一緒に肉巻きにして食べる。しかも、使い切った豆苗を水に浸して、外に置いておくと復活するんですよ。それを収穫する（笑）。ちょっとした自家栽培です」

■地味に嬉しいですよね、豆苗を育てて食べるの。簡単に育つし（笑）。

「しかも自分で育てたやつは、青々しくて美味しいんだよね（笑）。そして3つ目は、実況動画でした。駄目だ今日はアイデアが出ない、とか。疲れたなっていう時に、それでもやらなきゃいけない状況になってたから（笑）。そういう時は、好きな人のゲーム実況動画を流して乗り切っていました。それを観て自分をリセットする。今までだったら映画を観たり、電子書籍を読んだりしてたんだけど。時間もないし、電子書籍に至っては、横にスライドさせることすら億劫になっていたし。付けて放っておく。だから、付けっぱなしにして寝落ちすることも多かった。で、ふと気づいたら違うゲームの実況になってたり」

Q3 制作後の自分へのご褒美

■この状況を乗り切った時の自分へのご褒美はなんでしょう？

「休みが欲しい（笑）。頼むから何もしないでいい時間をください。無理だけど（笑）。でも実際に作り終わってから考えるのって、早くツアーやりてぇな、とか。ライヴでどんなふうに反応してくれるのかな、とか。そういうことなんだろうな、と思ったりもする。〝らしい〟ってことを大切にしてるって言ったけれど、今までにない雰囲気の楽曲とかが実はあったりするからね。あとはより多くの人に届けるためのことをしたいな、とか。そういうことをやりたくなってしまうんだと思うけどね」

■ご褒美と言われて、物欲には向かわないんですね（笑）。

「そこは制作している最中にどんどん買ってるから（笑）」

■ああ、ネットで、ですか？

「有名なウェブ通販だったり、海外でね。今回レコーディングしていて、機材も欲しいものが決まってきたから、買ってしまおうかなと思っているんですよ。マイクとマイクプリアンプと、コンプレッサー。ヴォーカルレコーディング機材一式ですね（笑）」

■自宅で、音源に使えるレベルのヴォーカルを録れるようにするんですか？

「いや、それは考えてないです。レコーディングの時、スタジオに自分の機材を持っていく、っていう使い方をしようかなって。自分に合っている決まった機材を作ろうという気持ちが今回強くなったし。それをやり切ろうかな、って。いいマイクと出会ったんですよ」

■マイクって大切ですよね。使う種類で全然変わる。ちなみに候補に挙がっているマイクは？

「Soyuz Microphonesの『SU-017』」

■ということは、湿度管理もしなきゃですよね？

「そうそう、デシケーターも買って、しっかりやろうかな、と画策中です」

Q4 作曲家としてのルーツは？

■Ta_2さんの作曲家としてのルーツは誰になると思いますか？

「ヴォーカリストのルーツだったら、バックストリート・ボーイズになるんだけど。作曲に関してだとホント、聴いた楽曲全部。……その中でも、OLDCODEXを始めた頃のR・O・Nの音楽が、一番に挙がると思う。最近のOLDCODEXの音楽性に対して、ビックリしたり、なんでこっちに行ったんだろう？って思われがちなんだけど、実は、お互いにデビュー当時から、やりたいって言ってた方向とさほどブレてないんですよ。こういうことをやれたらいいね、って言ってた音楽。でも、俺の技術レベルが足りなくて、できてなかったこともたくさんあった。あれから今の土壌を得て、自分自身変わってこれたからできるようになってきたこともあって。今、自分で叶え始めているな、と思うんですよ。だから意外と自分の音楽や作曲の原点ってR・O・N。それは本当に思う」

Q5 クリエイティヴの先にあるものとは？

■クリエイティヴの先にあるものって何だと思います？

「曲を作っている時にそれは考えますよ。その時は自己満足かなって思うんです。いい曲ができた時の喜びとか、良い曲を書きたいという願望。そして、それをプレイしたいとか。そういう自己満足。でもメンバーやアレンジャーの手だったり、YORKE.の詞が入って、俺がもう1回レコーディングで歌ってとか……どんどん手が入っていくほど誰かのものになっているんだな、って今は思うようになってきているんですね。そしてリリースすれば、誰かの過去にもなるし、誰かの未来になったり、誰かの今になったり、夢になったりというものに変わるのかな、とも思うし……青臭いんだけど。話していて今、思った、青臭いものに変わるんじゃないかな。クリエイティヴの先は〝青臭いもの〟になる」

■青臭くて、でも大事なもの？

「そう。恥ずかしくて、大手を振って人さまに言えないことだよね（笑）。〝俺さ、これ超いいと思うんだ〟って言ったら、お前まだそんなこと考えてるの？　ププッとか思われること。例えば、〝誰もわかってくれない〟とか〝それに対して自分は中指を立ててた〟とか。言ってしまえばアーティストの、世情に対してとか誰かに対しての想いに自分を重ねているから、冷静に俯瞰から見たら恥ずかしいことも多いじゃん？（笑）　俺なら、バックストリート・ボーイズの〝シェイプ・オブ・マイ・ハート〟が好きで、憧れて歌い始めたんだけど。あれって、本当の自分を見てほしい、自分っていうものを隠していたんだ、という歌だったりして。他人からすると、そんな中二病な、みたいなさ（笑）。でも、当人にとっては人生を変えられるくらいのもので。そういうことだと思うんだよね。クリエイティヴの先に、受け取ってくれた人の中でそうなればいいし、自分の中でもそういったものがあるから。その質問の答えは、青臭さですね」





Solo Q & A about creation

YORKE.

それぞれの心の内側を
ちょっとだけ見せてくれているような
パーソナル・インタビュー。
ゼロから1を生み出すために彼に必要なものとは。

Q1 アイデアが閃く場所

■作詞家としてのYORKE.さんにとって、よく歌詞が閃く場所ってありますか?

「今日、この撮影スタジオにも、車の中でアルバムのデモ曲を聴きながら来たんだけど。最近は詞先ではなく、まずメロディがあるから。上がってきたメロディから詞はイメージするんですね。だから、まずメロディを体に入れておく。すると降ってくる。先日は寝ててパッと起きたら、グワァーっとできた曲もあるし。ストックしている言葉から、突然〝あっ、あの言葉が入る〟とか。というのの連続で特にどこで閃くというのはないかもね」

■伝えたいメッセージや使いたい言葉はストックしているんですね。

「ストックはあるよ。ドラマを作っておいて、どれかの曲に当てはまるかな、とか。特にアルバムだと1枚通したコンセプトでやろうということもあるから。テーマの中で自分が経験したドラマとか、空想のドラマはある程度持っておく。それがメロディに当てはまる瞬間を待ってる時もあるし、強制的に当てはめて、作っていくこともありますね。でも、作詞は、制作モードにスイッチを入れ替えて向き合うから。作らなくていい時期はまったく考えたくない。言葉のこととかはね。今は作っている時期なので、ここ1ヵ月くらいはずっとそういうモードでいます」

■制作モードでいると、強制的に当てはめにいく以外は、場所、時間を問わずランダムに、言葉のカケラがメロディと結びつく?

「そう、パズルみたいにね。あとはそのメロディで具体的に言いたいことがあればすぐ出てくる。ファンに向けて、これを言いたいと思ったりした時はね。そうじゃないドラマのほうが時間はかかるね。例えば、雨をいろんな色で表現していこう、という時のほうが、曲に落とし込む時は苦戦することが多いかな。固定概念というか、自分の中で決めつけてしまってることがあるから。そうじゃないところに行き着くまでにね。そういう時は、それこそコーヒーがこぼれて、〝あっ〟って閃いたり、そういうサプライズみたいなものを常に求めている」

■もし閃いた場所にメモがない場合は?

「絶対メモができる場所に行くし、制作中は常に手の届くところに、いつも準備しているね。たとえばコラージュする言葉が閃いて、でも逃すとするじゃない? そうすると消えちゃう。ただそういうものはたいがい、残すべきものじゃない気がするから。でも、逃しても覚えているものってあるんですよ。これ今思いついたけど、明日も覚えているな、という時は、あえてメモしないようにしている」

■残っていく言葉は忘れない?

「結構忘れない。強いからね。その中で歌詞は、たとえば一つ〝希望〟という核があったら、そこに向かって、4行とかで表現していくんですよ。その4行の中の辻褄を合わせたり。OLD CODEXの言い回しっていうのが、1個〜2個くらい、ここまで続けてきた中であって——それは〝何していく〟のか〝何してく〟なのか、みたいなものなんだけど、そこは意識しているから、それを合わせるのが大変かも。音符に対して言葉数を合わせたりね。そういうテクニカルな部分が難しいのかな、っていう」

Q2 クリエイティヴに必要なもの

■歌詞を描くときに必要なものは?

「三大欲求と一緒だと思う。性欲、睡眠欲、食欲。それ以外は必要ないというか。まずその3つがあれば人として保てるじゃない? だからそのベースさえあれば道具なんてどうでもいいんです。ボールペンが何がいいか、とか道具へのこだわりみたいな、そういうのは一切ないな。あっ、でも最近はMacは必要かな。手書きで書くのと、テキストで打ったものって、見え方が違うし。最終的にはテキストで打ったものがCDジャケットに入るから。その時の文字列の語尾がどういう形に並ぶのかっていう、波形的なものの見え方は意識しているからね。書く時からそのシナリオがわかっていたほうがいいしね」

■制作時に常に近くに置いているということは、メモ帳とか必要では?

「それも何がいいとか決めてない。ノートでも、それこそレシートの裏でもいいし。書くものと書かれるものがあれば、事足りるよね。ただ、たまに書いたものがどこにいったかわからなくなるから、それは困るな(笑)。で、ふとした時に出てきて。このレシートの裏の文字なんだっけ?とか。だからなるべく手書きでメモした時はそれをテキストに変えて、パソコンの中にストックするようにしています」

Q3 制作時の気分転換法は?

■制作している時の気分転換の方法はあるんですか? それ以前にYORKE.さんって煮詰まることってあります?

「煮詰まることがないですね(笑)。そういうのはとっくに超えたかな。何かが止まるって最初は小さいことなんですよね。それが積み重なって大きくなって止まっちゃう。煮詰まるっていう人はね。だから小さいものを潰していけば、大きく停滞することはまずないかな」

■閃くのを待ったりは?

「それはあるよ。でもそういう時は、ヤバいな、っていうモードに入らない。〝こういうことってあるよな〟っていう感じでいるんです。来ないのは最長で3日なんで。逆に言えば3日待てば絶対来る。イメージして、ストックしてるわけだから。でもそれが、雑然としているから出ないんだよね。だから整理された瞬間、バン!と出る。だから必要なのは時間ですよね。だから気分転換と言われると、いろんなことをやっていることかな? 止まったら別のことを進めていく。それが駄目な時もあるし、いい時もある」

■なるほど。

「俺、ゴールを決めるんですよ。自分の中で設定した納期みたいなもの。例えば金曜日の夜10時にゴールを決めて、焦点を合わせる。そこに向かって行くというか。決着をつける瞬間みたいなものを意識していないと、それはできない。いつまでもダラダラしてしまう。1ヵ月あればできるものでもないっていうかね」

■決着をつける時間を決めて、意識して生活していたら、雑然としていたものがハマる。

「そう。ハマるようにするしね」





Q4 今回のレコーディング中、必要な食べ物や飲み物

「コーヒーは飲むな、それくらいですよ。あとこれは頭痛対策でなんだけど、最近水は多く飲んでいるかな。食べ物も、俺、同じものばかり食べていて」

■たんぱく質を摂るようにしているんですよね。

「そうそう。トレーニングの時に重いウエイトを持つようになってきたから、ね。だから、食べるということの目的が、作ることとまったく違うものなんだろうね。食べるのは、体を大きくするためとか、ライヴで動けるフィジカルを作るため。むしろ制作時にはなんでもいいようにしているかもしれない。お菓子も食べるし。逆にそこでストレスを溜めない」

■チョコとか甘いものは必要だったりしませんか?

「あったら食べちゃうから、あまり近くに置かないようにしてるかな(笑)。最近はラムネが癒してくれてるよ」

Q5 制作後の自分へのご褒美

■このアルバム制作が終わった時に自分へのご褒美とか考えていますか?

「そういう感覚はまったくない、俺。何か別のもののために作っているわけじゃないから。……そういう人も多いですよね」

■例えば、終わったらゆっくりした時間をとるとか。

「そういう発想もまったくないかもね。長くこういうことをやっているから」

■そういうのって切り替えるためでもあるのかも。これが終わったら散歩しよう、で次にいこう、とか。そういうリズムを作るために。

「なるほどね。でも俺の場合は、決着をつけて終わった瞬間に次に行ってるから。そういう区切りという意味では、決着を付けたら、3分くらいでそのことは意識から捨てる。もう見ない。見たら気になるしね。あとは自分じゃなくて。それがリリースするものだったなら手にする人の評価がすべて、って考えているな」

■アルバムの場合は、その後のツアーをご褒美に、という考え方もできそうですよ?

「ご褒美とは全然違うものだね。どう観せていくか、だから」

■ああ、それも次のクリエイティヴのひとつ。

「そうです。セット創りもそうだしね」

Q6 作詞家としてのルーツは?

■作詞家・YORKE.さんとしてルーツ的な存在や作品は?

「『はらぺこあおむし』。最近気づいたんですけど、根っこにあるのは絵本なんですよね。あの作品を描いたエリック・カールの世界観とか」

■確かに幼児向けの絵本ってリズミカル。

「そうそう、それに言葉がシンプルだし。ああいうものから影響を受けていると思うんです。絵本のファンタジー世界が好きだったしね」

■エリック・カール以外にも好きだった作家はいますか?

「いっぱいいますね。モーリス・センダックも好きだったし、レオ・レオニ。ちょうど俺が子供の頃ってその時代の人たちの作品が人気があったんですよ、それもあるんでしょうね。エリック・カールは『はらぺこあおむし』を日本で印刷、製版しているんですよね。アメリカではあの本のギミックが叶わなくて、日本でやったって。それもあってか、日本では有名な本になっていて、少年の俺にも届いたから」

■音楽の歌詞で惹かれるものってない?

「あると思うな。今も見るようにしているから……時代の流れの中で、どういう言葉が使われているかも知って、その先のトレンドとか考えている部分もあるし。ボブ・マーリーもそうかも。リアルなものが好きだったしね。経験しないとわからないし、その土地で生まれていないとわからないことがある。そういう在り方は惹かれるな。あと演説とか好きだったね。歴代大統領とか。マルコムXとか。有名な人の演説にキメのフレーズってあるじゃないですか。キング牧師の〝I have a Dream〟もそう。演説のキメの台詞ってある意味音楽の中のサビ。そこに行くまでの流れがあって。一番いいところで、〝I have a Dream〟にもいく。あと、映画の台詞も好きですよ。ゴッドファーザーの台詞の言い回しとか。言葉の中に芯があるとこと。あと、品がいいですよね。そういうギャップも好きだな」

Q7 クリエイティヴの先にあるものとは?

■クリエイティヴの先にあるもの。

「クリエイティヴするのに理由もないし、きっと先にはなにもないんですよ。気づいたらやっているから。で、理由があるとするならドMだから(笑)。だから俺個人のクリエイティヴっていうことに対して言うと、この先に幸せなんか求めてないし、いらない。だからいつもハングリーで。作っても作っても答えに届かないから、次にいっちゃうだけ。そう思うと続けたいなんて思ってない気もするね。だけど、途中で終わりたくないし、それは気持ち悪いからやっている、みたいな。創った先に答えを見つけた!と感じたことは過去にあったんですよ、でも次の日になったら、違ったと思うことの連続。うん、やっぱり先に何もないですね。なんだけど、諦めたらそもそも生きている意味もなくなっちゃう。それくらいなところにもう足を突っ込んじゃったな、っていう」

■何かありそうな気もしていない?

「たぶん、なにもない。人は死んだら墓の中に入るっていうのと一緒な気がする。墓石に名前を刻まれて、その人の個性ってこの石?って思う。あの感じに近いような気がするね。もし俺が幸せだなと思うことがあったとしたら。こういうことの先じゃないです。風が気持ちいいな、とか。身内の仲間がみんなハッピーとかね。自分ひとりでの幸せの完結って全然考えてない感じ。それがいいっていう。子どもの頃から続いてきたのが今も続くっていうのは、あの頃に欠けた何かを探して救いを求めているようなな。で、そうやって死んでいくのかな、って。死ぬ前に、あっ〝無駄〟だったな、って。無駄の結晶がたぶん作品。ただ、他の人は創ったものを観て、共感したり感動して語り継いでいくものになる。でもやっているほうは以外とそんなもののような気がするね」







Recording Report

ここでは貴重なヴォーカル&仮歌レコーディングのレポートをお届け!
目の前で音楽が作り上げられていく様子はとてもエキサイティングでした。

6月も中旬に差しかかろうという頃。都内のレコーディングスタジオでは、OLDCODEXの5枚目のオリジナルアルバムの制作が大詰めを迎えていた。

この日はTa_2のヴォーカル録りが行なわれているという。

防音が利いた重い扉を開けるとそこはコンパクトなコントロールルームだった。

Ta_2の腹の底から吐き出すようなヴォーカルがスピーカーから響いている。曲は「Faith In Me」である。

一番前方には音を録るレコーディングエンジニア、その後ろに置かれた作業テーブルには、ディレクターの小山寿氏とアレンジャーのeba氏が座り、歌詞が印刷されたA4用紙にペンで書き込んでいく。

テーブルの横にある2人がけのソファーにはYORKE.が座っていて、やはり2人と同じく用紙にチェックしていく。

Ta_2はこの部屋の中で区切られた、一人用のヴォーカルブースで歌っている。その声が途切れた。

YORKE.がブースと話すトークバックマイクに向かって言う、

『〝not here〟、やり過ぎじゃない?』

Ta_2は少しオーバーめにニュアンスをつけていた。すると自分でもそう思っていたようで、Ta_2の笑い声とともに「あっ、やっぱり?」という声が聞こえる。

「よし、もう1回」

再びTa_2は歌い始める。英語のフレーズが続く。それを聴きながら、小山氏が「今のムッチャカッコいい!」と用紙にテイク数を走り書きする。

YORKE.が「だよね。でも〝discord〟をもうちょっとリズムに対して後ろにハメていって、後から巻き込んでいくようなノリがあれば、もっとカッコよくない?」とTa_2に伝える。

「ヨッシャ! じゃあこの2行、もう1回いってみよう」

再トライしていく。

それはゼロコンマ何秒ズラすかどうかという繊細な世界。むしろTa_2はリズムに対して正確に歌っていて、YORKE.が求めるのはそこをズラして、どうメロディにノリとニュアンスを与えるか、という話だ。しかもTa_2の声はシャウトしている。それを絶妙にコントロールして修正するのはかなりハードな話だ。

「ちょっと聴いてみよう」

Ta_2がブースから出てきた。歌詞を見ながら今録ったばかりのヴォーカルを聴く。

「なるほど」。用紙を見ながら頷くTa_2は汗だくで、首には玉のような汗の粒が吹き出している。

YORKE.が歌詞を書いた後、音符に対してどう言葉が乗るかの確認のため、仮歌を乗せている。その歌をこのレコーディングでTa_2のヴォーカルに差し替えるわけだが、YORKE.が掴んだノリ、そして細やかな英語の発音、声のニュアンスを伝え、Ta_2が挑み、1本のヴォーカルを完成へ近づけていく。

Ta_2も自身の思うアプローチをかけつつ、客観的なYORKE.の意見を取り入れて、トライを繰り返す。

現場にいて気づくのは、YORKE.のノリに対するセンサーの高さ、発音への探究心、そして耳の良さだ。それは経験を積んだミュージ

シャンのそれである。ジャッジするテイクも小山氏、eba氏と意見が合っている。

そしてTa_2の修正力も凄まじい。

さらに1本1本同じ歌を求められる時はかなりの精度でニュアンスまで合わせ、もっと何かないか、と思えば発声を変える。シャウトの多彩さ、ニュアンスを操る能力は尋常じゃなかった。

＊

「Faith In Me」は曲として荒々しい衝動がうねる、という印象の曲だ。

それでも、ただ乱暴に〝荒い〟のと、拘り、スキルを注ぎ、意見をぶつけあった先に生まれる〝荒さ〟は違うことを思い知らされる。

熱気が渦巻くライヴハウスでライヴ1本を軽く歌うTa_2。その彼の声がほんの少し、高音の成分を含みだした。

「疲れているね、ちょっと時間をちょうだい」

Ta_2は汗を拭きながら廊下へと出た。

ここはOLDCODEXが1つの作品を生むために闘っている場所だ。

信頼し合いながら、意見を交わし、曲を高める世界だった。

＊

「Faith In Me」のヴォーカル・レコーディングが終わったスタジオで、次はYORKE.が、「Million from Codex」の仮歌録りを始める。

家で詰めてきた歌詞を、小山氏、eba氏の意見を聞きつつ、歌っていく。

切なさを含んだYORKE.のヴォーカルが響く。そして曲が展開して、超ハイスピードのラップゾーンへ入る。この実際のレコーディングでもラップはYORKE.が歌うことになるのだが、あまりのスピードに度胆を抜かれる。

ブースから出て来たYORKE.は、最終的にTa_2が歌うメロディパートを詰めていく。1小節1小節丁寧に。メロディを見失えば、「Ta_2の仮歌聴かせて」と、言葉ではなく意味のない音でTa_2が歌う歌を聴いて、メロディの抑揚を体に入れ、譜割を確認する。

今までも取材資料でYORKE.が歌う仮歌は何度か聴かせてもらっていた。

その時も雰囲気があるな、とかカッコいいなと素直に思わされたが、彼の作業は仮歌のレベルを軽く超えて、本番のヴォーカルを録っているかのように真摯に向き合い、ニュアンスを試し、自分が持つイメージに近づけていく。

それは基本的に誰も聴かないものだ。

Ta_2が歌を歌う時にイメージを掴み易くするための歌だ。

しかし、彼は何度も挑む。

その歌のレベル、ストイックさは、胸を打つものがあった。

＊

さらに、作業を始めたYORKE.は、小山氏もeba氏もこの速さは無理でしょ?と苦笑いしていたバースをクールにラップできるまでになっていた。

＊

何かを削ってアルバムを創る。

その世界で勝負し、自らが想う現時点での理想の音楽を追い求めるTa_2とYORKE.。そんな2人はもうすぐ、1枚の作品を編み上げる。

そこに詰まったエネルギーは、音楽に対する彼らの貪欲さと真摯さから生まれているんだと思えた。 B

O D E X

プレッシャーの高い状況の中、ギリギリのところで闘うTa_2とYORKE.の姿を何度も目の当たりにしながら、2人の、もの作りに向かう熱、こだわり、真摯さ、そして考えをリアルに感じながらの取材&撮影でした。貴重な時間の中、取材を受け入れてくれたTa_2とYORKE.、そしてスタッフに感謝しつつ、『they go, Where?』に込められた2人の真意と情熱が、この特集から伝わればいいな、と思っています。



OLDCODEX ⇒
オルドコデックス。'09年結成。Ta_2(タツ/vocal)、YORKE.(ヨーク/painter)。ロック、ラウド、ダンスの要素を強く持ったサウンドを主としつつ、アートを織り交ぜた視覚をも楽しませる作品を打ち出している。今夏は、大型フェスやイベントに数多く参戦、9月からは12月下旬まで続く全国ツアーがスタート。

Costume ⇒ YORKE.:kiryuyrik、GARROT、VILLAGE、SAHRIVAR

O L D C



NOW PRINTING

5th Album
they go, Where?
2017.07.26 Release
初回限定盤 CD+DVD ¥3,500（tax out）
通常盤 CD ¥3,000（tax out）

Where'd They Go?／Deal with／
Scribble, and Beyond／Smiling／
Julio／Faith In Me　他全11曲収録予定

LIVE INFORMATION

OLDCODEX TOUR 2017
9月3日（日）　大阪・Zepp Osaka Bayside
9月9日（土）　北海道・Zepp Sapporo
9月12日（火）　東京・Zepp Tokyo
9月13日（水）　東京・Zepp Tokyo
10月7日（土）　埼玉・戸田市文化会館
10月8日（日）　埼玉・戸田市文化会館
10月15日（日）　福岡・アルモニーサンク北九州ソレイユホール
10月21日（土）　大阪・オリックス劇場
11月5日（日）　石川・本多の森ホール
11月10日（金）　宮城・仙台サンプラザホール
11月25日（土）　広島・JMS アステールプラザ 大ホール
11月26日（日）　広島・JMS アステールプラザ 大ホール
12月2日（土）　兵庫・神戸国際会館こくさいホール
12月20日（水）　愛知・名古屋国際会議場 センチュリーホール
12月23日（土）　静岡・静岡市民文化会館　大ホール

RISING SUN ROCK FESTIVAL 2017 in EZO
8月11日（金）、12日（土） 石狩新港樽川ふ頭横野外特設ステージ

SUMMER SONIC 2017
8月20日（日） 幕張メッセ RAINBOW STAGE



OLDCODEX
SPECIAL COVER ORIGINAL PRINT PRESENT

新たな一歩を踏み出したOLDCODEXが持つ可能性と、2人のストイックさを改めて感じた今回の取材でした。なぜかドラマが向こうからやってくるタイプの2人、すべてを燃料にして我が道を邁進し続けることでしょう!!
恒例の表紙オリジナル・プリントを3名様にプレゼント。ご希望の方は、P.190にある応募券をハガキに貼り、〒&住所、氏名、年齢、電話番号、特集の感想、ご意見なども明記の上、〈〒101-8450 東京都千代田区神田錦町1-14-2F B-PASS「OLDCODEX表紙プリント係」〉まで、ご応募ください（7月26日当日消印有効）。当選者は8月27日発売のB-PASS10月号当欄にて発表させて頂きます。たくさんのメッセージ、お待ちしております!

B-PASS6月号 ゆず表紙プリント当選者
静岡県／増田明美さん　兵庫県／新井明華さん　福岡県／池田美咲さん



Acid Black Cherry

Acid BLOOD Cherry

7月18日より、ソロデビュー10周年に突入するAcid Black Cherry。
この10周年を記念して、これまで継続してリリースされてきている
カバーアルバム「Recreation」シリーズに続く、スピンオフ企画が始動。
作詞・作曲・編曲の全てをyasuが手がけて来た“Acid Black Cherry”に
彼以外の“刺激的な血=Acid BLOOD”を注ぎ込むプロジェクト、
その名も“Acid BLOOD Cherry”だ。
親交のある様々なアーティスト達からの提供曲で構成された
全10曲入りの企画アルバム『Acid BLOOD Cherry』について、
今作の成り立ちと共に、じっくりと紐解いていく。



Text ⇒ 武市尚子

これまでリリースしてきた全てのオリジナルアルバムを、コンセプトアルバムとして世に送り出してきたAcid Black Cherry。中でも、音源作品から映画化されるのは国内初であった現時点での最新作『L—エルー』は、"ストーリーを音楽で演出する"というありきたりではなく、"音楽でストーリーを魅せる"という新たな音楽を提示。音楽が手軽に聴き流されてしまう時代へのアンチテーゼとも思える【読むアルバム】という新たな音楽の在り方を示したものとなった。彼は、そんなオリジナルアルバムとは別に、シングルのカップリングとして収録した『Recreation Track』と名付けた、青春時代に口ずさんだ楽曲達を中心にまとめたカヴァーアルバムもリリースしてきているのだ。そこには"唄い継がれていくことで次世代へと繋がれていくものにしたい"という思惑が存在する。そして今回、彼はオリジナルアルバムとはまたひとつ異なる『Acid BLOOD Cherry』というスピンオフ企画アルバムを作り上げた。

ソロというのは普通、自我をより色濃く表現する場所であり、より個を浮き立たせる形であるため、yasuもこれまで世に送り出した楽曲の作詞・作曲・編曲の全てを自身で担ってきたのだが、今作ではその全てをクリエイターに託すという、ABCとしては前代未聞のスタイルで制作に向き合ったのだ。しかし。それは、単なる【楽曲提供】【コラボレーション】という言葉には収まらない。セールスを伸ばすことを第一に考えるのだとするならば、著名作家や有名なアーティストからの【楽曲提供】もしくは【コラボレーション】、また、話題作りを優先して考えるのであれば、売れているアーティストやアイドルへの【楽曲提供】という手もあるが、yasuがやりたかったのはそういうことではなく、Acid Black Cherryと縁の深いアーティスト、さらには今を遡ること約20年前に、インディーズシーンで戦友として過ごしたyasuが認める有能なアーティスト達に、Acid Black Cherryのクリエイトを委ねたのである。そんな人選もyasuらしい選択と言える。

無論。yasu自身、クリエイターとしての高い能力とセンスを持つアーティストだ。

彼の生み出す楽曲は、一聴するだけでyasuの生み出した楽曲だと分かるほど優れた音楽性を宿し、計算され尽くした譜割りと、聴き手の心を掴んで離さない赤裸裸かつ深い観察眼を持って描かれた刹那的な歌詞と、シンガーとしては他に類を見ない伸びやかで憂いのある独特な声質と高度な歌唱技術を持つ。まさに、クリエイターとシンガーという顔を併せ持つ真の音楽家であるyasuだが、今作では、自らの血ではなく、外からの血を取り入れることで、自らをどれだけ覚醒させられるかに挑んだ作品なのだ。つまり、yasu自身がAcid Black Cherryそのものであるというよりも、yasuがAcid Black Cherryを俯瞰で見た上で、Acid Black Cherryをクリエイター、プレイヤーと共にクリエイトした1枚。それこそが『Acid BLOOD Cherry』なのである。

**yasuがAcid Black Cherryを
俯瞰で見た上で、
Acid Black Cherryを
クリエイター、プレイヤーと共に
クリエイトした1枚。それこそが
『Acid BLOOD Cherry』
なのである。**

そんな今作の特徴を一言で言い表わすとするならば、いい意味でAcid Black Cherryらしくはない。音と歌詞を託したアーティストたちが、Acid Black Cherryを意識して楽曲提供していたとするならば、きっとまた違った楽曲たちが出揃っていたことだろう。しかし、今作は、Acid Black Cherryでありながら、yasuの唄でありながら、yasuの生み出すAcid Black Cherryとは異なるものなのである。

映画のオープニングのようなドラマティックな印象から破壊的なバンドサウンドが攻め立てる1曲目の「THE RUINER」（作詞・作曲・編曲：RYO）は攻撃的なヘヴィ・ロック。このアルバムのリード曲となる「BAD BLOOD」（作詞：JUN 作曲・編曲：長野典二）では、突き抜ける同期とダークなサウンド感と洋楽が臭うメロディラインが特徴的な1曲。yasuの唄と交差するデスボイスとラップ的な掛け合いがこれまでにない新たなAcid Black Cherryを演出し、息をつく隙間無く言葉が紡がれていく、1曲全てがサビとも言える「BEAST」（作詞・作曲・編曲：RYO）では、yasuという歌唱力が無ければ表現しきれないであろう難解なハード・ロックを聴かせ、生音のバンドサウンドを活かした混沌とした世界観のロックでありながらも、どこかインダストリアルが臭う「crimson」（作詞：室姫深／3+3 mimie 作曲・編曲：室姫深）では、高音の伸びが特徴的な魅力を放つyasuのヴォーカルはもちろん、そことは正反対の位置にある低音の魅力を再認識させられる。ピアノイントロから幕を開ける美しい歌モノテイストの刹那的なギターフレーズとキックが印象的なロックナンバー「BLACK OUT」（作詞：MASA☆ 作曲・編曲：HIRO）は、yasuの唄が活きるメロディラインが宿るミディアムな作品。6曲目に置かれた「Sweet dEvil」（作詞：KOTO 作曲・編曲：SHUSE）は、アルバム後半戦の始まりを感じさせるギターのうねりと漂う猟奇的な空気感が洋楽的な要素とメロディを宿し、続く「Forbidden Bells」（作詞・作曲・編曲：Leda）では、Acid Black Cherryのこれまでの楽曲には無かったような正当派のヘヴィ・メタルをゴシック的な耽美性が包み込む壮大な世界観を魅せてくる。そして、いちばん振り切っていると感じた「RIDE into the FATE」（作詞：緋村剛 作曲・編曲：長野典二）では、yasuが生み出す純正なAcid Black Cherryには存在しないであろうトランスの臭うミクスチャー・ロックであり、そこに乗る歌詞もyasuにはないワード選びと譜割りである。まさに新境地を感じさせる「RIDE into the FATE」から繋げられるのは、「KEDAMONO」（作詞：AKI-HIDE 作曲・編曲：HIRO）。ドロンとした漆黒をイメージさせるイントロの印象を裏切り、タイトに攻め立てられていくこの曲は、目まぐるしい展開が実に新鮮。ラストを飾る「Guilty Cry」（作詞：JUN 作曲・編曲：tatsuo）は、イントロへと繋げられるSE的な導入が、オープニングナンバーである「THE RUINER」のイントロへと還るかのような不思議な感覚に誘う

中、絶対的な演奏力と歌唱力で塗り潰されていく1曲。中盤に差し込まれるオペラ合唱は圧巻の存在感を放つも、yasuはその歌唱に臆することなく高音を伸ばし、絶対的に高いポテンシャルをそこに注ぎ込む。実に壮大なフィナーレだ。

Acid Black Cherryの最新オリジナルアルバム『L―エル―』のように、アルバムを通して1つの物語を表立って描くのではなく、テーマはありながら読み切りの短編小説を10作集めたような印象の今作は、Acid Black Cherryの可能性が未知数であることの証明となったと言えるだろう。この受血が、この先のAcid Black Cherryに、そしてyasuにどのような変化を与えることになるのだろう? 夏からは今作を引っさげたツアー「Acid Black Cherry 2017 tour Blood History〝BLACK × BLOOD〟」を行なうAcid Black Cherry。この楽曲たちがどのようにツアーで育っていくのかが楽しみなところだ。 B

Acid Black Cherry ⇒
アシッドブラックチェリー。ロック・バンドJanne Da Arcのヴォーカルyasuのソロプロジェクト。'08年2月に1stアルバム『BLACK LIST』を発売。'15年2月に4thアルバム『L―エル―』を発売し、全国ツアー「Acid Black Cherry 2015 tourL―エル―」を開催。DVD/Blu-ray『10th Anniversary Live History-BEST-』を3月に発売した。

Acid Black Cherry 2017 tour Blood History “BLACK × BLOOD”

8月14日(月)福岡DRUM LOGOS
8月16日(水)大阪 Zepp Osaka Bayside
8月21日(月)宮城仙台PIT
8月27日(日)広島 BLUE LIVE HIROSHIMA
8月30日(水)東京 Zepp Tokyo
9月06日(水)北海道Zepp Sapporo
9月08日(金)新潟新潟LOTS
9月11日(月)香川高松festhalle
9月15日(金)大阪Zepp Osaka Bayside
9月21日(木)愛知Zepp Nagoya
9月27日(水)東京Zepp DiverCity





初回生産限定盤



通常盤

Album
Acid BLOOD Cherry
2017.06.21 Release
CD+DVD盤 ¥3,000(tax out)
CD ONLY盤 ¥2,500(tax out)

〈CD〉
01_THE RUINER
02_BAD BLOOD
03_BEAST
04_crimson
05_BLACK OUT
06_Sweet dEvil
07_Forbidden Bells
08_RIDE into the FATE
09_KEDAMONO
10_Guilty Cry
〈DVD〉
・BAD BLOOD (MUSIC CLIP)
・yasuと参加ミュージシャンによるスペシャル対談〈yasu × RYO (defspiral) /yasu × 耕村剛 , tatsuo ,長野典二〉

yasu's Comment

今回のアルバムは、僕以外の人が楽曲を作ってくれてるのですが、それぞれのクリエイターたちの刺激的な血が入って、カッコいい仕上がりになっていると思います。ヘヴィーでダークな仕上がりの曲をいっぱい選んでるので、"BLOOD"なAcid Black Cherryを楽しんで欲しいと思っています。

ゆず

YUZU 20th Anniversary DOME TOUR 2017 ゆ ず イ ロ ハ

2017.05.20-21 東京ドーム

Text ⇒ 竹内美保
Photo ⇒ 田中聖太郎
太田好治
立脇卓

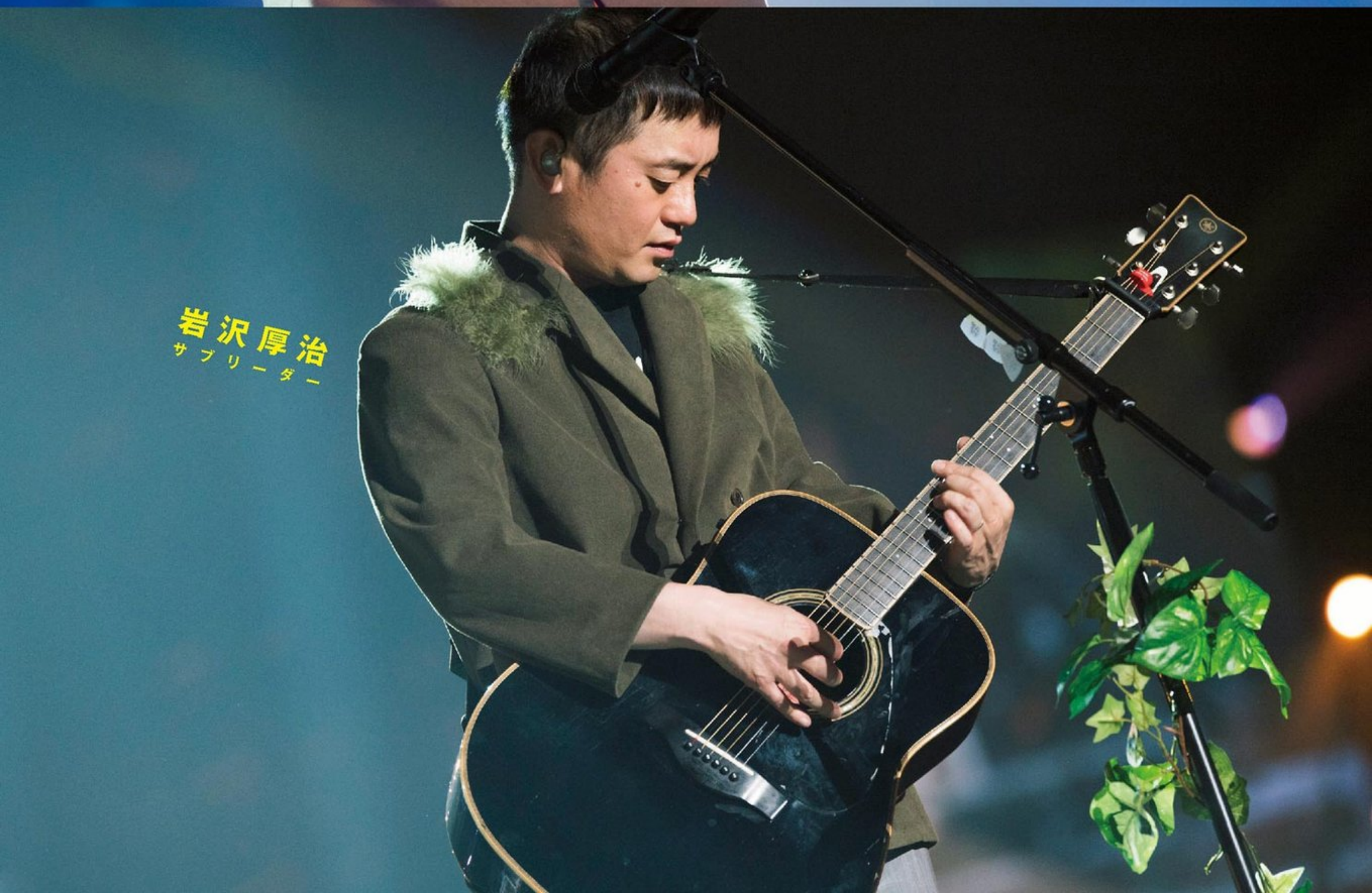




デビュー20周年記念の全国ドームツアー、東京公演。
路上時代を彷彿とさせる原付バイクでの登場や
メインステージに陣取る巨大ゆず太郎、
驚きの移動ステージや
約5万人によるタンバリン演奏など、
華麗なテクノロジーとアナログな人間力が合体した、
"らしさ"あふれるステキな一夜をレポート!

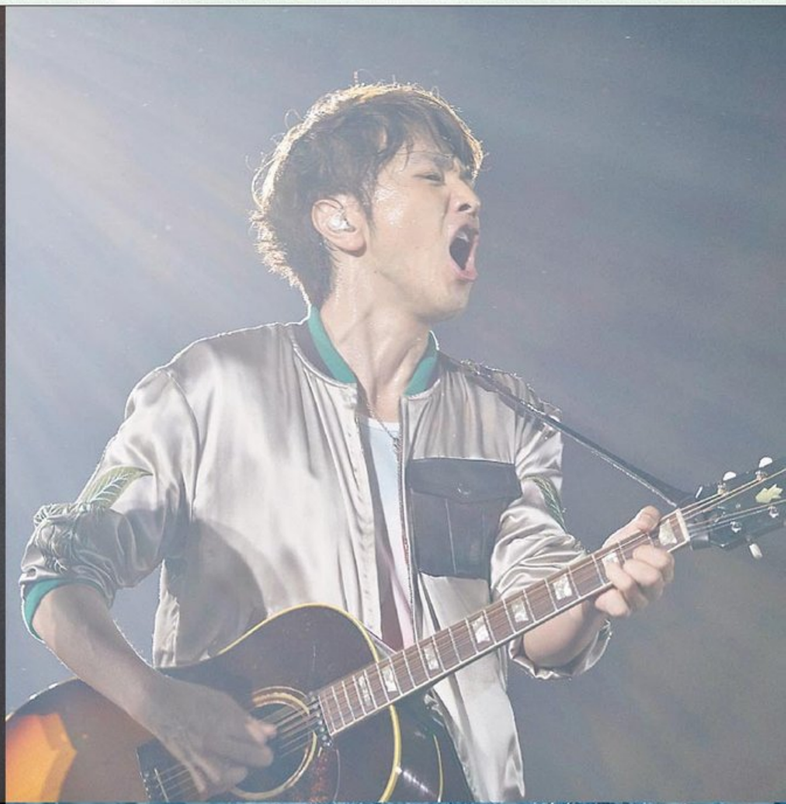


北川悠仁
リーダー



岩沢厚治
サブリーダー





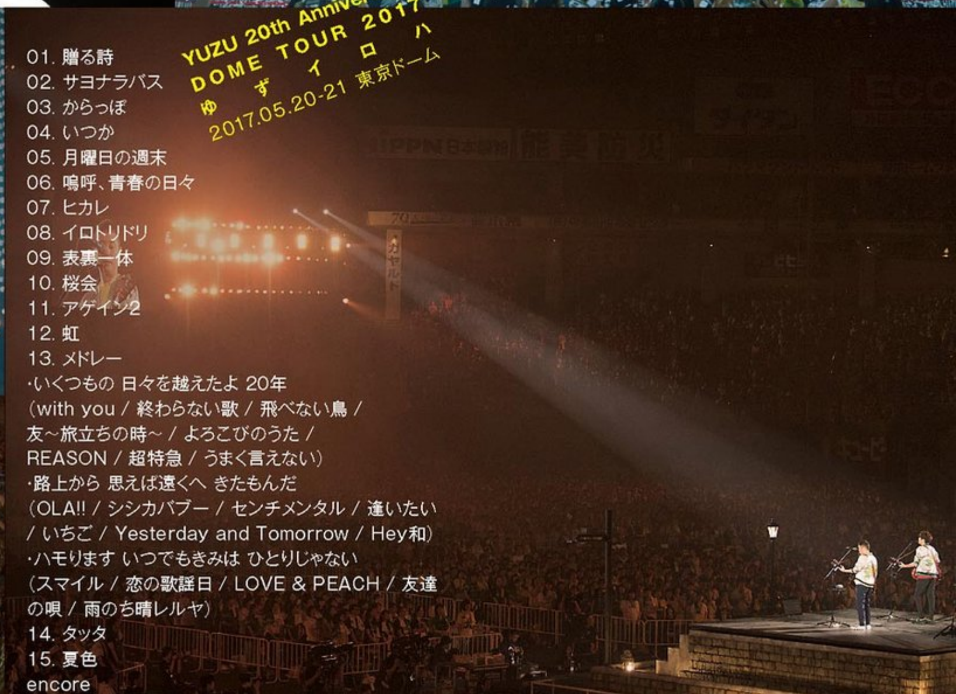








ゆず ⇒
北川悠仁と岩沢厚治により'96年3月結成。'97年10月、1stミニアルバム『ゆずの素』をリリース。6月21日に『謳おう』EP、28日に『4LOVE』EPを発売。9月より、全国ホールツアー『YUZU HALL TOUR 2017 謳おう』がスタートする。



YUZU 20th Anniversary
DOME TOUR 2017
ゆ　ず　イ　ロ　ハ
2017.05.20-21 東京ドーム

01. 贈る詩
02. サヨナラバス
03. からっぽ
04. いつか
05. 月曜日の週末
06. 嗚呼、青春の日々
07. ヒカレ
08. イロトリドリ
09. 表裏一体
10. 桜会
11. アゲイン2
12. 虹
13. メドレー
・いくつもの 日々を越えたよ 20年
（with you / 終わらない歌 / 飛べない鳥 / 友～旅立ちの時～ / よろこびのうた / REASON / 超特急 / うまく言えない）
・路上から 思えば遠くへ きたもんだ
（OLA!! / シシカバブー / センチメンタル / 逢いたい / いちご / Yesterday and Tomorrow / Hey和）
・ハモリます いつでもきみは ひとりじゃない
（スマイル / 恋の歌謡日 / LOVE & PEACH / 友達の唄 / 雨のち晴レルヤ）
14. タッタ
15. 夏色
encore
16. カナリア
17. 少年
18. 栄光の架橋

夢に彩られた、至福のひととき。20年の歴史を背景に、最新のミュージック・スケープが繰り広げられていった、〝ゆずイロハ〟。しかも壮大なだけではなく、広大なドームの特性を活かして創意工夫が尽くされているから、物理的な距離も心の距離もまったくといっていいほど感じられない。いやむしろ、ホールよりもライヴハウスよりも〝そばにいる。近くに在る〟体感がここにはずっとあった。

なにしろ、オープニングから、立つステージがアリーナ後方に設置されたサブステージ(レンガ模様で外灯がある、横浜を連想させるもの)。そこに上手と下手から分かれて向かってくるふたりの移動手段は、なんと路上時代に乗っていたという原チャリ。この近しさを呼ぶ感じ、なんともステキだ。

「今日は20周年のパーティだぞー!」と叫ぶ北川くん。1曲目はパーティ主催者から参加者へのプレゼント、「贈る詩」だ。歌声とアコースティックギターとハープとタンバリン、それだけでドームが揺れる。嬉し気に楽し気に。そして大合唱となった「サヨナラバス」。ふたりなのに幾つもの層が感じられる、繊細かつ厚みのあるハーモニーで聴かせた「からっぽ」。大サビのグルーヴが心地良い「いつか」。疾走感溢れる「月曜日の週末」。力いっぱい鳴らされるギターのアンサンブルがタフな「嗚呼、青春の日々」と、懐かしくも今に響く楽曲たちをテンポ良く披露。しかもステージが90度ずつ回転するので、このアコースティックセットだけで360度全方位のオーディエンスに向けて、ゆずが歌い語りかけたことに。

ときどき停めては手を振る、を繰り返しながら、ふたりは再び原チャリを走らせ4体の巨大なゆず太郎が待つメインステージへ。路上時代の映像を挟み、バンド編成での一発目はダイナミックかつストレートに迫る「ヒカレ」。鳴らされるアコギから音符のように、メロディのようにゆず太郎が放たれていく映像マジックが素晴らしい。続く「イロトリドリ」でもCGのゆず太郎は大活躍。カラフルなサウンドに乗って、踊る躍る。そしてレーザーとムービングライトがスリリングに迫る「表裏一体」、ゆず太郎が樹へと育ち、桜の花びらに彩られていく「桜会」、パワフルでポジティブさを湛えた歌声とステージを彩る村上隆氏の〝お花〟が鮮やかな「アゲイン2」、荘厳なサウンドに導かれ、ラストに〝お花〟がカラフルなアーチを描く「虹」とヒットチューンを連射。まだ前半戦にも関わらずこれだけの代表曲を惜し気もなく聴かせることができるのは、やはりオンリーワンの存在で最前線を走り続けている実力とキャリアがあるからこそ、だ。

ここでゆずの未来予想図を、90歳になった2067年のゆずが過去の思い出として振り返るという、かなり凝った設定の爆笑ムービーを上映。これがやたらスケールの大きな内容になっていて、振り切れるところまで振り切るゆずのアソビ心をいかんなく発揮。ここまでくると、〝とは言え、ゆずだし〟という言葉には計り知れない可能性があるのではないか?と思えてくる。

そして20年目の現実のゆずに戻ったステージは、ここから怒濤の展開へ。〝20曲ゆずイロハメドレー〟と題し、『ゆずイロハ 1997-2017』の〝イ〟〝ロ〟〝ハ〟のカテゴリーの3ブロックで構成されたスペシャル・メドレーを披露。ただし、全体の流れやライヴでの相乗効果を考えた、音源とはまた異なる内容となっていた。

〝いくつもの 日々を越えたよ 20年〟の幕開けを飾ったのは、「with you」。歌詞の最初のフレーズは、こうして直接繋がれる、心を重ね合わせることができる場で、〝今〟歌われることで、新たな意味を持つ。「飛べない鳥」や「超特急」がフルで聴けないのはもったいないような気もしたが、逆に考えればそういった曲をメドレーに組み込んでしまう贅沢さ、ということでもある。続いての〝路上から 思えば遠くへ きたもんだ〟では「OLA!!」「シシカバブー」というゆず流ダンスチューン2連発にノッて、ゆずとゆず太郎がステージごと移動。まるで魔法のじゅうたんのようにアリーナへとフライングし、オーディエンスの輪の中に飛び込んでいく。メドレーでこれほど大がかりな観せ場を作ったライヴを、私は他に知らない。

エンタテイメント炸裂!となったのは、意外にも〝ハモリます いつでもきみは ひとりじゃない〟。いや、〝ハモ〟にさまざまな意味が込められていることを考えれば、意外でもなんでもないのだが。「ねぇ、東京ドームのみんな、聞こえてるの?」とセリフを変えて披露された、帰ってきた北見川潤子とムーチョ小岩沢による「恋の歌謡日」、祭り仕様でハッピーに弾けた「LOVE&PEACH」、ゆず太郎も口を動かしてハモっていた「友達の唄」など、誰もが満面の笑顔で楽しめるブロックとなっていた。

その満面の笑顔のまま、ライヴ本編は大団円へ。〝タッタンバリン〟なるお客さんの持つタンバリン数万個と歌とギターによる「タッタ」は、アコースティックの可能性を華やかに広げ、その〝タッタンバリン〟はそのままラストの「夏色」をさらにスケールアップさせる役割を担い、ゆずライヴ史上最高にブッちぎった「夏色」に。

高揚の余韻の中で応えてくれたアンコールの1曲目は、新曲の「カナリア」。岩沢くんのゾクゾクするようなギターフレーズと北川くんが紡いだ真摯な言葉の融合に、思わずハッとさせられる。一転、「少年」では、過去の映像を織り込みながら変わらぬ弾けっぷりを見せてくれた。そして最後の曲は、このツアーでゆずの新たな決意の歌となったであろう、「栄光の架橋」。メッセージだけをていねいに届けるように披露されたこの日の「栄光の架橋」は、シンプルだが磨き上げられ研ぎ澄まされた響きを湛えていた。

懐かしさと新しさの、交錯。それぞれの楽曲にまつわる思い出に、また新たな大切な思い出が加わっていく。メドレーも含め全38曲(!)が歌い奏でられたこのアニバーサリー・ライヴは、ゆずが自らの背景を更新しながら進化していく瞬間の連続だった。メニューはメインディッシュだけでフルコースを組んだような濃さと重みだったが、味わいの違い、彩りの変化、絶妙な緩急のつけ方、何より斬新さで、充実感プラス爽快なあと味も感じられるステージに。

「ただ1日でも長くゆずをやりたかっただけなのに。こんなところまで来るとは思ってなかったです」とMCで北川くんは語った。その〝1日〟がまた明日へと続く、未来へと繋がっている。そう、この日ふたりは、〝その先〟への期待と希望も思い出に重ねてくれたのだ。



UVERworld
TAKUYA∞

Text ⇒ 増田勇一
Photo ⇒ キセキミチコ(KISEKI inck)
Hair&Make Up ⇒ 荒木尚子(Octbre.)
Styling ⇒ 上井大輔(demdem inc.)

DECIDED



心がブレそうになった時、決意を思い出す歌。
UVERworldの歌には、そんな力が宿っている。
今回、映画『銀魂』主題歌となっているニュー・シングル「DECIDED」もそうだ。
どストレートの剛速球のような歌声に胸を貫かれ、
緩急あるメロディに切なくなり、疾走するバンドサウンドに体の奥底が熱くなる。
"本当に心が一番選びたいものを選んでるか?"
TAKUYA∞に楽曲に込めた想いを訊いた。

■今回の「DECIDED」は映画『銀魂』の主題歌でもあるわけですが、楽曲自体、映画ありきで作られたものなんでしょうか?

「映画の話をいただいてから作った曲です。CGが入る前のラッシュといわれる映像を観させてもらって、スタジオにその印象を持ち帰って。大概はそこで1曲しか作らないんだけど今回は激しいものとバラード、その中間にあるこの曲を作って提出して。制作サイドにどれがいちばん合うかの判断を委ねて、その3曲のなかから選ばれたのがこれだったんです。具体的な曲調にまで注文はなかったんですよ。ただ、〝今年の夏のお祭りにするつもりなので、元気な曲で〟とは言われていて。それでも一応、バラードを作ってみたりするわけですけどね(笑)」

■『銀魂』の映画については、早くから話題になっていますよね。

「キャストもすごく豪華だし、相当に気合いの入った映画だという話を聞かされていたんで、自分らも当然のように気合いが入りました。制作サイドが全力で作ったものを、より盛り上げられるような曲にしなくちゃ、と」

■前々からアルバム制作も進めていたはずですけど、その途中にタイミング良く今回の話が来て、結果的にこれがアルバムの先行シングルのような形になったわけですよね?

「そうですね。俺はこれをアルバムのリード曲にしたらいいんじゃないかなとも思っていたんだけど、シングルにしたほうがいいという会社側の判断もあって。アルバムが今のところ、全18曲入りになりそうなんですね。元々は20曲入れたいと思ってたんですけど、CDには78分59秒しか入らないんですよ。ところがその時点で80分を大幅に超えていたんで、そこに入りきらない曲をこのシングルに入れてしまおう、と。だから〝RANGE〟と〝Dis is TEKI〟はアルバムには入らないんです。とはいえ18曲に絞ってみても79分を超えているんで、そこでまたさらに調整が必要になったんですけど」

■正直、「Dis is TEKI」はアルバムには入れないのが普通だと思いますよ。面白過ぎて全体の雰囲気を壊しかねないし(笑)。

「ボーナス・トラック的な感じで入れたらいいかな、と思ってたんです。だけど、おそらくアルバムにまでは手が出ない『銀魂』のファンもこのシングルは聴いてくれるんじゃないかと思ったし、そういう人たちに、より少ない曲数で衝撃を与えようかなと思って。そこに自分たちの色がほど良く出たカッコいい曲よりも、〝この人たちおかしいんちゃうか?〟というものを入れたほうが引っ掛かりがあるんじゃないかと思って(笑)」

■その「Dis is TEKI」についてはのちほど聞くとして、先に「DECIDED」の歌詞について。これは『銀魂』の世界観に沿ったものというよりも、TAKUYA∞さんが日頃から思っていることなんじゃないかと思うんです。

「映画の主題歌ではあれ、あんまり物語とかを意識しないで書けるものじゃないと、多分、話を受けないだろうし、そもそもオファーも来ないだろうと思うんですね。自分らが自然に書いて、しかもある程度整合性が取れるもの。求められているのはそれだと思ってるんで。だからこれも、わりと自然に書きました」

■自分に何ができるか、何が合うかではなく、何をやりたいのかという本心が大事。そういう歌ですよね。それと同様に、自分たちの作りたいように作ることが大事。そういうバンドだからこそ評価も得られるし、そういったオファーも来ることになるというか。

「そうですね。だから実際、ここで書いてるのもホントに今、思ってることというか。こうしてバンドも18年目に突入して、なんかようやく冷静に考えられるようになったことというのがあって。たとえば、これまで自分が物事を決めてきた時のポイントとか。それこそバンドを始めた時なんかは、これといって自分たちに特殊なものがあったわけでもなく、未来に希望があったわけでもなく、もう単純に〝このUVERworldで音楽をやり続ける〟と決めて、それだけでここまでやってきたようなところがあるわけなんです」

■タイトルが現在形の〝deci de〟ではなく過去形になっているのは、これまでそうしていくつも決断をくだしてきた、ということを指しているわけですか?

「うん。そういうタイミングが結構あって。しかもその理由はいつもシンプルなものだったな、と思うんです。たとえば〝なんで毎日走るの?〟みたいなことを聞かれることがあるけど、その理由を敢えてひとつだけ挙げるとすれば、〝毎日走るって決めたから〟なんですよ。健康のためでもないし、純粋にライヴのためだけだったら他のことをやったほうがいいかもしれない。自分のなかでの理由はそういうとてもシンプルなところにある。いろんな理由とか説明を欲しがるじゃないですか、みんな。だけど、何かが好きであることの理由は〝好きだから〟でいい。確かに〝好き〟という


Etudes



**何かが好きであることの理由は〝好きだから〟でいい。
確かに〝好き〟というのはとても万能であると同時に乱暴な言葉でもあるけども、
そこで余計なことを考えずに向かっていけばいいかな、と**

のはとても万能であると同時に乱暴な言葉でもあるけども、そこで余計なことを考えずに向かっていけばいいかな、と。少なくともこれまでの俺はそうやって生きてきたし、振り返ってみたらいつもそうやってシンプルに決めてきたな、というのがあって」

■自分に何ができるか、何が向いているかを把握するのは大事なことだと思うんです。だけどそこで、本当にやりたいことや到達したいレベルに向かうことを諦めて、その範囲内にとどまってしまっては意味がないわけで。

「うん。たとえば俺、原宿で女装して歩いてるおじさんとか見ると、感動するんですよ」

■いきなり何の話ですか！

「ふふっ。でも思うんです。〝ああ、好きなことやってはるなあ〟って。で、実際そう思ったから、目が合った時に親指を立てて見せたら、視線を逸らされてしまったけど（笑）」

■ウインクされなくて良かった。

「ははは！　そこで肯定されたいわけじゃないんでしょうね、きっと。その時は、俺は真の理解者のつもりでいたのに冷たいな、と思ったけど（笑）。でもね、やりたいことをやるのに、他の誰かがどう思うかを気にする必要はないんです。俺、自分の大好きなやつらがやりたいことをしてる時に、客観的に見て〝それ、キビしそうやな〟と思うことも結構あるんですね。ただ、それでもそいつらが楽しそうに何かに向かって取り組んでるというのが嬉しいんですよ。俺の生き方も、結局はそういうものなんだと思う。ここから先もきっとそうだけど、何をやるにしてもいろんなことを言ってくる人はいるし、純粋な気持ちで何か意味のあることをしようとしても必ず横ヤリを刺してくる誰かがいたりする。そういう状況があるなかで〝これをしたらこんなこと言われそうやから〟とか、そんな余計なことは考えなくていい。俺がやりたいことをやることで喜んでくれる誰かが間違いなくいてくれるはずだから。横ヤリを刺してくる人の数じゃなく、そういうやつらの人数を数えて、そういう人たちと生きてるほうが幸せな気がするし。自分が正しいと思ってることをしていくうえではね」

■ええ。日常的な例でいうと、ツイッターで何かつぶやいたとき、否定的なリプライの数の多さに落ち込むなんてこともあるはずです。思いがけない人にブロックされていたことに気付かされたりとか。そういう人の数を数えてみても何も始まらない、ということですよね？　ただ、そこで〝いいね〟がひとつもないと落ち込まざるを得ないかもしれませんが。

「確かに。俺がツイッターやってたなら、腱鞘炎になるまで〝いいね〟を押すんですけどね（笑）。でも、それは気にするに値しないことだと思うんです。そういえば、こないだ指原莉乃さんがTVで言ってたんですけど、エゴサーチする時は〈指原莉乃　かわいい〉で検索するらしいんですよ（笑）。それで、いいものばかり見るっていう。それでいいと思うんですよね。確かにネガティヴな意見のほうが気になりがちというのはあると思うし、自分にもそういう時期はありました。だけどそれも、ほんの一時でしたね。否定的な言葉を気にせえへんことが特技です、俺の（笑）」

■その特技は宝ですね。ただ、世の大半の人はそれを気にせずにはいられない。その人たちに向けて、曲を通じて〝気にするな〟と言い続けることに効力はあると思いますか？

「たとえばごく短時間ではあるけども、ライヴを観てる時間とかはそういう気持ちになれるはずだと思うんですよ。それはずっと持続するものじゃないかもしれないけど、考えがブレそうになった時にはそこで受け止めたメッセージを思い出してもらえたらいいな、と」

■心が揺らいだ時に思い出す歌、決意を思い出す歌を発信していければいい、と？

「自分たちの発するものがそういうものになればいいな、というのがあって。だから俺は、こういうメッセージを放ち続けていきたい」

■「RANGE」も、とてもポジティヴな曲。

「なんか、ライヴの締め括りの曲が固まってきつつあった気がするんですよ。そこで〝ØCHOIR〟〝MONDO PIECE〟〝7日目の決意〟に代わる新しいものを作りたいなと思って、いちばん最後に歌える曲というのをイメージして。これは、自分たちのライヴの映像でファンの人たちが映っているところを見返しながら作ったんです」

■行けるところまでじゃなく、行きたいところまで行こう。ライヴの最後でそんな歌詞に声を合わせられるというのは素敵ですね。冒頭には〝わかる人にだけわかればいい〟という程度の想いで作っているわけじゃない、といった歌詞が出てきます。これもきっと、普段から思っていることですよね？

「ここ最近ですね、そういう気持ちになったのは。わかってくれる人だけでいい、自分のやりたいことを好きになってくれる人だけでい

い、というふうにずっと思ってきてたんです。でも、それはちょっと違うかな、と。やっぱりデビューから12年もやっていると、〝UVERworld、好きでした〟とか言ってくる人も出てくるわけですよ。そこで〝じゃあ今は嫌いなの?〟って冗談で返すこともありますけど(笑)、その人たちが離れていった理由、距離を置くようになった理由もどこかにあるはずだし、またいい曲をもってその人たちを迎えに行きたいっていう気持ちがある。せっかく一度は出会えた人たちだし、〝出会えて良かった〟では終わらせたくないから。結局、何についても時間がかかるんですよね、自分らって。他の人たちの倍ぐらいかかってるんじゃないかな。特に俺が何かを理解するのに、ものすごく時間がかかるんだと思う」

■おそらく、その時点なりの理解というのがあるんだと思うんです。それが時間を経るごとに核心に近付いてきている。そんな変化が音楽や歌詞にも出ているように思えます。そして、そんな2つの新たな代表曲候補とともにこのシングルに収められているのが「DIS is TEKI」。そもそもこれは、どういう発想から生まれたものなんですか?

「元々は、曲作りの休憩中に、みんなを笑かそうかなと思って信人をディスりまくった曲を作って、〝ライヴに合わせて新しい曲を作ったから聴いてみて〟とマジな顔で言って聴かせて(笑)。ホンマは信人に、それに対してアンサーしてもらおうと思ってたんだけど、あいつはリリック書くのが得意じゃないんで俺が自分に対するディスりも自分で書いて、それをやつに歌ってもらって。そもそも最初にこれ

過去の作品をしっかり抜けたな、という安心感が今現在の段階であります。
毎回、前のものをギリでクリアできてる気がするんですね。
今回は濃さも、深さも、大幅に超えられた気がしていて

を出したのは〝WE ARE GO〟と同じタイミングだったんですよ。で、あの曲のPVの撮影後に、後輩にカメラを持ってもらって2人のディスり合いを撮って、YouTubeに上げて。それがなんと、〝WE ARE GO〟の再生回数抜いてるんです(笑)。みんなこういうの好きなんやな、と思わされましたね。ただ、その時点ではただのディスり合いだったものを、今回音源にするにあたっては〝どういうやり取りからディスり合いになったか〟というのを、いろいろと考えて」

■ここでの展開もあまりに自然で見事です(笑)。しかし、ここまで自虐的に自分のことまでディスるのって、どうなんです?

「めっちゃ楽しかったです(笑)。ただ、信人をディスるネタは無限に出てきましたけどね。第13章ぐらいまで作れるんじゃないかな」

■それでアルバム1枚作れちゃうじゃないですか(笑)。しかしこれだけ堂々とお互いディスれるのは信頼感で繋がっているからこそ。要するに、これを言って彼が落ち込むとは思っていないわけですもんね?

「信人については思わないな。ただ、こないだAK-69さんとライヴをした時にこれをやって、AK-69さんのことをディスりまくったんですよ。だいぶヘコんでましたけどね、彼は(笑)」

■この曲をこのシングルに入れることについて、反対意見は出なかったんですか?

「いや、全員大賛成で(笑)。もちろんこういう曲を入れられるのは〝DECIDED〟と〝RANGE〟に自信があるからこそだけど、この曲を選ぶ人がいてもそれはそれでいい。選びたいものを選べ、と俺は言います(笑)」

■筋が通ってますね(笑)。というわけで次回は、この先に控えているアルバムの話をじっくりと聞かせてください!

「はい。過去の作品をしっかり抜けたな、という安心感が今現在の段階であります。毎回、前のものをギリでクリアできてる気がするんですね。今回は濃さも、深さも、大幅に超えられた気がしていて。前のほうが良かったとは絶対言わせないものになってると思う。作りたいものを作ろうとした結果として」 B



初回生産限定盤



通常盤

New Single
DECIDED
2017.07.12 Release
初回生産限定盤 CD+DVD ¥1,574(tax out)
通常盤 CD Only ¥1,204(tax out)

[CD]
01.DECIDED(映画「銀魂」主題歌)
02.RANGE(「Red Bull Box Cart Race Tokyo 2017TVCM曲)
03.DIS is TEKI
[初回盤DVD]
ALL ALONE(Live at Osaka Jo Hall 2016.12.21)
LONE WOLF (Live at Osaka Jo Hall 2016.12.21)

UVERworld ⇒
ウーバーワールド。TAKUYA∞（Vo.）、彰（G.）、克哉（G.）、信人（B.）、真太郎（Dr.）、誠果（Sax.&Manip.）。'05年、デビュー。8月2日に約3年ぶりのニュー・アルバム『TYCOON』をリリース。現在、6月から12月末まで続くロングツアーが始まったばかり。また、未発表の新曲「Q.E.D.」が日本テレビ「GRIMM シーズン1」が放送されるMIDNITEテレビシリーズのエンディングテーマ曲に決定した。







to the SPLASH ☆ WORLD





miwa











miwa ARENA tour 2017 “SPLASH☆WORLD”
2017.06.11 横浜アリーナ







“水”“循環”というコンセプトを掲げ表現したアルバム『SPLASH☆WORLD』。制作時から、ツアーもコンセプチュアルなものにしたい、と考えていたという。どんな世界が待っているのか、楽しみに向かった6月11日、横浜アリーナ。期待以上に、自由で解放された“SPLASH☆WORLD”が広がっていた。

Text ⇒ 本間夕子　Photo ⇒ 古溪一道

うれしい、楽しいはもちろんのこと、思わず涙ぐんでしまいそうな切なさや胸を締めつけられるほどの苦しさ、あるいは日々の鬱憤をここぞとばかりにぶつけたり、心の底から驚かされたり。自分でもこんなに彩り豊かなのかとハッとしてしまうくらいたくさんの感情が巡り廻った3時間。先月号のインタビューでも今回のツアーについて**「観てくれる人たちの感情を循環させたいし、最後はその感情を解き放ちたい。いろんな感情を旅するからこそ最後に解放に向かえるので、いろんな気持ちになってほしい」**と語っていたmiwaだが、それはまさにmiwaの目指した〝感情の旅〟そのものだったと思う。

〝水〟をテーマにして作り上げられた最新アルバム『SPLASH☆WORLD』を携え、同じく〝水〟〝循環〟をコンセプトに4月からスタートしたアリーナツアー〈miwa ARENA tour 2017〝SPLASH☆WORLD〟〉も残すところ3公演、いよいよ大詰めを迎えつつある6月11日の横浜アリーナだ。神奈川県出身の彼女にとっては故郷とも言うべき会場は1万2千人もの観客で埋め尽くされ、開演前から温かな空気に満たされている。客席に足を運んで真っ先に目に飛び込んで来るのはセンター席（横浜アリーナではいわゆるアリーナ席をセンター席、1階席をアリーナ席、2階席をスタンド席と呼ぶ）の中央にはサブ・ステージ。そこには本物の水も流れ、心地よいせせらぎを響かせているのだからmiwaの、このツアーに注ぐ本気を感じずにいられない。

俄然、高まる期待の中、客電がスッと落ち、





ポチャン、と水の滴る音が。スクリーンに映し出された水面に柔らかく広がった波紋は次に降り注ぐ雨となり川となり、光に導かれながらさまざまに様相を変えていく。そしてまたポチャンと水が滴り――次の瞬間、「泣恋」の透明な歌声とともに真っ白なドレスに身を包んだmiwaがステージにまばゆく照らし出された。三段に積み上げられた円柱上のタワー、その頂上に立った彼女の凛とした姿に誰もが水の妖精、いや、水の女神を重ねたに違いない。miwa曰く、アルバムの1曲目を飾る「SPLASH」と対になるイメージで書いたというこの曲を彼女がオープニング・ナンバーに選んだのはきっと、ここに綴った無垢な愛しさと慈しみを集まってくれた大切な人たちにまずいちばんに手渡したかったからではないだろうか。

「ようこそ！　みんな最後まで楽しもうね！」

タワーからステージに降り立ったmiwaがそう呼びかけて曲は「シャンランラン」へ。それまで息を呑んで彼女を見つめていた客席の空気が一斉に躍動する。ニコニコと手を振りながらステージを右に左にと大きく動くmiwaに負けじとめいっぱい手を振り返すオーディエンス。「手拍子！」とmiwaに求められれば瞬く間にクラップの嵐が巻き起こり、とのっけから一体感が途轍もない。続く「Princess」ではMVでも話題となったダンスを1万2千人が踊り、「君に出会えたから」では客席いっぱいにタオルが回る。あまりの回りっぷりに**「素晴らしいです！　みんな帰りは腕が細くなってるね」**とmiwaも大絶賛だ。

miwaにとっては横浜アリーナのリニューアル後、今日が初めてのステージ。それでもここに来ると帰ってきたなと思うと語り、横浜アリーナ公式キャラクターのヨコアリくんから〝おかえり〟と手紙をもらった話や、かつては自分もチケットを取っていろんなアーティストを観にきた思い入れ深い会場に立っていることが今でも信じられないと感慨を口にしては**「やっぱりうれしいし、いい場所ですね」**と笑顔を見せる場面も曲と曲の間に織り交ぜつつ、アルバム『SPLASH☆WORLD』や今ツアーのコンセプトを説明したあとは、予想通りmiwaのたっての希望で設けられたというサブ・ステージに移動、スコット&リバースと共作したアルバム曲「変わらぬ想い」に2ndアルバム『guitarium』から「コットンの季節」「Chasing hearts」とタイプの異なる3曲をアコースティック・アレンジで披露。

メイン・ステージから客席の通路を通って移動する道中には観客に「学生？」「**好きな曲は何？**」と話しかけ、「オトシモノ」が好きという声が上がるとそれに応えたバンマス&キーボードのejiが突然イントロを弾き始め、「え！　弾いてる！」とmiwaもAメロの一節を歌うといったメンバーとの息もピッタリの一幕を見せたかと思えば、メイン・ステージへの帰り際、話しかけた11歳の少年が「441」を好きだと知るや、戻ってすぐ「じゃあちょっとだけ」とそのサビをプレゼント、今度はmiwaと一緒に客席も歌ったり。アリーナという大きな会場でありながら実に距離感の近い、なんとアットホームな空間だろうか。少年が感激で泣いてしまうのも、そりゃわかるってもんだ。

「今日は〝オトシモノ〟〝441〟歌ったりして


















SET LIST
01. 泣恋
02. シャンランラン
03. Princess
04. 君に出会えたから
05. 変わらぬ想い
06. コットンの季節
07. Chasing hearts
08. めくろ川
09. サヨナラ
10. 夜空。
11. アイオクリ
12. 君と100回目の恋
13. ATTENTION
14. Faith
15. B.O.Y
16. ヒカリへ
17. SPLASH
18. あなたがここにいて抱きしめることができるなら
ENCORE
19. シャイニー
20. サヨナラ feat. MC.waka
21. 360°
22. ストレスフリー
23. 結 -ゆい-













特別ですね。ここからはまた『SPLASH☆WORLD』の世界に入っていきます。大切な人を思い浮かべて聴いてください」

そう告げて始まったのが1stシングルのカップリング曲「めぐろ川」だったのには少し意表を突かれたが、水の循環、感情の循環というコンセプトを思えばとてもしっくりとはまる。それは次の「サヨナラ」も然り。『SPLASH☆WORLD』を主軸に据えつつ、miwaのこれまでの歩みも包括して体現されるコンセプト、いっそう膨らみを増した世界は圧倒的ですらある。

ギターのオバタコウジとのデュエットが音源とはまた違った甘やかな哀切を呼び起こした「夜空。」のあと、暗転したステージのスクリーンに映画『君と100回目の恋』の各場面がコラージュ映像となって流れる。映像が消えると同時にクライマックス・シーンと同じ赤いドレスに着替えて髪もひとつに結い上げ、アコースティック・ギターを抱えたmiwaが再び登場、「アイオクリ」を奏でるとあえなく涙腺は決壊した。ダメ押しはこの映画の主題歌でもある「君と100回目の恋」。

「この映画の曲はmiwaではなく、葵海(あおい)として、この瞬間を大切に思いながら歌います」

そうして朗々と空間を渡る歌にオーディエンスは身じろぎもせずステージに聴き入る。miwaの瞳も潤んでいるように見えたけれど、その華奢な体からは本当に葵海が憑依したかのような陸への途方もない愛と揺らがぬ意志が溢れてもいて、その強さに何より心を揺さぶられた。葵海として音楽を紡ぎ、その人生を精一杯生きたこの映画は彼女のシンガー・ソングライターとしての覚悟をいっそう確固たるものにしたのかもしれないとその静かな迫力に思う。





miwa ⇒
みわ。'90年6月15日生まれ。A型。葉山生まれ東京育ち。'10年3月3日にシングル「don't cry anymore」でデビュー。'17年2月22日に5thアルバム『SPLASH☆WORLD』を、5月24日にシングル「シャイニー」をリリース。6月23日に映画『君と100回目の恋』DVD/Blu-rayが発売された。

しんみりとしたムードは、しかし「ATTENTION」で再びアッパーに。ワンピースにダンガリーシャツを羽織ったロック仕様でみたび登場、エレキ・ギターをかき鳴らすmiwaの勇姿にオーディエンスも拳を突き上げる。再び客席にタオルがブンブンと回った「Faith」、華麗なステップ&ジャンプでステージを跳ね躍るmiwaと一緒になって1万2千人が跳んだEDMチューン「B.O.Y」と曲を追えば追うほどに加速する熱狂。フライングVを肩にかけて再度タワーの頂上に立った「ヒカリへ」、そして「SPLASH」で横浜アリーナは最初のクライマックスを迎える。

miwaを乗せたまま、さらに高くリフトアップするタワー。ステージの床からmiwaの立っているまで5m近くあったのではないだろうか。タワーにはとめどなく迸る激しい水流が映し出され、まるでmiwaの足元に滝が出現したかのようだ。とめどなく溢れるその水はこの会場にいるひとり一人から吹き零れる感動の奔流を具現化したものにも思える。事実、〝SPLASH!〟とオーディエンスが一体となって叫ぶたび、喜びが飛沫となってはじけるのを感じた。

「みんなと一緒にこの〝SPLASH☆WORLD〟を完成できて本当にうれしいです。この先もたくさん季節を越えて、みんなと一緒にこうやって音楽を楽しんでいきたい」

そんな願いを託して本編ラストは「あなたがここにいて抱きしめることができるなら」。ミラーボールが振り撒くキラキラとした光の破片のひとつ一つにもmiwaの歌に込めた想いが宿る。やはりすべての源は愛であり慈しみなのだと思った。今日の最初に彼女が差し出してくれた大切なもの。ライヴを通してたくさんの感情を旅し、たどり着いたのは、それらの感情はすべて愛から生まれるのだという改めての気づきだった。

新曲「シャイニー」からスタートしてアンコールは5曲。**「本編でもやったけど、どうしてももう一回やりたい曲があって……」**と演奏された「サヨナラ」ではなんとお笑いコンビ、オードリーの若林正恭が登場！　かつてはmiwaもMCを務めていたラジオ番組『オールナイトニッポン』繋がりもあって、今も親交のあるふたり。2014年の〈ニッポン放送開局60周年記念『オードリーのオールナイトニッポン』5周年記念〝史上最大のショーパブ祭り〟〉で共演して以来となる再演に会場が色めき立たないわけがない。本当は客として観に来るつもりが「だったらラップで出てほしい」とmiwaに頼まれ、しかも歌詞は前のままでいいよねと確認したところ「お客さんは新しいほうが喜ぶかも」と暗に新作を要望されて急遽、書き下ろしたという。〝シャイ兄〟〝失敗したらめぐろ川にSPLASH〟など細かくネタを詰め込んだ渾身のラップにオーディエンスは沸きに沸き、ついにはまさかの〝おかわり〟まで。

横浜アリーナだけのサプライズに冷めやらぬ興奮をさらに上書きするべく、花かごに乗り込んだmiwaは「360°」「ストレスフリー」とたっぷり2曲をかけて場内を一周。オーラス「結 -ゆい-」での1万2千人の大合唱はライヴを締めくくるにふさわしくどこまでも響き渡った。Ⓑ



flumpool

Third Time Lucky

5月20、21日、flumpool3回目となる日本武道館ライヴ。ステージ上で山村隆太は「三度目の正直」と言葉にしていた。大掛かりなステージセット、演出を携え、彼らは未来を更新するライヴを体現してみせた。初日のレポートと、後日行なったインタビューで振り返る。

Text ⇒ 宮本英夫、B-PASS (P.067)　Photo ⇒ 古溪一道、ヤオタケシ













5月20日、flumpool3度目の日本武道館公演の初日、「～ラストコール～」とサブタイトルがつけられたステージを見た。会場に入ると目に飛び込む、全面を観客が取り囲む360度ステージ。可愛らしい少年少女が登場するオープニングのアニメ映像に続き、1曲目「Touch」がスタートすると、東西南北の観客が一気に沸き上がるシーンが壮観だ。

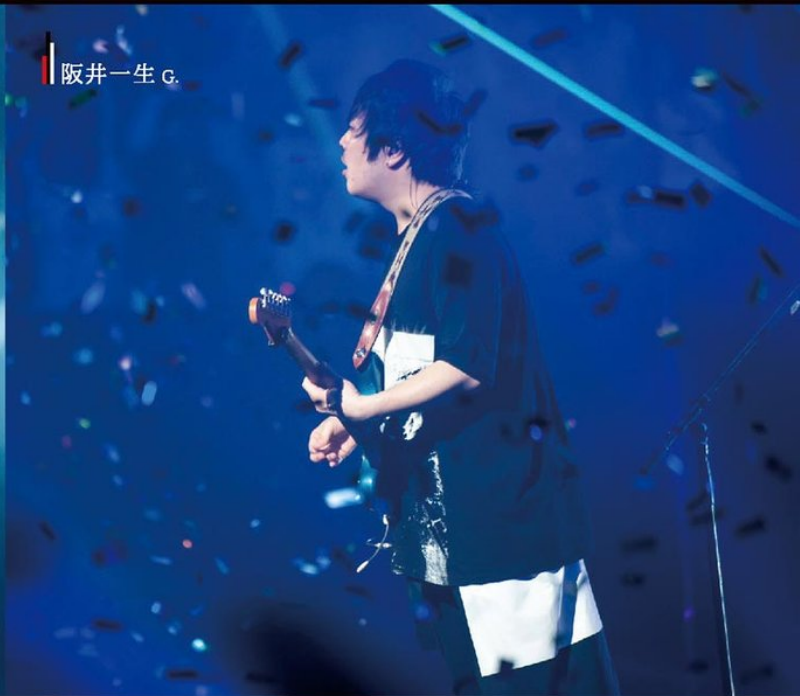
「たくさん来てくれてありがとう。今日は最高の1日にしよう！」

山村隆太が力強く叫ぶ。「覚醒アイデンティティ」は不穏な赤い照明と、緑のレーザービームが雨のように降り注ぎ、武道館を光の海に変える。「labo」では隆太がハンドマイクに持ち替え、ステージ前面まで走り出て観客を煽る。続く「Natural Venus」は、アダルトにグルーヴィーに。「夜は眠れるかい？」はエモーショナルに。「強く儚く」はドラマチックに。4人とも調子がよさそうだ。

「flumpoolは9年目になります。10年に一つ足りないけど、そこに無限大の可能性があります」

隆太がアコースティック・ギターを弾きながら優しく歌う「明日キミが泣かないように」が終わると、場内は暗転。天井高く吊るされた巨大な円筒形のLEDスクリーンに映し出される過去のライヴ映像に見とれている間に、バンドはアリーナ中央へと移動し、「花になれ」を演奏する。ここで一気にシーンが変わり、七色のレーザーが飛び交う中、頭上の円筒形スクリーンがゆっくりと下降する。メンバーをすっぽりと包み込むように着地すると、円筒内のステージが上昇し、メリーゴーラ


尼川元気 B.


阪井一生 G.

flumpool 8th tour 2017 Beginning Special「Re:image」at NIPPON BUDOKAN
2017.5.20 ～ラストコール～

SET LIST
01. Touch
02. 覚醒アイデンティティ
03. labo／夏Dive（21日）
04. Natural Venus／この時代を生き抜くために（21日）
05. 夜は眠れるかい？
06. 強く儚く／Becoause... I am（21日）
07. 明日キミが泣かないように／どんな未来にも愛はある（21日）
08. 花になれ

Inst
09. FREE YOUR MIND
10. 傘の下で君は…
11. Over the rain ～ひかりの橋～
12. ナミダリセット
13. ラストコール
14. Blue Apple & Red Banana
15. Sprechchor
16. World beats
17. 星に願いを

ENCORE
18. 大切なものは君以外に見当たらなくて
19. 君に届け



ウンドのように回転するという驚きの展開に、観客の興奮は頂点に達した。「FREE YOUR MIND」から「傘の下で君は…」へ、ステージの回転と、スクリーンに映されるサイケデリックなアニメ映像は完璧にシンクロしている。これはまるで一個の芸術作品だ。

「Over the rain ～ひかりの橋～」から「ナミダリセット」へ、新旧を代表するバラードをゆっくりと聴かせたあと、4人は円筒から解放され、「ラストコール」「Blue Apple & Red Banana」で一気にスパーク。「Sprechchor」では阪井一生のギター、尼川元気のベース、小倉誠司のドラムに、それぞれソロの見せ場があった。隆太が先頭に立ち、観客にコール&レスポンスを呼びかける。

「明日もあるけど、今日が最後のつもりでやってます。今日しかないぞ！」

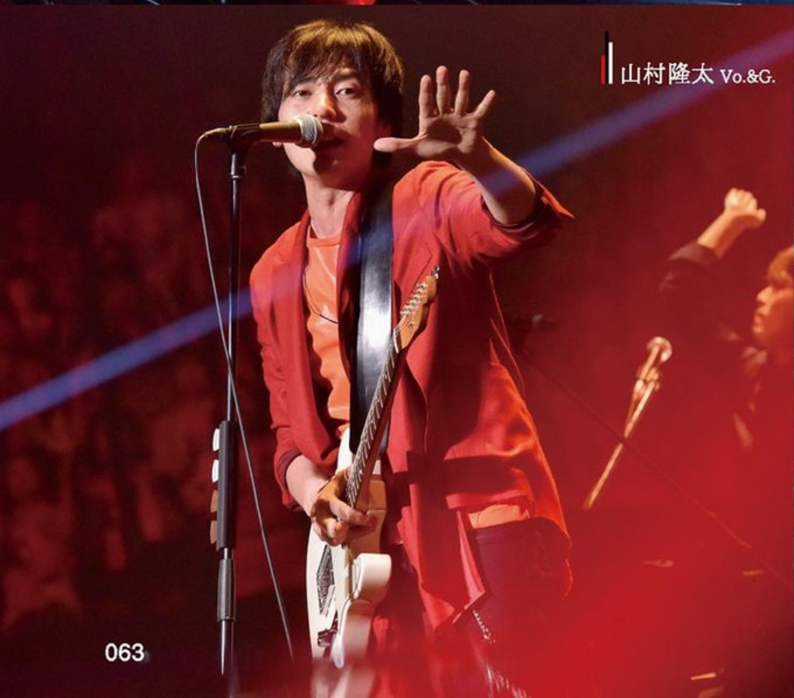
恒例のタオル回しソング「World beats」では、七色の紙吹雪が舞い上がり、「星に願いを」では、隆太がマイクを客席に向けて歌わせる。本編の後半はMCを入れず、一気に突っ走るスタイルが斬新だ。

アンコールは「大切なものは君以外に見当たらなくて」と「君に届け」だった。曲間で、メンバーが口々にファンへの感謝を述べる。4人とも、満足げな笑顔を浮かべている。

「ここからもっと大きなバンドになっていきます。そして、みんながつらい時に、音楽で背中を押していきます」

隆太の力強い言葉で、約2時間半のライヴは幕を下ろした。10周年イヤーに向けてのスタートダッシュにふさわしい、ポジティブな未来への希望に満ちた充実のライヴだった。





山村隆太 Vo.&G.



小倉誠司 Dr.





■武道館、お疲れさまでした。終わってから2週間、今の率直な感想は?

隆太「3度目の武道館でしたけど、次に進まなきゃという気持ちに一番なれているので、そういう意味で大成功だったんじゃないかと思います。終わって一息つきたくなるライヴというよりも、これをステップにしてどう進んでいくか。そういうふうにとらえられたのは、バンドとしてすごく成長したなと思います」

■1回目、2回目の武道館には心残りがあったと、MCでは言っていました。

隆太「武道館にこれだけいろんな思いを背負ってるバンドは、そんなにいないんじゃないかなと。みんな武道館を目標にして、達成感を得ると思うんですけど、僕らには達成感はなかったし、武道館に対する執着心がすごく強かったので。でも3度目の武道館で、それをうまく消化できたと思うし、大きな分岐点になったんじゃないかなと思います」

一生「ドヤ感はあります(笑)。今までで一番、終わりたくないと思ったライヴでしたね。それぐらいいいライヴだったし、やりたいことができました」

誠司「二人が言った通りですね。すごい自信はあったし。ただ、2日で終わるのはもったいないかな?という気持ちはありました。もっとやりたかった、と言ったほうが近いかもしれないですけど。今回、武道館でしかできないことをやったんですけど、手ごたえがあったからこそ、今まで以上に終わった後に淋しさがあるというか、これを全国のみなさんに見てほしかったという気持ちが強いですね」

元気「本番直後はいろんなことを思ったんですけど……忘れました(笑)。ただ隆太が言った"次"という感じは、すごくあるなと思います。近年のアリーナ・ライヴでは、このライヴをやってしまったら次は大丈夫かな?とか、そういう感覚があったんですけど、今回はそうではなくて、次もできるだろうという感覚があります。何なんでしょうね?」

■何なんでしょう。

元気「ちょっと変わったライヴだったんですよね。ライヴ感がないというか。真ん中あたりでは、演出に乗っかるのが正解なので」

■あの、大きなLEDの網目の円筒の中に入って回転しながら演奏するところとか。

元気「そうです。こちら側からは何も見えなくて(笑)。目の前の網に向かって弾いていて、"これがああいうふうに見えてるんだろうな"って、想像しながら演奏してる。リハーサルをやってる時も、これで大丈夫なのかな?と思ったり」

隆太「だから、リハーサルがまったく楽しくない(笑)」

元気「そういう演出は、今までなかったので。そこにしっかり入り込めたのは、良かったと思うし、だからこそ、終わってからも"もっとこうしたい"という気持ちがあったんだろうし。それが"次"という感覚になったんだと思います。今までは、演出のことはあんまりわかってなかったし、知れば知るほど不安も出てくるけど、もっとできそうという気持ちも出てきたので」

■そもそも、武道館の360度にお客さんを入れて、センターステージにして、回転する円筒を作って……という演出は、どんなふうに決まっていったんですか?

元気「何が最初だろ? 360度にしたいって、隆太が言い出した気がする」

隆太「それがあって、LEDに囲まれてやりたいと言ったんですよ。それをやりたいと言ったら、スタッフが考えてくれて、ああいうふうになりました」

元気「360度ということと、タイトルが"Re:image"だから、見たことのないものをやりたいというコンセプトがあって。ステージが、変わった形だったじゃないですか」

■北スタンドにくっついてましたね。そっち側のアリーナにはお客さんを入れずに。

元気「あれは、360度でやりたいけど、スタートはエンドステージがいいよね、みたいな。花道を作るのはちょっと違うから、そのまま円形ステージにつなげて、ああいう形になりました。で、せっかく360度囲まれてるなら、いろんなところから見えたほうが面白いから、ステージが上がったり回ったりするようにしようと。スタッフはよくやってくれましたよ。俺らは"ステージが回るのに合わせて映像も動いてほしい"とか言っただけで」

隆太「ただステージを作るだけじゃなくて、コンピューターで計算して、ステージの回転速度に合わせてグラフィックが動くとか」

元気「誰も見たことのないことをやりたかったんで」

■実際、回ってる時、あの中からはどう見えてるのか気になってました。

元気「網が見えて、LEDが発光しているので、うっすら客席が見える。お客さんがぼーっと立ってるように見えたから、大丈夫かな?って思ってました(笑)。圧倒されてたのかもしれないですけど」

隆太「回るから、酔うかな?と思ったけど、そ





3度目の武道館で、うまく消化できたと思うし、大きな分岐点になったんじゃないかなと思う

んなことはなくて。高く上がるのも、楽しかった。もっと上がってほしかった。天井の国旗ぐらいまで行きたかった（笑）」

元気「初めは、一人一人が台に乗って回ろうか、という話もあったんですよ。それで上がったり下がったりすれば、そのほうが面白い演出ができたかもしれないけど、揺れるだろうし、いろいろ問題が多くて、全員が台に乗って回ることになって。だから全然大丈夫でした。回ってるか、回ってないかもわからないぐらいで」

誠司「止まってる時も、〝回ってるのかな？〟という感覚がありましたね」

■センターステージで演奏している時、360度にお客さんがいるというのは、どういう感覚ですか。特にドラマーは、後ろにもお客さんがいるのは、普段はないわけで。

誠司「後ろにいるお客さんも楽しませようというパフォーマンスを考えると、難しいところはありました。今までは、前だけ見ていれば良かったのが、後ろも見ないといけないので」

■最初はエンドステージで、中央に移動して、4人で内側を向いたり、外側を向いたり。1回のライヴの中であれだけドラムの位置が変わることも、普通はありえない。

誠司「スタッフさんが、てんやわんやでした（笑）。叫び声が聞こえてきたり」

■音の聴こえは良かったですか？

隆太「良かったですよ。武道館は広いけど、音がいいので」

■セットリストはどういうふうに作っていたんでしょう。

隆太「みんなで考えましたね」

■「Over the rain ～ひかりの橋～」とか、久々に聴く曲もあって。ベストっぽくしたかったんですか？

元気「いや、そういうことでもなくて。隆太が〝Re：imageっぽい選曲を〟って言ってたんですけど」

一生「言ってたな。何を言ってるのか、よくわからなかったけど（笑）」

元気「隆太に言われて、全員ぽかーんとした（笑）。〝Re：imageという意味合いがある曲を〟って。よくわからないから、〝じゃあ隆太が決めて〟みたいな」

隆太「そんな言い方してないだろ（笑）。でも、ベストという感じではないですけど、デビュー9年目の〝9〟という数字にこだわりたい気持ちがあったんですね。9は、10になるには1足りない。だからこそ意味があるというか、可能性は無限大だということを、今回のライヴを通して伝えたかったので。そういう意味で、9年の中でのそれぞれの時期の楽曲を、〝ドキュメンタリーというか、一つの物語が始まって終わって、そして次に行くというものを見せたかったんですね」

■それはスクリーンに映されたアニメ映像でも、表現されていましたね。

隆太「武道館で何かが終わって、そしてまた何かが始まっていく。最後の曲〝君に届け〟から始まっていく何かがある、ということです」

■確かに、そういう視点で見ると、これまでの節目節目にある重要な曲を、しっかり押さえた選曲だと思います。

隆太「だから古い曲もやりましたし。〝花になれ〟とか、わかりやすいですよね。最後の〝君に届け〟は、MCでも言ったんですけど、flumpoolの見られ方において誤解を生んだ曲というか、爽やかな優等生イメージが、この曲でついてしまったので。それはちょっと違うかなって、ずっと思ってたんですよね。そういう意味で、〝君に届け〟を最後にやることで、この曲も〝Re：image〟していったらいいなという、自分たちが変えられると思ったので」

元気「最近、避けてたもんな。ずーっとやってなかった」

隆太「しかも最後にやるなんて、絶対ありえなかった曲を、あえてやりたいなと思った」

■曲で言うと、一昨年の大泉緑地のライヴで、元気さんの強い希望でセットリストに入れたという「Sprechchor」が、あれ以降すっかり定番化して、今回もいい位置にいるのが印象的でした。

元気「そうですね。あれは僕の手柄なんで（笑）。僕、けっこうそういうの多いんですよ。（セットリストを見て）……でも、今回はないな。ほかに手柄はないです（笑）」

一生「僕の手柄は、インストですね。これは絶対やりたいと言いました。曲と曲とのつなぎは、すごく良かったと思います」

■「花になれ」でセンターステージに移動して以降は、最後の曲までMCなし。ああいう、畳みかける演奏も、新しいと思いました。

隆太「確かに。MCを入れたほうがコミュニ

ケーションがとれるし、ライヴ感が出てくると、ずっと思ってたんですけど。その近さが、自分たちの良さでもあるなと思っていたんですけど、最近は、音で引っ張れるバンドになったという自信……までは行かないですけど、そのほうがライヴ感があるって感じるんですね。昔とは逆で。後半、円筒の中で4曲も演奏するのは、大丈夫かな?と思ってたんですけど、そこでは完全に自分たちとお客さんを切り離すというか。お客さんも、その瞬間はショーを見るみたいな感じになると思うんですね。それまでは親密に向き合っていたのが、あそこで一回離れて、音だけを楽しむというか。で、そこからもう一回〝ラストコール〟から畳みかけて、お客さんと向き合っていく。そういう流れにしたら、ライヴにダイナミクスがあっていいんじゃないか?と」

■はい。なるほど。

隆太「内心、ドキドキでしたけどね(笑)。筒の中に入ってる時は、反応が見えないから、大丈夫かな?って。その不安は、リハーサルをやってる時からありました」

元気「俺は、初日が終わってもそう思ってた。関係者挨拶で、〝あの演出は良かったですよ〟って、いろんな人に言われて、ああ良かったって。そこまではずっと不安だった(笑)」

隆太「お客さんとの距離が、完全に離れるんで。でも、その面白さもあるんですよね」

■ライヴ感という意味の、昔と今との変化。面白いです。

隆太「2時間半のライヴの中で、そういうブロックがあっても面白いなって思いましたね」

■そう考えると、ダンスとか、コントとか、一生懸命頑張ってライヴを盛り上げていた、あの頃が遠い昔のようです。ねえ一生さん。

一生「ほんと、そうなんですよ。ダンスとか、よくやってたなと」

元気「またやりたいって言ってるんですけどね。本編をもっと作り込んで、アンコールを思い切りふざけるとか」

一生「それ、俺がやらないとダメなやつだろ。もうしんどいわ」

隆太「やらないと、居場所、なくなるよ(笑)」

一生「音楽作るだけでいい」

元気「かっこいいな」

隆太「それやったら、もうちょっとかっこよくしないと(笑)」

一生「おまえ、スタイリストにあやまれ!(笑)」

■いえいえ。一生さんのあの黒い衣装、目立ってましたよ。

隆太「あれは東西南北を司る神様で、朱雀、青龍、白虎、玄武の四色を表わしていて」

元気「一生の黒もどうかと思ったけど、誠司の白もなかなかだった(笑)」

誠司「あれでロン毛やったら、イエス様みたいだった(笑)」

元気「一生は黒魔術だな(笑)」

■そんな、見どころたっぷりの2日間。終わった直後の実感は?

元気「いつもの倍以上体力は使いました。同じエンジンで走れないんで。筒の中と外と、全然違うから、二つのエンジンを使ったみたいな、やりきった感がありました」

隆太「確かに、体力使ったな。曲数はいつもと同じくらいですけど、今回は特にいろんな挑戦をしたし、新しいことをやるには、けっこうストレスがあるんだなと思いましたね。安心して不安になって、安心して不安になって、常にその繰り返しだったんで。精神的な疲れが大きかったかもしれない」

■1日目は緊張感があったと思うし、2日目は、より達成感がありました?

隆太「1日目が自信になって、これで行けるというのはありましたね。でも2日目は、もう今日で終わりだし、この演出も最後だというプレッシャーはありました。ツアー・ファイナルとはまた違うプレッシャーというか、今日しっかり決めないと、次に進めないみたいな。解放感みたいなものは、特になかったですね」

■そして次は全国ホールツアーが、9月からスタート。これは、武道館で見せたものを、さらに発展させるという形になりますか。

元気「いや、タイトルは同じ〝Re:image〟ですけど、また違うものになると思います」

隆太「今、いろんな案が出てきているところなんですけど。今が9年目で、10周年に向けて、あと1年をどうやって過ごしていくか。このまま行けば、10周年のバンドはこういう感じになるだろうなという画が見えてるんですけど、それがこぢんまりとまとまってしまうのは、面白くないと思っているので。そういう意味でも、もう一度未来をやり直すというか、自分が思っている想像以上のものを作り上げたいですね。それは僕らもそうだし、ライヴに来てくれる人も、たぶん想像できる範囲の将来の自分というものがあると思うんですよ。それを塗り替えるきっかけになればいいなと思ってつけたのが〝Re:image〟というタイトルなので。そのテーマを持って、自分たちの未来をどれだけ更新していけるか。そういうメッセージを発信するツアーにしたいし、また新しいことをやっていきたいと思います」 B



flumpool ⇒
フランプール。'07年1月結成。'08年10月に配信シングル「花になれ」でメジャー・デビュー。'15年3月16日に4thアルバム『EGG』を発売。'17年3月15日にシングル「ラストコール」をリリースした。9月より全国ホールツアーを開催。



flumpool

Third Time Lucky

Recent Daily Life

武道館ライヴを終え、少しは一段落したところでしょうか。4人の"最近の日常"について聞いてみました。

■隆太さんはマラソンの練習をされているんですよね?

隆太「はい、今日このあとも」

■走る時はどれくらい走るんですか?

隆太「今は10kmですね、週2回かな」

■10kmは余裕な感じなんですか?

隆太「10kmはまあ全然……ペースに寄るんですけど、今は1時間ぐらいかけてゆっくりのペースなので、10kmはまだまだラク……12kmになってくると全然変わってくるんですよ。10kmまでなら、普通の人でも全然行けますよ。10km以上からですね。秋ぐらいから距離を長くしていこうと思ってます」

■本番までにフルで走ることってあるんですか?

隆太「いや、30km走れたら、フル走れるっていうんで」

■へぇ～。あとは気持ち的な?

隆太「そうなんですよ。走り過ぎても膝痛くなったりとかするので、そんなに長い距離の練習はしないって言いますね。心配な人は走ったりもしますけど、42km。でも別にしなくていいって言われてるので」

■これから暑くなりますけど、走り続けると。

隆太「そうですね。夏場、暑いんで、さぼりたくなるんですけど、いかに持続できるか、今、走る癖をつけてるんですけど。マラソンでも自分を超えていく、ということで」

■誠司さんは走ったりしてます?

誠司「僕は隔週に1回、7kmぐらい。体力作りと、痩せようと思って」

隆太「いっしょに出る?」

誠司「出ない出ない(笑)。今10kmって聞いて、俺、8kmで死にそうになってるのに」

隆太「ペース速い。俺、ゆっくりだもん」

誠司「俺はマシーンで時速10kmぐらい。もやしっ子なので、外で走るの無理なんで、ジム行って。でも隆太がマラソン走るから、何かあるかな?って調べたら……」

隆太「え? 興味あるの?」

誠司「地元でもマラソンやってて、それ出ようかなって思って」

元気「それなら、隆太といっしょに出たらいいのに!(笑)」

誠司「そこはハーフだから」

隆太「いいなぁ、ハーフ……」

元気「ハーフなら楽勝だと思う。フルはマジしんどいから」

誠司「フルは無理」

隆太「フルは健康に悪い(笑)」

■健康に悪いって(笑)。でも誠司さんも興味出てきたんですね。

誠司「身体動かすのは基本好きなんで、走ったり、あと昨日、Skoop On SomebodyのKO-ICHIROさんと話してたら、"登山いいよー"って言われたんで。登山、ちょっと挑戦してみたいなって思ったり」

■もやしっ子なのに?

誠司「ええ、もやしっ子ですけど(笑)」

隆太「確かに登山もいいな」

■一生さんは? 去年、筋トレしまくってて、決められた日にしか食べたいもの食べれないとか言ってましたけど。

一生「ああ、そうそう。やってました、やってました。チートデイね」

■今は?

一生「毎日、チートデイです」

元気「チートイヤーだろ?(笑)」

一生「チートイヤーです(笑)」

元気「来年、頑張れよ」

一生「来年、また頑張る。要は今年はチートイヤー」

隆太「年単位でな」

■トレーニングはもう去年やりきったってことですか?

一生「そう、やりきりました。でも自分ひとりではできないんで、もうやめようと思って、終わりました、僕の筋トレは。だから今は全然なんもしてないです。作業部屋の掃除ぐらいしかしてないです」

隆太「きったないじゃん(笑)。そんな掃除してる?」

一生「最近、掃除し始めた」

■元気さんは?

元気「うーん、いや、変わらずです」

■走ったりもせず?

元気「はい、そうですね」

■飲み歩いたりもせず。

元気「はい、たまに飲むぐらい。今は、すごい体調が悪いです」

隆太「(笑)いつもだろ」

元気「週に1回熱出ます」

■えぇー! それは健康に気を遣ったほうがいいんじゃないですか。

元気「とりあえず人間ドックは始めようかなぁと思ってます。初の人間ドック行ってみようと」

■あれ? でも去年もそれ言ってた気がします。

元気「言ってたかもしれない(笑)。一昨日まで、39度が4日ぐらい下がらなくて、今までそんなことなかったから、このままだともう……だから体調は本格的に多分やばい」

■じゃあぜひ、人間ドッグ行って健康になってください。 B

GENERATIONS from EXILE TRIBE

通算4作目となる待望のニュー・アルバム『涙を流せないピエロは太陽も月もない空を見上げた』が7月5日にリリースされる。これまでのシングル「涙」「PIERROT」「太陽も月も」、そして、事務所の先輩であるDEEPのカバー曲「空」が、アルバムのタイトルへと繋がっていくように作られたというコンセプチュアルな今作について、ヴォーカルの数原龍友と片寄涼太、パフォーマーでリーダーでもある白濱亜嵐の3人に話を聞いた。「夏の思い出」を語ってもらったソロコラムも必見です♪

Text ⇒ えびさわなち
Photo ⇒ 後藤倫人
Hair&Make Up ⇒ 寺本 剛(JYUNESU)
Styling ⇒ 服部昌孝



涙を流せないピエロは 太陽も月もない空を見上げた

白濱亜嵐 Alan Shirahama (Performer)

中学2年生の夏にフィリピンに1ヵ月間帰ったことがあるんです。暑いんですよ。しかも雨季なので、スコールですごく雨が降るんですが、街中に雨水が溜まって、それがプールみたいになるんです。そうなると子供たちが「ワー!」っと泳ぐんですよ。水は綺麗ではないですが、みんなで思いっきり遊んだのは印象的な夏の思い出です。





数原龍友

Ryuto Kazuhara (Vocal)

小学校6年生の夏休みに、母親の出身地である奄美大島に家族で行ったんですね。離島ですし、お店もないようなところなので、海もプライベートビーチみたいな感じなんです。そこで出会った現地の子供たちと、僕と妹は仲良くなって一緒に遊んだんですが、その年だけだったので、夏になるとその友達を懐かしく思い出しますね。

片寄涼太 Ryota Katayose (Vocal)

夏休みの思い出というと中学時代の部活ですね。サッカーをずっとやっていたんですが、夏に地区の新人戦があるんです。トーナメント戦だったんですが、そこで優勝することが出来たんですね。強かった先輩たちが抜けてすぐの、自分たちの学年が主軸となっての試合でしたし、そこから「強いぞ」と注目されたのも嬉しかったです。





アルバムまでのシングルにもちゃんと理由があって、アルバムに向けて作っているんだ、とより実感しながらのリリースや制作だったので、みんな、各々が自分の中でタイトルの意味を深めていったと思いますね（白濱）

■GENERATIONS from EXILE TRIBE（以下：GENERATIONS）、4枚目となるアルバムが完成しましたが、もう4枚目になるんですね。

数原「早いですね」

片寄「コンスタントに出しているのですが、改めて考えると早かったなと思いますね」

数原「時間感覚がとても早く感じています」

■そんな今作。たとえば、1枚目のアルバムは名刺代わりだったり、こんなことをしていきますよ、と宣言する作品で、2枚目はその延長にあって、3枚目はさらに色んなことができるぞ、と可能性を示す、というのは通説で言われています。では4枚目とは？

白濱「2人の歌と、みんなで選んだトラックから、客観的に見えて来るものとしては、GENERATIONSの音楽の方向性みたいなものだと思うんです。3枚目の『SPEEDSTER』ですごく幅を広げて、多彩なビートに乗せてパフォーマンスをしたり、色々なタイプの楽曲を聴かせることが出来たんですね。そこで見せた僕らの音楽性のさらに先にある積み木をどんどん組み立て始めたような感覚が今作にはあります。見えてきたベクトルをより明確に示していくような、そんな感じで」

片寄「今までだったら、これは挑戦なんじゃないかと思っていたことに、いい意味で追いついてきて。等身大になってきたと思うんですね。これまでだとちょっと背伸びしているかな？というものが今はすごくフィットしている感覚なので、無理がないんです。それをどう感じるかは人それぞれだと思うんですが、僕はそれが4枚目に〝余裕〟として出たんじゃないかとも感じているんですね。ちょっとした安心感みたいなものがGENERATIONSから表現されているんじゃないかと思いますし、だからこそ次のツアーにもより期待が持てる。これまでのGENERATIONSを今のGENERATIONSがどんな風に超えてくるのかが楽しみになる。そういう、今の自分たちを高らかに宣言するような作品になったのが、4枚目だなと思います」

■基礎がしっかり出来た上での、余裕が見られる4枚目？

片寄「そうですね。それを感じて頂けると思います」

■数原さんはいかがですか？

数原「2人が言ってくれた通りなんですけど、今回はタイトルもインパクトのあるアルバムになりましたし、シングル『涙』をリリースしたところからアルバムを見据えたシングルのリリースを続けてきたので、全体のコンセプトを捉えつつ、アルバムに収録した新曲に関しても自分たちの想いが詰め込まれているので、今まで以上に自分たちの想いを宿すことの出来たアルバムになっていると思います」

■アルバムコンセプトを捉えつつのシングルリリース、というお話が出ましたが、それは完成した一つの大きな画が見えている上で、その画を形作るピースをシングルという形



歌詞の中に〝あなた〟と出てくるんですが、これは聴いて下さる方一人一人に届くように、という願いの中で書きました。この曲は、次へ進む僕らの想いとして書いたので、みなさんに受け取ってもらいたいです（数原）

で表現してきた感覚ですか？

数原「そうですね。大きなピースはシングルのタイトル曲でハメつつ、カップリングの曲で細かいピースを補完していく感覚でした。それがアルバムになったときに一つの大きな作品として見える。それと新録曲に関しては、そんなアルバムを引っ提げてのツアーをするときに〝こういう曲も必要だよね〟というピースを形にしていきました。だからこそアルバム全部を聴いたときに、〝この曲を録ってるときはこんなことがあったよね〟というのを未だに鮮明に思い出すこともありますし、自分たちの思い出も深いんですよね」

■「ライヴにはこういう曲も必要だよね」ということを考えながらの制作は、実際にライヴしているような感覚で作っていった感じですか？

片寄「そういうイメージはあったんじゃないですかね」

数原「実際に前回のツアーを通して〝この場面ではこういう曲が欲しいな〟みたいなのは感じていましたし、そういった経験を元にトラック選びもしていったので。経験をして、体感しながら、自分たちの未来に何が足りないかと考えて出来た、という意味ではライヴが大きく作用した制作になったと思います」

白濱「前回もそうだったんですが、トラックを選ぶための試聴会をやらせてもらったんです。まずはスタッフのみなさんがデモの中から選んでくれたものを、メンバーで聴きながら絞り込んでいく……という時間だったんですが、今回は〝この曲だね〟というメンバーの意見もほとんど一致していたんですよ」

片寄「そうだったね。確かに」

白濱「僕はその様子を見ていて、みんなが感じてきたものが一緒だったんだな、同じ方向を見ているんだな、ということをすごく感じていましたね」

■みんなが同じ方向を見ている。そうなっていく要因はどこにあったと思いますか？

白濱「やっぱり去年のツアーじゃないですかね。ライヴをしながら固まってきたものも大きかったですし。ステージの構成でもアゲるパート、魅せるパート、しっとりとしたバラードの時間、とちょっとしたセクションを設けていたんですが〝この曲はこのセクションだよね〟というのをツアーを通してみんなが体感して、理解を深めていったので。それがあってのトラック選びだったので、みんなの見ている方向が自ずと重なってきたんだ、と自分は分析しています」

■みなさんの意見がライヴの制作に於いても反映されてくるようになった、というのは近年ありましたしね。

片寄「アイデアを出して、（スタッフが）それを汲んでくださるので、僕らの中でもモチベーションが高くなっていきますし、聴いて下さる方の反応が直接ライヴでも分かると、次はどうしようか？というのも明確になってきますよね」

■ここまでシングルをリリースしてきていますが、アルバムのコンセプトや形が明確に見



これまでのGENERATIONSを今のGENERATIONSがどんな風に超えてくるのかが楽しみになる。そういう、今の自分たちを高らかに宣言するような作品になったのが、4枚目だなと思います(片寄)

えてきたのはどのあたりでしたか?

片寄「シングルではないんですが〝空〟が出来たときかなと思います。実はこの曲は結構、早い段階で出来ていたんですね。まず〝涙〟があって、〝PIERROT〟〝SOUND OF LOVE〟ができて、〝太陽も月も〟で結構、ロックサウンドな曲が来て。そのときには〝RUN THIS TOWN〟も作っていましたし、そのタイミングで(シングル「太陽も月も」の)カップリングに〝Togetherness〟が出たときに、すごく幅も広がってきた上でアルバムとしてのバランスもよくなってきたなと思ったんですね。だからメッセージ性の強い曲や、切なさのある曲があればピースはすべてハマるな、と感じていました」

■そのアルバムですが、『涙を流せないピエロは太陽も月もない空を見上げた』というタイトルが非常に印象的ですね。

白濱「これ、すごいですよね。僕らを知らない人の印象にも残るインパクトがあると思います」

数原「もう、最初にタイトルを聞いたときには……〝Pardon?(なんですって?)〟と(笑)。イメージが付かなくて、正直なところ。でもインパクトはあるな、と思っていたんです。それが楽曲が一曲ずつ完成していく中で自分の中でもタイトルが意味を深めていくことになっていきましたね」

片寄「愛着が湧きますし、シングル(「涙」「PIERROT」「太陽も月も」「空」)のMVも、アルバムの前振りとしてもそうですし、それぞれのMVとしても繋がっていって、すべてがこのアルバムのタイトルへと帰結していくんです。そういう意味でも、アルバムタイトルを大切にして、(アルバムに向けて)だんだん深まってきた感覚はありますね」

白濱「メンバーは最初びっくりしてましたけど、僕はこういうタイトル、好きなんですよ。でも今回は、アルバムまでのシングルにもちゃんと理由があって、アルバムに向けて作っているんだ、とより実感しながらのリリースや制作だったので、みんな、各々が自分の中でタイトルの意味を深めていったと思いますね」

■そんな『涙を流せないピエロは太陽も月もない空を見上げた』のリード曲でもある「空」は、事務所の先輩でもあるDEEPの名曲のカバー。こちらの曲を歌っていかがでしたか?

数原「レコーディングでは敢えて自分たちらしさを出したい、と意識をして歌わせて頂きました。カバーは新鮮ですし、色々なものに気づかされるんです。なので、僕らならではの〝空〟に出来たな、と感じていますね。一度、お客さんの前で歌ったときに、すごく反応が良かったんですね。この曲をライヴで歌って、みなさんの涙を誘えるような、そんな曲にしていきたいです」

片寄「まっすぐなラブソングなので、愛される曲になるといいな、と感じています。〝LOVE YOU MORE〟以来のラブソングですし、ちょっと大人になった僕らを感じてもらえると思います。もちろんDEEPさんの名曲な

ので、プレッシャーもありましたが、僕らしい〝空〟を意識しながらレコーディングしたので、GENERATIONSならではの〝空〟を聴いてもらいたいです」



■さらにアルバムには数原さん、片寄さん、お2人の作詞曲が入っています。

数原「僕が作詞をした〝NEXT〟ですが、去年のツアーを経て発見、経験したことを書こうと思いまして。昨年やったアリーナツアーは通過点だった、と思っていますし、次へ進むべきだと感じたので、その想いを歌詞にしたかったんです。歌詞の中に〝あなた〟と出てくるんですが、これは聴いて下さる方、一人一人に届くように、という願いの中で書きました。この曲は、次へ進む僕らの想いとして書いたので、みなさんに受け取ってもらいたいです」



白濱「今の自分に、今のGENERATIONSに合うメッセージだと感じますね。現状で止まっていられない、というのは僕らも感じていますしね」

片寄「龍友くんの歌詞を見て、今の自分たちをうまくまとめてくれたな、と感じています。僕の作詞曲は〝Pray〟です。今回のテーマは、大切なものを失ってしまった女の子に自分が声をかけて一緒に過ごすことで彼女自身が取り戻されていく、というものにしたくて。応援して下さる方の背中を押せるものにしたかったんです。励ますことができるといいな、と思いながらの歌詞になりました」

白濱「涼太と言われずに見せられたら作詞家さんの歌詞だと感じるくらいの完成度だな、と思いました。でもうちのヴォーカルが描く恋愛の歌詞ってことで、ちょっとドキドキもしますね(笑)」

数原「すごく好きな曲調ですし、ファンのみんなも好きだと思います。しかも涼太の歌詞は歌いやすかったですね。すっと心に入ってきたこの曲がアルバムに収録されるのは嬉しいです」



■そして、4枚目のアルバムをリリースして迎える今年の夏。どんな夏になりそうですか?

数原「どれだけ細かいことにこだわっても音楽やパフォーマンスだけで伝えきれないので、こういったインタビューや映像も観て、作品への想いを深めてもらいながら、僕らの二度目のアリーナツアーにも足を運んでもらいたいです」



白濱「アリーナツアーはアルバムを引っ提げてでもあるんですが、一昨年と去年のライヴも引っ提げている感覚があります。今までの経験を背負って、次のライヴに繋いでいけると思っているので楽しみですし、みなさんにも期待していてもらいたいです」

片寄「成長過程を追って頂きながら、応援して下さるみなさんと一緒に夢を叶えていけるグループになりたい、とずっと思っていたので。また成長した姿を、アルバム、そしてライヴでお見せできると思います。楽しみにしていてください」



4th Album
涙を流せないピエロは太陽も月もない空を見上げた
2017.07.05 Release
初回生産限定盤 CD+2DVD ¥5,500（tax out）
初回生産限定盤 CD+2Blu-ray ¥6,500（tax out）
CD+DVD ¥4,500（tax out）
CD+Blu-ray ¥5,500（tax out）
CD ¥2,800（tax out）



初回生産限定盤 CD+2DVD
初回生産限定盤 CD+2Blu-ray



CD+DVD
CD+Blu-ray



CD

［CD］
1. 太陽も月も
2. Togetherness
3. SOUND OF LOVE
4. Make You Mine
5. 空
6. Stupid ～真っ赤なブレスレット～
7. 涙
8. Pray
9. PIERROT
10. RUN THIS TOWN
11. be the ONE
12. NEXT
-Bonus Track-
·Y.M.C.A.

［DVD/Blu-ray Disc1］
涙(Music Video)
PIERROT(Music Video)
太陽も月も(Music Video)
空(Music Video)
NEXT (Music Video)
be the ONE (Music Video)

［DVD/Blu-ray Disc2］
·GENERATIONS LIVE TOUR 2016 "SPEEDSTER"
Documentary Final Stretch
·GENERATIONS LIVE TOUR 2016 "SPEEDSTER"
Special Selection
1. 涙
2. Vocal Acoustic Medley
3. PERFORMER'S SHOWCASE "The Mad Show"
4. RUN THIS TOWN
5. PIERROT

GENERATIONS from EXILE TRIBE ⇒
ジェネレーションズ フロム エグザイル トライブ。片寄涼太、数原龍友、関口メンディー、白濱亜嵐、小森隼、佐野玲於、中務裕太による7人組ダンス&ヴォーカルユニット。7月22日より、10都市27公演を廻るGENERATIONS LIVE TOUR 2017 "MAD CYCLONE"を開催する。





デビュー10周年を迎えるBREAKERZ。今までの感謝と夢を綴ったニュー・シングル「夢物語」を7月12日にリリース。10周年を記念して開催された2マンライヴ10番勝負、そして10年前の結成当時の思い出話、もうひとつの夢の話なども交え、今作「夢物語」について大いに語ってもらった。

Text ⇒ 森朋之

BREAKERZ
夢物語



■まずは春に開催された対バン・シリーズ〝BREAKERZ 10周年 10番勝負 -VS-〟のことから聞かせてください。豪華なゲストとともに繰り広げられたイベントでしたが、手応えはどうでしたか？

DAIGO「GLAYさんだったりVAMPSさんだったり、〝僕たちがやらせてもらえるなんて〟と思うような大先輩たちも出演してくれたし、信じられないくらい幸せな時間でしたね」

SHINPEI「そうですね」

DAIGO「同じレコード会社の倉木麻衣さん、友達のゴールデンボンバー、今すごく勢いがある超特急も出てくれて。ジャンルを超えた対バンだったと思いますけど、自分たちにとってもすごく貴重な体験になりましたね」

AKIHIDE「楽しかったですね、ホントに。お客さんに負けないくらい、僕たちも楽しんでいたので」

DAIGO「もう感謝しかないです。10番勝負に出てくれた方々には、どんなことを頼まれても応えたいですね。〝風邪ひいたから、薬持ってきて〟と言われれば、届けたいと思います(笑)」

SHINPEI「ハハハハハ」

DAIGO「(笑)。こういうイベントは相手があってこそだし、自分たちだけでできるわけではないですから。僕たちのファン、相手のアーティストのファンの方を含めて、みんなが楽しんでくれたのもすごく良かったなって。みんなが自然と〝楽しもう〟というマインドになってくれたし、空気もすごく良くて」

SHINPEI「自分たちの単独ライヴとも違うし、フェスとも違うと思うんですよ。ガッチリと2マンライヴをやらせてもらって、それぞれのお客さんがしっかりエネルギーを注いでくれて。その雰囲気がすごく刺激だったし、新しい曲作りにも結び付いて。毎回のライヴでBREAKERZの新曲を披露したんですよ」

DAIGO「がんばりました。対バン相手をリスペクトした曲だったり、いろんな切り口で曲を作って。自分たちにとってもけっこうな挑戦だったんですよね」

AKIHIDE「そうだね」

DAIGO「毎週のように締め切りがあるわけですからね。最初は〝途中からシレッとやめちゃうかもね〟なんて冗談で言っていたんですけど(笑)、そうやって追い込まないとやれないと思ったし、楽しかったですよ」

SHINPEI「ツアーを通してアルバム1枚分くらいの新曲ができて。そういう意味でも、BREAKERZにとって実りの多いイベントだったと思います」

■そして7月には18枚目のシングル「夢物語」がリリースされます。デビュー10周年にふさわしい楽曲ですよね。

DAIGO「ありがとうございます。まさに10周年のタイミングだし、メモリアルなシングルにしたいと思って、みんなで曲を持ち寄って。そのなかでAKIHIDEさんの曲に決まったんです」

AKIHIDE「ファンの人たち、支えてくれた人たちに対する感謝の気持ちだったり、さらに未来に続いていく感じを表現できる壮大な曲にしたいと思って。そのイメージでメロディとアレンジを作っていきました」

DAIGO「AKIHIDEさんの原曲を聴いたとき、純粋にいい曲だなって思ったんですよね。すごくいいメロディだし、ライヴでやっている画も想像できて。歌詞も〝10年〟を意識しました。この10年を振り返りつつ、この先の10年というものをイメージして。大きい振り幅のなかで書いた歌詞ですね」

■それが〝夢〟というワードにつながった?

DAIGO「そうですね。この10年のなかで叶った夢がたくさんあって。この先もいろいろな夢が出てくると思うし、人生において、夢はずっと終わらないんだろうなと。今、夢を叶えようとがんばってる人、夢を探している人の背中を押せるような曲になったらいいなという思いもありましたね。もちろんファンのみんなに対する気持ちも込めてます。僕たちの人生に関わってくれたすべての人たちに対する感謝が、この曲につながってるので。みなさんに支えられて、夢を叶えさせてもらって。そのことをこの歌を通して伝えたいなって」

■なるほど。10年前、BREAKERZが始まった頃のことって、覚えてますか?

DAIGO「うん、意外と覚えてますよ。デビューしてから今までの〝間〟は、ちょいちょい忘れてるんですけど（笑）」

SHINPEI「確かに（笑）」

DAIGO「最初は俺とSHINPEIでデモを作ってたんですよね。その後、AKIHIDEさんを誘って。みんなでAKIHIDEさんの家に集まって、アレンジを考えたり」

AKIHIDE「そうだった。後にも先にもそのときだけですね、僕の家に集まったのは」

DAIGO「ハハハハハ」

AKIHIDE「しかもその1週間後にレコーディングしたんですよ」

■すごい急展開ですね。

AKIHIDE「そうですね（笑）。曲に関してはDAIGOくんとSHINPEIがしっかり作っていたので、僕はそこにアイデアを加えるくらいだったんですけど」

DAIGO「スピード感はありましたね。デビューした年（2007年）は7月と12月に2枚アルバムを出してるし。案外ヒマじゃなかったなって（笑）」

AKIHIDE「忙しかったよね（笑）」

DAIGO「年季の入った、伝統あるスタジオでレコーディングしてたんですよね。気分が乗って、一気に3曲くらい歌入れした」

AKIHIDE「あったね〜（笑）」

DAIGO「いろんな思い出がありますね。ふたり（AKIHIDE、SHINPEI）がイン

この先もいろいろな夢が出てくると思うし、人生において、夢はずっと終わらないんだろうなと



DAIGO vo.



AKIHIDE G.

フルエンザになって、自分ひとりでラジオの仕事に行ったり。あれ以来、みんな予防注射するようになったんですよ（笑）。あと、SHINPEIが胃腸炎みたいになって、取材の途中で病院に行ったり……」

SHINPEI「ありましたね（笑）」

DAIGO「俺だけ休んだことないんですよ」

■すごい。そういえば以前、「時間がなくて家のソファーで寝てる」って言ってましたよね。

DAIGO「あ、そうだった（笑）。実家のソファーで寝てたんですけど、あれは体に良くないですね。そこも改善されたし（笑）、みんな健康になりましたね」

■その頃、「5年後、10年後はこうなりたい」という夢を語ったりしてました？

DAIGO「どうだったかな？　まず、一緒にバンドをやるかどうかの話し合いもしてないですから」

SHINPEI「そうですね（笑）」

DAIGO「とりあえず曲を一緒に作ってみて、〝ハモったら（バンドをやろう）〟みたいな。結局、バンドやろうって話はしてないですからね」

SHINPEI「確かに（笑）。DAIGOさんというシンガーと出会って、でっかい夢を掴もうと曲を作り始めて。そのまま10年一緒にやれたのは、やっぱり縁ですかね」

DAIGO「音楽を通じて、自然と一緒にやっていこうという気持ちになったんじゃないかな。〝付き合ってください〟と告白することもなく成立しているカップルみたいな（笑）。AKIHIDEさんにはちゃんと〝バンドやりましょう〟って言いましたけど」

AKIHIDE「ハハハハ」

■（笑）「いつか武道館やりたいね」みたいな話は？

DAIGO「それはしてたんじゃないかな。武道館は3人の目標だったから。〝まずは渋谷AXでやりたいね〟とか」

AKIHIDE「そうだった！　懐かしい」

DAIGO「デビューライヴがAXの隣りにあったBOXXっていうライヴハウスだったんですよ」

■AXもBOXXもなくなっちゃいましたね。

DAIGO「そうですよね。少しずつ大きい会場でやらせてもらえるようになって、武道館のステージにも立って。さっきも言いましたけど、ホントに夢を叶えさせてもらってきた10年だったなと思います。運も良かったと思うし、本当に素敵な10年を過ごさせてもらったなって」

SHINPEI「10年間ひとつのバンドをやること自体が未知の世界でしたからね。5年目でベストアルバムを出して、それを引っ提げたツアーをやらせてもらって。それもすごく大きな節目だったんですけど、さらに5年経って、メモリアルとなるようなシングルを出して、10周年のライヴも決まっていて。バンドを続けられることの喜びを感じてます」

DAIGO「SHINPEIはこの10年間、メンバーのなかでいちばん引っ越ししてるよね」

SHINPEI「そうですね（笑）。年1のペースで引っ越ししてた時期もあるし。環境を変えるといろいろと整理整頓できるし、いいことが多いんですよね」

■当然、ギタリストとしても変化してますよね、この10年で。

SHINPEI「そうだと思います。曲作り、

パフォーマンスを含め、バンドの歩みとともに年々変わってきてると思うので」

■「夢物語」でも歌われているように、BREAKERZの未来はさらに続いていくという実感もありますか？

DAIGO「ありますね。"夢物語"の歌詞には"夢"というワードを10個入れてるんですけど、もっともっと増やしていきたいし、20周年のときは"夢"を20個入れた曲を作りたいなって。それはちょっとしつこいかもしれないけど（笑）、それくらい夢を重ねていきたいと思ってるんですよね。そのためにはまず、新しい夢を見つけていかないと」

■"10番勝負"で共演したGLAY、VAMPSもそうですが、大先輩ががんばってるのも刺激になるのでは？

DAIGO「そう考えると、10年なんてヒヨっ子ですよね。バンドを続けるのは一筋縄ではいかないけど、ファンのみんなの声に元気をもらいながら進んでいければなって」

■カップリング曲の「devil or angel ？」はいつくらいに制作した曲なんですか？

DAIGO「これ、さっき話したSHINPEIとデモを作り始めた頃の曲なんですよ」

SHINPEI「もっとも初期の頃の曲のひとつですね」

DAIGO「デビューアルバム『BREAKERZ』に入れる予定だったんですけど、なぜかこぼれちゃって。どうしてそうなったかは覚えてないんですけど、10周年のタイミングだし、いちばん新しい曲といちばん古い曲を入れるのはいいんじゃないかっていう話になって。アレンジもミックスも何も触らず、当時の形のままなんですよ」



SHINPEI G.

AKIHIDE「もともと"何も変えないで出そう"って言ってたんですけど、調べてみると当時のデータを開くことができなくて」

■機材もどんどん変わってるだろうし。

AKIHIDE「そうなんですよね。でも、今聴いても"カッコいいことやってるな"と思って。自分たちが言うのも変ですけど、客観的に聴いてもすごく味がある曲なんですよね」

DAIGO「ちょうどいいバランスなんですよ。いろんな意味で。キャッチーだし、ロックだし、妖しさもあって。こういう曲をいま作ろうと思っても、なかなか難しいでしょうね。何も考えてなかったからこそできた曲だなって思うし、BREAKERZの源泉のひとつみたいな曲だなって」

■なるほど。初期のテイストの曲を意識して作った新曲かと思ってました……。

DAIGO「いや、それは無理ですね（笑）。歌詞も若いというか、20代っぽいなって思うし。展開もおもしろいんですよ、この曲」

SHINPEI「ギターと歌のメロディが絡んで、輪唱みたいになってるんですよ。DAIGOさんと一緒に音楽をやっていこうという気持ちが、アレンジに結びついたのかもしれないですね」

DAIGO「このタイミングでCDに収録できて、すごく良かったなって思いますね。"devil or angel ?"は"困ったときはあの曲があるぞ"って自分たちを安心させてくれる曲でもあったんですけど、ついに日の目を見ましたね」

■さらに「THE TRAIN'S GONE…～Acoustic Version～」も収録。これもBREAKERZにとって大事な曲ですよね。

DAIGO「BREAKERZとして、初めて



Another 夢物語

■寝てる時に見るほうの“夢”について聞きたいんですけど、よく見る夢、印象に残ってる夢といえば?

SHINPEI「圧倒的に多いのは、自分だけライヴに遅れそうになる夢ですね。あと数十分でライヴが始まっちゃうんだけど、車は実家にあって、自転車で行くしかない。でも、なぜか坂道ばかりで全然進まなくて、“やばい!”って焦るっていう。いつも同じシチュエーションなんです」

■それってライヴの前に見る夢なんですか?

SHINPEI「いや、それがそうでもなくて。昨日も同じ夢を見た気がするな……。あと“トイレに行きたいのに満員で、唯一空いていたトイレがすごく汚かったり”という夢もときどき見ます(笑)」

DAIGO「最初の武道館の直前だったんですけど、“全然お客さんが入ってない”という夢を見たことがあって。夢のなかで“どうして武道館なんてやっちゃったんだろう”って思ったんですけど、あれは焦りましたね。おかげで“しっかりやろう”って気が引き締まったから、結果的には良かったんですけどね」

■夢のなかで曲を作ったりとかは?

DAIGO「あ、ありますね。8年に1回くらいですけど(笑)」

AKIHIDE「僕も曲を作ってる夢はたまに見ます。起きて録音することもあるんですけど、あとで聴くと全然よくないんですよ。夢のなかでは“いいのができた”って喜んでるんですけど、実際に使えたことはほとんどないですね」

■制作のプレッシャーなども関係してるんでしょうか?

AKIHIDE「どうなんだろう?　でも、そういう夢を見ることで、自分のなかの不安を落としているような気もしますね。僕の勝手な解釈ですけど」

DAIGO「うん。そう言えば以前、夢占いで(見た夢を)調べてみたこともあります。どんな夢を調べていたかも忘れたけど。でも、夢占いって、誰が決めてるんですかね(笑)」 B

世に向けて出させてもらった曲ですからね。そのときは配信という形だったんですけど、10周年のシングルにアコースティック・バージョンで収録することになって。メモリアルですよね、これも」

■原曲では英語詞だったパートを和訳しているせいか、歌詞がすごくダイレクトに伝わってきます。「死ぬ勇気があれば　何でもできる」など、シリアスなメッセージが含まれていて。

DAIGO「日本語だからさらに伝わりやすいのかもしれないですね。今は闇を抱えるような出来事も目立っているし、こういう歌を発信することも意味があるのかなと」

■サウンドも奥深くて。アコースティックアレンジもすっかり板に付いてきましたね。

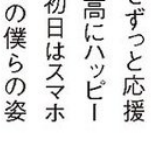
AKIHIDE「アコースティック・アルバムも出しましたからね。今回はアレンジを徳永暁人さんにお願いしたんですけど、ギターのチューニングがいつもと違っていて。すごくシンプルな曲なんですけど、一味違う、深みのあるサウンドになったと思います」

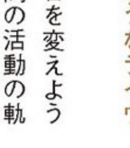
■最後に7月15日、16日に東京・豊洲PITで開催されるデビュー10周年記念ライブ「BREAKERZ X」について。タイトル通り、10年のキャリアを感じられるようなライヴになりそうですね。

DAIGO「うん。2日間で内容を変えようと思っているんですけど、10年間の活動の軌跡を感じて、未来につながるようなライヴにしたいなって。BREAKERZをずっと応援してくれてるみんなと一緒に、最高にハッピーなお祝いをしたいと思いますね。初日はスマホで写真を撮っていいので、10年目の僕らの姿をメモリーしてほしいなって」

SHINPEI「今回ばかりは1日だけでは収まり切らなくて、2日間やることになって。届けたい曲、届けたい思いがたくさんあるので、しっかり受け取ってもらいたいなと思います」

AKIHIDE「初日が“MEMORY”で、2日目が“PROMISE”。そこにはどんな意味があるのか、僕らもすごく楽しみですね」 B


初回盤A


初回盤B


通常盤


名探偵コナン盤

18th Single
夢物語
2017.07.12 Release
初回盤A CD+DVD ¥1,574(tax out)
初回盤B CD+Photo Book ¥1,481(tax out)
通常盤 CD ¥926(tax out)
名探偵コナン盤 CD ¥1,111(tax out)

01. 夢物語
02. devil or angel ?
02. 幾千の迷宮で 幾千の謎を解いて ~BREAKERZ 10周年 10番勝負 -VS- Live 2017.04.14 at Zepp Tokyo~(名探偵コナン盤)
03. THE TRAIN'S GONE… ~Acoustic Version~(通常盤)
03. 夢物語 ~TV Size Edit~(名探偵コナン盤)

BREAKERZ ⇒
ブレイカーズ。'07年7月、アルバム『BREAKERZ』でメジャー・デビュー。'15年7月にアルバム『Ø-ZERO-』を発表。'17年1月にシングル「幾千の迷宮で 幾千の謎を解いて」をリリース。7月15日、16日に10周年記念ライヴを行なう。

E-girls



Love ☆ Queen

これまでの19人から11人体制となり、「E.G.family」の1チームとして新たなスタートを切る“E-girls”。新生E-girlsとして初のリリースとなるシングル「Love ☆ Queen」(7月26日発売)について、さらに、今後の活動に対する意気込みも含めて、11人全員に語ってもらった。

Text ⇒ 斉藤 碧

■この度、E-girlsが11人による新体制となり、今まで所属していたメンバーや派生ユニットも含め、プロジェクトだったE-girlsもチームとなりE.G.familyの一員として活動することが決まりました。改めて、このプロジェクトのテーマと今の心境を聞かせてください。

藤井夏恋「今回始動したE.G.familyプロジェクトには、〝メンバー1人1人がもっと輝きを求める〟というテーマがありまして、E-girlsとしても、メンバー各々にフォーカスを当てた活動をしていきたいということで、この11人になりました。でも、大きく言えばE.G.familyにいる全員がE-girlsというか、11人体制になったからといって、バラバラになったという感じはまったくありません。大きなライヴをやる時にはまたみんなで一緒に、まだ見たことのない景色を見に行けたらいいなと、前向きに思っています。あくまでも〝それぞれの目指す場所が、また1つレベルアップした〟という感覚でいますね」

■以前はAyaさんがリーダーでしたが、新リーダーは決まっているんですか?

楓「いえ。誰がリーダーというよりは、メンバー1人1人が、その場に応じて発信したり、みんなを引っ張っていったりしていて、みんながリーダーだなという感じですね」

■では、まずはパフォーマーのみなさんから。新生E-girlsの中で自分がどんな役割だと感じていますか?

須田アンナ「パフォーマーが減っても、パフォーマンスのパワーを落としたくないというのが私達の想いとしてあるので、個人的には、こ





の長身を活かしたダイナミックな踊りを新生E-girlsの中でどうやって活かせるか?というのが課題ですね。あと、私は〝Happiness〟〝スダンナユズユリー〟も兼任しているのですが、E-girlsではそれとは違ったパフォーマンス……女性が見て〝マネしたい〟と思うような動きを追求していきたいなと思っています」

YURINO「逆に、私はアンナと違って背が一番ちっちゃいんですけど(笑)。ずっとやっていたHIPHOPのダンスだったり、グルーヴ感のある動きが武器なので、みんなで合わせた時の女性らしいパフォーマンスに、スパイスを効かせられる人間だと思います!」

佐藤晴美「パフォーマーじゃなくて、人間なんだ?(一同笑)」

■YURINOさんは、場を和ませる役割でもあるみたいですね(笑)。

坂東 希「私は〝Flower〟と兼任しているんですけど、E-girlsではみんな、〝健康的なセクシーさ〟をイメージしてやっているんです。なので、私も今まで通り……今まで以上に、FlowerとE-girlsで違った自分を表現していけたらと思っています」

SAYAKA「私もYURINOと一緒で背がちっちゃいんですけど、ダンスでは対照的に女性らしいジャンルが好きだったりして。Happinessではゴリゴリのヒップホップを踊ることが多いので、それとは違う顔をE-girlsでは見せていきたいなと思っています。しかも、E-girlsの場合、わりとキャッチーでマネしやすい振付になっていて、グルーヴを揃えることでよりキャッチーに見えたりもするんですよ。だから、そういう部分では私なりに引っ張っていけたらいいなと思っています」

楓「個人的には、特別〝ここが変わった〟というところはないんですけど、11人になったからパフォーマンスの勢いがなくなったというふうには感じてほしくないですし、新生E-girlsになってさらに勢いが増したと思ってもらえるように、もっと自分のスキルを磨いていきたいとは思っています。E-girlsは、モデルをやっていたり、女優をやっていたり、各ユニットをやっていたり、本当にいろんな個性の集まりで。私自身もパフォーマー以外の活動をしているので、いろいろな活動を通して活躍して、その成果をグループに返していきたいですね」

佐藤晴美「心構えは今までと変わらないのですが、パフォーマーが減った分、今まで以上にパフォーマンスの最中に1人1人に注目

〝それぞれの目指す場所が、また1つレベルアップしたという感覚でいますね〟





今、私達が等身大で表現できることはこういうことなんだろうなって思いながら、歌わせていただきました

していただけるようになったと思うので、私も自分なりの色を出していけたらと思っています。長身担当として（笑）、スダンナ（須田）と同じようにパワフルさを意識しつつ、自分では女性らしいダンスが一番輝けるところだと思うので、そういったシーンの時にはちゃんとみんなを引っ張っていけるように頑張っていきたいなと思います」

■乃々華さんと杏奈さんはどうですか？

山口乃々華「私は、これからもどんどんパフォーマンスを磨いて先輩達に早く追いつきたいという想いもありますし、自分で秘かに練習している武器もあるので、それを完成させて披露できるようになりたいなと思っていますね。今のところはまだ、〝これが自分の役割です！〟と言えるものはないかもしれないですけど、それでも自分が持っている元気さとか、幼い見た目ならではの爽やかさを強みにしていけたらと思います」

石井杏奈「私も、パフォーマンス面をもっと向上させたいという気持ちはすごくあって。それと同時に、個人ではお芝居もやらせてもらっているので、映像を通して1人でも多くの人にE-girlsを知ってもらえるように、この先も多くの作品に出演していけたらいいなと思っています」

■また、ヴォーカルも7人が3人になり、担う役割が増えたのかなと思いますが、そちらはいかがでしょうか？

鷲尾伶菜「でも、3人になったからこそできるようになったことも増えて……たとえば、この2人がハモってるから残りの1人は違うところを歌うとか、振り分けがしやすくなりましたね。今作（ニュー・シングル「Love ☆ Queen」）でもハモりやフェイクをどんどん入れていきましたし、これからは3人ならではの色をもっと出していきたいなと思っています。個人的には、FlowerとE-girlsのヴォーカルをさせていただいているので、イメージ分けというか、グループに合わせて表現を変えていかないといけないなって思っていますね」

■パフォーマーもそうですけど、グループごとに歌い分けるのは大変そうですね。

藤井夏恋「そうですね。特に私は、〝E-girls〟、〝Happiness〟、〝ShuuKaRen〟という3つのグループのヴォーカルなので、見た目もそうですし、歌やラップも全然違う〝藤井夏恋〟を演じられたらいいなって思っています」

■最年少の柚那さんは、環境の変化についてどう感じていますか？

武部柚那「私は一番後輩なんですけど、伶





菜さんも夏恋さんも、レコーディングなどですごく意見を求めてくださるので、自分からも発信しやすいです。E-girlsの時も、歌や自分自身ともっと向き合えるようになったなと感じました。それに、今まではE-girlsだけしかやっていなかったのですが、今年からはスダンナユズユリーとしても活動し始めて。そちらではHIPHOP系の明るい楽曲が多いので、E-girlsのキラキラした楽曲にそういう要素を加えられたらと思いますし、高音も得意なので、活かしていけたらいいなと思っています」

■そして、そんな3種3様のヴォーカリストで届ける第1弾シングルが「Love☆Queen」となります。夢を叶える後押しをしてくれるような前向きなダンスチューンですが、なぜこの曲を選んだんですか？

鷲尾伶菜「新生E-girlsにとっての1発目なので、やっぱり覚えやすくてインパクトの強い楽曲がいいなっていうふうにみんなで話していて。結構いろんなデモを聴かせていただいた中から、みんなで選ばせていただきました。歌詞も、自分でも頑張れば輝くことができるとか、今の自分達がすごく共感できるワードがたくさん入っているポジティブな歌詞です。今、私達が等身大で表現できることはこういうことなんだろうなって思いながら、歌わせていただきました」

■その等身大のメッセージは、タイトル曲だけでなく、カップリング曲からも感じます。

武部柚那「そうですね。"Smile For Me"、"Tomorrow will be a good day"といった収録曲からも、今の私達の気持ちを汲み取っていただけたらと思います。ただ、歌詞の世界観は切なくて、私自身も想いを込めながら歌っていたんですけど、レコーディング自体はすごく楽しくて！　トラックもすごくキラキラしているので、聴いたら元気になってもらえるようなシングルになったなと思います」

藤井夏恋「私はHappinessでラップに挑戦させていただくようになったのをキッカケに、"E-girlsでも入れてみたらいいんじゃない？"といろんな方に言っていただいて、今回、"Tomorrow will be a good day"でも歌わせていただいたんですけど。そこでも、HappinessやShuuKaRenのラップとは違うキャラになるようなイメージでレコーディングさせていただきました。これからも、キラキラしている曲の中にもパンチのある部分を入れて、常に新しい楽曲作りをしていきたいなと思い

トラックもすごくキラキラしているので、聴いたら元気になってもらえるようなシングルになったなと思います





ます」

■また、DVDのほうには「Love ☆ Queen」のミュージックビデオも収録されるそうですね。こちらはどんな内容になっていますか？

須田アンナ「今回はE-girlsとしては初めて海外、ラスベガスで撮影させていただいたんですけど、本当に夢のような撮影でした！」

YURINO「うんうん。ラスベガスのアーケードのLEDにE-girlsっていうロゴを出していただいたり、大々的に撮影させていただいたので、こんな豪華な撮影はなかなかできないんだろうなって思いながら、その光景を目に焼き付けながらパフォーマンスしていました」

坂東 希「規模がホントにヤバイんですよ（笑）。でも、それに負けないくらいのパフォーマンスをしていますし、新生E-girlsの勢いを感じられるMVに仕上がっているのではないかなと思います」

石井杏奈「ドローンとクレーンと通常のカメラと3パターンで撮影しているので、カメラワークにも注目して観ていただきたいですね」

■ちなみに、注目してほしい振付は何かありますか？

SAYAKA「振付に関しては、今回はMeganさんっていう海外の有名なコレオグラファーの方に担当していただいていて。右手がLで左手がピースっていう〝Love ☆ Queen〟のポーズが出てくるんですけど、何度も出てくる〝♪Love Queen〟というフレーズに合わせてそのポーズをするので、そこはポイントになっていると思います。構成も、メンバーそれぞれが目立つ場面を作っているので、ライヴで披露するのを楽しみにしていてほしいですね」

山口乃々華「あと、楽曲の途中に違うトラックが入ってくるシーンでは、ヒールを履いてクールにパフォーマンスしていて。そこはすっごい練習したので、ぜひ何度も観ていただきたいです！（同笑）」

佐藤晴美「みんなで練習したもんね～（笑）」

■こうやってお話を伺っていると、その練習さえも楽しかったんだろうなぁと思います。

武部柚那「そうですね。普段から本当に仲の良い11人だからこそ、一体感のあるパフォーマンスになっていると思うので、楽曲もMVも楽しみにしていてください」 B

New Single
Love ☆ Queen
2017.07. 26 Release
CD+DVD+フォトブック ¥3,000(tax out)
CD+DVD ¥1,800(tax out)
CD ¥1,200(tax out)

[CD]
1. Love ☆ Queen
2. Smile For Me
3. Tomorrow will be a good day
他

[DVD]
Love ☆ Queen (Music Video)





ヤマグチノノカ
山口乃々華
performer



E-girls
Love ☆ Queen

E-girls ⇒
イー·ガールズ。'11年12月、Dream、Happiness、Flowerのメンバーを中心に、1st Single「Celebration!」でデビュー。今作より、ヴォーカルに鷲尾伶菜、藤井夏恋、武部柚那、 パフォーマーに楓、佐藤晴美、SAYAKA、YURINO、須田アンナ、坂東希、石井杏奈、山口乃々華の11人体制となった。



#PLAY

Text ⇒ 大西智之
Photo ⇒ 後藤倫人
Hair & Make-Up ⇒ 沙織、齋藤将司
Styling ⇒ 石川TOCCI仁司



DOBERMAN INFINITY

幕張メッセで開催した3周年特別記念公演『iii -three-』が
大成功を収めたDOBERMAN INFINITYから、早くも新作が到着!
先行シングル「DO PARTY」を筆頭に、
個性あふれる全7曲収録の2ndミニアルバム『#PLAY』。
この1枚が今年の夏をいっそうアツく盛り上げます!

■少し時間が経ちましたが言わせてください。幕張メッセで開催された3周年ライヴ、最高でした!

GS「お客さんの熱量を感じられた瞬間がたくさんあって、自分たちがやってきてよかったなって改めて思うことができたステージでしたね」

SWAY「今回はその前にホールツアーで14公演廻らせてもらったんですけど、回数を重ねるごとに、セットリストが最強になっていって。このセクションはなにがあっても揺るがないね、みたいな。この曲とこの曲の組み合わさった時の爆発力、みたいなものがどんどん確立していった。これがアリーナだったら、どういう盛り上がりになるんだろう!?って楽しみにしてたんですけど、本当にすごい景色でした!」

GS「僕達的には今できるベストを尽くしたライヴでした。応援してくださる皆さんもすごく進化されてるなって。ドーベルの音源に対する楽しみ方を理解してくださっているのを年々感じるというか。僕達もみなさんを盛り上げるためにいろんな仕掛けを作ってるなか、ちゃんとそこにフィットしてくださるというか。最初よりはるかにドーベルのライヴの楽しみ方を理解していただいている感じがするんですよね。〝手を上げてください〟ということにも最初は抵抗ある方もいらっしゃったと思うんですけど、今となってはみなさんが楽しんで手を上げてリズムにノってくださったり。驚かされるくらいみなさんが僕達をノセてくれました」

■全国ツアーを廻って、3周年ライヴもあって、「DO PARTY」もリリースして、そしてもうミニアルバムが発売……サイクルがとても早いな、と!

KUBO-C「めちゃめちゃ忙しかったですね。リハしながら制作しながらツアー廻りながら、で、ツアー終わったと思ったらミニアルバムを完成させていく作業に突入して。その分みんな一緒にずっといるので良いモチベーションで制作ができました。気持ちの部分では良い濃厚な期間だったと思います。ただ、体力面では多少疲れる、と(笑)」

KUBO-C



■そんな中、発売されたミニアルバム『#PLAY』。この作品に込めたものは?

GS「夏になにかひとつBOMBを落としたい、というのがありますね。この夏はこの曲を引っ提げて日本中を盛り上げられればいいなと思っていて。もともとは〝パーティ〟をコンセプトにしていて。いろんなパーティを盛り上げることができるアルバムにしようと作り始めたアルバムです。それを作っていくなかで〝PLAY〟というテーマに辿り付いたというか。パーティの延長にあるPLAYっていう。それを表現した7曲になったんじゃないかなと思います」

■前作アルバム『TERMINAL』から掲げている〝オールラウンドヒップホップ〟という旗がより色濃くなり、ロックとヒップホップのボーダー、ラップとメロディのボーダーを軽やかに乗り越えてると感じました。

P-CHO「〝オールラウンドヒップホップ〟というのを掲げてツアーを廻ったことで、自分達の中では明らかにジャンル力が強くなってきているのを感じていて。今回ミニアルバムを作るなかでも、自分達の楽曲は〝オールラウンドヒップホップ〟というジャンルを通して生まれ

ている、というのはメンバーみんな認識していたと思います。この7曲達が並んだというところにも違和感がない、自然な流れで表現できたと思います」

KAZUKI「自分の役割はヴォーカルなんですけど、歌を歌う＝ポップシンガーということではなくて、どんな曲でもその曲に合った歌を歌うのが自分の役割だと思っているので。妥協なく俺は歌を歌うというその一心ですね。あたり前なんですけど、それしかない、という気持ちで取り組んだ作品です」

■では、せっかくですので新録曲のお話をお聞きしたいのですが、まずは2曲目「Make Some Noise」。闘いを感じるような曲なんですけれども、どういうコンセプトだったんでしょうか？

SWAY「日ごと生きている中で感じる不安や不満というマイナスのパワーを、プラスに変えられる音楽というか。〝不安持っているやつ、叫べ！〟みたいな。〝お前そう思ってんだな、俺も一緒〟みたいな。ストレスなしに生きていくのは絶対無理だと思うし、生きていれば環境や人間関係でいろいろあるだろうし。そういうイヤなものを燃料にしてもらってライヴで盛り上がれたらと思って作った曲でしたね」

■サウンド的にはギターがガッツリ鳴っていてロックテイストも入っています。

P-CHO「デモを聴かせていただいた時にドーベルのラインナップの中にこの曲があったらおもしろいなと思ったのをよく覚えてますね。ミニアルバムの中で違った色を表現できたのでよかったです」

KUBO-C「はじめにデモを聴いたときに、耳



GS

触りがよいというか、ノリがいいというか、ドーベルっぽさもある曲だなと思ったので、そこをより色濃くしたいと思って作りました。不満をブッ壊したい、爆発させたい人に聴いてもらいたいですね。で、曲の最後の〝ヒーローじゃないけど ただ一つ守るべきものは守る〟っていうのが、この曲のすべてかなって思ってて。ここにすべてが集約されているのかな、と思います」

GS「世の中って幸せなことばっかりじゃないので、イヤなことも受け入れて前へ進んでいかないとヤラれちゃうなって思うんで。日々闘いだなっていう強い気持ちをもって一緒に挑みましょうっていう」

■日々闘いだと、感じている？

GS「ありますね。それこそ2番の〝振り返ることは簡単だノンカロリー　だが挑む事は高カロリー〟って当たり前のことなんですけど、その当たり前を知って闘うっていうことが一番大事だなって。この曲に勇気づけられることがあるんじゃないかなって思います」

■ドーベルの音楽にも通じるものがあると感じました。1万人クラスのライヴができて、でもずっと同じことを続けていくのではなく、挑む、進化していく、チャレンジしていくという姿勢にも繋がるのかなと。

P-CHO「ちょうどスタジオでそういう話題が出ていて、その会話が刺さっていて、ぜひこれは入れようって話してたのは覚えてますね。現状維持するのは簡単だけど、どう攻めて次のステップにいくか、というのが難しい、っていう話をしていて」

■リレーしていくラップも力強いですよね。頭の〝オーバードライブ〟のあたりはKAZU

KAZUKI「ロックな感じでいきました! ここの部分は、過去イチで早く録れたかもしれないです。歌、という感覚じゃなくて勢い重視で取り組みました。悪ガキっぽい感じに聴かせたくて声質も若くして。俺の中では悪ガキポジションな歌声ですね」

■3曲目「Living happily」はブラスの軽快さがさわやかな1曲。

KUBO-C「日常のちっちゃいことの幸せ、喜びを感じながら生きていこうぜ、というポジティブソングです!」

SWAY「〝なんか分かんないけど〟」

KUBO-C&SWAY「〝Celebration〟」

■なんか分かんないけど息ぴったり!(笑)

KAZUKI「けどホントにそういう曲ですね(笑)。ある男性の1日のエピソードを詰め込んでいるので、聴いた人にも共感してもらえるんじゃないかな」

■バッドなこともグッドに変えていく感じ。

KUBO-C「悪いことや嫌なことも起こっちゃったけど、仲間と出会って……結局、ま、いいか!っていう」

GS「〝バッドもぐっとよりグッドGoing up〟ですね」

P-CHO「パンチラインの応酬です(笑)」

■パンチラインの応酬って、まさに。言葉がユーモアを含みながらストーリーもあって、でも強いっていう。みんなで強い言葉を出し合って作っていく感じだったんですか?

KUBO-C「めっちゃ出し合ったなぁ」

P-CHO「ここからこういう展開になったらおもしろいんじゃない?とか。じゃあ、ドタキャンされた女性に偶然会っちゃおうよとか」



KUBO-C「徐々にストーリー組み立てていってたもんね」

GS「全員でひとつの画を想像して、そこに基づいてイメージして歌詞を出していったり、こういう展開になったら、こういう歌詞にしたらどうか?って。今回の作品は全員で作りました。これまでは一人ひとり自分のバースを書くパターンが多かったんですけど、今回はみんなで同じ時間に集まって同じテーブルを囲んで作ったよね、みんなで画を想像して細部にわたってこだわりを詰め込めた作品になっています。さっき出た〝なんか分かんないけどCelebration〟も、みんなで話しているときにSWAYが〝なんか分かんないけどCelebrationじゃないっすか?〟みたいなことを言ってて(笑)。そういうところからドーベルの楽曲って成長していくというか、らしいものになっていく、そういうのが顕著に出た1曲だと思いますね」

■〝なんか分かんないけどCelebration〟ってホントになにか分かんないですもんね(笑)。

全員「(笑)」

■でもむっちゃ心に入ってくるフレーズで。

KUBO-C「そう! そういうことなんですよね」

P-CHO「小さな幸せとかいっぱいあって、もちろんイヤなこともあるけど、極論言うと〝ここにいることがすべてなんだよ、それが幸せなんだよ〟ってこと」

■まさにそれこそが「Living happily」という。では、次の曲「@we like a harley」。これは夏の海辺とかで海岸

線を飛ばしながら聴きたい曲です！

全員「まさしく！」

GS「ドーベル初の極上ドライブソングができました」

P-CHO「この曲聴いたら海が目に浮かばない？っていうところから作りはじめて」

SWAY「免許持ってないKAZUKIが言い出したよね（笑）」

KAZUKI「これはもうひねらずにザ・ドライブソングでいきましょうよ！って言いましたね（笑）」

SWAY「で、自分は免許ないから助手席なんでしょ？」

KAZUKI「サイドカーで！」

■これまでもいくつか夏曲を発表してきましたけど、また違う印象ですね。

P-CHO「聴かせよう盛り上がろうっていう感じでは作ってないんですよね。軽く流して」

KUBO-C「力抜いてリラックスしてどうぞ〜、みたいなね」

GS「ビーチは見えてるだけやから。〝海岸への階段〟は降りてないからね」

P-CHO「あくまでもアスファルトにいる（笑）」

KAZUKI「ハーレーありきで。この夏曲は砂浜でビーチバレーとかじゃないんですよ！」

SWAY「ハーレー乗って砂浜降りたら大変なことになるからね（笑）」

GS「僕らはあくまでも夏を海で楽しんでいる人たちを眺めながら、クルージングしていく感じ」

■奈良県民としては、海が見えてくるだけでテンション上がりますから（笑）。

KUBO-C「海なし県だから（笑）」



SWAY

GS「バイクで海を目指すのは、奈良県人のあるあるですよ」

P-CHO「海じゃなく、琵琶湖目指してたやん！」

GS「僕らはそうでした（笑）」

■海辺が見えたときのワクワク感ってありますよね。次は雰囲気のあるトラックが素敵な「Vanilla」。

P-CHO「これは楽曲の時間軸とライヴの時間軸をかけて、曲を作って。一聴するとラブソングのようにも聴こえるんですけど、そろそろライヴをイメージした曲を作りたいと思って。ライヴの終盤に歌えるような曲がほしいなっていう。ライヴはスタートするとお別れの時間ってくるじゃないですか。それをこの楽曲のなかで表現しているんです。この男は、自分達の中では『007』のジェームスボンドみたいな男で」

KUBO-C「ティッレッティティ……（テーマソングを口ずさむ）」

P-CHO「（笑）。要は、自分らはファンの方々とライヴで出会います、というのと、この男が女の子と出会います、というのがマッチしてて。最初はこの男は自分から女の子にアプローチしていくんです。ライヴでの僕らと同じように。でもライヴが終わる頃には見てくださったお客さんが自分たちに魅了されて惹かれていってるんですけど、自分達はいかなきゃいけない、ライヴは始まったら終わるから。でも、ぜったいキミのバニラの匂いを頼りにまた必ず会いに来るからね、また絶対ライヴに戻ってくるよ、というメッセージ性とかけた楽曲になってて」

■だから1番は〝キミを取り合う〟、2番は

〝オレを取り合う〟って変わっていってる。

P-CHO「逆転しちゃってるっていうね。〝また会う魔法 居場所を辿るから〟っていうラインで、聴いてくれた人が何かに気付いてくれると嬉しいなって思います」

■KAZUKIさんはこの曲でイメージしたことはありますか?

KAZUKI「大人っぽいイメージがあったので、最初はちょっと大人めに歌ったんですけど、それだとちょっと弱いなと思って。サビはアガる部分でもあるので、そこは全部取り直しました。ブリッジはゆったり歌って切なさを出すことに120%の力を注ぎましたね」

■この部分は、ライヴがそろそろ終わりを迎えるところですね。

SWAY「〝終わる頃 そこにはいない オレは…〟っていいラインですよね」

■そして「#PLAY」。こういう曲があるとスキルに惹かれるというか。16小節ごとに切り替わっていく感じが格好良い。

P-CHO「今回の制作のなかで終盤にできた曲です。ミニアルバムのテーマを〝PLAY〟に決めたので、その意味を自分たちのリリックと楽曲にこめなきゃ、ってミニアルバムの制作終盤で話してて生まれた曲ですね」

■バースのトラックはシンプルなんですけれども、曲全体ではドラマティックに仕上がっていて。

P-CHO「曲とのいい出会いでもあったし、今だからこそ書けたそれぞれの歌詞なのかなっていうのも感じてて。プレイってひと言で〝遊び〟とか、ひとつの意味に受け取りがちだと思うんですけど、その裏には頑張って仕事したり、勉強したり、そういう時間があるから一



KAZUKI

瞬のプレイの時間が輝く。サビの歌詞に〝何の為に…〟と出てくるんですけど、聴いてくれる人にも改めて、自分が何の為に頑張ってるのかな、何の為に無邪気に遊んでるのかな?って問いかけてもらって。そこに自分の答えがあると思うんで」

■基本的にラップのバックトラックは同じ印象ですが、それでもこれだけ個性が出るのはすごいな、と。個性とスキルが際立ってます。

KAZUKI「他の曲はみんなで集まって考えたんですけど、この曲はバラバラに書いての持ち寄りなので、やっぱり性格が出てるなぁと感じます」

■KUBO-Cさんからスタートします。

KUBO-C「自分が思っている〝遊び〟に対する考えを入れましたね。ほんと、俺っぽい(笑)。〝朝 日の出過ぎが門限〟(笑)」

SWAY「これはマジ、KUBO-Cさんのリアルライフっすね!」

KUBO-C「ばかやろう(笑)。遊んで仕事して、仕事して遊ぶためには、睡眠時間くらいしか削れへんと思うので、そこは別に問題ないと思うし。タフやないとそういうこともできひんなと思うし。そういうことは普段から思っていて。うまくこのタイミングで歌詞にできたと思うので、歌詞全体が自分のキャラになっているんじゃないかと思います」

■そして続くはP-CHOさん。

P-CHO「自分の生活のリズムがおもしろく歌詞にできたのかな。本当にこのときスタジオ行ってレコーディングして気が付いたら暗くなってて(笑)」

KUBO-C「そのまんま(笑)」

P-CHO「で、帰ったら寝るだけで。気付い

DOBERMAN INFINITY #PLAY

たら目覚まし鳴ってて、メシも食わずに出て……みたいな感じの繰り返しで。日常はそういうことを繰り返してるんですけど、ありがたいことに、ご飯とか飲みに行こうとかお誘いをいただいて。だからこそご飯に行く時間が楽しい。しんどくてもそうやって遊びに行ってて、いろんな人との繋がりが今に繋がってきたので。〝俺が俺である為にPLAY〟っていうラインは今ある自分を表現できたのかなって思っています」

■〝スタジオREC〟からのフロウの畳みかけるキレ感が！

P-CHO「これやりたくて。最近こういうフロウをよく聴いていたんですよね。なので、そろそろ自分の中で消化しとこうかな、と」

■めっちゃカッコイイです！　そして次はGSさんへバトンがわたります。

GS「僕はこの曲に勇気をもらえるひとりになろう、と思っていて。というのも、自分自身もこの曲を書くコンセプトを話し合ったときに、自分も〝何の為に？〟と言われたら、ちょっとわかんないなっていう答えに至って。自分なりのプレイって何なんやろうな？というところにまず行きついちゃって。だから俺は、〝なんなんやろう？〟っていうハテナから入ったんですよね。自分は何を思って、何の為に、って。でも唯一ひとつ自分の中でわかっていることって、時間は止まらないし、あたりまえのことが目の前にあるっていう日常は変わらないなって。その時に〝日々をパーフェクトに生き抜くのみ、それが僕の中のプレイだな〟っていうのが見えたんです。それを歌詞にできたらいいなって思って。1日1日を楽しく過ごす以外ないなっていう、それを歌詞にしました」

SWAY「次は僕のバースですね。俺はほんともうこのまんまですねー」

■〝ったくやってもやってもやることだらけでマジやんなっちゃうぜ〟という出だしが（笑）。

SWAY「やってもやっても減らなかったんで、この時（笑）。ライヴとかもあったんで体調だけしっかりしないとなって。頑張れって言われるのは簡単だけど、マジで自分頑張らないとなっていうのが本当にあって。自分のやりたいことを仕事にできているって、すごくありがたいことでもあるんですけど、小さい時に、海外に限らず日本のラッパーとかに夢を見てて。その人がどんどん太いチェーンをしていったり、いろんな時計をしていく中で、俺もそれを叶えて、地元の後輩とかに、ラッパーになったらマジでそんなんになるんだっていうのを、俺自身も見たいし後輩にも見せたいなぁっていうのがあったんですね。〝ロレックス〟を挙げたのは、そういうひとつの象徴なのかなと思ったというのもあって。日々、すごく仕事で忙しいんだけど、忙しすぎて楽しくなったりすることってあって。やるべきことに追われるっていうよりも、追われていながらもその波にサーフボードで乗ってます、みたいなところにいきたかった。楽勝ですよ、という余裕を出したかったですね」

■リリックに〝♪ナナナナ〟と挟んでくるあたりにその余裕を感じました。ブリッジ担当、KAZUKIさんはいかがですか？

KAZUKI「〝本気でやればいい〟という部分を作ったんですけど、仕事も遊びもなんの目的もないままやるよりも、しっかりと本気でやれば、遊ぶことによって明日のやる気につながったりもするんで。あと、自分的には、ここの〝本気でやればいい〟っていう言葉とメロディのハマりがめっちゃ好きなんです！　こういうサウンドなので、ソウルフルに歌うというよりも、クールな中にも熱さを感じさせるようなイメージで歌いました。そのコントラストがグッとここだけ際立てばいいな、と思って」

■ラップグループのヴォーカリストならではのバランスが絶妙です。そして7月22日、新木場スタジオコーストでの主催フェス『D.Island 2017』も発表され、そろそろ目標していたアリーナツアーというのが見えそうな感じですね！

KUBO-C「もうちょい！　もうちょいですよ」

SWAY「簡単にはいかないかもしれないけど、そこがいいですよね！」

(B)


初回生産限定盤


通常盤

New Mini Album
#PLAY
2017.06.14 Release
初回限定盤 CD+DVD ¥2,315（tax out）
通常盤 CD ¥1,750（tax out）
OFFICIAL FAN CLUB&LDH mobile盤
通常盤＋グッズ ¥2,777（tax out）

01.DO PARTY
02.Make Some Noise
03.Living happily
04.@we_like_a_harley
05.Vanilla
06.#PLAY
07.DO PARTY（TJO REMIX）

DOBERMAN INFINITY ⇒
ドーベルマン　インフィニティ。ラップグループ DOBERMAN INCとして活動してきたKUBO-C（クボシー）、GS（ジーエス）、P-CHO（ピーチョウ）の3人に、野替愁平名義で劇団EXILEに所属しラッパーとしても活動していたSWAY（スウェイ）、シンガーのKAZUKI（カズキ）を加え、'14年6月よりDOBERMAN INFINITYとして活動開始。



2号車 カイ



3号車 リョウガ



6号車 ユースケ



7号車 タカシ

超特急

Bullet Train 5th Anniversary Tour 2017 "Super Trans NIPPON Express" 2017.06.14 日本武道館

全国を駆け巡っているツアー最中、追加公演として組み込まれた、6月14日・日本武道館。5周年を迎えた超特急の最新型を、武道館という会場をフルに活かし、見せつけたスペシャルライヴを速報レポート。彼らのパフォーマンスの進化はどこまでも続く——。

Text ⇒ 山本祥子



1号車 コーイチ



4号車 タクヤ



5号車 ユーキ









SET LIST

SE. OVERTURE
01. One/O Signal
02. No.1
03. Believe×Believe
04. 超えてアバンチュール
05. Superstar
06. DJ Dominator
07. One Life
08. ～MEDLEY～
Pretty Girl
What's going on?
Seventh Heaven
Shake body
panipani
refrain
Turn up
ライオンライフ
Star Gear
We Can Do It!
LIBIDO
COMP!! COMP!! COMP!!
STYLE
Beasty Spider
Billion Beats
Drive on week
Bloody Night
Beautiful Chaser
Yell
EBiDAY EBiNAI
Secret Express
走れ!!!! 超特急
09. 超ネバギバDANCE
10. Peace of LOVE
11. バッタマン
12. fanfare
13. Kiss Me Baby
14. Burn!
15. Clap Our Hands!
16. gr8est journey
ENCORE
17. Summer love
18. PAPAPAPA JUMPERS
19. HOPE STEP JUMP











絶賛敢行中のデビュー5周年記念ツアー"Trans NIPPON Express"の追加公演にして初の日本武道館ライヴは、この日のためだけに超特急が用意したとびきりの旅だった。会場に発車メロディが響くと、1万人を乗せた武道館は軽やかに動き始める。そしてステージを覆っていた紗幕が落ち、2階前列とほぼ同じ目線まで上がったリフターに乗った7人が姿を現わし、オープニングナンバー「One／0 Signal」とともに一気にトップギアに。上下するリフターは2階の端まで埋め尽くした8号車への挨拶にはぴったり。そして広いステージに降りたメンバーは水を得た魚のように大きく鮮やかに踊りだした。リョウガがセンターをつとめる2大問題作「Believe×Believe」、「超えてアバンチュール」ではセンターステージへ移動して8号車との距離をグイッと詰めた上で、超特急にしかできないとびきりのダサかっこいいダンスをお見舞い。かと思えば、ブラックミュージックに振りきったダンスナンバー「DJ Dominator」で魅せる。バックヴォーカルはもちろん、メインダンサーも一緒に口ずさみながら、丁寧に「One Life」を手渡す。

前半ブロックですでに魅力全開、見所満載だっていうのに、ここからは気力、体力、表現力、すべての限界に挑むスペシャルメドレーだ。定番曲からいつもなら絶対ハイライト曲、はたまたライヴではなかなか聴けないあんな曲やこんな曲まで全22曲、30分ノンストップ。しかもただ繋げるだけでなく、1曲1曲の世界観を大事にしつつも、いつもとは違う振り付け、フォーメーション、なんなら人数までガラリと変えてお届けしてしまう。さらに火の玉特攻あり、衣装チェンジあり、寸劇あり。「refrain」でタカシが、「STYLE」ではコーイチが、歌声のみで武道館を支配したのは序の口で、ユーキからカイへ、華麗なダンスで繋いだ「Turn Up」。まぁそんなこと言い出したら「We Can Do it!」のユースケ、「Beasty Spider」のタクヤ、「Beat-iful Chaser」のリョウガは、普段のキャラクターというより、内面の個性が迸るソロダンスで1万人を魅了。コーイチ、リョウガ、ユーキによる「Shake Body」は本来センターであるタクヤではなく、キメの〈Beauty〉ポーズをコーイチが担当、面白いことに。「LIBIDO」に至っては、カイがセリフを語るためだけにアリーナにトロッコを走らせた。「Bloody Night」では、ドラキュラに扮したタクヤとカイから少女(に扮したリョウガ)を助けるため、4人が闘うという物語を軸にパフォーマンス、完璧に面白いことに。メドレー直後に披露された最新シングル「超ネバギバDANCE」は超特急の現在地。個々のメンバーのポテンシャルの高さと同時に、7人が揃ったときに生まれる圧倒的なパワーとミラクルを、私たちは強烈に思い知らされたのでした。

クールダウンを兼ねたMCを挟み、ユースケによる「超特急の5年分の愛を受け取ってください。」"Peace of LOVE"という見事な曲振りで後半戦へ。ビッグバンド風アレンジで生まれ変わった「バッタマン」は、途中でデジタルポイを見事に操るパフォーマンスが加わり、浮かび上がる光の文字や数字にワクワクドキドキ。「fanfare」、「Kiss Me Baby」、「Burn!」、「Clap Our Hands!」、「gr8est journey」というラスト5曲は5様の素晴らしい景色を描きだし、間違いなく全曲がクライマックスだった。

熱烈な「超特急!」コールに呼び戻された7人は、ひと足早い灼熱夏ソング「Summer love」で応える。さらにこの期に及んでなぜこの曲?! 超特急史上最速記録を更新しそうな勢いの「PAPAPA JUMPERS」を初披露。てんやわんやでジャンプ、ジャンプ! 銀テープが放たれて、本当のラスト曲「HOPE STEP JUMP」が始まると、センターステージ、メインステージ、上下左右に広がって、幸せそうに、名残惜しそうに、彼らは8号車ひとりひとりと再会の約束を交わしていた。

超特急の感謝と本気と渾身のエンターテインメントが、隙間なくギュウギュウに詰まったステージだった。それを後押しすべく本気でサポートしたスタッフ陣と、本気で楽しみ尽くした8号車と、この日集まった全員が全力で辿り着いたのは、ちょっぴりオーバーランした武道館の向こう側。当然、サプライズ発表されたドラマ『警視庁いきもの係』主題歌決定、その曲「My Buddy」をシングルとして7月26日リリース、8月29日から5日連続「超フェス」開催を含みつつも、もっと先の未来への予感のようなもの。どこへ辿り着くのかはわからない。けど乗車すればきっと面白い、間違いなく素敵な場所に連れて行ってくれるっていう確信だった。 B





超特急 ⇒
ちょうとっきゅう。メインダンサー（カイ、リョウガ、タクヤ、ユーキ、ユースケ）&バックヴォーカル（コーイチ、タカシ）グループ。'12年6月、1stシングル「TRAIN」でCDデビュー。'16年10月に2ndアルバム『Dramatic Seven』を、'17年4月に12thシングル「超ネバギバDANCE」をリリース。7月26日にニュー・シングルの発売が決定。







山崎育三郎

1936
～ your songs II ～

現在、ミュージカル俳優としてだけでなく数々の映像作品にも出演し、幅広く活躍中の山崎育三郎が、
2枚目となるカヴァー・アルバム『1936～your songs II～』を6月7日にリリース。
自身の思い入れのある楽曲で構成された今作について、制作秘話をじっくりと語ってもらった。

Text ⇒ 吉田可奈　Photo ⇒ 大川晋児　Hair & Make-Up ⇒ 花村枝美　Styling ⇒ 百瀬 豪

■昨年夏にリリースされたカヴァー・アルバム『1936~your songs~』から約1年で、ニュー・カヴァー・アルバム『1936~your songs II~』がリリースされます。以前からこのスパンでリリースしようと計画されていたんですか?

「いや、まったくそんなことはなかったんです。むしろ、こんなに短いスパンで2枚目のアルバムを出せるとは思ってもいませんでした。でも、前作が〝第58回 日本レコード大賞〟で企画賞を頂くことができて、歌手としての幅がグッと広がったんです。それなら、このチャンスを活かして、また次の作品をリリースしようということになったんです」

■前作は選曲も含め、すごく素敵な1枚でしたよね。

「ありがとうございます。前作は70年代、80年代の、僕が育ってきた世代より昔の楽曲を多くアレンジして歌った1枚でした。でも、今回は2000年代にヒットした楽曲や、僕の青春時代の想い出の曲を歌いたいと思い、僕と世代がより近い楽曲を選ばせていただきました」

■GLAY(「生きてく強さ」)や井上陽水さんと玉置浩二さん(「夏の終りのハーモニー」)など、かなり幅広いジャンルの楽曲をカバーされていますが、選曲はどんなふうに行なわれたんですか?

「まず、自分が歌いたいと思った曲と、特に楽曲に思い入れがあるものを選ばせてもらいました。なかでもGLAYさんの〝生きてく強さ〟は、中学生の頃をすごく思い出すんです」

■どんなことがあったんですか?

「当時はGLAYさんをはじめ、バンドがすごく流行っていたんです。僕も兄も、例に漏れずコピーバンドを組んでいました。そんなとき、〝3年生を送る会〟で、全校で一組だけみんなの前で歌えることになって。そこで開かれたオーディションで勝ち抜いて、みんなの前でこの曲を歌ったんですよ」

■すごい!

「すごく嬉しかったですね。でも、選ばれたからには失敗は出来ないと思い、スタジオを借りて、この曲を何十回も何百回も練習したんです。そのおかげで、今でも中学の同級生に会うと、〝この曲を歌ってたよね〟と言われることが多いんです」

■当時、育三郎さんはヴォーカルを担当されていたんですか?

「はい。当時、ミュージカルの子役としてデビューはしていたんですが、声変わりをしてしまい、一度ミュージカルを辞めていたんです」

■そうだったんですね。

「声変わりをした途端、歌を上手く歌うことが出来なくなってしまったんです。歌に対しての自信がどんどんなくなっていた時期に、このバンドを組んだので、〝楽しい想い出〟と〝複雑な想い出〟を思い出す曲なんです」

■大きな葛藤があったんですね。

「そうですね。オーディションにまったく受からなくなり、しまいには、以前自分が主演で立ったことがある舞台さえ受からなくなってしまって。でもそんな時期だったからこそ、上手く歌おうとは思わず、みんなで一つのことを完成させるということにやりがいを感じ、青春の想い出を作るという目的で歌っていたんです」

■結果的に、バンドはすごくいい想い出になったんですね。

「そうですね。その時のバンドのメンバーとは中学を卒業して以来会えていないので、メディアを通じて気づいてもらえたら嬉しいですね(笑)」

■そのほか、特に想い出深いのはどの曲ですか?

「高校の頃に聴いた、桑田佳祐さんの〝波乗りジョニー〟かな。僕が通っていた高校は音大付属だったので、放課後はみんなそれぞれの楽器や声楽などの技術を伸ばすための練習時間だったんです。だから文化祭も体育祭もなかったんですよ。もちろん、部活動もないので、青春っぽいことがなにひとつできなかったんですよね。〝それではダメだ!〟と思い、仲のいいグループで、夏は必ず海に行くようにしていたんです。そこで流れていたのがこの〝波乗りジョニー〟。この曲はカラオケでもよく歌っていました」

■カラオケにはよく行かれていたんですか?

「よく行っていました。週に3~4回は行っていたかな。当時、オペラを習っていて、オペラでの身体の使い方や、発声方法は練習していたんですが、オペラだけの歌声になるのが嫌で、ポップスも意識的に歌うようにしていたんです」

■そう思うようになったのはなぜでしょうか?

「ミュージカルを始め、変声期を迎え、一度歌えなくなった時に出会ったのがクラシックの先生だったんです。その先生は、〝ミュージカルをやりたいのであれば、歌の基礎を学びなさい。その基礎は必ずあなたのプラスになるから〟と声をかけてくれたんです。僕は〝歌手〟よりも〝ミュージカル〟がやりたかったので、とにかくどうしたらなれるのかをずっと模索していたんですよね。ブロードウェイや海外では、ミュージカル俳優になるための声楽などの勉強ができるんですが、日本ではそのルートがあまりないんです。女の子であれば宝塚歌劇団に入るなどの道があるんですが、日本で僕が演じたいと思っていた『エリザベート』などの作品を演じるには、〝これを学べばいい〟というテンプレートがなかったんですよね。そこで、自分でミュージカル俳優さんたちのことを調べていたら、多くの方たちがクラシックを学んでいたことに気づいたんです。だからこそ、ミュージカルのベースとしてクラシックを学ぼうと思ったんです。でも、ミュージカルと言っても、その勉強したクラシックで歌う作品もあれば、ロックミュージカルなどもたくさんあるんです。言ってしまえば、今はなんでも歌えなくちゃいけないんですよ」

■たしかに、今はそういったミュージカルも急激に増えていますよね。

「そうなんです。クラシックの王道である『レ・ミゼラブル』や、『オペラ座の怪人』などの古典的なものを歌えるのはもちろん、いろいろな楽曲を歌いこなせるようになるために、ポップスの歌い方も身につけておかなくてはいけないと思ったんです」

特に楽曲に思い入れがあるものを選ばせてもらいました



■となると、かなりの努力が必要になってきますよね。

「そうですね。そのがむしゃらに練習に打ち込んでいたこと自体が、青春のひとコマになっているので、すごく貴重な時間だったと思います」

■そして、「夏の終わりのハーモニー」では尾上松也さんとデュエットをされていますよね。どういったいきさつで、おふたりで歌うことになったんですか？

「僕は玉置浩二さんが大好きで、この曲をよく聴いていたんです。当時、井上陽水さんと一緒に歌っている姿を観て、衝撃を受けたのを覚えていて。これをいつか歌ってみたいと思い、仲の良い尾上松也くんを誘いました」

■仲良しなんですね。

「松也とはミュージカルで同じ役で共演してから意気投合したんです。プライベートでも、彼は歌舞伎の世界から離れてドラマやバラエティなどにも出ているので、ミュージカル以外のことをしている僕と似ている気がして、すごく親近感があったんです。お互いが野球チームを持っていて、試合をしたりもするんですよ。それに、彼は僕とはまったく違う歌声を持っているので、この曲を歌ったらハマるんじゃないかと思ったんです」

■野球の試合までするんですね～。最初に声をかけたときの反応は覚えていますか？

「〝絶対にやりたい！〟と言ってくれました。レコーディングは僕が最初に録って、松也のレコーディングには少し立ち会わせてもらいました。プライベートでも仲の良い人と歌を作り上げることはあまりないので、すごく新鮮でしたね」

■今作で、様々な挑戦をすることで、新たにやりたいことが明確に見えてきたのではないですか？

「これまでは、演出家がいて、曲も歌詞もあって……ミュージカルであれば（自分が演じるキャラクターの）気持ちも決まっていたので、それを表現するということしかしていなかったんです。でも、〝山崎育三郎はこうだ〟という音楽を歌ったことがないので、今だからこそできる、自分の音楽や歌詞、世界観を作るということをやってみたいですね」

■素敵ですね。例えば、どんな曲でしょうか？

「やはり、ミュージカルを今まで演じていたからこそ、そのバックグラウンドを基本にしたサウンドにしたいんです。あとは、昨年、『ミュージックステーション』でディズニーシーのビックバンドビートとコラボしたんですよ。そのサウンドには、管楽器が多く使われていて、すごく素敵だったんですよね。そういった経験もちゃんと取り入れて、ミュージカルのような、そして現代のリズムやアレンジもある、舞台音楽と現代音楽の融合をしていけたらいいなと思っています」

■それはかなりの挑戦ですよね。

「そうですね。まず、ミュージカル俳優がオリジナルのアルバムを出すということ自体、あまり聞いたことがないと思うので。ミュージカルのカヴァー・アルバムとかは多いんですけど。僕自身、誰もやったことがないことをすることにやりがいを感じているんです」

■ドラマ出演もそうですよね？

「そうですね。ミュージカル畑の人が、テレビドラマに出ること自体、最初はかなり驚かれました。でも、その中でまた新しい出会いがあったり、仕事の幅がグッと広がったりするので、チャレンジする大切さを感じています」

■今後オリジナルの曲を出した時に、育三郎さんが伝える〝メッセージ〟がどんなものなのかも気になります。

「ミュージカルの場合では、メッセージが〝人生〟などの広いテーマが多いんです。それに、帝国劇場などでは2000人を目の前にしての、歌いかけるようなドラマティックな世界観が大前提なんです。でも、歌手としてオリジナル曲を歌う時は、日常で感じていることや、多くの人が共感できるような曲が歌えればいいなと思っています。ターゲットは2000人ではなく、聴いてくれる1人1人。その人に言葉を伝えるような感覚で歌詞が書けたらいいなと思っています」

■すごく楽しみです。早く聴けることを願っていますね。さて、話は戻りますが、今作のアルバムテーマが〝LOVE〟〝Happiness〟〝Summer〟ということで。これはどういった経緯でこのテーマになったんですか？

「夏に発売されるということで選曲をし始めたら、愛と幸せに満ちた楽曲が揃ったんです。みなさんに夏に聴いてもらいたいというテーマができたので、衣装もブルーで統一して、爽やかな1枚に仕上げました。前作が赤で情熱的なイメージだったので、また対照的なものに仕上がったと思います」

■夏のドライブミュージックとしてもよさそうですね。

「そうですね。ぜひ聴きながら、海などに出かけてもらいたいと思います」

■今作では、MVも作られていますよね。

「はい。〝ずっと好きだった〟（斉藤和義）では、僕の高校時代の本当にあったエピソードを入れているんです」

■どんなエピソードでしょうか？

「僕は高校の頃、アメリカに留学していたんです。最初は友達がいなくて、ある日、ダンスパーティに1人で参加したんです。そこで勇気を出して、みんなが踊る円の中心で踊ったことをきっかけに、友達ができたんです。この話はファンの方の前ではよくしているほど大事なエピソードで。今回それをモチーフに映像化してもらいました。実は撮影したのは、母校の高校のロビーなんです」

■そうだったんですね！　懐かしかったですか？

「……それが、すごく小さな学校でアットホームな雰囲気だったので、今でも近くを通るたびに差し入れを持って行ったり、僕のミュージカルに先生たちが観に来てくれていてよく会っているんです」

■しっかりと絆が続いているんですね。

「そうですね。とてもありがたいです。なのでリラックスして撮影することができました。さらに、撮影では、ミュージカルで共演してからかわいがっている加藤清史郎くんに、僕の体験を演じてもらったんですよ」

■豪華ですね！

「はい。小学生の頃からかわいがっている清史郎なので、出来上がって観てみるとより親近感が湧いて、改めて彼にお願いしてよかったなと思っています」

■育三郎さんにとって、中高時代はすごく様々な想い出がぎゅっと詰まっていたことが、今作で確認できました。

「そうですね。12歳でミュージカルデビューして、その後歌が歌えなくなって、初めて大きな挫折を経験したのが中学生の頃。それからはとにかくミュージカルにまた出演することだけを夢見て頑張っていたんです。あの時期があるから、今があるんだなと、改めて思います」

■そこまで頑張れたのは、なぜだと思いますか？

「自分がやりたいことが早く見つかっていたというのはかなり大きかったと思います。中1でミュージカルスターになりたいと公言していましたからね（笑）。周囲には笑われましたが、それを今でもやり続けられているのは、ただ好きだからだと思うんです。夢を叶えて頑張っている人を見ると、やっぱり想いが強いんですよ。僕も、子供の頃からミュージカルが大好きで、僕よりもミュージカルが好きな人はいないと信じていたんです。『レ・ミゼラブル』も、好き過ぎて3時間以上ある作品の歌を全部覚えて歌っていましたし（笑）。先日、市村正親さんが、〝俺より芝居が好きなやつはいない〟とおっしゃっていたんですが、周りから見ていても、それが伝わってくるんですよね。こうやって、想いが強い人間こそ、結局は夢を掴んでいくんじゃないのかなと思いました。自分が信じた道があるなら、本気で挑むべきだし、諦めることもできないんです。僕も、変声期でミュージカルのオーディションに受からなくなってからずっと、絶対に『レ・ミゼラブル』のマリウスで復帰するって決めていたんです。それだけを目指してがむしゃらに頑張っていた頃の自分を、今改めて褒めてあげたいと思っています（笑）」

■さて、今はとても忙しいと思うんですが、仕事から離れてしたいことはありますか？

「ゴルフに行きたいです。野球もしたいし、海も行きたい……とにかく太陽を浴びたいんです。一番ベストなのは、これを聴いて海に行くということ。ぜひ、みなさん、ドライブに今作を連れて行ってもらえたらと思います」 B

ぜひ、みなさん、ドライブに今作を連れて行ってもらえたらと思います

山崎育三郎 ⇒

やまざきいくさぶろう。'86年1月18日生まれ。ミュージカルを中心に数多くの舞台で活躍。今後は、金曜ナイトドラマ「あいの結婚相談所」主演 藍野真伍役（7月より、テレビ朝日系にて毎週金曜23:15～）、ミュージカル『レディ・ベス』（10～12月帝国劇場ほか）などが控えている。



2nd Cover Album

1936 ~your songs II~

2017.06.07 Release
CD+DVD+GOODS ¥4,300(tax out)
CD ¥3,000(tax out)



CD+DVD



CD

[CD]
01. ずっと好きだった
02. 波乗りジョニー
03. 虹
04. 3月9日
05. ひまわりの約束
06. 夏の終りのハーモニー(Duet with 尾上松也)
07. 君がいるだけで
08. 生きてく強さ
09. 366日
10. また逢う日まで
11. ひそかな夢 EVERMORE

[DVD]
「ずっと好きだった」ミュージックビデオ+メイキング
「3月9日」ミュージックビデオ





THE RAMPAGE from EXILE TRIBE

Dirty Disco

今年1月25日のデビューから早くも3作目となるニュー・シングル「Dirty Disco」を、7月26日にリリースするTHE RAMPAGE from EXILE TRIBE。疾走感溢れるファンキーな表題曲をはじめ、この夏にぴったりな収録曲が揃った今作について、RIKU、吉野北人、川村壱馬のヴォーカル3人と、LIKIYA、陣のパフォーマー2人がじっくりと語ってくれた。

Text ⇒ 吉田可奈

■新曲「Dirty Disco」は、80年代のサウンドを彷彿とさせる、ファンキーな楽曲ですね。

吉野「そうなんです。なので、最初にこの曲を聴いたときは、THE RAMPAGE from EXILE TRIBE（以下：RAMPAGE）が歌ったら一体どうなるんだろう？と思ったんです。さらに、歌詞を頂いて歌ってみたら、今までにないような表現がたくさんあって、すごくワクワクしました」

■どんな歌詞でしょうか？

吉野「今までは自分たちの想いや、覚悟を歌ってきたんですが、今回は聴いてくれる方たちと寄り添えるようなキャッチーなフレーズがたくさんあったんですよ。だからこそ、レコーディングのときも今までとは違う気持ちの入れ方をして、新しい歌い方に挑戦することが出来ました。みなさんにどんな風にこの曲を聴いてもらえるのか、今からすごく楽しみです」

■歌詞には〝パリピ〟などノリノリのワードが詰め込まれていますよね。

川村「そうなんです。でも、みんなが想像するような、ただハジけるような〝パリピ〟ではなく、オシャレでクールなイメージが強いんです」

RIKU「〝踊りたいヤツが集まれ〟という感じだよね」

川村「そうそう。落ち着いた〝パリピ〟です（笑）」

RIKU「その歌詞もそうですが、これまでリリースしてきた楽曲にはない要素が多い曲なので、今後の僕たちの可能性をぐっと広げてくれる曲だと思いました。僕ら自身、聴けば聴くほど大好きになっていますし、聴きやす

吉野北人_PERFORMER



明るい夏を連想させる曲なので、よりメッセージもポジティブになっているんです。しっかりとポジティブな想いを込めながらレコーディングしました

い曲になっているので、より多くの人に聴いてもらえたら嬉しいですね」

■前作からの数ヵ月だけで、みなさんすごく成長した気がするんですが、いかがですか?

RIKU「ありがとうございます。表現の仕方だけでも引き出しは多くなってきましたし、パフォーマーは各々得意なところが成長していると思うんです。リハーサルをするたびに、〝みんなの気持ちがひとつになってきたな〟と思うことがすごく多いんですよ」

陣「それはあるかもね。ミーティングをしていても、自分の意見を発信するようになってきたんですよ。実は、これは今までの課題だったんです。それが実践できるようになってきたので、すごくいい成長ができていると思います」

川村「そういえば、この曲をレコーディングするとき、なるべく客観視するように心がけたんです。というのも、〝中毒性を持たせるにはどうすればいいか?〟を何よりも考え、細かい所までこだわって、意識しながらレコーディングしたんですよ。これまでリリースした曲が力強いテイストのものだったからこそ、今回は〝楽しめるもの〟というのを前提に意識して歌いました」

■歌詞の内容も、これまでになく、すごくポジティブですよね。

川村「そうですね。明るい夏を連想させる曲なので、よりメッセージもポジティブになっているんです。歌っている想いは絶対に声に出るので、しっかりとポジティブな想いを込めながらレコーディングしました」

■歌割りものすごく細かいですよね。それは、ヴォーカル3人の息が合っていないとダメ

サビの最後で（与那嶺）瑠唯が考えた手振りがあるんですけど、そこはみなさんで出来ると思います。ここで披露するディスコポーズが、みなさんにどんどん浸透したらいいなと思っています



川村壱馬_VOCAL

だと思うんです。息を合わせるためにしていることはありますか?

RIKU「ヴォーカリストが変わる瞬間は、バトンを渡す感覚を大事にしています」

川村「あとは、くだらないことから真面目なことまで、コミュニケーションをよくとるようにしています。少しでも多く話すようにしているんです。この前は家で〝マリオカート〟をしたんですよ」

RIKU「（吉野）北人と3人でやったよね」

陣「北人、弱そう！」

吉野「うん。弱かった……ルイージを選んだんですけど、弱かったです（笑）」

■あはは。そのうちTHE RAMPAGE杯が開催されるかもしれないですね。

RIKU「あるかな〜（笑）」

LIKIYA「その時、俺は間違いなくクッパを選んでバイクに乗る」

一同「あははは！」

陣「それこそ、今回MVでバギーに乗っていましたよね？」

LIKIYA「乗った（笑）。すっごい楽しかった」

RIKU「バギーに楽しそうにまたがるLIKIYAさんを見て、（神谷）健太が〝LIKIYAさん、まだ少年の心を持っているんだな……〟って言ってましたよ（笑）。スキップしながらバギーに向かって行っていましたよね」

陣「撮影が終わった後も、〝練習だ！〟って言いながら、またバギーに乗っていましたもんね」

LIKIYA「バ……バレてたか（笑）」

陣「それだけナチュラルな素顔が出ていると思うので、ぜひLIKIYAさんの表情に注目して下さい」



LIKIYA「間違いないと思います（笑）」

■あはは。ちなみにLIKIYAさんは、この曲を聴いたときの印象はいかがでしたか？

LIKIYA「これまで自分たちがカッコいいと思う曲をやっていたこともあり、馴染みのあるサウンドが多かったんです。でも、今回はまったく新しいファンクを表現することになり、正直、〝どうなるんだろう〟と思っていたんですよね。でも、実際に完成して聴いてみると、僕らが今までやってきた流れがちゃんとファンクにマッチしていて、新しいものが生まれていたんです。ファンクやディスコの世代って、僕らが生まれてもいない時代のことなので、今の時代に曲にしてリリースすることで、また新しい感覚で僕らの同世代の人たちにも楽しんでもらえたら嬉しいですね」

■THE RAMPAGEを通して、聴いている人たちがいろんなジャンルに触れられるのは最高のことですよね。

LIKIYA「そうなってもらえたら最高です。ぜひ、多くの世代の方たちに聴いてもらいたいです」

■さきほどはLIKIYAさんがMV撮影で楽しんでいたとお聞きしましたが、どんなMVになっているんですか？

LIKIYA「昼のブロックパーティーや夜のクラブシーンもあって、80年代のファンクな雰囲気が上手く表現できているんです」

吉野「撮影もすごく楽しかったですね。今までのMVは、どの曲もカメラに向かってガンを飛ばしているような尖ったものだったんですが、今回はメンバーみんなで目を合わせたり、笑い合ったりと緩い表情をしているんです。それは僕らの等身大の表情なので、撮影中はすごく面白かったですね。〝撮影ってこんなに面白いんだ！〟って思うくらいだったんです。なかでも陣くんが一番楽しそうで……」

陣「楽しんでました（笑）。というのも、僕が振り付けを担当していた部分で、今までずっとやっていたポップというジャンルの振りを取り入れたんです。そこを僕は〝ご褒美〟と呼んでいて（笑）。それをみんなで出来たのは、本当に嬉しかったですね」

■そうだったんですね。今回のダンスは、少しキャッチーな振りになるんですか？

陣「そうですね。サビの最後で（与那嶺）瑠唯が考えた手振りがあるんですけど、そこはみなさんで出来ると思います。ここで披露するディスコポーズが、みなさんにどんどん浸透したらいいなと思っています」

■カップリング曲もお話を聞かせてください。

吉野「〝Shangri-La〟は、夏の終わりをイメージさせる楽曲になっているんです。〝日が沈むまで〟というフレーズは、より気持ちを

入れたほうが伝わると思いますし、表現力が試される楽曲だなと思ったんです」

RIKU「サウンドが今までのTHE RAMPAGEとはまた違う雰囲気だからこそ、それを僕らしく表現するのはどうしたらいいかを考えました」

■その答えは、出ましたか?

RIKU「自分らしく表現するということと、曲が持つ力。その2つが上手く掛け算が出来てこそ生まれるものだと思ったんです。夏の終わりを表現してはいますが、僕らの旅はまだまだ続きますという意味を持つ曲になりました」

川村「イントロにものすごく勢いがあるんですよ。スピード感もあるし、間奏のトラックもめちゃくちゃカッコいいんです。なかでも、さきほど北人も言っていた〝日が沈むまで〟というサビの最後のフレーズになると、一瞬で切なさを感じるんです。夏独特の切なさを感じさせる楽曲になっているので、今年の夏の終わりにはたくさん聴いてもらいたいですね」



■そのフレーズは北人くんが歌ってるんですよね?

吉野「はい。夏の情景をイメージしながら、自分の気持ちを大事に、歌詞に感情をしっかりと当てはめて歌いました。その雰囲気が伝わってくれたら嬉しいです」

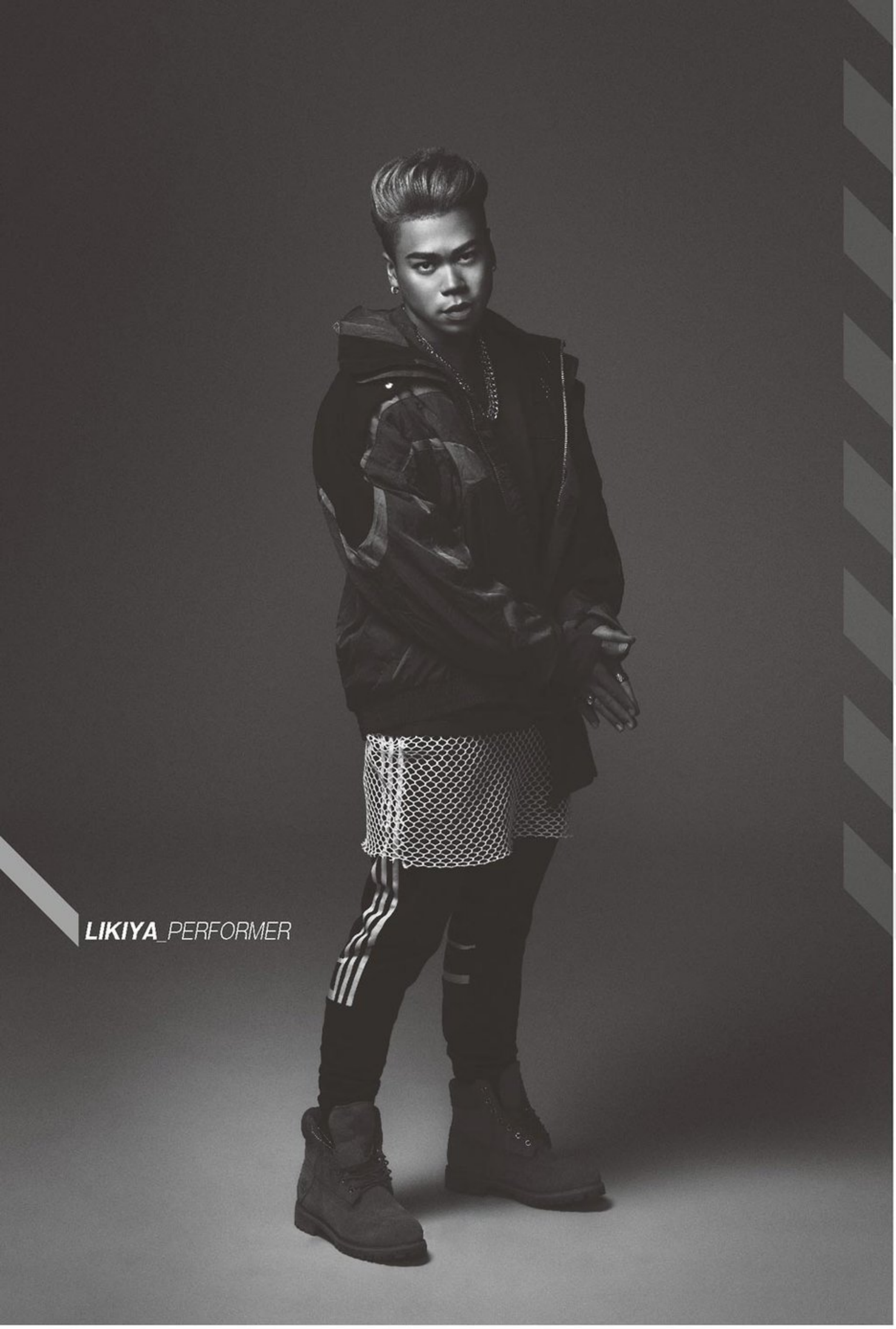
■次はダンストラックの「RAMPAGE ALL DAY」について聞かせてください。

LIKIYA「このサウンドは、〝Dirty Disco〟で表現した80～90年代をイメージして、当時のヒップホップ感を出した音になっています。振り付けも、13人でニュージャックスウィング（80年代後半に流行した音楽スタイル&リズム）のような振り付けをしているんです。そういった独特の色を残しつつ、ソロではオリジナリティを出しているので、それぞれ13通りの全力が見られる王道のダンストラックになりました」

陣「前回のダンストラックのMVは、構成やカメラワークで魅せていたんですが、今回はそれぞれのマンパワーをしっかりと伝えるというのがテーマだったんです。もちろん、ユニゾンも最初と最後にあるんですが、それ以外はそれぞれのスタイルがしっかりと表現されているんですよね。さらに、自分たちがこういうダンスで、こういうものをイメージしていますという1人1人の音楽観が詰め込まれているんです。今までやって来たもの、人生をかけてきたすべてのものを身体一つで表現した部分があるので、じっくり観てもらいたいです」

■となると、このMVは絶対に観てもらいたいですね。

LIKIYA「そうですね。撮影は、〝Dirty Disco〟と同じところでしたので、両方



3rd Single
Dirty Disco
2017.07.19 Release
CD+DVD ¥1,800（tax out）
CD ¥926（tax out）

［CD］
01.Dirty Disco
02.Shangri-La
03.RAMPAGE ALL DAY
04.Dirty Disco（Instrumental）
05.Shangri-la（Instrumental）
Bonus Track:「FRONTIERS」（English Version）

［DVD］
01.Dirty Disco（Music Video）
02.RAMPAGE ALL DAY Introduced by Zeebra（Music Video）

THE RAMPAGE from EXILE TRIBE ⇒
ザ・ランペイジ・フロム・エグザイル・トライブ。RIKU、龍、岩谷翔吾、浦川翔平、LIKIYA、神谷健太、川村壱馬、後藤拓磨、陣、鈴木昂秀、武知海青、長谷川慎、藤原樹、山本彰吾、吉野北人、与那嶺瑠唯による16人組ダンス&ヴォーカルグループ。'14年に結成。

を観て雰囲気を味わってもらえたらさらに楽しめると思います」

■さて、このシングルがリリースされる夏、プライベートでやりたいことはありますか?

吉野「バーベキューがしたいです! メンバーで焼き肉はしたことがあるけど、外で食べたことはないですよね?」

陣「そうだね。その時は、俺が仕切って、肉担当は誰、ドリンクは誰って割り振るよ。でも、肉を焼くのは絶対にLIKIYAさんだよね」

一同「そうだ!」

■え、どうしてですか!?

LIKIYA「肉の焼き方には、すごくこだわっているんですよ」

陣「こだわりすぎて、年下のメンバーに教えてるよね。あと数秒でひっくり返す! とか」

RIKU「僕は焼き加減は別にいいんですけどね。お肉が美味しければどんな焼き方でも絶対に美味しいと思うから……」

LIKIYA「ダメ! それは損してる!」

川村「たしかに、損してるよ。焼き具合はもちろん、丸い網だと、どう配置するかで全然変わってきますしね。こう置けば、あと何枚置ける! ってなる（笑）」

陣「うん。たまに重なって焼く時もあるよ」

RIKU「えぇ! お肉は茶色くなったら美味しいでしょ」

川村「信じられない!」

LIKIYA「絶対にダメ!」

■北人くんはどちら派ですか?

吉野「えっ!? 僕は美味しければどちらでもいいです……（笑）」

一同「あはははは!（爆笑）」

MINMI×New Era®の[9TWENTY™]¥5,370(税別／MASTERBEAU ONLINE : masterbeau-online.jp)



MINMI ⇒
ミンミ。大阪府出身。2002年のデビュー以降、日本はもちろん海外でも大きな注目を集めてきたシンガーソングライター。今年3月にデビュー15周年を記念したオールタイムベスト『ALL TIME BEST : ADAM』、『ALL TIME BEST : EVE』を発売。2008年より自身がプロデュースする音楽フェス『FREEDOM』も年々規模を拡大、今夏も淡路島・九州・東北を舞台に豪華ゲストが灼熱のパフォーマンスを繰り広げる。今年はデビュー15周年のメモリアルイヤーを迎え、さらなる進化に突き進んでいる。

MINMI
talk about New Era®

■意外にも今回が初のコラボレーションだそうですね。

「ずっと憧れのブランドだったので、ご一緒できるなんて思ってもみなかったです。2月に岡本太郎×ニューエラのトークショーを観に行って改めてニューエラが好きになったタイミングで、知り合いからご紹介いただく機会があって。今年は私のデビュー15周年なので、その記念モデルを作りたいなと思ってオファーをさせていただきました」

■今回、ベースモデルに[9TWENTY™]を選ばれた理由は?

「ここ最近、自分の中で1990〜2000年代くらいのカルチャーやファッションが凄くお洒落だなと思っていたのですが、ニューエラさんの展示会で見かけた、ウォッシュドデニムの[9TWENTY™]がそのイメージにピッタリだったんです!」

■どんなところが気に入りましたか?

「まずはこの生地と色ですね。ステッチも良い感じですし、リアのストラップも上品な革で、シルエット的にも凄く被りやすいなと思いました」

■New Era®といえば、フラットバイザーのキャップも有名だと思うのですが。

「そこは正直凄く迷いましたね(笑)。私自身、[59FIFTY®]や[9FIFTY™]も大好きですし、ずっと被ってきたというストーリーもあるんですが、最近は[9TWENTY™]を被ることの方が多いので、あえてこのモデルを選びました。次の機会にはフラットバイザータイプを作りたいですね」

■デザイン面でこだわった点は?

「フロントのロゴをこのキャップのために新しく考えたんです。オールドイングリッシュのフォントでMINMIという文字を重ねたんですが、アイデア出しからデザイナーさんと一緒に作らせてもらいました」

■このキャップをどんな風に被ってもらいたいですか?

「デニムに合わせやすいと思うので、デニムファッションの時にぜひ! あと、被ってみるとシュッとスマートに見えるところもオススメです。もちろん男性が被ってもカッコ良いし、お洒落やなって思うので、ホントに男女どちらにも被っていただきたいと思ってます」

■そんなMINMIさんが思うNew Era®の魅力とは?

「やっぱり昔から変わらない普遍的なところですね。トラディショナルというか、時代とか関係なく、いつでもアリやなっていう〈絶対感〉が凄いなと思います」 B

Fall & Winter 2017 **MINMI's Recommend Item**



9THIRTY™
¥3,800(税別／ニューエラ)

「チェック柄というのが今また新鮮ですよね。見た目も素材感も暖かいので、涼しくなってきたら被りたいです。どんな服にも合いそうですが、私はベージュ系のニットとか、オフホワイトやグレーのスウェットパーカに合わせたいなと。気軽に普段使いをしても、全然可愛いと思いますよ!」

INFORMATION

『FREEDOM aozora 2017』
淡路島・九州・東北で開催される
MINMIプロデュースの音楽フェスティバル
■FREEDOM aozora 2017 淡路島
日時：7月29日(土)、30日(日)
会場：淡路島 国営明石海峡公園芝生広場
■FREEDOM aozora 2017 東北
日時：8月19日(土)
会場：SENDAI GIGS
■FREEDOM aozora 2017 九州
日時：9月2日(土)
会場：みやざき臨海公園 サンマリーナ宮崎 多目的広場
オフィシャルサイト：freedom-aozora.com

B-PASS Presents

06

Text ⇒ B-PASS
Photo ⇒ 佐野円香(Lander)

New Era® meets MINMI

毎年豪華ゲストが集う一大音楽フェス、『FREEDOM』の開催も目前！
デビュー15周年を迎えて、ますます勢いに乗るMINMI。
そんな彼女が待望のコラボレーションキャップをまとってB-PASSに登場！




柳沢進太郎：G.

go!go!vanillas

FOOLs

ルーツに根ざしつつ、様々な音楽的要素を取り込んで、見事に自分たちのオリジナリティとして確立。これがゴー！ゴー！バニラズ、と聴いていて嬉しくなる3rdアルバム『FOOLs』が7月26日に届く。本当に楽しみにしていて欲しい。間違いなく、今年を彩る大名盤です！

Text ⇒ 山口哲生

■アルバム『FOOLs』、とにかくワクワクしっぱなしで最高だったんですが、今作はどういうものにしようと思っていましたか？

牧「アルバムを出す前のシングル3曲は、自分達の持ち味をフルに使った楽曲であって、僕らのことを知らない人に対してわかりやすいものを提示していたんですよ。それが起承転結というか、まず〝ピンキーディンキーパーティークルー〟があって、そこで興味を持ってくれた人にもっと来てほしいというのが〝おはようカルチャー〟で。そこから親友みたいな感覚で、より深いところで会話をしたいというのが〝平成ペイン〟っていう、ひとつの流れができたと思っていて」

■まさにですね。作品を追うごとに距離が近づいて、メッセージが強くなっていくという。

牧「それをしっかり提示しつつ、やっぱり今の時代って、フェスとか短い演奏時間でライヴを観る機会が多いじゃないですか。そこで自分達のことを全力で知らせるために、どうしてもわかりやすいものを選びがちになってしまうけど、それだけで終わってしまうと、それこそ本当に夏祭りみたいな感じというか。そうはなりたくないから、そこでイメージしていたものとまったく違うものをお客さんに与えたいとも思ったし、自分達の音楽バカなところをしっかり出していこうというところで作り上げたアルバムですね」

■フェスだけでは終わらせない関係という意味でもそうですけど、距離感というのはキーワードだったんですか。

牧「ですね。そういう距離感もそうだし、僕らとしてはいろんな音楽的興味があるんです



ジェットセイヤ：Dr.　長谷川プリティ敬祐：B.　牧 達弥：Vo. & G.

けど、それをやろうと思って音楽と向き合うと、意外と人を排除してしまうんですよ。要はメンバーだけの考えになってしまったり、楽曲としての完成度が高くても無機質に感じてしまったりすることがあるのを、これまで制作したなかで学んできていて」

■そこを改善しようと。

牧「だから、まず演奏に関しては、4人でとにかくシビアにあわせる。それはお客さんどうこうの話ではなく、最重要のことなので。そうやって4人があわせてバチバチにきているものがお客さんに繋がっていくんだけど、でも、そのためには演奏だけじゃダメなんですよね。自分達が気持ちいいなと思っていることをしっかり投げかけて、こっち側に連れてこなきゃいけない。その橋渡しをするのが僕のメロディや歌詞であって、それで繋げられれば良い距離感でいられるなと思ったし、それがバニラズの音楽なんじゃないかなっていうのを、前作の『Kameleon Lights』以降に感じていたので、そこを意識してました」

■制作中のやりとりに、そういう距離感みたいな話は出てきていたんですか？

プリティ「そこは牧が作ってくる曲からわかっていく感じでしたね。本人の心持ちとしてはずっと同じだったと思うんですけど、やっぱり曲によって言いたいことも違うので、徐々にわかっていく感じでした」

■特にその部分に対して印象的だった曲というと？

プリティ「『グッドドギー』ですね。すごく親しみやすいというか、幼稚園で子供が歌っていても全然いいぐらいな感じがあったので」

■牧さんとしては、そういう全年齢対象な

自分達の音楽バカなところをしっかり出していこうというところで作り上げたアルバムですね

ものを作りたいというところも?

牧「そこはずっと考えてますよ。やっぱり自分のじいちゃんばあちゃんとか、甥っ子や姪っ子が聴いても歌えるものでありたいし、そこに核を置くことが一番重要だと思っているので。そこを完全に歩み寄ってしまって、ある意味計算してやってしまうとまた話が違うけど、自然体でありながら、あくまでも会話みたいな形で作れた楽曲というのは、それこそ絶妙な距離感があると思うので」

■セイヤさんは、今回の牧さんが持ってきた曲の中で新しさを感じたものというと?

セイヤ「〝バイバイカラー〟、〝サウンドエスケープ〟、あとは〝ナイトピクニック〟ですかね」

■今回バンドサウンド以外の音がすごく増えましたけど、挙げてもらったのはそれが顕著に出ている曲ですよね。

セイヤ「そうですね。最近、牧がDTMで曲を作り始めたんですよ」

■いつ頃から使い始めたんですか?

牧「このアルバムからですね。〝ヒンキーディンキーパーティークルー〟のときはまだ使ってなくて、その後に〝ラッキースター〟ができたんですけど」

進太郎「その前に〝パペット〟もあったね」

セイヤ「あと、〝おはようカルチャー〟も使ってなかった」

牧「だから、その4曲以外はDTMですね」

セイヤ「〝ラッキースター〟はちょっと使ってなかった?」

牧「あぁ。でも、本当に使い始めた当初だったから、ほぼスタジオ作業だった感じ」

■「ラッキースター」は鍵盤が入ってますけど、最初からそのイメージがありました?

牧「ありました。ああいうホンキートンクみたいな感じというか、ジャズっぽいオブリがありつつ、でもポピュラーなピアノを前から入れてみたかったんですよ。それを今回お願いしてやっていただいたんですけど、すごく変わりましたね。曲の世界観がぐっと濃くなったし、イメージの解像度が上がったし」

■牧さん自身としても、イメージしていたものを具現化しやすくなりました?

牧「そうですね。バンドサウンドというのは全編にあって、そこだけ聴くと別にマイノリティなものではないんですけど、たとえば〝FUZZ LOVE〟で前からやってみたかったホーンを入れてみたり、そうやって新しいものを取り入れることによって、他のバンドにないものを作ろうっていうのは、ひとつのテーマとしてあったかもしれないです。結構いろいろ試したんですよ。こういうアレンジをすると、こういう雰囲気になるんだなとか」

■DTMを導入したことで変化したところは他にもありましたか?

プリティ「余裕ができました。これまでは〝ここだけなんかちょっとな……〟っていうところを、レコーディング当日に詰めることもあったんですけど、それまでに全体像がしっかりと見えていて詰めることができた分、変な不安もなかったから、録っていて楽しかったです」

■デモのフレーズをなぞることが多かったですか? もしくは、そこに自分なりのアレンジを加えたりとか。

プリティ「どっちもありましたね。〝ナイトピクニック〟は自分で考えたものに変えましたけど、デモと同じものを弾いた曲もあったし」

進太郎「(ベースは)今回ルートっぽいのが多くなりましたよね」

プリティ「うん。すごく多い」

進太郎「ゆえにリズムがよく聴こえるし、気持ちいいし、歌もより映えるっていう」

プリティ「そうやって音が整理された分、一番聴かせたいものがわかりやすいというか。パッと聴いた最初の一回で、今まで以上に良いと思う度合いが強くなってると思います」

セイヤ「あと、自分の癖を敢えて出さないっていうのをしましたね。ドラムだったら〝バイバイカラー〟は、敢えてフィルをいれないとか。その逆で、〝ラッキースター〟は敢えて手癖マックスで叩こうとか。この曲はベースも結構そうでしょ?」

プリティ「うん。マックス」

セイヤ「その振り幅がまたバカだなと。『FOOLs』なだけに」

■なるほど(笑)。進太郎さんが今回印象的だった曲というと?

進太郎「〝ナイトピクニック〟は、スタジオで作っているときから、早くライヴでやりたいって言ってました。フレーズにしても音像にしても、より自分達の好きなものを良い形でミックスすることができたし、演奏がダイナミックだから、それに合わせて歌うのはめちゃくちゃ気持ちいいだろうから、これはいいなぁって」

■広い空間が似合いますよね。

牧「開放感ありますよね。僕、昔から夜にドライブするのが好きなんですけど、あのソワソワ感みたいなものって、たとえばライヴみたいな楽しいことをやっているときの幸せとすごく近いものがあるというか。夜に何かするのってワクワクするじゃないですか」

■しますよね。小さい頃の話で言うなら、家の近所の自動販売機に行くだけなのに、やたらドキドキしたり。

牧「そうそう。その感じですよ。悪いことをしている気分になる感じっていうか」

プリティ「非日常みたいなね」

牧「この曲はピクニックでも成立するけど、そうなるとポップスなんですよ。でも、ロックであったり、バンドであったりというときに、そういう〝夜〟みたいな部分に対してワクワクする感覚をお客さんに知ってもらいたくて。お客さんは若い子も多くて、社会に出て1、2年目ぐらいの子達もきっといるんでしょうけど、その時期ってキツいじゃないですか」

■そうですね。世の中を知るというか。

牧「でも、その中でも余裕を持った生活というか、まあ今日はパーっといこうや!っていうときに気持ちよく聴ける曲っていいよなと思って。そういう肩の力を抜いた状態で聴ける、かつ、ぶち上がれるものが作れましたね」

■そして、進太郎さんが作詞、作曲、メインヴォーカルを務めた「ストレンジャー」も収録

されていますが、前作の「12：25」とは真逆で、かなりアッパーですね。

進太郎「この曲はドラムがとにかくいいんですよ。僕もDTMを元々やってたんですけど、僕が打ち込んだやつをセイヤさんがめちゃくちゃ綺麗にコピーしてくれて、そこに生のエッセンスが加わった感じなんですけど」

セイヤ「刻んだからねぇ。もうずっとみじん切りみたいな。〝12：25〟もそうだけど、サビのビートをこだわるんですよ、進太郎は」

■今回のサビはひたすら連打な感じです。

進太郎「あのタム回しは結構大きい感じなんですけど、そこから急にタイトになるからスピード感も増すし、ボリュームもでかくなると思うんですよね」

セイヤ「最後はたまねぎがクズになってますからね。おいしいハンバーグができますよ」

■ははは（笑）。あと、今回は牧さんのファルセットが増えたなと思いました。

牧「そこは意図してましたね。昔は別に意識してなかったけど、自分の振り幅とかレパートリーを増やそうと思ってやってみたら、ひとつ自分の個性を見つけられた気がして。それでハマっていろいろやっていたのと、シングル曲はカントリービートとか白人のリズムが多いけど、アルバム曲はR&Bとかブラックミュージックに近いものが多いんですよ。ゆえに、歌心が重要な曲が増えたし、歌がよくないと曲が成立しないものが多かったから、そこですごく考えたところはありました」

■あと、歌詞は語感や韻を今まで以上に意識しているんじゃないかなと思ったんですが。

牧「昔から語感とか韻を踏むのは得意だったけど、一聴したときにパッと感じられるものというか。気持ちよさとか、ただ韻を踏むためだけではない言葉選びは、今回すごく意識してましたね」

■あとは噛み砕いている言葉というか、よりわかりやすい言葉が多い印象もあって。

牧「僕の中では、口語と文語を使い分けるタイミングがすごく重要なんですよ。なんか、ずっとかしこまって敬語で喋っている途中で、急にくだけた感じになると親近感がわくじゃないですか。僕はそれを歌詞でやりたくて」

■その点でいうと、「サクラサク」は口語が多い中で、突然「曖昧模糊（あいまいもこ）」という言葉が出てくるという。

牧「曲が短いから説明がましくなるのが嫌だったことと、この曲は昭和歌謡とガレージロックを融合させたいと思っていたから、歌詞もわざと古めかしい言葉を使っていて。そうなったときに、そのバランスですよね。あと、曖昧模糊って単純に可愛いなと思って」

■「もこ」っていう響きが？

牧「そう（笑）。漢字だとそう読むとは思えないぐらいゴツいんですけど」

進太郎「毎回歌詞に関してはすげえなって思いますね。絶対僕には書けない味があるし、僕も韻とかはすごく意識しているけど、こういうやり方もあるか！っていう、アハ体験みたいな感じがあって（笑）。牧さんの歌詞からヒントをもらってることは結構多いです」

セイヤ「牧先生」

牧「じゃあ、受講料を」

セイヤ「エフェクターを毎月一個貢ぎます。これでなんとか……！って」

プリティ「ウィンウィンだ」

進太郎「でも、牧さんって最近書き方が変わりましたよね？　前まではあくまでもメロディを大事にしていたけど、最近はそのメロディを崩してまで言葉を増やすというか」

プリティ「あぁ。そこはすごくある」

セイヤ「なんか、日記っぽくなったよね」

牧「急にチープな言い方になったな！（笑）」

セイヤ「いや、『SHAKE』の頃と比べると、やっぱり伝わりやすくなってるから、個人的には日記みたいな感じだなと思って」

■実際、本人としてはいかがですか？

牧「最後のサビの書き方は変わったなと思います。ほとんどの曲がそうなんですけど、そこで言いたいことを言っているし、特に〝ナイトピクニック〟は自分でもいいのができたなって。J-POPじゃない歌い回しをしているけど、それがぴっちりハマってるし、曲自体はソフトなんだけど〈中指そっと立てる〉という言葉を、嫌味とか批判とか敵意むき出しな感じで使わずに書けたんですよ。そこは〝平成ペイン〟もですけど、これが本音ではあるんだけど、敵を作るというよりはその人に問いかける感じで書いているんですよね。それができたのはよかったなと思います」

■またライヴの雰囲気や景色がいい形で変わっていきそうな曲が揃いましたね。

プリティ「一回、アルバムの曲順のままライヴでやってみたいんですよ」

■1曲目の「We are go!」はSEだから、本当にそのままできますよね。

牧「でも、ゆえに難しいんですよ。昔の曲をこの中に入れるとなると、世界観が崩れるっちゃあ崩れるので、まぁ悩ましいというか」

進太郎「二部制にする？」

牧「楽しそうだけどクソ長くなりそうじゃない？　あ、13曲だからそうでもないのか」

■あと、バンド以外の音に関してはライヴでどう再現するのかなと思って。

牧「ワンマンのときは、できるのであればゲストを入れられたらいいなって。同世代でもいいし、尊敬している憧れの方にやってもらうのもいいし」

セイヤ「楽しみだなぁ……」

■またかなりしみじみとしたトーンで（笑）。

牧「でも、本当にそうっすよ。俺、〝ナイトピクニック〟でお客さんがぶちあがるようになったら、日本は変わると思ってるんで」

進太郎「うん。それはいい世の中だ！」

■ですね。この曲達がどう育っていくのか楽しみにしてます！ Ⓑ



Major 3rd Album
FOOLs
2017.07.26 Release
限定盤 CD+DVD ¥3,300（tax out）
通常盤 CD ¥2,700（tax out）

01. We are go!
02. サクラサク
03. FUZZ LOVE
04. ヒンキーディンキーパーティークルー
05. ラッキースター
06. 平成ペイン
07. サウンドエスケープ
08. バイバイカラー
09. ストレンジャー
10. グッドドギー
11. パペット
12. ナイトピクニック
13. おはようカルチャー

go!go!vanillas ⇒
ゴー!ゴー!バニラズ。4人組ロックンロール・バンド。'14年11月、アルバム『Magic Number』でメジャー・デビュー。'15年6月に柳沢進太郎（G.）が加入。'16年2月に2ndアルバム『Kameleon Lights』をリリース。9月から全国ツアーを開催。



和哉
TOMOYA



彪馬
HYOMA



洸希
KOKI

ワチャ-ガチャ!

9人組ダンス＆ヴォーカルグループ、SUPER★DRAGON。6月28日に2ndシングル「ワチャ-ガチャ!」をリリース。前回、年上組ファイヤードラゴン4人に登場してもらったので、今回は年下組サンダードラゴン5人に自己紹介と今作の聴きどころ、見どころを直撃!!

Text ⇒ 山本祥子

SUPER★DRAGON



壮吾
SOUGO



楽
RAKU

■2度目とは言えサンダードラゴンの5人は初登場なので、自己紹介をしてもらいつつ、周りからのチャチャ入れも大歓迎です。

楽「僕は最年少のメンバーで、ダンスを中心にやってます。猫が好きです。今は夏の毛に生え変わる時期なので、抱っこするたびに服に毛を付けてますね。あとは折り紙が得意です。左手空中で鶴を折れます」

洸希「ただ鶴を折るだけじゃなくて、自分の想像したキャラクターを作ったりとか」

壮吾「新しく開発していくんだよね」

■歌やダンスを始めたのはいつ頃でしょう?

楽「歌はスパドラに入ってからなので約1年半前ですけど、ダンスは3年前だったかな」

彪馬「楽は体がめちゃくちゃ柔らかくて」

楽「柔らかいというか、関節がおかしいの」

彪馬「そうなの? とにかくその特徴を活かしたダンスは楽にしかできないものだし」

和哉「写真映りがいいっていうか、写真一枚で見てる人の世界観をガラッと変えるよね」

彪馬「普段はスパドラいちの甘えん坊って感じなんだけど、どうすれば自分がカッコ良く見えるかわかってるし、ライヴではそこにギャップ萌えするファンの方もいると思う」

和哉「僕はラップが好きです。漫画も大好きで、家に千冊はあるんじゃないかなぁ」

彪馬「和哉はスパドラで1、2を争う声の低さで、その低音を活かしたラップは男らしくてかっこいいし。基本クールで、かなり毒舌なんですけど、ライヴで時折見せる照れた表情がもう、めっちゃツンデレというか」

洸希「楽に続き、キャップ萌えがやばい」

彪馬「そうそうそう(笑)。あとメンバー内で"ザムライ"って呼ばれてるんですよ」



和哉「剣道を5年間やっていたので、東名阪ツアーで全員が披露した特殊能力のコーナーでは、殺陣に挑戦させてもらいました」

■ラップはいつから始めたの?

和哉「最初はとにかくダンスを頑張りたい。少しでも早くファイヤーに追いついて綺麗なパフォーマンスをしたいという想いが強かったんですけど。ディレクターさんから"KITTO↓ZETTAI"のラップをやってみない?"って言われて、初めてマイクの前に立ってラップをして、難しかったけど、ものすごく楽しくって。これはジャンくんを超えるくらい極めたいなって思いましたね」

彪馬「僕はヴォーカルとダンスを主にやってます。んー、特に趣味がなくて(苦)」

楽「グミ好きじゃん」

彪馬「グミ好きは小さい頃からずっとなので、僕的にはあたり前すぎて。あっ、K-POPが好きで、中でも防弾少年団さんを聴いたり、ダンスを見たりすることにハマってます」

■それは刺激をもらっている感じ?

彪馬「ハイ。7人組だから9人組の僕たちと重なる部分があるし、でも作詞作曲まで自分たちでやってて、ダンスもキレッキレで。いろいろ参考にしつつ、超えたい存在ですね」

■彪馬くんがダンスや歌を始めたのは?

彪馬「すごく遅いんです。EBiDANに入って半年から1年、本当にダンスを始めてすぐにスパドラが結成されたので。みんなの足を引っ張りたくない一心で努力というか、自分なりにできることは尽くしましたね」

和哉「僕たちからしたら彼は王子様ですね」

楽「あと"Road to Real"っていうツアーで、サンダーとファイヤーで分かれて各地を廻

りつつ、折り返し地点のダイバーシティで久しぶりに9人が集結してライヴをやったんですけど。"Ooh! Ooh!"のときに彪馬が上着をガバッと脱ぎだして」

壮吾「彪馬のセクシーが覚醒しました」

彪馬「全然セクシーじゃないから(照)」

洸希「僕は歌とダンスをやっていまして、ビートボックスが大好きです。スパドラにもスクラッチって技を入れた曲があって、それを披露するときは本気で嬉しいんですよねぇ」

■ビートボックスはスパドラに入る前から?

洸希「一応やってはいたんですけど。ジャンくんがビートボックス専門の海外のYouTubeチャンネルを紹介してくれて、あるビートボクサーの動画を観て感動して、それがきっかけで本気でやるようになったんです」

■どうやって習得していったんだろう?

洸希「例えば、こ、これは!っていう技を見つけたら、日本には解説してくれているユーチューバーが結構いるので、その人の動画を観たりとか。できるかな?って繰り返しやっているうちにできるようになったりとか」

■日常生活でもつい出ちゃいそうだよね。

和哉「いや、もうがっつり出てます」

楽「たまに返事がビートボックスだもんね」

洸希「驚いたとき"クシャン"(機械音)って普通にやっちゃってるんで。ホントの無意識だから、この癖は少し直したいと思ってます」

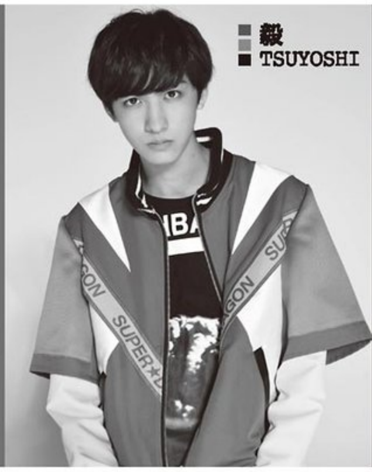
和哉「少しどころじゃないよ!!(笑)」

壮吾「僕は鉄道が本当に好きで、推しは湘南新宿ラインと、東京メトロ東西線と、東海道新幹線です」

■湘南新宿ラインと東西線、なかなか渋い。

壮吾「湘南新宿ラインはE231って車両が


■玲於 REO


■毅 TSUYOSHI


■ジャン JEAN

「ワチャ-ガチャ!」は救い出して笑顔にする曲で。パフォーマンスをするときにも、助けてあげる自然な微笑みみたいなものを意識している

発車するときの音ですね、あとは色合いと。東西線は地上も走るんで、地下と地上の表情のメリハリがとても良くて。あ、あと妙典って駅を快速電車が通過するんですけど、そこの揺れが本っ当に好きで、みたいに言ってると止まらなくなっちゃうんです(喜)」

■鉄道担当ではないですよね?(笑)

壮吾「(笑)。主にダンスをやっています。始めたのは3年前ですね」

■結成から2年弱。サンダーは特に小学生だったメンバーも含めて全員が成長して、年齢的にも一番進化する時期じゃない?

楽「俺はまだ小学生扱いされるときがある」

彪馬「(笑)。身近な先輩である毅くんもやっぱり変声期とか、いろんなものを乗り越えてきているから教えてもらえるし。そういう意味では、年齢層が広くて良かったなって実感する場面はたくさんありますね」

■しかしグループ内に2つのグループが存在するというのは、もちろん仲間だけれども、ライバル心もあったりするのかな、と。

一同「んんー!?」

彪馬「それぞれ曲調が違って。僕たちは明るく盛り上げる曲が多いし、ファイヤーは聴かせる曲をメインにやっているので。しかも最初のワンマンライヴでは、スーパードラゴンと一緒に僕たちサンダーの曲を披露したんですけど、ファイヤーはまだ結成してなくて、4人は本気で悔しがってたし。次のワンマンでファイヤーが結成されて、"MIKAZUKI"を披露したときには、胸に響くミディアムバラードにサンダー全員が感動して」

壮吾「だからイベントでたまに僕たち5人で"MIKAZUKI"をカバーしたり」

彪馬「あとは2つのグループの魅力も詰まっているっていうか。ワンマンだけど3マンライヴみたいな感覚も味わえると思うので」

■おぉ、確かにすごくお得かも! そしてスーパードラゴンの幅をさらに広げる2ndシングル「ワチャ-ガチャ!」が届きました。

和哉「僕も最初に聴いたとき、今までのスパドラの、鋭く尖ったカッコイイ曲とは違った魅力がある曲だなと思いましたね」

■今回も細かくパート分けされてるけど、どういうふうに決まっていくのでしょう?

彪馬「"ちょっとここ歌ってみて"と試しに歌って、フレーズと声が合ってるとか、いろんな面でディレクターさんが決めてくれます」

和哉「たまに"ここと、ここ、どっちがやりたい?"って言ってもらえるときもあって」

■へぇ、面白い。今回もあったんですか?

和哉「カップリングの"Mada Mada"は、ワンコーラス目のラップを僕とジャンくんが担当してるんですけど。"出だしと2番手どっちがいい?"って聞かれたので、出だしです!って即答して」

■まぁそうなるよね、ラップが聴きどころの曲だもん。歌入れは全員一緒にやってるの?

洸希「そうです。ただ録るのはバラバラで、ひとりずつブースに入って歌うっていう」

和哉「で、待っている間はお菓子を食べて」
壮吾「かなりまったりしてますね」
洸希「自分なりに曲のイメージを膨らませる時間でもあるので。そこは無駄にせず、しっかり歌い方を決めて本番に臨むっていう」

■「ワチャ-ガチャ!」の歌入れではどんなことを意識して臨んだのでしょう?

洸希「僕は〈君なら出来るぜ〉っていうフレーズを歌ってるんですけど。自分が守る側の歌なので、笑顔で、だけども爽やかすぎずにというか、そのバランスが結構難しくって」
彪馬「〈オーライ! オーライ!〉のあと、僕と洸希で交互に歌っていくんですけど。〈君なら出来るぜ〉とか、〈夢掴み取れ〉とか、1個1個が大事なフレーズなので、ひとりでも多くの人に届くように心を込めて歌いましたね」

■ダンスについてもお聞きしたいです。

彪馬「今回はアニメ『トミカハイパーレスキュー ドライブヘッド』の主題歌ということで、〈レスキュー!〉とか、〈希望のヘッドライト〉っていうフレーズが入ってるから、〈ワチャ-ガチャ! ブービー ブーギー!〉には車を運転するような振りが付いていて」
壮吾「リリースイベントでは毎回、〈ワチャ-ガチャ! ブービー ブーギー!〉の振り付け講座をやってまして。日替わりの担当メンバーが、お子さんからお母さんまで、みんなが一緒に踊れるように伝授しているんです」

■では、歌のフレーズでもいいし、ダンスの振りでもいいし、ここがお気に入りとか、自分的見どころみたいな部分を教えてください。

楽「実はサビも簡単な振りで、〈オーライ! オーライ!〉はガソリンスタンドのバックオーライみたいにやってて。ちょっと前に颯くんがブログであげてたから、それを見て、サビも一緒に踊ってくれたら嬉しいですね」
和哉「僕は最初のジャンくんとのラップの掛け合いの歌詞がすごく好きで、『ドライブヘッド』に因んで〈S!O!S!〉から始まるんですけど。アニメはお子さんもいっぱい観てると思うから、スピード感溢れるかっこいいラップの中にも、思わず一緒に〈S!O!S!〉って言いたくなっちゃうような要素を勉強していきたいなぁと思ってます」
彪馬「一番のオススメは〈みんなの笑顔のため〉っていうフレーズ。僕は励ますような歌詞を担当することが多いんですけど、〝ワチャ-ガチャ!〟は救い出して笑顔にする曲で、それが強く表われている場所だし。ライヴでパフォーマンスをするときにも、助けてあげる自然な微笑みみたいなものを意識しているので」
洸希「僕は2番Aメロですね。僕が運転をして、後ろにみんなが乗るみたいな動きがあって。そこは9人で大騒ぎしてめっちゃ楽しいだけじゃなくて、小さい子がそれを見て笑ってくれるから嬉しくなっちゃうんです」
壮吾「今回のリリースイベントにはアニメを観て来てくれたと思われる小さなお子さんが本当にたくさんいて、一生懸命踊ってくれる姿がかわいくて。家でもアニメを観ながら一緒に踊ってくれたらいいなって思いますね」

■ただこのあとに控える3曲3様のカップリング。どのバージョンを買うかでスパドラの印象がガラリと変わってしまいそうな。

一同「あぁぁ、確かに!」
彪馬「僕は〝Mr.GAME〟がお気に入りで。今までの、サビをお客さんと歌ったり、拳を振り上げたり、じっくり響かせる歌とも違う、この曲は初挑戦のハウスサウンドで、完全に魅せてノらせる音楽で。最初のラップは全部ジャンくんが担当してるんですけど、フレーズごとに歌い方を変えていて、さらにエフェクトをかけている部分とかもあるので、全然飽きないし、自然とまた聴きたくなっちゃう曲なんです」
洸希「僕は〝Mada' Mada'〟だなぁ。ロックな曲ではあるんですけど、ラップで魅せるところも多いし。間奏の明けの、僕と和哉と毅くんとジャンくん、最後に彪馬でどんどん上がっていくセクションでは、メンバーの協力技で玲於くんを飛ばして、みんなで暴れるっていう、スパドラの中でも上位を争う盛り上がる曲になっているので。ライヴに来た人は一緒に熱くなってくれたらシアワセですね」
楽「もう1曲の〝SHOPPING TIME〟は僕たちがショッピングモールに行ってるような曲で。パフォーマンスもゲームセンターでメダルゲームとか、ダーツ、ガンシューティング、ダンスゲーム、それぞれがいろいろやって、最後にみんなでカーレースゲームで遊んでいるような振りが面白くって、大好きですね」

■ショッピングモールでのリリースイベントでこの曲をやったら、絶対盛り上がるよね。

壮吾「まさに今やっていて。7月まで続くので、ぜひ体感しに来てください」
彪馬「今回知った方は〝自分はちょっと乗り遅れてるかも……〟なんて思っちゃうかもしれないですけど、全然そんなことはなくて。どのタイミングでいつ来ていただいても、スパドラらしい、みなさんを楽しませるパフォーマンスをしますので。いつでも気軽に、スパドラの世界で遊びましょう!」


TYPE01


TYPE02


TYPE03

2nd Single
ワチャ-ガチャ!
2017.06.28 Release
TYPE01 CD ¥926(tax out)
TYPE02 CD ¥926(tax out)
TYPE03 CD ¥926(tax out

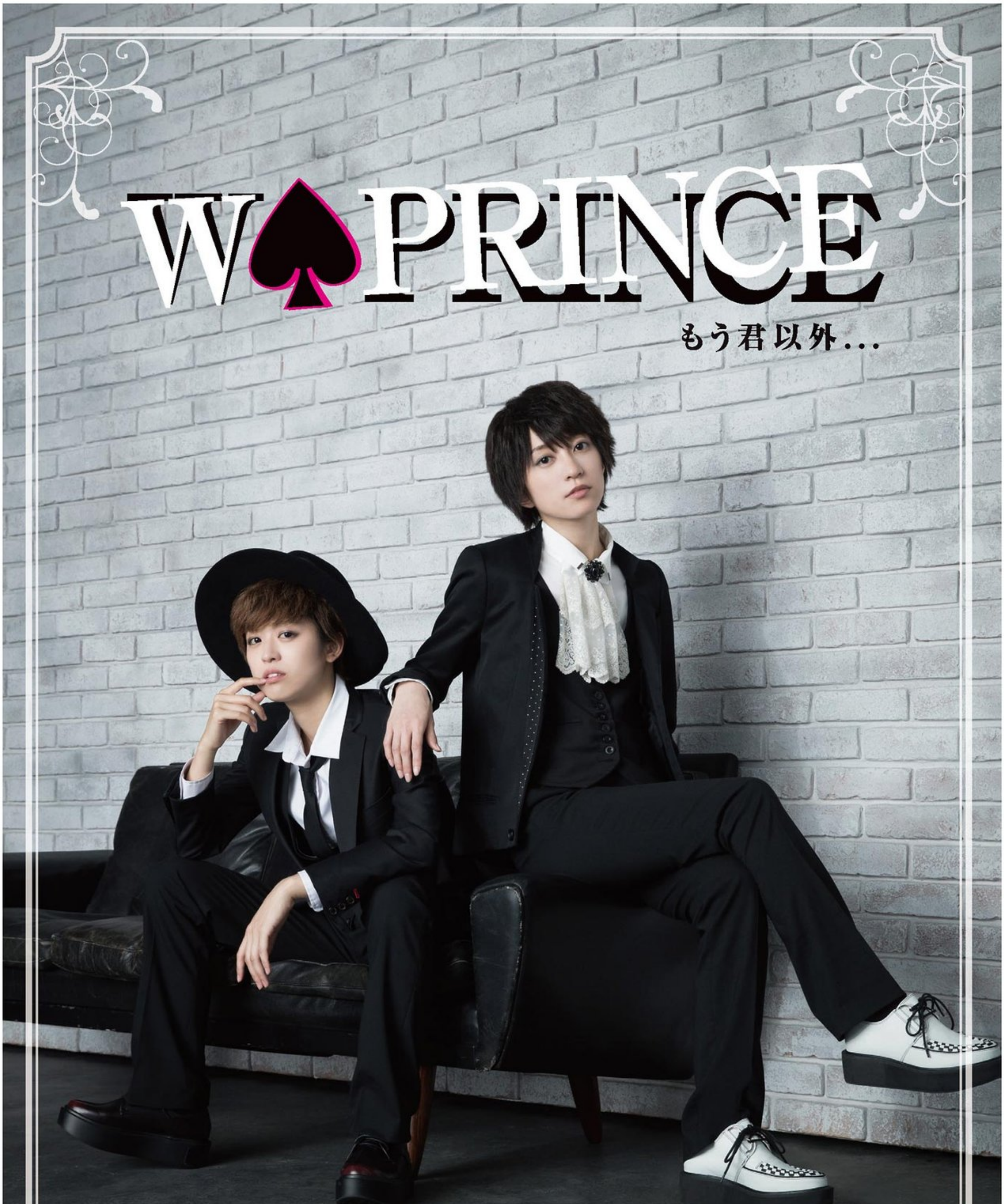
01. ワチャ-ガチャ!
02. Mr.GAME(TYPE01)
02. Mada' Mada'(TYPE02)
02. SHOPPING TIME(TYPE03)



SUPER★DRAGON ⇒
スーパードラゴン。'15年9月結成、初ライヴ。13歳~18歳の9人組ダンス&ヴォーカルユニット。年上組(玲於、毅、ジャン、颯)がファイヤードラゴン、年下組(壮吾、洸希、彪馬、和哉、楽)がサンダードラゴン。'17年1月18日に1stアルバム『1st Impact』をリリースした。8月に東京・大阪にてワンマンライヴを開催。

W♠PRINCE

もう君以外…



初期メンバーの卒業と新メンバーの加入を経て、新生“風男塾”として始動しているさなか、現グループを引っぱるKOUKIとKENSUIがユニット・W♠PRINCE（ダブル・プリンス）を結成！ デビュー曲「もう君以外…」で、メンバー屈指の歌唱力を活かし、これまでにない切ない男心を歌い上げている。今作について、そして、風男塾の今を聞いた。

Text ⇒ 吉田可奈


KOUKI


KENSUI

このユニットは風男塾のためにあるし、決してマイナスなことではない

■初期メンバーの卒業と新メンバーの加入……風男塾が新体制となった直後に、W♠PRINCEというユニットができると聞いて、すごく驚きました。

KENSUI「多分俺らのほうが驚いたよね？」

KOUKI「うん（笑）。でも、虎次郎くんや浦正くんが卒業して、自分たちがトップになったいま、こういったユニットが本格的に始動したということは、2人が周りの方から期待されているんだとポジティブに受け止めました。それに、KENSUIくんとユニットができること自体、すごく嬉しかったんですよ。でも、KENSUIくんはダンスがすごく上手だから、そこを主軸にされたら困ると思い、〝ダンスはできないですけど大丈夫ですか？〟と、確認はしっかり取りました（笑）」

■それは大事な確認ですね（笑）。KENSUIくんはどうでしたか？

KENSUI「ドッキリやと思いましたもん！ その時点で風男塾が新体制になったばかりでしたし、〝KOUKIくんとユニットをやる〟と言われたのも、1人でいる時だったので、絶対に嘘だと思ったんです（笑）。でも、曲はできるし、レコーディングはするし……。ジャケット写真を撮った時点で、〝これは本当や〟って実感しました」

■だいぶ遅い実感だったんですね。

KENSUI「はい。実感したのはついこの間です（笑）。だから、発表するまでは怖かったですね。自分たちが、ファンの人たちにどう受け止められるか、正直不安だったんです。でも、このユニットでやることは風男塾とはまったく違うものなので、プラスに考え、ちゃんとそこで得た力を風男塾に返していきたいと思いました」

KOUKI「きっと、ほかの4人はどうなるんだって思うファンの方もいると思うんです。でも、このユニットは風男塾のためにあるし、決してマイナスなことではないということをわかってもらえたら嬉しいですね」

■このユニットが決まってから、2人の関係性は変わりましたか？

KENSUI「このユニットが始まってからというよりも、虎次郎くんと浦正くんが卒業してからより絆が深まった気がします。どんなことも連絡するし、しょっちゅう話すようになったよね」

KOUKI「そうだね。いざ、2人が卒業してからは、どうなるか心配になるときもあったけど、一緒にグループのことを考えられるメンバーがいて、すごく良かったなって思います。KENSUIくんは、とても心強い存在です」

■いい関係なんですね。そんな二人が歌う「もう君以外…」は、ドラマティックなラブバラードになっています。最初にこの曲を聴いた印象を教えてください。

KOUKI「〝こんなにマジメな曲なんだ！〟って驚きました」

KENSUI「ふざけたり、KOUKIくんが恐れていたダンスチューンなのかもって予想してたんだよね」

KOUKI「そうそう。あとは、風男塾の2.5次元の雰囲気を強めた曲になるのか、アーティスト感が強い曲になるのか、まったく想像ができなかったので、すごくドキドキしていたんです。いざ曲を聴いてみると、風男塾でも歌ったことがないような純粋なバラードで驚きました」

KENSUI「今まで風男塾で歌った曲でも、ミディアムチューンでいい曲はたくさんありましたが、ここまでストレートなラブソングはなかったんじゃないかなと。歌うのが難しかったです」

■たしかに、風男塾では熱い気持ちを歌っていたけど、この曲は繊細な心情が描かれていますからね。

KENSUI「そうなんです。あとは、曲中でハモったり、1人のパートが長いことで、今までにない部分が出せたのはよかったですね」

KOUKI「そういえば、レコーディング中に、スタッフさんに〝この主人公は、相手が好きすぎてどうしようもなくなっているから、その気持ちで歌って〟と言われたんです。バラードだったので、得意だから歌えると思ったんですが、気持ちをしっかり入れながら歌うことはすごく大変でした」

■この歌詞に共感はできましたか？

KOUKI「……共感はあまりできないかな（笑）」

KENSUI「できないんかい!?」

KOUKI「だって、こんなに人を好きになれるって、すごいことだし、エネルギーがいるじゃないですか。歌っているときは感情移入していたので、終わったらすごく疲れちゃって（笑）」

KENSUI「KOUKIくんは、想うより想われたいタイプやな？」

KOUKI「そう！ それです！ ファンの人にそう想ってもらえたら嬉しいですね」

KENSUI「この主人公は、〝愛してる〟を何回も言うくらい切羽詰まっている状態なんですよ。ちょっと女々しいですよね」

■でもだからこそ、2人の新しい部分が出たと思いますよ。

KENSUI「なるほど〜！」

KOUKI「納得してる（笑）。でも、この主人公は、〝悲しい思いさせた数だけ幸せにする〟って言っているんです。ということは、この時点で、何回か悲しい気持ちにさせてるんですよね。それはどうかと思うんですよ！ 女の子を！ いくらそこで〝お前が一番好き〟と言ってもダメ！ 女の子を泣かせちゃダメ！」

KENSUI「そう！ 俺らなら泣かせません！」

■あはは。MVはどんな仕上がりになっているんですか？

KENSUI「今回は出演している女の子が、2人の歌声で輝きを取り戻すというコンセプトだったんですが、それをまったく知らないまま撮影していたんです。撮影中、俺らふたりはこの女の子と付き合っている設定だと思っていました」

KOUKI「そうそう！ そしたら、最後の最後で男性が出てきて、〝付きあってないんかーい！〟ってひっくり返ったよね（笑）」

KENSUI「そうそう。まぁ、おかげで切ない表情ができたのでいいんですけどね（笑）」

■そんな裏話が（笑）。カップリングの「タイフーン・ラバーズ」は、まったくタイプの異なる楽曲ですね。

KOUKI「そうなんですよ！ この曲は一度歌い出したらとまらない、あの魚のような……マグロ？ イワシ？」



KENSUI「ぐるぐる回っている魚?」
KOUKI「そう！ 回遊魚の気持ちで歌いました。リズミカルだし、歌っていて気持ちがいいので、ぜひ一緒に歌ってもらいたいですね」
KENSUI「たしかに、一度乗り遅れたらもう歌えなくなるよね。息継ぎが大変で、慣れないと歌えないんですよ」
KOUKI「そうなんですよ。絶対に盛り上がる楽曲になっているので、ノリノリで聴いてもらいたいです」
KENSUI「"影法師"とか、馴染みのない言葉が歌詞になっているので、面白いと思いますよ」

■さて、このシングルでW♠PRINCEがデビューするわけですが、この2人だからこそできることとはどんなことでしょうか。

KOUKI「ユニットを行なう際、スタッフさんから、俺たちの武器は男装という見た目と、歌唱力。男装アイドルだけど、歌がしっかりと歌えるというのがW♠PRINCEの魅力だと言われたんです。風男塾のアイドル感とはまた違う、アーティスト感を出せて行けたらと思っています」
KENSUI「アーティスト感！ ……照れる（笑）」
KOUKI「あはは。でも、出していきたいよね。それに、最初にも言いましたが、この活動をすることで、絶対に風男塾にもプラスになると思うんですよ。それは、経験値は嘘をつかないということ。これまでの経験から言えること。ちゃんと母体を大きくするためにやっているので、全力で頑張りたいと思います」
KENSUI「そうですね。風男塾とは違う一面を見せるために始めたからこそ、KOUKIくんのいいところを俺がもっと出していきたいです」
KOUKI「え〜！ どこどこ!?」
KENSUI「俺、KOUKIくんが"紙ヒコーキ"（瀬斗光黄ソロ曲）を歌っている姿が、すごく素敵だと思っていたんです。その歌い上げている姿をどんどん多くの人に見てもらいたいです」
KOUKI「あははは（笑）」
KENSUI「なんで爆笑なんですか（笑）」
KOUKI「照れちゃった！」
KENSUI「あとは、歌唱力が魅力の1つだからと言われたからこそ、カバー曲などをSNSにアップしたりと、2人だからできることを続けていきたいです。目で見ても楽しめるけど、耳だけで聴いても楽しめる曲を歌っていきたいですね」

■ちなみに、KOUKIくんが引き出したいKENSUIくんの魅力はどんなところですか？

KOUKI「KENSUIくんの良さは、無限大だと思います。誰よりもエンターテイナーだと思うんですよね。風男塾のときもカッコいいし、面白いけど、"もう君以外…"のMVを観ると、色気がある歌い方をするんですよ。そういう普段とのギャップをW♠PRINCEでは引き出していきたいと思っています」

■たしかに、2人の魅力は、年齢を重ねるごとに深まっていると思います。大人の魅力も出るし、歌に味も出る。今だからこそ、歌えた曲なのかもしれないですね。

KENSUI「そう言ってもらえると嬉しいですね」

■さて、ファンのみんなは、風男塾のことも聞きたいと思うのですが、あらためて今の風男塾をどうしていきたいと思いますか？

KOUKI「今の体制になってから、これまでの先輩たちならどうしていただろうと思う状況が多々あるんです。でも、同じようにしても意味がないので、自分達が作る新しい風男塾にしていかないといけないと思っていて。その結果、後輩たちを過保護にするのではなくて、自分たちで結果を探してもらうという、"放任型育児"のような教育スタイルでやっています」
KENSUI「時に厳しくしてね」
KOUKI「うん。最近はKENSUIくんに相談する時間がすごく増えました。本当にKENSUIくんがいないと無理！ もう君以外……無理！」
KENSUI「俺も！ KOUKIくん以外無理！（笑） あれ、この曲ってお互いのことを歌ってたんだっけ？」
KOUKI「そうなのかも！（笑）」

Ⓑ

もう○○以外…

シングルタイトルにかけて、2人の譲れないものを教えてもらいました。

KOUKI「自撮りアプリかな。最近は本当に盛れるアプリが増えていて、実物とはまったく違う仕上がりになることも多いんです。でも、それをSNSにあげて、実物を見たときに、残念だと思われたらイヤだと思い（笑）、いろんなアプリを探したんです。その結果、『Foody』という、食べ物を撮影するアプリが最適だということに気付いたんですよ」
KENSUI「食べ物を撮る用のアプリなのに?」
KOUKI「そう。目が大きくなったり、顔が小さくなったりはしないけど、ナチュラルにキレイに撮ってくれるんです」
KENSUI「俺は音楽かな。本番前は、大好きなBoAちゃんとm-floがコラボしている"the Love Bug"を必ず聴いています」
KOUKI「あの曲、すごくいいよね!」
KENSUI「うん。最初はただ好きで聴いていたんですが、ある時からこの曲を聴くと、うまくいく気がするようになってきて」
KOUKI「ゲン担ぎだ!」
KENSUI「そうだね。おまじないみたいな感じかな」
KOUKI「初めて知った!」

Debut Single
もう君以外…
2017.07.05 Release
初回限定盤A CD+DVD ¥1,435（tax out）
初回限定盤B CD+DVD ¥1,435（tax out）
通常盤 CD ¥1,000（tax out）



初回盤A

［CD］
01. もう君以外…
02. タイフーン・ラバーズ
03. もう君以外…（Instrumental）※通常盤のみ
04. タイフーン・ラバーズ（Instrumental）※通常盤のみ



初回盤B

［初回A・DVD］
「もう君以外…」Music Video

［初回B・DVD］
「もう君以外…」Music Video
メイキング映像



通常盤

W♠PRINCE ⇒
ダブル・プリンス。男装グループ・風男塾のメンバー・KOUKI、KENSUIからなるスペシャルユニット。今後は風男塾として、"THE HOOPERS"と共に、初のコラボフェスを7月から東名阪にて開催。また、9月27日に初のオールタイムベストアルバムをリリースする。

L → R　teru (Key.)　Seika (Dr.)　珀 (B.)　ミケ (Vo.)　宗弥 (G.)　mag (G.)



Blu-BiLLioN

The Awakening of Revolution

7月12日にリリースされる、シングル「The Awakening of Revolution」。映画『メサイア外伝 -極夜 Polar night-』のタイアップ曲ではあるものの、まずは“自分達がどうありたいか”を優先させて制作したという。結成6周年のツアーを経て、改めて自分たちと向かい合った彼らの目指すものや、ヴィジュアルの変化からもバンドのモードを感じられる今作について語ってもらった。

Text ⇒ 赤木まみ



■現在〝Sing×Dance×Rock〟ツアーの真っ最中。ここまでの手応えはいかがですか？

Seika「今、自分達のやりたいことがすごく明確で、それがファンの方達にもしっかり伝わっている感じがあるので、Blu-BiLLioN史上一番熱いツアーになってますね」

■おお！　そのツアーで今回の新曲「The Awakening of Revolution」はもうやっているんですか？

宗弥「やって、フロアを熱くさせてます」

■早くもみんなを熱狂させてるんですね。この曲は映画『メサイア外伝 -極夜 Polar night-』のオープニング曲にもなってますけど、作る際、何かオーダーはあったんですか？

宗弥「〝Cherry Bat〟（今作2曲目に収録）のほうはあったんですけど、この曲に関してはないに等しいぐらいの感じだったので、自分の作りたいように作らせてもらいました。今、僕は〝ちゃんと作曲しよう〟という思いがあるんですよね。前は、受け手のことを考えて作曲してるところがあって。〝今こういう曲が聴きたいんじゃないか〟〝こういう曲をやると自分達に利があるんじゃないか〟とか、そういうことを色々考えながら作ってたんです。でも1つ前のツアーの時、アニバーサリー最初のツアーだっていうのもあって、〝自分達とは？〟みたいなことをすごく考えたんですよ。その中で、やっぱり代わりがきかない存在でいるためには自分が本当にやりたい曲を提示していかないとダメだな、と。別に今までを全否定してるわけじゃないんですけど、1周回っ

この曲は〝自分達がどうありたいか〟を優先させて作りました

て、原点に立ち返ったというか。だからこの曲は〝自分達がどうありたいか〟を優先させて作りました」

■より純度を高めて作った。

宗弥「その一発目って感じですね、自分にとっては。さぁここから、という意味もあります」

■なるほど。楽曲はゴリッとした男っぽいロックナンバーですよね。

宗弥「そうですね。やっぱりそういうのが自分のルーツにあるので。純粋にやりたい曲を作ったらこうなったって感じです」

■しかも、この曲では歌詞も宗弥が書いてます。

宗弥「とうとうシングルの表題曲にまで顔を出しました(笑)。まぁ歌詞に関しては時間的なこともありつつ、自分で書いてダメだったらミケに全面的にお任せしようと思ってたんです。でも、わりとスッと出てきたので。このバンドの行く道みたいなのを示した歌詞になったかなと思います」

■宗弥の歌詞って、表現がちょっと難しい印象もありますが。

宗弥「それもまた俺らしいのかなって」

珀「普段から宗弥は難しい言葉を使いますからね。たまに俺、宗弥と話してて、こっそり携帯で意味を調べる時がある(笑)」

ミケ「それに宗弥の歌詞って、難しい言葉でもハマりや響きが良くて曲に合ってるし、そういうのはさすがだなって思います」

■うん、確かにね。メンバーはこの曲を宗弥が持ってきた時、どう思いました？

Seika「僕が最初に宗弥に言ったのは、〝天才だなぁ！〟って」

宗弥「毎回言ってくれるんですよ、Seikaさんは。そのたびに勇気をもらってます」

Seika「いやマジで、衝撃を受けました。B-u-B-i-L-L-i-oNの中でも今までになかったタイプの曲だと思いますし、構成も複雑で、演奏面も難易度の高い仕様なので、プレイする側としてもやり甲斐がありましたね」

■ドラムはかなり難易度が高かった？

Seika「ドラムもですけど、ギターがとにかく半端なくて、ヤバすぎる(笑)。magはすげー大変だったと思います(笑)」

mag「今回はテクニカルなアレンジになっているので大変でした」

■間奏のギターソロとかも、ツインギターならではのハモリが印象的な仕上がりになってますよね。

mag「いつもはソロで宗弥がハモリを入れてきても、そのまま流してたんですよ。でも今回はハモリ弾いてくれって言われたのでチャレンジしてみました」

宗弥「まぁ、今までの過去曲でもツインギターソロはあるにはあったんですけど、ここまでガッツとハモったのは初めてで。なので、ちょっとしたハイライト感はありますよね。ライヴでもこれは結構聴きどころかな……」

■歌はどうでした？

ミケ「歌も難しかったです。レコーディングの時、変拍子に入ったり戻ったりするのがうまくできなくて。今まで楽器の変拍子はよく聴いてたんですけど、そこにヴォーカルも入るってパターンは、これまであまり馴染みがなかったので(笑)、何度もやり直しました」

珀「どのパートも難易度は高かったですけど、僕、宗弥の持ってくる曲が毎回楽しみで、〝今回はこう来たか!?〟みたいな」

teru「あ、わかるそれ」

珀「で、この曲も聴いた瞬間、震えが来る程カッコイイと思ったし、その曲で自分もベースを弾けるっていうのが嬉しかったです。同じバンドのメンバーながらファンというか」

宗弥「じゃあCDを買ってもらわないとね？(一同笑)」

■2曲目の「Cherry Bat」は、これも同じく映画『メサイア外伝～』の主題歌そしてエンディング曲になっています。

宗弥「こっちはオーダーみたいなのがありまして。映画のストーリー的に湿っぽい終わり方は違うよねっていう話から作り出した感じです」

■タイトルの「Cherry Bat」はどういうところから？

ミケ「歌詞が〝メサイア〟の内容にも沿ってるんですけど。ダークヒーロー的な主人公のイメージが欲しいと言われてたんで、光の当たらないところで生きてるコウモリをテーマにして、要はそれが光を求めて初めて飛び立つ時、ということで〝Cherry Bat〟にしました」

■なるほど。この曲も構成が複雑で面白いですよね。途中、三拍子になったり。

宗弥「そうですね。ただスタスタいってるような疾走感だけの曲だったら、それこそ他のバンドにもあるだろうし。自分が作曲する意味みたいなのを考えて作ったら、やっぱり自分の好きな世界観になったというか」

teru「この曲って最初からインパクトがあるじゃないですか。自分の中ではマイケル・ジャクソンのようなイメージもあって」

宗弥「えぇ!? 意味わかんないそれ(笑)」

ミケ「マイケル感はゼロだよ(笑)」

teru「俺はそう思ったの！(笑) 踊れる感じもあるし。尚且つ、疾走感もあって、カッコイイ曲だなぁと」

■ちなみにteruくんはキーボードを弾く時、マイケルをイメージしたんですか？

teru「いや、してないです(笑)」

■わかりました(笑)。teruくん、なかなかいい味を出してると思います(笑)。そして、「現代型パラノイア」(通常盤に収録)は珀の作曲で。珀が作る曲は、ライヴにピッタリの曲が多いなと。

珀「そうですね。1つのシングル作品に収録される曲として、僕はわかりやすさを出したいなっていうのがあるんです。なので、今回もパッと聴いてライヴに直結するような曲にしようと思って作ったんですけど、歌詞で言うと〝(It's killing me)〟のところでみんなに手を上げて叫んでもらいたいなっていうのもありますし、サビのパワーコーラスも一緒に歌ってもらいたいなとか、とにかく一緒に楽しんでもらいたいなっていうのがすごくありますね」

■絶対盛り上がると思います。で、歌詞はネット民に毒を吐いてるというか。

ミケ「ニュースとか見てると、今の学校って見えないところでイジメがあったり、しかもスクールカーストっていう、学校内で身分の上下があったりするみたいなんですよ。そういう隠れて卑怯なことをするヤツらに何かを感じ

て書いた歌詞ですね、これは。まぁ歌詞はネガティブなまま終わってるんですけど、ライヴではここに込めた想いを共有しながら、みんなで熱くなれたらなと思います」

■あと今回、ビックリしたのがアーティスト写真で。今までポップだったりカジュアルだったりした衣裳が、全員黒になってて。今、そういうモードなんですか？

ミケ「メンバーも年齢を重ねてきたんで、目が痛くなるような派手な色はもうあまり……（笑）」

宗弥「３色以上は目がシバシバしてくるっていうね（笑）」

■いやいや（笑）。今回の表題曲が骨っぽいロックチューンだから、それに合わせたとか？

宗弥「いや、曲先行っていうよりも、アー写は〝これからBlu-BiLLioNはどうあるべきか〟っていうところを映してると思います。良くも悪くも今まで自分達は異端だったと思うんですよ。必要以上にカジュアルでちょっとアイドル的にも見られちゃったりとか。でも、言ってても我々はバンドマンだし、曲も必死こいて作ってるし、メッセージ持ってバンドをやってるんで。いったんパブリックイメージを締め直したいというか。自分達は表現者で、表現したいものがあるんだってことを、もう一度分かってほしいなっていう」

■アー写自体がそういうメッセージなんですね？　一回ここでリセットして、この先またポップな見せ方になるかもしれないし。

宗弥「そうですね。でも、３色以上は目が限界なので（笑）。自分達が今何を考えて、これからどうやっていこうっていうのは、それこそ今回のツアーでダイレクトに出しているつもりですし、お客さんもそれをライヴで、自分の目で確認してもらえたらなと思います」

■そういう話を聞くと、ツアーファイナルの恵比寿ザ・ガーデンホールがますます楽しみになってきます。

ミケ「そうですね。今回のツアーで〝僕らは本当はこうしたかったんだ〟っていう部分を妥協せずに出しているんですよ。ツアーファイナルは、その１つの完成形になると思うので、見逃さないでほしいなと思います」

宗弥「僕ら自身、新たなステージに向かうために、ファイナルで意味のある大きな一歩か二歩を踏めればいいなと思っています」 B

New Single
The Awakening of Revolution
2017.07.12 Release
初回盤A CD+DVD ¥1,800（tax out）
初回盤B CD+DVD ¥1,800（tax out）
通常盤 CD ¥1,500（tax out）



初回盤A　初回盤B　通常盤

［CD］
01. The Awakening of Revolution
02. Cherry Bat
03. 現代型パラノイア ※通常盤のみ
04. The Awakening of Revolution（カラオケ）

［初回盤A・DVD］
The Awakening of Revolution -Music Clip-

［初回盤B・DVD］
「The Awakening of Revolution」オフショット

Blu-BiLLioN ⇒
ブルービリオン。'10年2月、結成の6人組バンド。現在開催中のBlu-BiLLioN 6th Anniversary TOUR「Sing×Dance×Rock」が、7月2日恵比寿ザ・ガーデンホール公演にてファイナルを迎える。7月14日からは、所属レーベルのイベントツアー「治外法権VOL.7」がスタート。

For this summer
これからくる夏にやりたいことを教えてもらいました!

■この夏、やりたいことは？
ミケ「teruくんはあれでしょ？　ラジオ体操に参加して子供と遊ぶっていう（笑）」
teru「ずっとやってないしマジでいいかも、ラジオ体操。だけど今でもやってるのかな？」
ミケ「ラジオ体操のハンコもらうのがアプリになってたりしてね。ラジオ体操スタンプアプリとか（笑）」
宗弥「イマドキだなぁ。何か大切なものをなくしてる気がするよそれ（笑）」
珀「僕はちょっと前から水をとにかく飲むっていうのを心がけてて、それを始めてから体調もいいんですよ。なので、今年の夏は水分をいっぱい摂って、汗もいっぱいかいて、一夏かけて完全なるデトックスを目指そうかなと」
宗弥「女子力、高!（笑）」
Seika「僕はできれば海外に行きたいですね。今一番行きたいのはセブ島なんですよ。ちょっと前にも行ってきたんですけど。僕は写真を撮るのが好きなので、観たことのないところにいって、写真を撮って、残したいなって」
■セブ島ってなんかカッコイイね（笑）。
mag「じゃあ俺もセブ島で（笑）。でも夏はいつも治外法権があるので、まぁ実際は髪を切るぐらいですかね（笑）。夏だし、サッパリしたいなと（笑）」
ミケ「僕は体を鍛えて脱げるようにしておきたいです」
宗弥「俺はなんだろう？　外国人の友達を作って英語を学びたいかな。バンドで海外ツアーをやりたいんですよ。でも教材買って勉強するのはイヤなので、喋れる人と会話しながら習得したいなって」
ミケ「ソウヤサン、ゲンキデスカ」
宗弥「てか、それ英語じゃないでしょ？　別に俺、外国人からカタコトの日本語を学びたいわけじゃないから!（笑）」





なくて、時間がかかりましたね。でも、今回のアルバムジャケットや4thシングルのMVを撮影するためにハワイに行って。その時にちょうどデビュー1周年を迎えたので、改めてこの1年を振り返ったりしていたら、"この先、こういう風に歌っていこう"というのが見えてきたんですよね。で、この曲ができました」

■"Leola"という名前はハワイ語で"太陽の声"という意味を持つそうですが、やっぱりハワイはご自分の原点のような場所なんでしょうか?

「そうですね。帰ってきた次の日にこの曲ができたくらい、感じるものがあったので」

■それはすごいパワーですね!?

「あはははは(笑)。ホントにハワイに行った意味があったなと思いましたし、私の名前はハワイから生まれたんだなっていうのを改めて感じました。ちなみに、初回生産限定盤にはハワイで撮った"コイセヨワタシ。""Mr.Right"のMVやメイキングも収録されていて、一緒に旅をしているような気分を味わえると思うので、そちらも楽しんでいただけたらと思います」

■特にオススメしたい見どころは?

「メイキングは、私がMVを自撮りしているのを遠くからスタッフさん達が見守っていたり、"こんな感じでワンカット撮影してるんだ!"っていう現場の大変さが伝わるのでオススメです(笑)。MV→メイキング→もう一度MVの順で観てもらえると、より楽しいんじゃないかなって思いますね」

■また、アルバムの曲順も、1曲目に「Sunshine+Voice」という歌詞のない曲が収録されていたり、そこからゆったりと「Summer time」へ繋がって、夏の始まりを告げるような流れになっていたり、心地良い波を感じました。そこもこだわりだったりするのかなと。

「そうですね。まず、この1枚をスタートさせるにあたって、1曲目に声だけの曲を入れたんですけど……これは、"太陽の声"という意味のある名前で活動するからには自分の声の在り方を考えなきゃいけないと思って、自分の武器を活かした曲として制作して。その、"Sunshine+Voice"で心の準備をしてもらった後には、"ここからLeolaの音楽が始まります"っていう想いで、私の音楽の軸にある"ビーチミュージック"を一番象徴している"Summer time"を収録しました。その後の流れは"次に自分が何を聴きたいか?"など考えて。人間は1年、または1日の中で気持ちの浮き沈みがあると思うんですけど、その感情の波にこの曲達が上手く乗っていったらいいなぁというイメージで並べていきましたね」

■"こういう気持ちの時にはコレがオススメ!"という曲は何かありますか?

「うーん、そうだなぁ。6曲目の"It' s a "New Day" "っていう曲は"Let it fly"(2ndシングル)のカップリングにも収録されていた曲なんですけど、1日の終わりとか始まりとか、ちょっと1人でふっとリラックスしたい時に聴いてもらえると、きっと小さな幸せに目を向けたいなって思ってもらえる曲だと思いますね。で、この曲を聴いて心をリセットしたら、7曲目からの"Rainbow""Mr.Right""I believe"を聴いていただけると、"前向きな気持ちで夏を楽しみたい!"っていう勢いのある3曲なので、似合うのかなと思います。ぜひ聴いてみてください」 B

Leola ⇒
レオラ。3月14日生まれ。シングル「Rainbow」で、'16年4月27日にデビュー。今後は、7月22日(土)・23日(日) 海の中道海浜公園野外劇場にて開催される「NUMBER SHOT 2017 」に出演予定。詳細は、公式HP(www.leolalala.com)へ。

Leola

昨年のデビューから約1年2ヵ月を経て、ソロシンガーLeola(レオラ)の待望の1stアルバムが完成! 先行シングル「コイセヨワタシ。/Mr.Right」も含めた、制作秘話を語っていただきました!

Text ⇒ 斉藤 碧

■1stアルバム『Hello! My Name is Leola.』が7月12日にリリースとなりますが、まずはその前に、6月28日リリースの4thシングル「コイセヨワタシ。/Mr.Right」(アルバムにも収録)のお話から聞かせてください。「コイセヨワタシ。」は、映画『兄に愛されすぎて困ってます』(以下、『兄こま』)の挿入歌だそうですね?

「そうなんです。なので、映像も全部観させていただきましたし、それこそ、このシーンだったらこういう曲が流れたらいいなぁっていうのを考えた上で歌詞を書かせていただきました。『兄こま』は、ヒロインのせとかちゃん(土屋太鳳)が"急にいろんなイケメンにモテるようになって困っちゃう!"っていうストーリーなんですけど、最終的に本当に自分が恋をしている相手が誰かが分かった時に流れるのが、この"コイセヨワタシ。"で。"この人が好きだ!"って思った瞬間の開放的な感じというか、"空も飛べちゃいそう!"みたいな、ウキウキワクワクした気持ち。でも"ちょっと大丈夫かな?"っていう不安や切なさ、"やっぱり後悔しないで向かっていきたい!"っていう、恋が始まる瞬間の甘酸っぱい感じを曲にしました」

■ヒロインが高校生ということで、高校生ならではのキラキラ感は意識しましたか?

「歌詞を書く時は、結構砕けた言葉を選びました。特にAメロには"本当に、もう困ってます。何にも手につかないのです。"っていう歌詞があるんですけど、そこは授業中に女の子達が好きな人のことしか考えられなくて"手に負えない!"みたいな状況を想像して、ポップでキュートな女の子の気持ちを表現しましたね」

■ちなみに、アルバムに収録される新曲「Your melody...」も『兄こま』挿入歌ですが。

「"Your melody..."はどちらかというと、せとかちゃんに恋をする男の子達の気持ちを表現した曲になっていて。切なさを全面に推したいという想いもありましたし、素朴でもあり、でも、スケールの大きさも感じられるようなバラードを目指して制作しました。誰かを愛すると、それがキッカケで何かを好きになれることがあると思うんですよ。たとえば、好きな人が聴いている歌を自分も自然に好きになるとか。そういう、恋をすることで新しく好きなものに出会える喜びだったり、温かさを表現したいなという想いがありました」

■"暑い夏の日 あの歌を好きになった あなたが好きだと よく口ずさんだ歌"という歌詞が印象的ですが、きっと、この「Your melody...」も誰かにとっての忘れられない曲になるんでしょうね。

「わぁ~そうなったら嬉しいですね! 私自身も、今までに生きてきた中で、要所要所でテーマソングだと思えるような曲と出会ってきましたし、そういう曲って、イントロを聴いただけで当時の情景が浮かぶなぁって今でも思うので。自分の曲もまた、そんなふうに成長してくれたらいいなと思います。私も作詞する時は、聴いてくださるみなさんに寄り添えるように、みなさんの立場に立って、より伝わりやすくて身近に感じられる言葉で書くことを意識しています」

■正直なところ、20代の私としては「コイセヨワタシ。」の持つキラキラ感は眩しくて……(笑)。どちらかというと、「Your melody...」や「Mr.Right」のほうがしっくりきました。

「"Mr.Right"(dTV×FOD共同制作ドラマ「Love or Not」主題歌)は、今の自分に一番近い言葉というか、私の周りにいる女の子達の考えを歌詞にしたんですよ。恋をして、失恋をして、また次の恋に進んで。でも、それも上手くいかなくて……という繰り返しの中で、誰が運命の人なのかを探してるのが20代なんじゃないかなって思うんですけど。それでも諦めずに、赤い糸の先に運命の人がいるって、無邪気に思えたら素敵だなと思うんですよね。それに、私自身もそうでありたいなと思って、こういう歌詞を書きました」

■"(Mr.Wrong...?! (*゜x゜*))カーン"っていう台詞のところも、可愛らしくていいですよね。おちゃめ。

「あはははは(笑)。女性の強さを前面に押し出すよりも、可愛らしさやポップな表情を忘れない女子でいたいので。この曲でも、ちょっと面白い部分だったり、抜け感みたいなものを意識して入れてみました。でも、レコーディングは何度も録るのが恥ずかしかったですね(笑)。私の場合、顔の表情が声にそのまま出るので、実際の表情やジェスチャーも"Mr.Wrong...?!"っていう感じにして録っていたんですよ。だから、私のレコーディングの様子はなるべく出してほしくないです!(一同笑)」

■まぁ「コイセヨワタシ。」のレコーディング風景は、『兄こま』コラボMVで観られますけどね。

「そうでした(笑)。私としては恥ずかしいですけど……そういうところも併せて聴いていただけると、楽しいかもしれません」

■では、アルバム全体のお話に移って。どんな1枚を目指して『Hello! My Name is Leola.』というアルバムを制作していったのか、改めて教えてください。

「デビュー前に感じていたこととデビュー後に感じたことと、Leolaの全部が詰まっている1枚になるだろうなっていうのは作る前から分かっていたので、名刺代わりの1枚にできたらなって思っていましたね。なので、こういうタイトルにしましたし、タイトルを『Hello! My Name is Leola.』にした時から、それに繋がる曲を最後に入れたいなぁと思っていて、12曲目に"Hello, My name is..."を収録しました」

■この曲はスムーズにできあがったんですか?

「"こういうイメージの曲を作りたい!"という想いが強いからこそ、しっくりくる曲がなかなか作れ



初回生産限定盤A



初回生産限定盤B



通常盤

1st Album

Hello! My Name is Leola.

2017.07.12 Release

初回生産限定盤A CD+DVD ¥3,241(tax out)
初回生産限定盤B CD+BD ¥3,889(tax out)
通常盤 CD ¥2,593(tax out)

[CD]
01.Sunshine+Voice
02.Summer time
03.Let it fly
04.コイセヨワタシ。
05.Your melody...
06.It's a "New Day"
07.Rainbow
08.Mr.Right
09.I believe
10.I & I
11.The way
12.Hello, My name is...

[DVD/Blu-ray]
Music Videos
特典映像(Making&Hawaiiロケ特典映像)



[L to R] SATORU : DJ　MASATO : Vo.　REI : Vo.　U : Vo.

NEW RELEASE

U「これは歌も今までで一番時間がかかりました。一回全員が全テイク録り終わってから、4人で聴き直して"なんかちょっと違うね"ってなって、また一から全部録り直したので」
MASATO「全部で13時間位かかったのかな?」
■今って自分のパートを録る時だけスタジオに入るみたいな、バラバラに録るグループも多いですけど、THE BEAT GARDENの場合は?
U「僕らは全員でスタジオに入ってます。歌録りの時、SATORUはスタジオに座ってるだけなんですけど、ブースの小窓から"いいね"(サムズアップ)サインを送ってくれたりとか」
■SATORUくんが歌のジャッジをしてるの?
SATORU「いや、ジャッジじゃないですけど、ずっと歌い続けてると何がいいか分からなくなってくるじゃないですか?　だから良かった時は"いいね"サインを送るようにしてるんです」
U「良くないと"いいね"はくれないので、SATORUの"いいね"は大事です(笑)」
■相変わらずの信頼関係や仲の良さが伺える、いい話だと思います(笑)。そして、「Carridaway」はミディアムのバラードで。
REI「この曲はドロップのメロディ感をいかにキャッチーにできるかってことに一番こだわって作ったんですけど、こういうミディアムなものって、僕ら今まで意外とやってなかったんですよ。なので、これも結構挑戦でした」
■3曲目の「Walk This Way」もWolf Junk&U.M.E.D.Y.が作った曲を歌っていて、これもある意味挑戦だし。今回もいろんな新しさが詰まった1枚になりましたね。今は次々アイデアが沸き出てくるような状況なんですか?
REI「そうですね。1曲作ってる間に"次はこういうエッセンスを入れてみよう"とか、どんどんやりたいことが出てきて。チャレンジしたいものがいっぱいあるという感じです」
U「それと、やっと今メジャーの速度に目が慣れてきたっていうのもあると思うんですよ。インディーの時、例えば時速70キロで走ってたのが、メジャーに来て100キロになって、その100キロに目が慣れてきた、みたいな。だから今、すごく楽しくやれてます」
REI「うん、楽しんでます。で、楽しんでできてるのは、みんなでディスカッションしながら作れてるっていうのも大きいんじゃないかなと。各々一人でやってたら煮詰まるかもしれないけど、僕らはお互い助け合いながら制作できているので。それも強みだなと思います」
■うんうん。チラッと聞いたところによると、今、アルバムも制作真っ最中なんだとか。シングルでこれだけ毎回違ったタイプの曲が提示されると、アルバムは一体どんなことになるのか……最後に、どんなアルバムになりそうか、軽くヒントだけ教えてもらえますか?
U「アルバムはあと1曲を残すのみ、ぐらいのところまでできてるんですけど、いろんなエッセンスの入ったものになると思います」
SATORU「全部いい曲って言ったらヘンですけど、1曲1曲それぞれちゃんと顔のある曲ばかりなので、トータルでずっと聴いていられるような1枚になるんじゃないかなと」
MASATO「相当カッコイイと思いますよ」
U「ヤバイよね?」
MASATO「うん。めっちゃヤバイです!(笑)　楽しみにしててください」 B

THE BEAT GARDEN ⇒
ビートガーデン。3VOCAL+1DJ。エレクトリック・ダンス・ロックという独自のジャンルを築く。'12年U、MASATO、REIが大阪で結成。'15年にSATORUが加入し現在の編成となる。'16年7月27日に1stシングル「Never End」でメジャー・デビュー。ワンマンライヴ"Sprout Tour"を9月に大阪、東京で開催する。

THE BEAT GARDEN

リリースごとに、エレクトリック・ダンス・ロックでの新たな可能性を提示している彼ら。
新曲は夏フェスで盛り上がること間違いなしの、しびれる強力ロックチューン!

Text ⇒ 赤木まみ

■最初「FLOWER」というタイトルを見て、優しくふんわりした曲なのかなと思ったら……ゴリッゴリのロックチューンで。

U「裏切られましたか?」

■いい意味で裏切られました(笑)。めっちゃカッコイイ曲で思いっきりアガりました。作曲はREIくんUくんの共作なんですよね?

REI「はい。僕はリリースのたびに"もっと貪欲にやってやりたい""もっとクリエイティブにやってやりたい"ってすげぇ思うんですよ。その思いを自分達の楽曲にどう落とし込んでいくか、色々考えていて。プラス、今回は"夏"というテーマが1つあったので、夏フェスとかでみんなで楽しめる曲になったらいいなって、Uさんとも話しながら。これはそういうところから広げていった感じですね」

■まさに夏フェスで映えそうな曲ですよね。

U「そうですね。ロックファンの人達と一緒に踊れるような曲になればいいなっていうのも、裏テーマとして1つあったので。だからこの曲ってBメロがないんです。ライヴでより疾走感が出る曲にしたいなってことで、敢えてBメロを省いたという」

■なるほど。

U「で、歌詞では恋愛のことを歌ってるんですけど。失恋って"恋"を訓読みすると"シツコイ"になるじゃないですか? 僕、まさにその通りだなと思って。男って好きだった人が剥がせないシールみたいにしつこく心に残ってて、剥がそうとすればするほど黒く残っちゃう生き物だと思うんですよ。実際、僕も大きな恋愛が残ってて、いつかそれを歌詞にしたいと思ってたんですよね。で、今回、REIのトラックが来た時に、このブリブリのギターリフに恋愛の歌詞を乗せたら面白いんじゃないかなと思って書き出したんです。でも書き出したら、浮かんだ画が自分じゃなかった。いつもだったら自分の喜怒哀楽で書くんですけど、これは主人公が自分じゃなかったので、書いた後に"この主人公は次にどういう行動を取ると思う?"ってMASATOに聞いて。それで今回歌詞にMASATOも入ってもらったんです」

MASATO「Uさんって恋愛に関してはすごい奥手なんですよね。恋愛観が僕と違うので、歌詞はUさんが書いたものを見て、僕の中で同じストーリーを浮かべながら、そこに自分のエッセンスを入れていく、みたいな感じで書いていきました」

■UくんとMASATOくんの恋愛観では、何が一番違うんですか?

U「この歌詞は"君の未来は僕が奪いにいく"っていう結論になってるじゃないですか。そこはMASATOのテイストで。僕がもともと書いていたのは、いつもみたいに片想いのまま終わるストーリーだったんですよ」

■MASATOくんは好きだったら諦めずに彼女を奪いに行くタイプ?

MASATO「どちらかと言ったらそうですね。まぁそれは……自信ですかね」

U「ウザ!(笑)　でもホントそこは僕と大きく違うところで。この曲のギターリフにもそっちのほうがマッチしてると思ったので、じゃあ歌詞はそっちの方向にしようと」

SATORU「カッコイイですよね、この歌詞。2人の言いたいことが詰まってる感じとか、このロックな曲で恋愛をテーマにしてるっていうのもギャップがあっていいなと」

■ちなみにSATORUくんは、好きな人を失いそうになったら奪い返しに行くほう?

SATORU「奪えそうだったら奪いに行きます」

REI「僕もMASATOさんと一緒で、奪いに行く派かもしれない」

■ちょっと意外。MASATOくん、REIくん、SATORUくんの3人は行かない派で、むしろUくんが行きそうなイメージがあるけど。

U「僕は一番行かないですね。この歌詞のもとになった人は、学生時代、4年間好きだったんですけど、その4年間で1回しか話せなかったくらいですから(笑)。それが今回"FLOWER"という作品になって、歌の中で彼女の未来を奪いに行くことになったので、ほんと良かったなと思います(笑)」

■MASATOくんのおかげでもあるね、それは(笑)。

U「いや本当に(笑)」

■あと、この曲って洋楽テイストですよね。というか、この曲に限らず、THE BEAT GARDENの曲はいつも洋楽的な印象がありますけど、意識的にそうしてるんですか?

REI「それはたぶん、Uさんの言葉のハメ方だったり歌い方っていうのも大きいと思いますし、あと僕は常に洋楽を中心に聴いているので、その影響もあるのかなと思います。ただ、今回はトラックを作る時、すごく悩んだんですよ。この曲はバースの部分にロック要素があって、サビになると打ち込み要素が入ってくるっていう構成で作ってるんですけど。テンポ感も含めて、自分のエッセンスにないものだったので、どの音を生にして、どの音を打ち込みにしたらいいのか、今までで一番悩みました」

■結構挑戦だった。

REI「挑戦でしたね。で、最初にUさんに曲を投げた時は、ビート部分が全部打ち込みだったんです。でも果たしてそれでカッコイイのか?と思って。そしたらUさんから"打ち込みだとサラッと聴けるけど何か引っ掛かりが足りない"っていう意見をもらって、じゃあちょっと生にしてみようと。サビのリズムの置き方も四つ打ちじゃなくて、ドッカドッカドッカっていう生でよく使われてるリズムにしたりとか。かなり試行錯誤しつつ。でも結果、バースのメロディのカッコ良さとサビのメロディの艶感を消すことなくエッジーな形にできたので。メンバーに頼りながら挑戦して、また1つ新しいものができたなと思っています」

■レコーディングはスムーズに?



初回盤A



初回盤B



通常盤

4th Single
FLOWER
2017.07.19 Release
初回盤A CD+DVD ¥1,806(tax out)
初回盤B CD+DVD+タトゥーシール ¥1,620(tax out)
通常盤 CD ¥1,111(tax out)

01. FLOWER
02. Carried away
03. Walk This Way
04. FLOWER (Instrumental)
05. Carried away (Instrumental)
06. Walk This Way (Instrumental)



[L to R] 服部栞汰（はっとりかんた）: G. 広瀬臣吾（ひろせしんご）: B. 井上竜馬（いのうえりょうま）: Key.&Vo. 木村雅人（きむらまさと）: Dr.

■木村さん、今回大変でしたね。
木村「制作期間が短かったので、バンド全体で練習する時間がとれなくて。各々がパソコンでアレンジしながら考えるくらいしかできなかったんです。だから、いざ当日に合わせてみるとパソコンでやってたときと感覚が違って、合わへんなっていうのがけっこうあって。レコーディングしながらリズムアレンジを変えていくことが、今回はめっちゃ多かったです」
■スタジオでそうなると、ドキドキしますね。
広瀬「ドキドキします」
木村「作ってるときは曲のクオリティもそうですけど、ホントにアルバムとしてのバランスとかが不安で。でも作り終えて聴いたときに、すごくきれいにまとまってるし、クオリティも前作より上がってると思えたんで。この期間でこれだけのことができたって、すごく自信になりました。なんかもう何が来ても怖くないなっていう思いがあります」
広瀬「大きく出たね（笑）」
服部「でも僕も同じ気持ちですね。もう本当に1曲ごとに必死にやっていってたんで、次の曲に手をつけると、"あれ、1個前の曲、どうやったっけ?"って。もちろん最善を尽くしたつもりですけど、ちゃんと最善になってたんかなっていうモヤモヤした想いがずっとあったんで。できあがって聴いて最善を尽くせたなって思えたときは、ホッとしましたね」
井上「僕もすーごい不安やった。これでいいかな、大丈夫かなっていう楽曲自体への不安が。今までみたいに、作った曲をじっくり聴いて確かめる作業ができなかったんで。ぼんやりとですけど、このあとはまたアルバム……って先を見据えると、このミニアルバムがすごく大事な位置に属するんやろうって思ったから。だからこそ、この楽曲で大丈夫かなぁって不安に感じてたんですけど、録って聴いて、あぁええ曲やなぁってしみじみ思えるまで、ドキドキでした」
■それが達成感にもつながることだったり。
広瀬「そうなんです。結果、すごい達成感のある1枚になりましたからね。『プルースト～』までは高校生くらいからの貯金でやりくりしてたみたいな感覚で。で、『プルースト～』で貯金がなくなってしまって、新しく貯金を生み出さないといけないって感じでミニアルバムは取り組んで。それで新しいものを生み出せた感じはしてるので、なんか限界超えられそうだな、みたいな。これから先へ向けての前向きな気持ちになりましたね」
■だからなんでしょうね、聴いていると歌詞の切り口やテーマやサウンドに、今のSHE'Sの前向きなモードを感じた気がしました。一段落して、ここからまた始まるよっていう。
井上「そうですね、そういう感覚でしかもう、書けなかったし。そのリアル感がすごく詰まってる作品やからこそ、『Awakening』っていうタイトルになったと思います」
■そして9月からはツアーも始まりますね。
井上「"after awakening"というタイトルでストリングスのカルテットを迎えてやります。そういう形でのライヴは初めてなんですけど、バンドだけでやる曲もあるし。弦の入ってない曲にも弦を入れてみたいし」
■そのツアーでまた弾(はず)みがついていきそうな。そういう予感は?
井上「してます。確信に近い感じもあるし。だからすごく楽しみだったりしますね」 B

SHE'S ⇒
シーズ。大阪発4人組ピアノロックバンド。'14年7月から3枚のミニアルバムをインディーリリース。'16年6月、シングル「Morning Glow」でメジャー・デビュー。'17年1月に1stフルアルバム『プルーストと花束』をリリースした。9月29日から東名阪ホールツアーを開催する。

SHE'S

1stフルアルバムのリリースから、早くもニュー・ミニアルバム『Awakening』が到着。これまでで最もタイトな制作ながらも、初夏に相応しい透明感溢れる良作となった

Text ⇒ **前原雅子**

■前作のフルアルバム『プルーストと花束』から5ヵ月。かなり早いペースですね。

井上「そうですね。ワンマンツアー前にトラックのレコーディングは終えてて、ツアー中に歌録りをしていた感じでした」

■すると、曲作りはいつ頃から始めたんですか?

井上「1月、2月に。ほんとは『プルースト〜』のレコーディングを終えた去年の11月とか12月にプロモーションの合間を縫ってやれてたらよかったんですけど、いかんせん作り終えた1ヵ月はなんもできなくて。なんか燃え尽きた感がすごくあって、何も頭に浮かばなかったですね」

■次はミニアルバムと決めていたんですか?

井上「いや、6月、7月くらいにシングルか、何か作ろうかっていう話はチーム全体でしてて。でもシングルを作ろうって決めて作るのもどうなん?めちゃめちゃいい曲ができたらシングルで出せばいいし、そのへんはなんも考えんと作れるだけ作ってみたらっていうことになって。だったらミニアルバムの体でいきますか、って感じでスタートしたんです」

■その段階で、ミニアルバムとしてのビジョンがなんとなくでもあったりしました?

井上「いや、もうビジョンとかは全然。とにかく今やりたいことというか、書きたい曲を書いていくっていう作業でしかなかったです」

広瀬「そういうことさえ考える時間がないほど、カツカツだったですね」

服部「そんな考えてる時間があったら曲作ろうや、みたいな」

井上「かなり切羽詰まってて。僕のなかで一回審査してからメンバーの審査があるみたいな運びなんですけど。で、聴かせて、なんか違うよねってなったら、また新しい曲書いて」

■作品のことを第一に考えたこととはいえ、メンバーから「違うよね」って言われると、ちょっと寂しい。

井上「まぁ寂しいです、ねぇ」

一同「ははははは」

広瀬「逆にそれは俺らしか言えないなってところがあるんで」

井上「今回はバンド史上一番ギスギスしたもんな(笑)。俺もいっぱいいっぱいやったし」

服部「さすがに聴いて、すぐ"これ、あかん"とは言わないですけどね(笑)。今のSHE'Sを考えると、っていうところで。でも"Don't Let Me Down"は新しいなと思いました。こういうベースのラインが一番前にくる曲っていうのを、今までやったことがなかったので」

広瀬「木村、すごい頷いてるやん(笑)。これ、イチオシの曲なんですよ、木村くんの」

木村「(笑)。デモのときからいいなと思ってたんですけど、録ってさらに、そこを超えてきた感があって。想像以上にいいものができたなっていう実感がありました」

■新しいということでは「aru hikari」もそうですね。

井上「実はこの曲、3年くらい前に作った曲で。きっかけは洋楽の男性アーティストの曲で、明るいコード進行やのに寂しい雰囲気の、でもすごく心地のいい好きな曲があって。そういう表現をしてみたいと思って、弾き語りの井上竜馬としてやる曲みたいな感じで作ったんです。バラードで明るい曲調だけど、どこか寂しげみたいな。それをバンドアレンジしたんですけど」

■そのせいか歌詞も、いつもとちょっと違いますね。

井上「手紙を書くように書いた歌詞なんで。祈りを込めるような感覚で書いたというか」

服部「あと、この曲は一回ピアノ弾き語りで完成していた曲なので、その雰囲気を壊さないようにピアノと歌を立たせることだけを考えてアレンジしていって。今までのSHE'Sっぽくないのは、そのせいもあるかもしれないですね。そう思うと"Over You"も、そうかな。SHE'Sらしさが出てるポップな曲ですけど、今までだと、そういう曲はヴォーカルとピアノが中心になってたと思うんです。でもこの曲はアコギが中心になっていて。アコギでもSHE'Sらしさが出るんやっていうところが、やっていて気持ちいいというか新鮮というか」

井上「一聴したときのポップなメロディみたいなとこを突きたいと思って作曲してたんです。でもここまでリードでJ-POPに馴染みがあるメロディは、書いたことなかったですね」

広瀬「僕は"Someone New"が印象に残ってますね。この曲は決めてあったテンポを、レコーディング中に井上が2上げようって言って。ただでさえ速い曲を2上げられたんで、短距離走みたいだった」

井上「ピアノで僕的解釈のELLEGARDENをやりたい、と思って書いた曲なんです。で、なんていうか音源のテンポってあるじゃないですか。音源だからこそ、このテンポでいい曲っていうのがあるやんか?」

3人「……?」

井上「ライヴだと、もうちょい速くやってもいいけど、音源では、ちょっと落ちたくらいのテンポのほうがいいんじゃない?っていうのはあるやん」

服部「あ〜あるな、ゆっくりめがいいとか」

井上「そう。でもこれはそうじゃなくて楽器の荒々しいサウンドの感じがリアルに出たほうがいいなぁと思ったから。でもそれで特にドラマーには迷惑をかけたと思う」

木村「何度もできないので、いかに早く録り終えるか、でした(笑)」

服部「Aメロで刻むときの右手が。2ぃ上がったー!って感じで必死で刻んだ(笑)」

広瀬「そういう意味だと"Beautiful Day"もね。リズムパターンがレコーディング当日に変わったりしたんで、一番臨機応変さを問われた曲やったなって。これもドラムが大変やったと思う」



4th Mini Album
Awakening
2017.06.21 Release
¥1,700(tax out)

01.Lantern(inst.)
02.Over You
03.Someone New
04.Don't Let Me Down
05.In the Middle
06.Beautiful Day
07.aru hikari



[L to R] **西口直人**(ニシグチナオト): B. & Cho. **清水エイスケ**(シミズエイスケ): Vo. & G. **増子央人**(マシコナカト): Dr. & Cho.

さんが同じような動きをするとか。

清水「今のライヴハウスって、ダイブ禁止とかモッシュ禁止とか、いろいろあるじゃないですか。僕らは“どこまで爆発できるか”という感じでライヴをやってるから、モヤモヤすることもあるんですよね」

■難しいですね、そこは。ライヴハウスの規制も必要かもしれないけど、やりたい表現ができなくなるのは違うし。“Age Factoryのライヴでは、こんなことができる”という独自の感じがあれば一番良いんだろうけど。

増子「そうですね。そこは少しずつ変えていきたいと思っていて」

清水「それが今の目標かもしれないですね」

■アルバムの最後に収録されている「SUNDAY」は、穏やかな幸せが伝わってくるようなナンバー。こういう雰囲気の曲も、Age Factoryの魅力だなと。

清水「“SUNDAY”のメロディは自分でも気に入っているんですよね、この曲は本当に素材のままというか、余計なことをまったくやってないんですよ。一番ストレートな感じかもしれないですね。女の子のヴォーカリストとユニゾンで歌ってたり、新しいことがやれた曲だと思います」

西口「『LOVE』に入っている“Mother”もそうですけど、こういう感じの歌モノもすごく好きなんですよ」

清水「だんだん得意になってる気もしますね、こういう曲が。普段聴いてる音楽も、こういう感じが多いんですよ。海外のシンガーソングライターとか」

増子「ハードコアパンクは聴かないな(笑)」

■ツアーの移動中とかは?

増子「イヤホンでそれぞれ音楽を聴いてるから、バラバラだし、全然会話がないんです(笑)」

西口「運転しているときはうるさい曲を聴いたりしますけどね」

増子「メタリカとか聴いてるな。そろそろ奈良かなと思ったら、ドラムが“ドカドカドカドカ!”って」

清水「あれはやめてほしい(笑)」

西口「(笑)。Alice in chainsやMudhoneyなんかも聴いてますね」

■「SUNDAY」は恋人との何気ない日常が描かれていますが、これは架空の物語なんですか?

清水「物語というか、奈良にいるときのゆったりした感じが元になってるんですよね。聴く人によって思い描くことは違うと思いますけど、自分が住んでいるところの雰囲気をそのまま歌ってる感じなので」

■奈良で暮らしていることも、Age Factoryの音楽性に影響している?

清水「それはすごくあると思います。奈良に住んでなかったら、Age Factoryの世界観は違っていたと思うので」

■『RIVER』リリース後は、夏フェス、そして、東京・大阪でリリースライヴが行なわれます。

西口「さっきもちょっと話してましたけど、“もっと好きにしていい”っていうことは伝えたいですね。好きなように楽しみたいと思ってる人はいるはずなんだけど」

清水「それはメンバーともよく話しているですけど、今は人数で負けてると思うんですよね。“もっと好きなようにやりたい”と思っている人を自分たちの力、自分たちの音楽でどれだけ動かせるかが重要だと思うので」 Ⓑ

Age Factory ⇒
エイジファクトリー。2010年、地元奈良で結成し、その後、現在の3ピースに。'14年12月にデビュー・ミニアルバム『手を振る』を発表。'16年10月に1stフルアルバム『LOVE』をリリースした。8月3日に渋谷WWW X、8月19日に梅田シャングリラにて『RIVER』リリースギグを開催。

Age Factory

奈良出身の3ピースロックバンド、エイジファクトリー。前作『LOVE』から約10ヵ月、今鳴らすべき音として、珠玉の6曲入り最新作『RIVER』を放つ!!

Text ⇒ 森朋之

■新作『RIVER』、最高です。個人的には今年リリースされたロックバンドの作品のなかで、ダントツ1位ですね!
清水「え、ホントですか?」
■ホントです! 前作『LOVE』も素晴らしいアルバムでしたが、今回はさらにサウンドが研ぎ澄まされて。Age Factoryの特徴であるオルタナティブロックのテイストもさらに強く表現されているというか。
清水「『LOVE』のときはフルアルバムを作るのが初めていうこともあって、いろんな音楽の要素を取り込んで、幅を見せようと思ってたんですよ。何もわからずにバンドをやってるんじゃなくて、"いろんな音楽を知っていて、こういう意識でやってる"というところも見せたかったし。今回はそうじゃなくて、自分たちのなかにあるものをそのまま出した感じなんですよね。そういう意味では、今まで一番Age Factoryらしいアルバムになったかもしれないです」
増子「どんどんシンプルになってる感じもありますね。(ドラムの)手数はもともと多いほうではないんだけど、引き算するアレンジの大切さもわかってきて」
西口「ベースもほぼルート音しか弾いてないですからね」
清水「楽曲の振り幅はあるんですけど、統一感もちゃんと作れたというか」
■確かにシンプルなんだけど、音楽的な深みはちゃんと感じられて。いろいろな音楽のテイストが混ざっているし、日本の他のバンドとはまったく違いますよね。
増子「まったく意識してないんですけど、"似たバンドがいない"とは言われますね」
清水「いろんな音楽の影響は受けていると思いますけどね。たとえばR&Bのリズムパターンを持ってきて、自分たちなりにやってみたり」
増子「エイスケ(清水)が"こういう感じでやってみよう"って持ってきても、俺はその音楽を知らなかったりするから、完コピにはならなくて。それがおもしろいところなんですよね」
清水「エレクトロも好きだし、メロディはフォークっぽい感じもあるし。自分たちが聴いてきた音楽をちゃんと解釈して、ストレートに出せた手応えもありますね」
■タイトル曲の「RIVER」はアルバムの中心になっている曲なんでしょうか?
清水「そうですね。今の僕らの理想というか、存在意義を示しているし、自分たちを鼓舞してくれる曲でもあって。今、何をしなくてはいけないかを考えるべきだし、自分たちはそれを貫こうっていう。バンドのことはもちろん、普段の生活もそうなんですけど、そうやって疑問を抱くこと自体が重要だと思うんですよ。何も考えずに生きるよりも、違和感を抱えていたほうがおもしろいと思うし。こういう曲を出すことで、少しでも影響を与えられたらいいなと思いますね」
■特に"孤独であれ 人よ"から始まる最後の4行は強烈でした。
西口「"真空から"でも孤独って歌ってたよな」
清水「そうやな。孤独は寂しいけどな」
増子「ハハハハハ」
西口「(笑)独りぼっちになれってことじゃなくて、それを持って生きろっていうか」
清水「そうそう。それが芯を持って生きることにつながるんじゃないかなと。その最後の4行は鼓舞というか、聴いてる人を応援しているような感じもあると思うんですよ。強いフレーズだなと自分でも感じますね」
■清水さんがもともと持っている考え方なんでしょうね。
清水「そうですね。群れたくないし、バンドシーンのなかで孤高でいたいというか。わざと一匹オオカミになろうとしてるところもありますからね。それはバンドをやりながら形成されてきたマインドなんですけど、言葉にしないだけで、同じように感じてる人もいると思うんです。自分たちはしっかり言葉にして、わかりやすく行動で示したいんですよね」
■普段からメンバー同士でそういう話をしてるんですか?
増子「話さないですね」
西口「自分たちの会話は低俗なので(笑)」
清水「(笑)歌詞の話もしないですからね。最後の最後なので、歌詞を見せるのは」
■3曲目の「siren」、4曲目の「CLEAN UP」からはハードコアパンク的な攻撃性を感じました。そういう音楽も通ってますか?
清水「ハードコアですか? ブラック・フラッグ(1980年代前半のハードコア・シーンを牽引したアメリカの伝説的バンド)とかは聴いてましたけど、音楽的なことというより、精神性だったり、当時のシーンの雰囲気に対する憧れのほうが大きかったんですよね。この2曲も、そういうイメージに近づけようとしたところもあるし。武器を使わず、どれだけ素手で殴れるかっていう」
増子「めちゃくちゃシンプルですからね」
■歌詞もヤバイですよね。"japanese people/get up"(「siren」)っていう。
増子「確かにヤバイ(笑)」
清水「ハハハハ。音源を聴いただけでは何を言ってるかわからないかもしれないけど、歌詞を読んでくれたらおもしろいと思います。"とりあえず丸めてこい 走れ"(「CLEAN UP」)とか」
■これ、何に対して怒ってるんですか?
清水「何に対して怒ってるのかは自分でもわからないし(笑)、そのときの苛立ちをそのまま書いているんですよね。ライヴしてるときもイライラするし」
増子「ライヴ中、イライラすんの? なんで?」
清水「え、しない?」
西口「しない(笑)」
清水「いや、○○○な客とか」
■(笑)。確かに違和感を覚えることはありますけどね。盛り上がり方がいつも同じとか、お客



3rd Mini Album
RIVER
2017.07.26 Release
¥1,500(tax out)

01. OVERDRIVE
02. RIVER
03. siren
04. CLEAN UP
05. left in march
06. SUNDAY



#06

Text ⇒ B-PASS
Photo ⇒ Tomohiko Tagawa

Harlem × New Era®の[9FIFTY™]¥6,500(税別/ニューエラ tel.03-5773-6733)

EVENT INFORMATION
『MONSTER -HARLEM 20th ANNIVERSARY SPECIAL Supported by New Era®-』
7/1(土)・7/8(土)・7/15(土)・7/22(土)・7/29(土)
harlem.co.jp

DJ HAZIME ⇒
ディージェイ・ハヂメ。東京・渋谷を中心に国内外で年間200回を超えるクラブプレイをこなす、日本のトップDJのひとり。ジャパニーズHIP HOPの聖地・CLUB HARLEMでレジデントDJを務める毎週土曜日の人気パーティ『MONSTER』は海外にも知れ渡るほどの知名度を誇り、プロデューサーとしても名立たるアーティストたちに楽曲を提供している。

Hit The Street w/New Era®
DJ HAZIME

日本のHIP HOPシーンを牽引し、20周年を迎えたCLUB HARLEMを今夏New Era®がサポート。
その中心人物、DJ HAZIMEが自身のこだわりとスペシャルなパーティについて語ってくれた。

■New Era®に関してのこだわりが強いと聞きましたが?
「基本はニューヨーク・ヤンキース。色はネイビーで、できればアンダーバイザーはグレーか、グリーンが良いですね」
■こだわり始めた理由は?
「最初に被ったのがそれらだったので」
■いつ頃のことですか?
「DJを始めた後だから2000年よりは前だと思いますけど」
■なぜニューヨーク・ヤンキースを?
「それには単純な理由があって、HIP HOPにハマって、一番最初に憧れを抱いた都市がニューヨークだったんですよ。で、今でも定期的に行っている大好きな街だし、向こうの友達やDJもみんな被っているので。あと、松井秀喜と誕生日が一緒っていうのも結構大きいかな(笑)」
■これまで何個くらい購入されてますか?
「たぶん100個はあると思いますよ。言い過ぎかな(笑)、でも50個じゃ明らかに少ないと思います」
■そんなHAZIMEさんがレジデントDJを務める、CLUB HARLEMの人気パーティ『MONSTER』を7月の1ヵ月間、New Era®がサポートすることになりました。
「アーティストとコラボレートしている印象はあるけど、ハコ(クラブ)とっていうのはあまり聞かないのでレアですよね」
■今回被られている[9FIFTY™]は実際に発売されるそうですが、被り心地は?
「いつも通り良い感じですよ」
■ロゴマークがHなので、ご自身の名前もレペゼンしてますね(笑)。
「そこね……そんなに若くないから(笑)」
■パーティへの意気込みをお願いします!
「いつもと変わらず盛り上げていくので、ぜひ遊びに来てほしいですね」 Ⓑ

Fall & Winter 2017
DJ HAZIME's
Recommend Item

59FIFTY®
¥5,500(税別/ニューエラ)



「最近はデザインや装飾に凝ったモデルも多いけど、個人的にはシンプルなオリジナルデザインが一番。ニューヨーク・ヤンキースのフロントロゴとニューエラのフラッグロゴが入っていれば、もうそれだけで十分です!」

吟遊詩人“高橋 優”が、独自の切り口で世の中を考察するコーナー

高橋優連載

この常識を蹴っ飛ばせ。

高橋優 >>>
たかはしゆう。'83年12月26日秋田県生まれ。O型。'10年7月21日にシングル「素晴らしき日常」でメジャー・デビュー。ニッポン放送「オールナイトニッポンサタデースペシャル 大倉くんと高橋くん」が、毎週土23時30分〜O.A.中!! 9月2日(土)、3日(日)に由利本荘市にて、主催の野外音楽フェス「秋田 CARAVAN MUSIC FES 2017」を開催予定。公式サイト【http://www.takahashiyu.com/】

第百八回

日々のコンパス



「思い立ったが吉日」って言葉がありまして、この言葉が自分の生活の中心になっている気がします。

たとえば今日テーブル買う！と思い立ったら嵐が来てもヒョウが降ってもテーブル買いに行きます。

買いに行ってる最中、やっぱ今じゃなかったかもな〜、、みたいな気の迷いや不安がよぎっても兎に角行動して体を動かすことで、事故とかやむない事情が起こらない限り絶対にやり切ってしまいます。思い立ったから今なんだ！とただただ信じて。…こう言うと、まるでイイ心掛けのように聞こえるかもしれないんだけど、実を言うとそういう性分にウンザリする日もあります。

実は自分、週四で一時間のジョギングをしているんだけど、稼働が定時のお仕事でないから、早朝に走ることもあれば深夜に走ることもあります。仕事の合間でお昼時や夕方に走ることもあります。忙しくとも週四のペースは守りたいなーと思っているので、一日の中で今だ！と思ったらすぐ走るようにしているんです。

そんな中、最近関東圏でよく局地的な大雨降るでしょ。いわゆるゲリラ豪雨。急に怒りだしたみたいに強く降り出して、散々怒鳴り散らして気が済んだら穏やかに去る人のように、ものの一時間で晴天→土砂降り→晴天、と天気が激変します。でね、僕は兎にも角にも今！と決めたら走る。その今！と、ゲリラ豪雨がかっちり重なる機会がここ半月で二度ありました。家の中から窓開けて見たらそんなでもないから、よし今だ！と決めてジョギングウェアに着替えて外に出たら雨足が強まって、自分の走るペースに比例するようにどんどん強まって、五分後には土砂降り。突然の雨に他の人たちは雨宿りできる場所に逃げていきます。こんな雨で走らなきゃならない理由って何？とでも言わんばかりの顔で窓越しに見られたりしながら僕は走ります。

でもね、決めたことをやり通さないとそのあとの自信が削れる気がして怖いのです。僕は人に命令されたりコントロールされることがとても嫌いで、納得のいかないことには首を縦に振らないから納得いくまで闘いたり吟味しようとする性分が少なからずあります。なもんだから、せめて自分で決めたことくらい絶対にやり通したい。普通に器用な人なら、予報をチェックして機を伺ってよりジャストタイミングで走りだして快適なジョギングが出来るのでしょう。でも僕は決めたそのときがベストタイミングと信じてやまない。計画より決意優先。そんな、他の人からしたらめちゃどうでもいい自分の中の戦いに負けないために、土砂降られながら一時間走る機会が半月に二回ありました。

その気持ち的な面も踏まえた上で、何やってんだ自分、、ってウンザリします。もっと臨機応変で器用な人間、もしくは簡単に諦められる決意なき人間であれたならさぞ楽だったろうと思います。でもだから音楽に没頭出来ているような気もします。雨が降ったら傘をさす。晴れたら外の空気を吸う。そんな誰でもする行動の逆ばかりをやってると心配されたり笑われたり怪しまれたりします。そんな風当たりに揺らぐ程度の決意であれば簡単にやめてしまえるけど、厄介にもやり抜く覚悟を持ってしまった人間は、ときに生きづらいこの人間社会で目標という名のコンパスを信じ続けていかねばならないのかもしれません。

2017 6/18 高橋 優

三色丼と紅しょうが

題字　岡田翔太朗

MAGIC OF LiFE　連載

【第九十七回】

アミューズメント三番勝負

あらすじ　約8ヵ月ぶり(昨年10月のバドミントン以来)の対決はゲームセンターにて三番勝負! お手軽なアミューズメントで楽しくかつ激しく対決です!

一番勝負 エアホッケー



チーム分けはジャンケンにて。よくある組み合わせですが、結果はいかに? 1ラウンド70秒、2ラウンド先取で勝利。




1回お試しをし……いざ、勝負。お互い守りを固める作戦か?




最初は1つの大きいパック(10点)を打ち合い、途中から小さいパック(3点)が大量に出てくる



見えます? 小さいパックが出てきたら大騒ぎ。とりあえず打つべし



手を打ったのか、打たれたのか、負傷?

ラウンド	1	2	3
高津戸 渡辺	57	64	45
山下 岡田	64	60	94 WIN!



最後は大差をつけて勝利。一本勝負だったらねぇ〜。でも、笑顔で次へ!!

二番勝負 バスケット





先攻は高津戸・渡辺。どんどん入れていき、あれ? 3ラウンドまで続いて、結果238得点





50点以上で次、150点以上で次、とラウンドが続くことが発覚。なのに、48点で撃沈……

WIN! 高津戸・渡辺 238pt　山下・岡田 48pt

三番勝負 パンチング




最終戦。1チーム3打の合計で。まずは岡田176kgf、山下114kgf、岡田2回目189kgf




岡田氏の好記録に奮起したタンクトップ高津戸213kgf!!、渡辺169kgf、高津戸174kgf

山下・岡田 479kgf　高津戸・渡辺 556kgf WIN!

2勝1敗 WINNER 高津戸・渡辺!!!!

さて、ひさびさの対決ですな。今回はゲームセンターにて三本勝負、チーム戦です。僕の相方はゆうじ氏。一本目のエアホッケーは、僕がゆうじ氏の手を打ってしまうとゆうハプニングもあり負けてしまいました、、、しかしエアホッケーはすごいね。30過ぎてもはしゃいじゃうね。二本目は、フリースロー対決。こちらは圧勝でしたね。三本目はパンチ力対決です。男たる者、燃えました。先行はしょうたろう、たくみペアだったのですが、しょうたろうくんのパンチ力が凄かったので、勝てるか不安だったのですが、、、圧勝でしたね。意外と僕は、パンチ強いみたい。さて、罰ゲーム何にしようかな(にやり)。(高津戸信幸)

今回はホンマに久々の対決でしたねん。チーム戦でのぶとやらしてもらったけど、たぶんライヴでも活きてくるチームワークやなと感じましたねん。とりあえずめちゃめちゃ白熱した対決でした! エアホッケーはなんかめちゃめちゃでよくわからんし、手、打撲するし、パンチのやつはおれ思ったより弱くなかったし、しょーちゃんとタクミはバスケ下手すぎるし(笑)。ホンマに楽しかったー(＾ω＾)またいい感じの罰ゲーム考えさせてもらいます(＾ω＾)!(渡辺雄司)

こんにちは、ヤマシタは今日も元気です! 今回は久々に対決シリーズ! 罰ゲームをかけた戦いが始まります! 今回はしょうちゃんとチーム、エアホッケー対決は勝ちましたが残り全敗、、、2対1でまた負けてしまいました、、、また負けて罰ゲームだ、、最悪です、、、、(山下拓実)

残念で仕方ありません。敗北。しかしですよ、今回の敗北で僕は掴みました。勝ちに貪欲になれば勝ちは見えてくるんだ、と。さらに拓実との結束が固くなったと確信しております。これらはお金を払っても得られるものではありません。敗北もいとわないっ! さぁこい罰ゲーム(笑)。ちなみに、ゲームセンターってめっちゃ楽しいということを再確認した回でもありましたとさ。めでたしめでたし。みんなもゲーセンへGO。(岡田翔太朗)






MAGIC OF LiFE ⇒ マジックオブライフ。高津戸信幸(Vo.&G.)、山下拓実(G.)、渡辺雄司(B.)、岡田翔太朗(Dr.)による4人組ロックバンド。'03年8月、DIRTY OLD MEN結成。'12年4月、現メンバー構成に。'14年10月、バンド名を改名。'16年9月にアルバム『X-1A』を発売。4月26日にニュー・シングル「線香花火/乱舞ランデブー」をリリースした。現在、全国ツアー中。

(タイトルの由来)高2の時、バンド結成にあわせ、「DIRTY OLD MEN」と最後まで争ったバンド名が「三色丼」。4ピースになったゆえに"紅しょうが"がトッピング? バンド名が一新されて、ある意味シーズン3か!?

※当連載のカラー写真をB-PASSホームページ< http://www.shinko-music.co.jp/ >にちょこちょこ掲載中。アクセスしてみてね!

Q：詳しいお仕事内容を教えてください。

サポートミュージシャンとして、インディーズアーティストと一緒にやらせてもらっています。仕事はフリーでの活動で、横の繋がりで紹介していただいくことが多いです。事務所に入っている方もいますが、僕はまだまだなので、セッションの場に行って仲間を作ってその人たちに認めてもらうことで、声をかけてもらうことが多いです。昨年リズム&ドラム・マガジンのコンテストでグランプリをいただいたことをきっかけに、杏沙子さんというシンガーソングライターをサポートする機会がありました。ワンマンライヴでの参加で、バンマスの方から楽曲のデータやスケジュールをいただいて、スタジオに入るまでにさらっておき、数回合わせて本番という形でした。杏沙子さんは、今回初めてバンド編成でのライヴだったので、ドラムのライヴアレンジはどうしようか？ というところからのスタートで。こういったアプローチができる、などの提案をさせてもらい、一緒に作っていけたことが楽しかったです。ミュージックバーで、箱バンドの代わりとして参加したときは、先に譜面をもらい、当日顔を合わせてすぐ本番ということもありました。そういった活動のほかに、仲間とお店を借りてお客さんを呼んでアコースティックライヴをやったり、参加しているレゲエバンドとしてクラブのイベントで叩いたりと、スケジュールは月によってまちまちです。以前参加したライヴのリハーサル中のことですが、これをやれば曲が活きるだろうと企んでいたフレーズを大サビ前に入れたときに、ギターの方がこちらを向いてニヤッとしてもらったときとか、ミュージシャン間で言葉なく評価をもらったりすると嬉しいですね。今後は作品の協力もどんどんしていきたいですし、最終的な目標はFNS歌謡祭のバックバンドになることです。あとは、ももクロが好きなのでバックで演奏したいですね（笑）。

Q：目指す人にアドバイスを！

ライヴをたくさん観に行けとか、セッションに参加しろ、コミュニケーションを大切に、自分の度量を試せと学校でよく言われてました。人からの評価で自信もついていくと思うので、いろんな場に飛び込んで叩くことは大事だと思います。個人的にですが、サポートドラマーとしての居方として、ドラムだけでは音楽にならなくて、そこに歌やベース、ギターがいてこそだと思っていて。自分が目立ちたいというよりも一緒に作り上げるということを意識しています。普段から、毎日デイリーワークとしてストロークなどの基礎練習やいろんな音楽に興味を持って練習すること。あと、健康は大事ですね。座って演奏する楽器なので腰も痛めがちですし、ストレッチとかもやっておくといいと思います。スタミナは必要ですが、筋トレはやらないよりやったほうが、というくらいです。家ではアコースティックのドラムにメッシュタイプのヘッドを貼り、ローランドのトリガーをつけて、シンバルは穴がいっぱい空いていてあまり鳴らないものを使って練習しています。

DREAM-PASS

サポートドラマーになるには

・多くの場で経験を積む
・いろんな音楽に興味を持つ
・一緒に作ることを意識する

MUST ITEM



スティック
いろいろ試してVIC FIRTHの5Aというクセのないスタンダードなものに落ち着きました



ペダル
スプリングのバランスで踏む感覚が変わるので、太鼓よりも先に買うのをオススメします。Wチェーンが好きですね



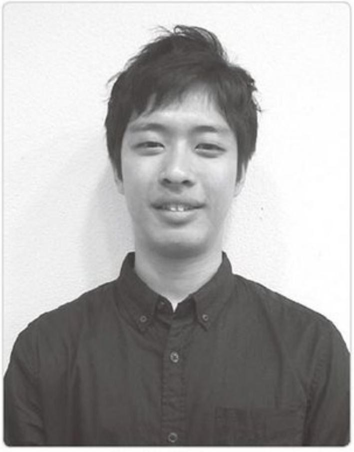
イヤホン
定番のものです



メトロノーム
BOSSのドクター・ビートです

憧れの音楽業界への近道教えます！

DREAM-PASS ドリパス！ vol.50



音楽業界に興味はあってもどんな仕事があるの？　どうやってなればいいの？　そんな疑問にお答えする連載第50回目！　サポートドラマーとして活動する、譚さんにお話を聞きました。

譚 領健（たん りょうけん）さん
ドラマー

専門学校横浜ミュージックスクール
ドラム専攻 マスターコース　卒

Q：この仕事を始めるきっかけは？

小さい頃は目立つことが好きで、音楽は好きだったのですが、小学校から続けたピアノも、興味のあったベースもどちらもハマらなくて。声をかけてもらって、中学3年生くらいから軽音のサークルでドラムを始めました。そこでバンドで一緒に音を出して、初めて演奏することが楽しいと思えたんです。華僑の学校出身なので、獅子舞での打楽器をやった経験があるくらいだったのですが、当時は大きい音を出すだけでも、みんなでワイワイやることが楽しかったですね。それから少しドラムからは離れて、高校で進路の話になったときに、長くカンフーをやっていたものの、マイナースポーツですし仕事にするのは難しく。他に何があっただろうと考えて、ずっと音楽が好きだったなと、地元にある横浜ミュージックスクールのオープンキャンパスを見に行きました。興味があることや実家の近さで学校を選びましたが、FNS歌謡祭やMUSIC FAIRのバックミュージシャンに憧れていたこともあって、入学時にはサポートミュージシャンを目指していました。ずっとドラムを独学でやっていたので、最初はそれでついていたクセを直されましたね。学校では怒られることが多く、決して上手なほうではなかったと思います。でも、始めたからには引き下がれないという思いと、いろんな出会いやライヴも楽しかったことで続けることができました。2年勉強した後、マスターコースで学んでいたタイミングで、左腕を折ってしまって。半年くらいで治ったものの、その間練習できなかった分は後退してしまい、ちゃんと勉強しなきゃと、村石雅行さん主催のドラム道場にも通い始めたんです。そこはすごく上手い人ばかりで打ちのめされました。スタジオドラマーとしての技術をプロ目線で教えていただいて、対応力や読譜力を鍛えています。最初に見た、譜面を渡されて一回聴いてすぐ叩く姿は衝撃でした。そこでは基礎の他にも、スティックを持たず譜面と向き合うことも教わって、今も勉強中です。

JOB PHOTO



◀ライヴ中です



〈LIVE INFO〉
7月9日（日）
@LIVE LOUNGE 紫金楼
Laid Back3
Open 18:30／Start 19:00
出演：泰斗、優人、譚 領健

6月中旬〜7月下旬リリースの
注目の新譜を一挙紹介
アルバムもシングルも充実ですよ

06.14 on sale | mini album | DOBERMAN INFINITY #PLAY

AMC／初回盤DVD付 ¥2,315／通常盤 ¥1,750



全国ツアーにリリース、3周年ライヴ……トップスピードに乗る彼らの勢いを音楽に転換したようなミニアルバム。夏の海岸線を疾走する爽やかさを感じさせる04。大人の色気をまとった夜が香る05。1枚を通して夏の楽しみが詰まったゴキゲンな作品である。だがその中に、例えば02.にある、過去にすがれば置いていかれるという危機感。06.の、何のために遊び、働く?という問いかけなど、メッセージもまた塗り込まれている。（大西）

[CD]01.DO PARTY 02.Make Some Noise 03.Living happily 04.@we_like_a_harley 05.Vanilla 06.#PLAY 07.DO PARTY（TJO REMIX） [DVD]「#PLAY」（DOCUMENT MUSIC VIDEO -Limited Edition-）

07.26 on sale | album | OLDCODEX they go, Where?



Lantis／初回盤DVD付 ¥3,500／通常盤 ¥3,000

収録する11曲すべて、Ta_2が曲、YORKE.が詞を手掛けた5枚目のオリジナルアルバム。その表題曲である「Where'd They Go?」は、ここに至る流れの中にある1曲。ヘヴィさを下地に、様々な音楽的アプローチがなされている。そして詞には、今一度確認した自分たちの"消えない炎"が刻まれた。アルバム全体としては"らしさ"を踏まえつつ、広がりがある。そこにはラヴとハッピーがあり、闘争心と反骨心がある。怒りも喪失感もバンド感も音楽探究もリスナーへの気持ちも内包する。2人の"人間臭さ"が渦巻く1枚だ。（大西）

[CD]Where'd They Go?／Deal with／Scribble, and Beyond／Smiling／Julio／Faith In Me 他 全11曲予定 [DVD]未定

06.28 on sale | album | Cornelius Mellow Waves

WARNER MUSIC JAPAN／¥2,800



前作『sensuous』（2006年）以来、約10年半ぶりのニュー・アルバムは、美しく、繊細な音の粒子が有機的に構築された、エレクトロニカの極北と呼ぶべき作品。リズム、メロディ、歌詞という固定の概念はもはや存在せず、すべての要素をフラットかつ自由に組み立てながら、世界のどこにもない音楽世界を出演させるテクニックは本作によってひとつの高みに達している。遠い未来から現在を見ているようなリリックもきわめて刺激的。（森）

01.あなたがいるなら 02.いつか / どこか 03.未来の人へ 04.Surfing on Mind Wave pt 2 05.夢の中で 06.Helix/Spiral 07.Mellow Yellow Feel 08.The Spell of a Vanishing Loveliness 09.The Rain Song 10.Crépuscule

06.28 on sale | album | ハルカトミユキ 溜息の断面図

Sony Music Associated Records／初回盤2CD ¥3,694／通常盤 ¥2,593



昨年9月、日比谷野音ワンマンの鋭く尖った感情を全身で表現していた歌が、今も心地よい痛みとともに思い出される。あの感動的な野音を起点に制作、完成した全曲新録音のニュー・アルバムだ。心の揺らぎ、脆さ、戸惑い、強さ、どれも自身への問いかけのように鋭く重く聴く人の心に強く語りかけてくる。鋭い言葉で突き刺さる歌もあれば、青さゆえの罪な無邪気さを歌うバラード07.など、むき出しの感情がヒリヒリする全12曲。（伊藤）

[CD1]01.わらべうた 02.Stand Up, Baby 03.Sunny, Cloudy 04.終わりの始まり 05.Fairy Trash Tale 06.WILL（Ending Note） 07.宝物 08.近眼のゾンビ 09.インスタントラブ 10.僕は街を出てゆく 11.嵐の舟 12.種を蒔く人 [CD2]LIVE at 日比谷野外大音楽堂[2016/9/24] 全14曲

06.28 on sale | album | 清水翔太 FLY

MASTERSIX FOUNDATION／初回盤DVD付 ¥3,900／通常盤 ¥3,000



デビュー10周年を迎えた清水の最新アルバム。"今の自分になれてよかった"と自分の歩んできた道を認めた上で、これからも"進みたい方に舵をとるだけ"と歌われるリアルな想いを綴った01.から始まる。共作詞04.を除き、全曲作詞作曲、編曲まで自身が手がける本作は、ルーツであるソウル／R&Bを丁寧に消化しながら、各曲が独自の色を持った作品になった。優しい歌声が今の前向きな心境を映しているように感じる。（伊藤）

[CD]01.Sorry Not Sorry 02.FLY 03.My Boo 04.Drippin' feat. IO,YOUNG JUJU 05.夢がさめないように 06.Interlude -夢の続き- 07.Because of you 08.milk tea 09.いつもBlue 10.FIRE 11.speechless 12.Tokyo [DVD]Music Video、ライヴ映像

06.28 on sale | mini album | FLOW Fighting Dreamers

Ki/oon Music／初回盤DVD付 ¥2,222／通常盤 ¥1,852



デビュー以来、国境を越えたライヴバンドとして不動の地位を確立したFLOW。デビュー15周年イヤーに発表するミニアルバム。01.は、4thシングル（「NARUTO-ナルト-」主題歌）を15th Anniversary ver.として再録音。FLOWが主題歌を担当してきたアニメ作品の声優陣11名がコーラスで参加。また新曲ではメンバー5名が詞曲を手がけた曲を収録。ロックあり、スウィングありと、個性が落とし込まれた記念盤になった。（伊藤）

[CD]01.GO!!! 〜15th Anniversary ver.〜 02.Go! Go! Drinkers 03.秘密の作戦 04.クライムオン 05.Bet or Dead 06.旅の途中 [DVD]Music Video、Recording Making

06.28 on sale | album | 集団行動 集団行動

CONNECTONE／¥2,000



プロデュース他、多方面で活躍する真部脩一（ex.相対性理論）が結成した新バンド。中毒性の強いメロディラインと独特の言葉遊びと余韻の滲むサウンドメイクは健在で、リズムを支えるのは盟友・西浦謙助。そこにオーディション"iD"ファイナリスト＝未知数のヴォーカリスト・齋藤里菜が加わることで、透明度の高いポップネスを生み出すことに成功。ただ集団行動は現在メンバー募集中。ここはまだ途中経過のようだ。（山本）

01.ホーミング・ユー 02.ぐるぐる巻き 03.東京ミシュラン24時 04.バイ・バイ・ブラックボード 05.土星の環 06.AED 07.バックシート・フェアウェル

※価格はすべて税抜き価格で表示しています

07.05 on sale | album | LOVE PSYCHEDELICO
LOVE YOUR LOVE

SPEEDSTAR RECORDS／初回盤2CD ¥3,500／通常盤 ¥3,000



いきなり飛び込んでくるKUMIの歌声は、"4年振り"なんて枕詞を一瞬で剥がす威力がある。映画『昼顔』主題歌を含む全13曲には、自分の傍にずっとあったものを寸分違わずカタチにして差し出されたような新しさと懐かしさと説得力が満ちている。海外の童謡っぽい佇まいの13.を口ずさむ度、止めどなく溢れ出すLOVE&PEACE。欠点だらけの自分も、完璧じゃない君も、ふわりと包み込んで繋いでみせる魔法みたいな音楽だ。（山本）

[CD1]01.Might Fall In Love 02.Feel My Desire 03.Birdie 04.This Moment 05.1 2 3 06.Good Times, Bad Times 07.You'll Find Out 08.Rain Parade 09.Beautiful Lie 11 Love Is All Around 12.Place Of Love 13.No Wonder 他 全13曲 [CD2]Demo Acoustic Version 全4曲

07.05 on sale | album | GENERATIONS from EXILE TRIBE
涙を流せないピエロは太陽も月もない空を見上げた

rhythm zone／初回盤2DVD付 ¥5,500／通常盤 ¥2,800 他 全5形態



ワールドツアー中の彼らから、待望のアルバムが到着。"覚悟を決めた彼らが自分の意思で夢を追いかけている"という意味を持つ今作は、驚くほどジャンルレスな挑戦に満ちた1枚。ストレートなバラードから、片寄が作詞する可愛らしいラブソング、王道のR&BにアップチューンEDM、さらにEDMまで網羅した全13曲。初回盤につく、彼らの魅力であるダンスが堪能できるライヴはもちろん、仲の良さが溢れたドキュメント映像は必見。（吉田）

[CD]01.太陽も月も 02.Togetherness 03.SOUND OF LOVE 04.Make You Mine 05.空 06.Stupid ～真っ赤なブレスレット～ 07.涙 08.Pray 09.PIERROT 10.RUN THIS TOWN 11.be the ONE 12.NEXT -Bonus Track-「Y.M.C.A.」[DVD]Music Video 他

07.05 on sale | album | KNOCK OUT MONKEY
HELIX

Being／初回盤DVD付 ¥3,300／通常盤 ¥2,700



野外のステージから、まるで波のように揺れる人の群れに激しく爆音を浴びせかける。そんなライヴの光景が見えるKOMの3rdアルバムだ。ラウドでヘヴィな演奏と、それに負けないw-shunのタフなヴォーカルが印象的な01.は、飛び散る汗まで感じられるライヴ仕様の曲。ほかの曲も、元気出せよと、これでもかというぐらい背中を蹴りとばしてくれるエネルギーに満ちたパワフルな曲ばかり。ライヴで全曲体験したい最新作だ。（伊藤）

[CD]01.Louder 02.Jump 03.1:48 04.Dog 05.fall down 06.cloud 9 07.Reverse thinking 08.Wake Up 09.Burning 10.Do it 11.Run [DVD]Recording Document & Studio Live

07.05 on sale | album | MONOEYES
Dim The Lights

EMI Records／¥2,400



2年ぶりの2ndアルバムは、前作同様90'sエモを基本に、より豊かな情感と切ないメロディを盛り込んだ充実の1枚。アッパーな01.や05.のかっこよさはもちろん、コクのあるミドルテンポの04.や07.などの存在感が特に強く、"灯りを消す/内なる灯りを見つける"と歌う11.など、細美武士らしい内的なメッセージ性と熱いサウンドのバランスが絶妙。陽気なカウパンク06.など、スコット・マーフィーの書いた3曲もいいアクセントに。（宮本）

01.Leaving Without Us 02.Free Throw 03.Roxette 04.Two Little Fishes 05.Reasons 06.Borders & Walls 07.Get Up 08.ボストーク 09.Parking Lot 10.Carry Your Torch 11.3, 2, 1 Go

---

07.05 on sale | EP | HUSKING BEE
Stay In Touch

CROWN STONES/CROWN RESORDS／¥1,667



前作から7ヶ月で到着のEPは、〈繋がっていよう〉という作品題の如く、ゲストを招いて制作。ゴリっとしたギターと軽やかなキーボードが絡み合うインスト曲01.や、2ビートで突っ込んで行く03.には、盟友の英パンクバンド・SUNFFのドラマーDuncan Redmondsを招聘。また、彼らの代表曲をリアレンジした02.に参加したMOROHAは、叙情的なラップとアコースティックギターを加え、楽曲をさらにエモーショナルなものに！（山口）

01.Stay in Close Touch 02.Re-By Chance feat.MOROHA 03.Singin' in the Rain 04.Skyscraper 05.Ring Sizer

07.05 on sale | album | ビッケブランカ
FEARLESS

avex trax／CD+DVD ¥3,500／CD ¥2,800



キャッチーなピアノロックにオペラチックな多重コーラスを組み合わせ、新世代ポップスターを狙う男の1stフル。ファンキーなダンス・チューン02.や03.では思い切り情熱的に、ピアノ・バラード10.では切なく繊細にと、変幻自在の多面性がなんとも魅力的。多大な影響を受けたフレディ・マーキュリー、マイケル・ジャクソン、ミーカの名前を織り込み、偉大な伝統を背負って進む決意を示す12.が素晴らしい。迷わず行けよ。（宮本）

[CD]01.FEARLESS 02.Moon Ride 03.Take me Take out 04.Want you Back 05.Stray Cat 06.さよならに来ました 07.Postman 08.Broken 09.幸せのアーチ 10.Like a Movie 11.Slave of Love 12.THUNDERBOLT [DVD]ライヴ映像

07.12 on sale | album | 平井堅
Ken Hirai Singles Best Collection 歌バカ2

Ariola Japan／初回盤A 4CD ¥4,990／初回盤B 3CD+BD ¥4,990／通常盤3CD ¥3,694



スナックでカラオケを熱唱するのが趣味という"歌バカ"平井堅のシングルベスト。ヒット曲満載のベストもだが、特筆したいのはスペシャルディスク「歌バカだけに。」。彼の敬愛するアーティスト10組が書き下ろした歌バカに歌ってほしい新曲で、自由に遊んでもらおうという企画。KAN、スピッツ草野、槇原敬之、中田ヤスタカ、横山剣などがジャンルを飛び越えた曲で見事に遊ぶ。ただ、どの曲も平井の歌になるのは、さすが。（伊藤）

初回盤A[CD1]Single 1995-2002 全15曲 [CD2]Single 2002-2008 全15曲[CD3]Single 2009-2017全15曲[CD4]歌バカだけに。全10曲／初回盤B・通常盤[CD1]Single 2006-2010 全11曲 [CD2]Single 2011-2017 全11曲[CD3]歌バカだけに。／初回盤B[BD]Music Video

07.12 on sale | album | GLAY
SUMMERDELICS

loversoul music & associates／CD+2DVD ¥5,000／CD ¥3,000



"SUMMER"と"PSYCHEDELIC"の造語が表わすように、約2年半ぶりのニュー・アルバムのテーマは夏とサイケ。夏を感じる開けたサウンドとメンバー全員が作詞作曲した4人の個性をカラフルに織り込んだ作品だ。従来のGLAYと同時に、「シン・ゾンビ」（前ツアー時の曲名は「彼女のゾンビ」）など、新たな色を加えていたHISASHIの世界が全体をカラフルに彩る内容である。四つ打ちのTERU作の06.も新鮮だ。（伊藤）

[CD]01.シン・ゾンビ 02.微熱Ⓐgirlサマー 03.XYZ 04.超音速デスティニー 05.ロングラン 06.the other end of the globe 07.デストピア 08.HEROES 09.SUMMERDELICS 10.空が青空であるために 12.聖者のいない町 13.Supernova Express 2017 他 全14曲 [DVD]ライヴ映像 他

07.19 on sale | album | Chara
Sympathy

Epic Records Japan／初回盤2CD ¥3,500／通常盤 ¥3,000



デビュー25年周年の締めくくりとなるオリジナルアルバムがついに完成。すでに『ファイブミニ』CMでOAされ話題となっている03.は、ロマンチックで煌びやかな、初期のCharaを彷彿とさせるポップスに。対する01.は、くるりの岸田繁などが楽曲提供をした、吐息交じりの歌声にドキドキする艶やかなロック。さらに韻シストのメンバーと共作した09.など、音楽を心から楽しんでいるのが目に浮かぶ、心躍る1枚となっている。（吉田）

[CD1]01.Tiny Dancer 02.Stars☆☆☆ 03.Sympathy 04.Mellow Pink 05.Funk 06.Love pop 07. Herbie 08.Symphony feat. mabanua 09.Intimacy 10.Darling Tree 11.KILIG 12.Sweet Sunshine 13.小さなお家 [CD2]未定

07.12 on sale | album | Leola
Hello! My name is Leola.

Sony Music Associated Records／初回盤A DVD付 ¥3,241／初回盤B BD付 ¥3,889／通常盤 ¥2,593



デビュー曲07.から最新曲まで、Leolaの活動のすべてを詰め込んだ1stアルバム。映画『兄に愛されすぎて困ってます』挿入歌として話題を呼んでいるラブソング04.&05.をはじめ、彼女の等身大の恋愛観を描いた08、母性溢れるラブバラード10.など、様々な恋愛・日常に寄り添う楽曲の数々。声の魅力を凝縮した01、彼女の原点・ハワイで生まれたという自己紹介ソング12.を含め、夏、そして海に似合う12曲を収録。（斉藤）

[CD]01.Sunshine+Voice 02.Summer time 03.Let it fly 04.コイセヨワタシ。 05.Your melody... 06.It's a "New Day" 07.Rainbow 08.Mr.Right 09.I believe 10.I & I 11.The way 12.Hello, My name is... [DVD・BD]Music Video 他

07.19 on sale | album | asobius
YES

RX-RECORDS/UK.PROJECT／¥2,500



フルアルバムとしては2年3ヵ月振り、4人体制になってから初作品となる第3作。幻想的で清涼感のあるサウンドが特徴的な彼らだが、ノイジーで陰鬱としたギターを組み込んだ08.や、グルーヴィーなリズムセクションが心地よい06.など、新たな表現に挑戦。スケール感も格段に増し、ストリングスが盛り立てる10.は是非野外で聴きたいところ。また、歌詞を活動初期の頃のようにすべて英詞に戻すという試みも。（山口）

01.introduction 02.sons of the sun 03.flash 04.tonight 05.winter sparks 06.never never 07.walking in the rain 08.dark gazer 09.diamond tears 10.yes 11.first life

07.19 on sale | album | never young beach
A GOOD TIME

SPEEDSTAR RECORDS／初回盤DVD付 ¥3,800／通常盤 ¥2,600



各方面から熱視線を浴びるネバヤンの3枚目にしてメジャー・デビュー盤。とは言え相変わらず、というか今まで以上に感覚を研ぎ澄ませ、自分の心の揺れに手を添え、日常に漂う粒子を集めてはそのひとつひとつを音、言葉、グッドミュージックに昇華させている。だから特に事件は起きないし、高尚なメッセージもない。だけどとにかくどうしようもなく胸をグッと締め付けるんだ。純度の高い日々の歌は時代を超える意志を響かせている。（山本）

[CD]01.夏のドキドキ 02.なんかさ 03.気持ちいい風が吹いたんです 04.SUNDAYS BEST 05.白い光 06.散歩日和に布団がぱたぱたと(Band ver.) 07.CITY LIGHTS 08.SURELY 09.海辺の町へ [DVD]ライヴ映像

07.26 on sale | mini album | Age Factory
RIVER

SPACE SHOWER MUSIC／¥1,500



90年代のオルタナティブロックを軸に、パンクロックからR&Bまでをきわめて自然に取り込んだバンドアンサンブル、そして、“孤高であれ”“群れることなく、誇りを持って生きろ”と聴く者を鼓舞する歌。奈良出身の3ピースバンド、Age Factoryは新作『RIVER』によって、その本質を露わにした。ムダな音を徹底的に削ぎ落とし、とことん鋭利になったサウンドも刺激的。2017年を代表するロックアルバムであると断言したい。（森）

01.OVERDRIVE 02.RIVER 03.siren 04.CLEAN UP 05.left in march 06.SUNDAY

07.26 on sale | album | go!go!vanillas
FOOLs

Getting Better Records／限定盤DVD付 ¥3,300／通常盤 ¥2,700



1年5ヵ月振りとなる3rdフルアルバムは、2ビートと賑やかなホーンセクションでブチ上げながらも感傷的な歌詞が綴られた03.や、跳ね上がる鍵盤が心地よいソウルな05.など、バンドサウンド以外の楽器が増加し、楽曲をより色鮮やかなものに。また、清涼感のある07.やディスコティックな08.など、新たなサウンドにも挑戦しているが、なかでも、サビのファルセットが心地よい12.の開放感や多幸感がとにかく最高!（山口）

[CD]01.We are go! 02.サクラサク 03.FUZZ LOVE 04.ヒンキーディンキーパーティークルー 05.ラッキースター 06.平成ペイン 07.サウンドエスケープ 08.バイバイカラー 09.ストレンジャー 10.グッドドギー 11.パペット 12.ナイトピクニック 13.おはようカルチャー [DVD]ドキュメンタリー、Music Video

06.21 on sale | single | 米津玄師
ピースサイン

Sony Music Records／ピース盤DVD+ピースリング付 ¥1,900／ヒーロー盤ヒロアカTCGカード付 ¥1,500／通常盤 ¥1,200



©堀越耕平／集英社・僕のヒーローアカデミア製作委員会

前作から4ヵ月振りとなるシングル01.は、アニメ「僕のヒーローアカデミア」のOP曲としてオンエア中。久々にギターロック然としたサウンドをタイトル曲で響かせていて、メロディーラインや歌い回し、ギターフレーズやバンドアンサンブルなど、随所に彼らしいポイントを感じさせる。それでいて、楽曲全体が放っているポップで陽性な雰囲気が、確実に新しい米津玄師を感じさせるバランスになんとも嬉しくなる1曲。（山口）

[CD]01.ピースサイン 02.Neighbourhood 03.ゆめくいしょうじょ 04. ピースサイン(Instrumental) [DVD]「僕のヒーローアカデミア」ノンクレジットオープニングムービー

06.21 on sale | EP | ゆず
「謳おう」EP

SENHA&Co.／¥1,300



デビュー20周年を迎えているゆず。本作は、初の試みとなる2週連続リリースEPの第1弾。テーマはアコースティック。アコギを大事にしたゆずらしい音世界の中で、何度でも明日へと飛び立とう(01.)とか、ゴールのテープを切るために、よーいドン!(02.)といった前向きな歌が並ぶ。さらにアコギと歌による一発録音の03.では、かつて路上で歌っていた彼らの原点が見えてくるような曲だ。ちなみにジャケ写は屋久島とか。（伊藤）

01.カナリア 02.タッタ 03.天国 04.保土ヶ谷バイパス 05.カナリア(Instrumental)

06.28 on sale | single

EXILE THE SECOND
Summer Lover

rhythm zone／CD+DVD ¥1,800／CD ¥1,000



1stアルバムのリリース以来、約3ヵ月ぶりとなるニュー・シングル。タイトル曲01.はEXILE THE SECOND史上最強のサマーソング。セクシーかつワイルドにオトナの魅力を届けていたツアーから一転、爽やかさ全開のアップチューンとなっている。♪サマラバ サマラバというフレーズに合わせたキャッチーな振付は、ライヴでも盛り上がること間違いなし！ 02.のグルーヴィーなラブソングも併せて、今夏を盛り上げてくれるはず。 （斉藤）

[CD]01.Summer Lover 02.Body 03.Summer Lover(Instrumental) 04.Body(Instrumental) [DVD]Music Video

06.28 on sale | EP

ゆず
「4LOVE」EP

SENHA&Co.／¥1,300



「謳おう」EPの翌週に発売の2週連続EP第2弾。こちらのテーマはLOVE。どんなことも、何をするのも君となら自分を信じて進んでいける。君が僕の力になる。それが"愛"。01.は聴いているだけで優しい気持ちになれるラブソングだ。02.は、愛なんてよくわかんないけど、その笑顔と温もりを感じてみる、と歌う岩沢作の岩沢らしい愛の歌。ほかにも波打ち際の恋やカントリー音楽で描くピュアな恋の歌など、LOVEな4曲を収録。 （伊藤）

01.愛こそ 02.日常 03.ビーチ 04.ロンリーカントリーボーイ 05.愛こそ(Instrumental) 06.日常(Instrumental) 07.ビーチ(Instrumental) 08.ロンリーカントリーボーイ(Instrumental)

07.05 on sale | single

AAA
No Way Back

avex trax／CD+DVD ¥1,900／CD ¥1,100



新体制後初となる新曲は、ハッピーなオーラに溢れている夏にピッタリの高速ダンスチューン。恋愛が始まろうとしている高揚感と、男女の駆け引きを描いた歌詞の世界観がとても魅力的。よりアダルトな楽曲を難なく歌いこなし、成長を感じさせてくれるナンバーに。メンバーに変化があったとしても、勢いを止めることのない彼らの今をそのまま表現したような楽曲だ。ライヴで盛り上がること間違いない仕上がりとなっている。（吉田）

[CD]01.No Way Back 02.Beat Together 03.No Way Back (Instrumental) 04.Beat Together (Instrumental) [DVD]Music Clip、Making

07.05 on sale | single

Suchmos
FIRST CHOICE LAST STANCE

F.C.L.S.／¥1,000



大ヒットアルバム『THE KIDS』に続くニューEP。既にライヴでも披露されている「WIPER」は、ジミ・ヘンドリクスばりのブラックネスを感じさせるギター、濃密なグルーヴを備えたリズム、そして、現在のエンターテインメント・シーンに対する違和感を表明した歌詞がひとつになったロックナンバー。ヴァム旅行の思い出がもとになったチルソング「OVERSTAND」を含め、現在の彼らの勢いがダイレクトに伝わる1枚だ。 （森）

01.WIPER 02.OVERSTAND

07.05 on sale | single

THE BACK HORN
孤独を繋いで

SPEEDSTAR RECORDS／初回盤DVD付 ¥2,000／通常盤 ¥1,200



2作続いた共同プロデュース路線から、再びセルフプロデュースで臨む26thシングル。山田将司による01.はあくまでストイックな哀愁パンクロックで、これぞバックホーンという誇り高き1曲。菅波栄純による02.はディスコビートを取り入れ、パンキッシュで男臭いサウンドでありつつ、純情丸出しのラブソングなところが彼らしい。松田晋二作詞、山田作曲の03.は情緒豊かな切ないロック・バラード。3曲揃ってバンドの好調は明らか。（宮本）

[CD]01.孤独を繋いで 02.導火線 03.夏の残像 [DVD]ライヴ映像

07.05 on sale | single

SEKAI NO OWARI
RAIN

TOY'S FACTORY／初回盤A 謎のDVD付 ¥1,800／初回盤B 謎解きDVD付 ¥1,800／通常盤 ¥1,200



前作「Hey Ho」から約9ヵ月ぶりとなるニュー・シングル。表題曲「RAIN」は「魔法は いつか解けると 僕らは知ってる」というフレーズから始まるミディアムチューン。"楽しいこと、美しい風景も必ず消えてなくなる"前提に立ちながら、豊かな奥行きを持ったメロディ、オーガニックな響きを持ったサウンドメイク、とともにリスナーを新しい旅へと導くようなこの曲は、セカオワの新たな代表曲として広まることになりそうだ。 （森）

[CD]01.RAIN 02.スターゲイザー 03.SOS - remixed by JAUZ -

07.05 on sale | single

175R
SUMMER VACATION

EMI Records／初回盤2CD ¥2,500／通常盤 ¥1,500



活動再開以来、間髪入れずに届くニュースに相当な前傾姿勢が伝わってきますが、夏に向け、フェスに連れて行く気満々のシングルが到着。良くも悪くも175Rは変わらない。小倉の悪ガキが顔を合わせれば、その音にはどうしたって青春の汗が迸る。ただ休止中も個々で研究や練習や経験値は重ねてきているから、深みとか説得力とか味みたいなものはきっちり増しちゃって。今の175Rが一番面白いんじゃない？ （山本）

[CD1]01.夏のマボロシ 02.南風 03.FOLLOW ME 04.サマバケ! [DVD]175R(e)BEST2] 01.GLORY DAYS 02.ORANGE 03.PICCASO 04.ビューティフルデイズ 05.和 06.Party

07.05 on sale | EP

DEAN FUJIOKA
Permanent Vacation / Unchained Melody

A-Sketch／初回盤A DVD付 ¥1,800／初回盤B DVD付 ¥1,600／通常盤 ¥1,200



01.は自身が主演する映画『結婚』のために、ディーンが書き下ろしたロックナンバー。エンドロールで流れる際に、自分が思う主人公の"未来"を表現したという世界観は、映画と寄り添った、深い曲に仕上がっている。03.は、社会現象となった『ユーリ!!! on ICE』のOP。激しいミクスチャーロックの01.とは雰囲気が異なる、変則的でドラマティックな楽曲を聴かせてくれる。アーティストとしてレンジの広さを見せつけた1枚だ。（吉田）

[CD]01.Permanent Vacation(EP ver.) 02.Unchained Melody 03.History Maker(EP mix) 04.午夜天使的翅膀(Midnight Messenger Mandarin ver.) [DVD A]Music Video 他 [DVD B]YURI!!! on ICE Opening (EP Limited ver.)

07.12 on sale | single | KANA-BOON バトンロード

Ki/oon Music／初回盤DVD付 ¥1,500／通常盤 ¥1,165



4ヵ月で早くも到着の新作は、アニメ『BORUTO-ボルト- NARUTO NEXT GENERATIONS』のOP曲としてオンエア中の01。パワフルにかき鳴らされるギターやキャッチーなリフなど、彼ららしいサウンドを轟かせつつも、ドラマティックな展開で魅せる間奏がかなり心地よく、また新たな武器を手に入れた印象。他にも変拍子の上で言葉を畳み掛けていく02.ではシリアスに、軽やかな03.ではハッピーにと三者三様な曲が並ぶ。（山口）

[CD]01.バトンロード 02.アナートマン 03.ワンダーソング [DVD]小泉貴裕初監督作品「シン・シルエット」

07.12 on sale | single | UVERworld DECIDED

gr8! records／初回盤DVD付 ¥1,574／通常盤 ¥1,204



アルバムに先駆けて、UVERworldが投下した新作。映画『銀魂』の主題歌でもある01.は、余分なものを削ぎ落とし鋭く引き締まったサウンドの破壊力が凄まじい。そこに乗るヴォーカルは"心の導き""意志"に沿って掴むことの意味を真っ直ぐ伝える。また、TAKUYA∞の歌にwow wow wowというコーラスが乗る02.は、彼らのライヴの光景と重なる1曲。03.は、TAKUYA∞&信人によるラップバドルが炸裂、遊び心が凝縮。（大西）

[CD]01.DESIDED 02.RANGE 03.DIS is TEKI [DVD]ライヴ映像

07.12 on sale | single | BREAKERZ 夢物語

ZAIN RECORDS／初回盤A DVD付 ¥1,574／初回盤B PhotoBook付 ¥1,481／通常盤 ¥926／コナン盤 ¥1,111



GLAY、VAMPSなどを招いた対バン・シリーズを行なうなど、デビュー10周年をド派手に飾っているBREAKERZの新曲。ドラマティックかつ壮大なメロディライン、生々しいバンドサウンドにホーンを加えたアレンジ、タイトル通り"これからも夢を追いかけよう"という意志を反映したリリックからは、このバンドの10年間の軌跡がリアルに感じられる。C/W「devil or angel ?」は、10年前、バンド結成当初に制作されたナンバーだ。（森）

[CD]01.夢物語 02.devil or angel ? 02.幾千の迷宮で 幾千の謎を解いて～BREAKERZ 10周年10番勝負-VS- Live 2017.04.14 at Zepp Tokyo～(コナン盤) 03.THE TRAIN'S GONE…～Acoustic Version～(通常盤) 03.夢物語 ～TV Size Edit～(コナン盤) [DVD]Music Video、オフショット

07.12 on sale | single | Sonar Pocket 段々男女物語

WARNER MUSIC JAPAN／初回盤DVD付 ¥1,296／通常盤 ¥926



同じ波が二度とこないように、同じ出逢いなんて二度とはない。だから波も君も、タイミングを逃さないように、全力でパドリングして、掴んで、乗り越えて、幸せな時間を感じ合おう。シンプルでキュートなトラックの中で、波乗りと恋愛を比喩しながら描かれるソナポケ通算26枚目の最新シングル。ファンキーなトラックで、"世界一のリスナーは今これを聴いてる君"と歌う02.もファンを大切にする彼ららしい曲だ。（伊藤）

[CD]01.段々男女物語 02.イニシアチブ 03.段々男女物語(Instrumental) 04.イニシアチブ(Instrumental) [DVD]Music Video、オフショット

07.19 on sale | single | THE BEAT GARDEN FLOWER

UNIVERSAL SIGMA／初回盤A DVD付 ¥1,806／初回盤B DVD+タトゥーシール付 ¥1,621／通常盤 ¥1,112



独自のジャンル＝エレクトリック・ダンス・ロックを武器に突き進んでるビートガーデンの新曲は、ゴリッゴリのギターリフとサビの艶感も印象的なハイブリッドダンスロックチューン。エッジーな曲に恋愛の歌詞というギャップも◎。洗練された世界観は、こだわりのある音作り等、意図的なものもさる事ながら、彼らのセンスによるところも大。リリースのたびに"才能"を感じる。今最も注目すべきグループの超ホットな一撃!!（赤木）

[CD]01.FLOWER 02.Carried away 03.Walk This Way 04.FLOWER (Instrumental) 05.Carried away (Instrumental) 06.Walk This Way (Instrumental) [DVD A]ライヴ映像 [DVD B]Music Video、ドキュメンタリー

07.12 on sale | single | Blu-BiLLioN The Awakening of Revolution

Resistar Records／初回盤A・B DVD付 ¥1,800／通常盤 ¥1,500



結成7周年を迎えているBlu-BiLLioN。彼らはこれまでジャンルを超え振り幅を広げてきたが、今一度足元を見つめ直し、自分達の根幹を提示したのが今作だ。映画「メサイア外伝-極夜Polar night-」のオープニング曲にもなっている01.は、複雑な構成ながらフェイクのないロックチューン。難易度の高い歌と演奏は彼らの底力を示している。ここからまた何を魅せてくれるのか。現在地のみならず未来にも期待を抱かせる渾身作!（赤木）

[初回盤CD]01.The Awakening of Revolution 02.Cherry Bat 03.The Awakening of Revolution (カラオケ) [通常盤CD]01.The Awakening of Revolution 02.Cherry Bat 03.現代型パラノイア 04.The Awakening of Revolution (カラオケ) [DVD A]Music Clip [DVD B]オフショット

07.26 on sale | single | E-girls Love ☆ Queen

rhythm zone／CD+DVD+写真集 ¥3,000／CD+DVD ¥1,800／CD ¥1,200

NOW PRINTING

11人体制となった新生E-girlsの第1弾シングル。タイトル曲01.は、さらに輝きを増したE-girlsの幕開けを告げるポップ&スタイリッシュなダンスチューンで、E.G.familyをよく知る作詞家・小竹正人らしい、等身大でありながらも魔法のような言葉が散りばめられている。C/Wには、E-girlsを抜けたメンバー達との変わらない絆、限りある人生を輝きながら生き抜く大切さを描いた02、ラップとの掛け合いが新鮮な03.も収録!（斉藤）

[CD]01.Love ☆ Queen 02.Smile For Me 03.Tomorrow will be a good day 他 全4曲予定 [DVD]Music Video

07.19 on sale | single | THE RAMPAGE from EXILE TRIBE Dirty Disco

rhythm zone／CD+DVD ¥1,800／CD ¥926

NOW PRINTING

ディスコミュージックをルーツにした、ファンキーなダンスナンバー。20代前後の彼らが、生まれる前の70年代、80年代のサウンドに今の空気を吹き込んだ、少しの懐かしさと圧倒的な新しさを感じる1曲に。02.は清涼溢れるサウンドに、優しい3人のヴォーカルが掛け合うキャッチーなナンバー。DVDにはパフォーマー13人が暴れまわるダンストラックを収録。ゲストにはZeebraを迎え、圧倒的でパワフルなパフォーマンスを披露。（吉田）

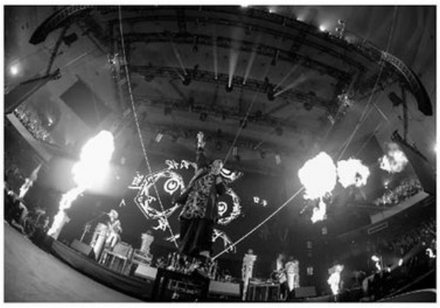
[CD]01.Dirty Disco 02.Shangri-La 03.RAMPAGE ALL DAY 04.Dirty Disco (Instrumental) 05.Shangri-la (Instrumental) Bonus Track:「FRONTIERS」(English Version) [DVD]Music Video

Text ⇒ 赤木まみ、伊藤博伸、大西智之、斉藤碧、宮本英夫、森朋之、山口哲生、山本祥子、吉田可奈

News Rush!!

人気アーティストのリリース情報や
熱いライヴレポートなどを
お届けします!

live THE ORAL CIGARETTES



写真■Viola Kam(V'z Twinkle Photography)

UNOFFICIAL DINING TOUR 2017
6.16 日本武道館

3rdアルバム『UNOFFICIAL』発表後、4月から全国を巡った「唇ワンマンツアー UNOFFICIAL DINING TOUR 2017」のファイナル公演が、6月16日・日本武道館で行なわれた。実に明解なライヴだった。彼らが歩んできた道で感じたこと、掴んで来たことを、THE ORAL CIGARETTESの音楽に託して届ける。満員の観客が受け取る。オープニングの「5150」から、その気持ちのこもった演奏の熱、会場の一体感は上昇を続け、本編ラスト「LOVE」では温かく優しく包んだ。アンコールではその2日前にリリースされたニュー・シングル「トナリアウ／ONE'S AGAIN」を披露。覚悟の歌で締め括った。そして色々大発表が。9月30日に公開される『亜人』実写映画の主題歌、来年2月15日・大阪城ホールのワンマンライヴが決定!!

news 早見沙織
竹内まりやが手掛けた3rdシングル発表



5月29日(月)、東京キネマ倶楽部にて開催された「早見沙織コンベンションライブ2017」。その壇上にて、待望の3rdシングルが11月8日にリリースされること、その楽曲は早見がヒロイン・花村紅緒を演じる劇場版『はいからさんが通る』前編の主題歌に決定したこと、さらにはその新曲「夢の果てまで」の作詞・作曲を竹内まりやが担当することが発表された。コンベンションライヴのラストでは、リリース告知をしたばかりの「夢の果てまで」を早くも披露。どこかノスタルジックで軽やかなメロディが心に染みこむ素敵な楽曲を、透き通った歌声で聴かせてくれた。

news ISEKI
ソロデビュー作は、名曲のAORカバー



'15年にキマグレンとしての活動を惜しまれつつ終了し、現在までソロアーティストとして活動してきたISEKIが、満を持して6月28日発売のミニカバーアルバム『AOR FLAVA – mellow green-』でソロデビューを果たす。今作は、"J-POPの中のAOR風味の名曲カバーシリーズ"第一弾。シュガー・ベイブの「DOWN TOWN」やオリジナル・ラヴ「接吻」などの名曲を、ISEKI流のAORアレンジで聴かせている。このシリーズでは、オリジナルのコラボ新曲も収める予定で、今回は中田裕二と共作した「Hold You feat.中田裕二」を収録。二人による初のコラボも必聴だ。

live JAY'ED
イベントに盟友EXILE ATSUSHIが登場



現在、6月21日に発売されたニュー・アルバム『Here I Stand』のリリース記念インストアライヴを、全国各地で開催中のJAY'ED。6月10日・埼玉レイクタウンでのイベントには、今作を共にサウンドプロデュースしたEXILE ATSUSHIがスペシャルゲストとして登場! 豪華共演に、会場には場内満員の4000人のオーディエンスが集結した。JAY'EDはダンサーと共に、アルバム収録のアッパーチューンや、EXILE ATSUSHIと「ずっと一緒 feat.Duran (RED DIAMOND DOGS/Made in Asia)」を披露。最後まで観客を湧かせたのだった。 (写真■高田 梓)

news ORANGE RANGE
15周年ツアー武道館公演が映像化!



沖縄ファミリーマートのCMに書き下ろした新曲「チラチラリズム」(沖縄ファミリーマート限定シングルとして6月13日に発売)に続いて、7年ぶりの映像作品となるLIVE DVD&Blu-ray「ORANGE RANGE LIVE TOUR 016-017～おかげさまで15周年! 47都道府県DE カーニバル～at 日本武道館」が7月12日にリリース! 豪華コラボを含め、あの記念すべき一夜を余すところなく収録。限定盤には沖縄公演でのコラボ楽曲を追加収録、そしてVR動画で収録した限定動画を「ハコスコアプリ」でVR体験ができるというVRゴーグルも付属。なんとも頼もしい作品だ。

news NEW ERA® SHINJUKU
最新旗艦店が堂々のオープン!

ヘッドウェアはもちろん、バッグやアパレルも人気沸騰中のニューエラ。そのすべてが揃うNEW ERA® STOREの最新店舗、NEW ERA® SHINJUKUが、来る6月30日(金)、新宿駅東南口のショッピングビルFlagsの4Fにグランドオープンする! 店内には話題の最新モデルをはじめ、ここでしか買えない限定アイテムなども勢揃い。さらにオープン記念のノベルティとして、ニューエラのフラッグロゴがデザインされた茶碗と箸のセットが用意されるとの情報も。キャップやハットと言えば、まさに夏フェスに欠かせない必需品。このチャンスにぜひゲットしよう!
(問い合わせ)ニューエラ tel.03-5773-6733

NEW ERA® SHINJUKU
東京都新宿区新宿3-37-1
新宿Flags 4F
営業時間 11:00～22:00
store.neweracap.jp

live 黒猫チェルシー
TOUR 2017「LIVE IS A MIRACLE」



写真■yuji oyama

4年半ぶりのオリジナルアルバムを引っさげた全国ツアーのファイナル、6月4日の東京キネマ倶楽部。歌詞の一節に入っている"ミラーボール"が回る中で演奏された「Dark Night, Spot Light」を始め、収録曲はすべて披露。他にも個々のソロプレイで観客を沸かせた「ブルーサマー」、振り付けつきで歌われた「飲みに行こう」、ファン投票で選ばれた「廃人のロックンロール」など充実の全21曲。とにかくメンバーも観客も楽しそうにしていたのが印象的で、"自信を持って俺たちについて来て"というヴォーカル渡辺の言葉がすべてを物語るようなライヴだった。 (文■瀧本幸恵)

タ

Da-iCE
6月28日（水）小樽市民会館
30日（金）わくわくホリデーホール(札幌市民ホール)
7月 8日（土）石川・本多の森ホール
16日（日）福岡サンパレス
21日（金）日本特殊陶業市民会館フォレストホール
22日（土）グランキューブ大阪メインホール
29日（土）サンシティ越谷 大ホール
9月 2日（土）リンクステーション青森
9日（土）厚木市文化会館 大ホール
10日（日）郡山市民文化センター 大ホール
15日（金）仙台イズミティ21 大ホール
16日（土）仙台イズミティ21 大ホール
23日（土）広島アステールプラザ 大ホール
24日（日）広島アステールプラザ 大ホール
30日（土）浦安市文化会館
10月 7日（土）群馬県ベイシア文化ホール 大ホール
9日（月）サンポートホール高松 大ホール
11月18日（土）神戸ワールド記念ホール
19日（日）神戸ワールド記念ホール
info<da-ice.jp/>

超特急
7月 1日（土）山形・酒田市民会館 希望ホール
2日（日）東京エレクトロンホール宮城
9日（日）三重文化会館 大ホール
15日（土）サンポートホール高松・大ホール
17日（月）名古屋国際会議場センチュリーホール
23日（日）神戸国際会館 こくさいホール
8月 8日（火）東京国際フォーラム ホールA
28日（月）豊洲ピット※
29日（火）豊洲ピット※
30日（水）豊洲ピット※
31日（木）豊洲ピット※
9月 1日（金）豊洲ピット※
info<bullettrain.jp/>
※対バンあり

DISH//
6月28日（水）ゼップ大阪ベイサイド ※
29日（木）ゼップ名古屋 ※
7月 4日（火）ゼップダイバーシティ東京 ※
9月17日（日）日比谷野外大音楽堂
info<dish-web.com/>
※は対バンあり

DOG inTheパラレルワールドオーケストラ
6月30日（金）仙台マカナ
7月 2日（日）札幌キューブガーデン
8日（土）梅田クラブクアトロ
9日（日）名古屋E.L.L
9月 9日（土）ゼップダイバーシティ東京
info<inu-para.com/>

AAA
6月30日（金）宮城セキスイハイムスーパーアリーナ
7月 1日（土）宮城セキスイハイムスーパーアリーナ
8日（土）さいたまスーパーアリーナ
9日（日）さいたまスーパーアリーナ
15日（土）真駒内セキスイハイム アイスアリーナ
16日（日）真駒内セキスイハイム アイスアリーナ
info<avex.jp/aaa/>

ナ

ナノ
8月11日（金）豊洲ピット
13日（日）福岡ドラムBe-1
19日（土）北海道キューブガーデン
26日（土）梅田トラッド
27日（日）名古屋クラブクアトロ
31日（木）香港・E-MAX
9月 2日（土）台湾・Legacy Taipei
9日（土）ジャカルタ・Upperroom
info<nanonano.me/>

西野カナ
8月26日（土）京セラドーム大阪
27日（日）京セラドーム大阪
9月23日（土）東京ドーム
24日（日）東京ドーム
info<www.nishinokana.com/>

ハ

HOWL BE QUIET
7月20日（木）仙台エン2nd
26日（水）名古屋クラブクアトロ
28日（金）梅田トラッド
8月 1日（火）高松ダイム
3日（木）福岡ドラムBe-1
4日（金）広島セカンドクラッチ
16日（水）赤坂ブリッツ
info<www.howlbequiet.com/>

BugLug
9月 3日（日）クラブチッタ川崎
15日（金）ヘブンズロック宇都宮VJ-2
17日（日）秋田クラブスウィンドル
18日（月）仙台ダーウィン
22日（金）大阪バナナホール
24日（日）高知X-pt.
26日（火）奈良ネバーランド
27日（水）松坂マクサ
29日（金）福井チョップ
10月 1日（日）富山ソウルパワー
8日（日）新潟スタジオネックス
9日（月）長野クラブジャンクボックス
14日（土）山形ミュージック昭和セッション
15日（日）青森クォーター
17日（火）函館クラブココア
20日（金）盛岡クラブチェンジウェイブ
22日（日）郡山ヒップショットジャパン
26日（木）京都ファンJ
28日（土）熊本B.9 V1
29日（日）宮崎SRボックス
31日（火）鹿児島キャパルボホール
11月 2日（木）広島セコンドクラッチ
4日（土）松山サロンキティ
5日（日）徳島クラブグラインドハウス
7日（火）甲府コンビクション
11日（土）金沢AZ
12日（日）岐阜クラブG
21日（火）和歌山シェルター
23日（木）岡山クレイジーママキングダム
25日（土）大分ドラムBe-0
26日（日）佐賀ガイルス
28日（火）長崎ドラムBe-7
30日（木）ライブライズ周南
12月 2日（土）松江AZTiC canova
3日（日）米子AZTiC laughs
5日（火）神戸バリット
7日（木）高崎クラブフリーズ
9日（土）水戸ライトハウス
10日（日）柏パロッツァ
16日（土）沖縄・宜野湾ヒューマンステージ
17日（日）沖縄・宜野湾ヒューマンステージ
1月12日（金）浜松窓枠
13日（土）名古屋レニーリミテッド
20日（土）ヘブンズロック熊谷VJ-1
24日（水）滋賀ビーフラット
26日（金）高松ダイム
28日（日）福岡ドラムロゴス
2月17日（土）新木場スタジオコースト
info<buglug.jp/>

BUMP OF CHICKEN
9月16日（土）幕張メッセ国際展示場1〜3ホール
17日（日）幕張メッセ国際展示場1〜3ホール
23日（土）北海道立総合体育センター 北海きたえーる
24日（日）北海道立総合体育センター 北海きたえーる
10月 3日（火）朱鷺メッセ・新潟コンベンションセンター
8日（日）静岡エコパアリーナ
31日（火）大阪城ホール
11月 1日（水）大阪城ホール
18日（土）広島グリーンアリーナ
12月 9日（土）宮城・セキスイハイムスーパーアリーナ
16日（土）石川産業展示館4号館
info<www.bumpofchicken.com/>

VAMPS
6月28日（水）ゼップ東京
7月 8日（土）ゼップ名古屋
9日（日）ゼップ名古屋
11日（火）ゼップ名古屋
12日（水）ゼップ名古屋
15日（土）熊本 B.9 V1
16日（日）熊本 B.9 V1
18日（火）福岡ドラムロゴス
19日（水）福岡ドラムロゴス
22日（土）ゼップ大阪ベイサイド
23日（日）ゼップ大阪ベイサイド
25日（火）ゼップ大阪ベイサイド
26日（水）ゼップ大阪ベイサイド
8月 5日（土）沖縄・ぎのわん海浜公園屋外劇場
6日（日）沖縄・ぎのわん海浜公園屋外劇場
9月 2日（土）ゼップ札幌
3日（日）ゼップ札幌
17日（日）仙台ピット
18日（月）仙台ピット
info<www.vampsxxx.com/>

THE BEAT GARDEN
9月 9日（土）梅田クラブクアトロ
23日（土）渋谷ツタヤO-WEST
info<thebeatgarden.com/>

BIGMAMA
7月 1日（土）札幌ペニーレーン24
8日（土）金沢エイトホール
9日（日）新潟ゴールデンピッグスレッドステージ
10月15日（日）日本武道館
info<bigmama-web.com/>

藤原さくら
6月29日（木）北海道・道新ホール
7月 1日（土）名古屋市民会館
9日（日）大阪オリックス劇場
17日（月）サンポートホール高松
21日（金）中野サンプラザ
22日（土）中野サンプラザ
info<www.fujiwarasakura.com/>

flumpool
9月16日（土）仙台サンプラザホール
18日（月）秋田県民会館
23日（土）岐阜市民会館
24日（日）富山県民会館 ホール
29日（日）札幌わくわくホリデーホール
10月 1日（日）函館市民会館
6日（金）高知県民文化ホール オレンジホール
7日（土）岡山市民会館
9日（月）名古屋国際会議場センチュリーホール
10日（火）大阪フェスティバルホール
13日（金）新潟県民会館 大ホール
15日（日）大宮ソニックシティ 大ホール
21日（土）和歌山県民文化会館 大ホール
22日（日）なら100年会館
11月 1日（水）神戸国際会館こくさいホール
3日（金）徳島・鳴門市文化会館
4日（土）滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール 大ホール
12日（日）富士市文化会館 ロゼシアター大ホール
19日（日）伊勢崎市文化会館
22日（水）宮崎市民文化ホール 大ホール
23日（木）熊本・荒尾総合文化センター 大ホール
25日（土）福岡・アルモニーサンク 北九州ソレイユホール
30日（木）市川市文化会館 大ホール
12月 2日（土）パシフィコ横浜 国立大ホール
3日（日）パシフィコ横浜 国立大ホール
9日（土）福井市文化会館ホール
10日（日）三重・NTNシティホール(桑名市民会館)
15日（金）広島上野学園ホール
16日（土）米子市公会堂
info<www.flumpool.jp/>

Blu-BiLLioN
7月 2日（日）恵比寿ザ・ガーデンホール
info<blu-billion.jp/>

BREAKERZ
7月15日（土）豊洲ピット
16日（日）豊洲ピット
info<breakerz-web.net/>

Block B
7月 5日（水）グランキューブ大阪 メインホール
6日（木）グランキューブ大阪 メインホール
8日（土）東京ドームシティホール
9日（日）東京ドームシティホール
info<www.block-b.jp/>

ベリーグッドマン
7月 1日（土）仙台ダーウィン
2日（日）新潟ゴールデンピッグスレッド
15日（土）ゼップダイバーシティ東京
info<berrygoodman.com/>

マ

MAGIC OF LiFE
7月 1日（土）熊本ジャンゴ
2日（日）福岡キューブリック
12日（水）大阪・江坂ミューズ
14日（金）名古屋E.L.L.
16日（日）渋谷ツタヤO-EAST
info<magicoflife.jp/>

ヤ

遊助
7月12日（水）オリンパスホール八王子
16日（日）神戸国際会館こくさいホール
17日（月）神戸国際会館こくさいホール
22日（土）名古屋国際会議場センチュリーホール
23日（日）名古屋国際会議場センチュリーホール
28日（金）東京国際フォーラムホールA
30日（日）アクトシティ浜松大ホール
8月 6日（日）パシフィコ横浜 国立大ホール
11日（金）福岡サンパレス
12日（土）福岡サンパレス
19日（土）石川・本多の森ホール
26日（土）大阪オリックス劇場
27日（日）大阪オリックス劇場
9月 3日（日）仙台サンプラザホール
5日（火）よこすか芸術劇場
6日（水）よこすか芸術劇場
9日（土）広島文化学園HBGホール
16日（土）大宮ソニックシティ大ホール
17日（日）大宮ソニックシティ大ホール
23日（土）大阪オリックス劇場
24日（日）大阪オリックス劇場
info<www.yuusuke.jp/>

ゆず
9月21日（木）熊本県立劇場 演劇ホール
23日（土）長崎ブリックホール
27日（水）金沢歌劇座
30日（土）函館市民会館
10月 2日（月）リンクステーションホール青森
10日（火）松山市民会館
12日（木）米子コンベンションセンター BiG SHiP
16日（月）大阪フェスティバルホール
17日（火）大阪フェスティバルホール
24日（火）名古屋センチュリーホール
25日（水）名古屋センチュリーホール
11月 7日（火）パシフィコ横浜 国立大ホール
8日（水）パシフィコ横浜 国立大ホール
10日（金）パシフィコ横浜 国立大ホール
info<yuzunowa.com/>

吉田山田
8月26日（土）上野水上野外音楽堂
info<yoshidayamada.com/>

ラ

LiSA
7月 1日（土）名古屋・日本ガイシホール
info<www.lxixsxa.com/>

Little Glee Monster
9月 2日（土）市原市市民会館
3日（日）茨城県立県民文化センター
7日（木）大宮ソニックシティ
10日（日）新潟県民会館
15日（金）北海道・道新ホール
16日（土）北海道・道新ホール
18日（月）パシフィコ横浜 国立大ホール
21日（木）大阪フェスティバルホール
23日（土）岡山市民会館
24日（日）香川レクザムホール
30日（土）静岡・富士ロゼシアター
10月 1日（日）狭山市市民会館 大ホール
7日（土）愛知・幸田町民会館
9日（月）山梨河口湖ステラシアター
14日（土）滋賀・びわ湖ホール 大ホール
15日（日）なら100年会館 大ホール
20日（金）石川・本多の森ホール
21日（土）富山・高岡波文化ホール
11月 3日（金）三重・四日市市文化会館
5日（日）宮城・東京エレクトロンホール宮城
12日（日）群馬・桐生市市民文化会館
17日（金）名古屋国際会議場センチュリーホール
19日（日）東京国際フォーラム ホールA
info<www.littlegleemonster.com/>

Live Rush!!

ア

Ivy to Fraudulent Game
6月30日（金）名古屋アポロベース
7月 8日（土）心斎橋ミュージッククラブジャニス
　　9日（日）恵比寿リキッドルーム
info＜www.ivytofraudulentgame.com/＞

ASH DA HERO
7月28日（金）渋谷ツタヤO-EAST
info＜ashdahero.com/＞

イトヲカシ
7月 2日（日）沖縄・桜坂セントラル
　　9日（日）新潟ゴールデンピッグスブラックステージ
　　16日（日）ゼップ東京
info＜itowokashi.jp/＞

WEAVER
6月28日（水）千葉ルック
7月 1日（土）米子AZTiClaughs
　　2日（日）岡山エビスヤプロ
　　4日（火）松山Wスタジオレッド
　　7日（金）長崎ドラムBe-7
　　8日（土）熊本B.9V2
info＜www.weavermusic.jp/＞

UVERworld
7月 3日（月）梅田クラブクアトロ
　　6日（木）名古屋E.L.L.
　　10日（月）高知キャラバンサライ
　　13日（木）広島クラブクアトロ
　　19日（水）福岡ドラムBe-1
　　26日（水）仙台レンサ
　　31日（月）恵比寿リキッドルーム
8月 4日（金）山形シェルターなんようホール 大ホール
　　6日（日）福島・いわき芸術文化交流館アリオス
　　9日（水）青森・弘前市民会館
　　14日（月）北海道・北見市民会館
　　16日（水）北海道・旭川市民文化会館 大ホール
　　23日（水）徳島・鳴門市文化会館
　　24日（木）徳島・鳴門市文化会館
　　26日（土）愛媛・ひめぎんホール メインホール
　　27日（日）愛媛・ひめぎんホール メインホール
　　29日（火）岡山市民会館
　　30日（水）岡山市民会館
9月 1日（金）島根県民会館 大ホール
　　3日（日）山口・周南市文化会館
　　4日（月）山口・周南市文化会館
　　6日（水）なら100年会館 大ホール
　　7日（木）なら100年会館 大ホール
　　12日（火）和歌山県民文化会館 大ホール
　　13日（水）和歌山県民文化会館 大ホール
　　19日（火）鹿児島市民文化ホール第一ホール
　　20日（水）鹿児島市民文化ホール第一ホール
　　25日（月）沖縄ミュージックタウン音市場
10月 3日（火）日本武道館
　　4日（水）日本武道館
11月 2日（木）神戸ワールド記念ホール
　　3日（金）神戸ワールド記念ホール
　　11日（土）静岡エコパアリーナ
　　12日（日）静岡エコパアリーナ
　　22日（水）大阪城ホール
　　23日（木）大阪城ホール
12月 5日（火）朱鷺メッセ・新潟コンベンションセンター
　　6日（水）朱鷺メッセ・新潟コンベンションセンター
　　13日（水）名古屋・日本ガイシホール
　　14日（木）名古屋・日本ガイシホール
　　16日（土）宮城 セキスイハイムスーパーアリーナ
　　17日（日）宮城 セキスイハイムスーパーアリーナ
　　20日（水）横浜アリーナ
　　21日（木）横浜アリーナ
　　25日（月）日本武道館
　　30日（土）マリンメッセ福岡
　　31日（日）マリンメッセ福岡
info＜www.uverworld.com/＞

urata naoya（AAA）
11月 6日（月）大阪NHKホール
　　10日（金）舞浜アンフィシアター
info＜uratanaoya.com/＞

Age Factory
8月 3日（木）渋谷wwwX
　　19日（土）梅田シャングリラ
info＜www.agefactory.biz/＞

Aimer
8月29日（火）日本武道館
info＜www.aimer-web.jp/＞

lol
7月 1日（土）ヘブンズロック宇都宮 VJ-2
　　2日（日）千葉ルック
　　7日（金）梅田クラブクアトロ
　　9日（日）静岡サナッシュ
　　17日（月）新潟ゴールデンピッグスブラックステージ
　　29日（土）渋谷デュオミュージックエクスチェンジ
info＜avex.jp/lol/＞

Over The Top
7月 6日（木）渋谷WWW X
　　13日（木）梅田クラブクアトロ
info＜over-tt.com/＞

OLDCODEX
9月 3日（日）ゼップ大阪ベイサイド
　　9日（土）ゼップ札幌
　　12日（火）ゼップ東京
　　13日（水）ゼップ東京
10月 7日（土）戸田市文化会館
　　15日（日）アルモニーサンク北九州ソレイユホール
　　21日（土）大阪オリックス劇場
11月 5日（日）石川・本多の森ホール
　　10日（金）仙台サンプラザホール
　　25日（土）広島・JMS アステールプラザ 大ホール
　　26日（日）広島・JMS アステールプラザ 大ホール
12月 2日（土）神戸国際会館こくさいホール
　　20日（水）名古屋国際会議場センチュリーホール
　　23日（土）静岡市民文化会館 大ホール
info＜www.oldcodex.com/＞

ORANGE RANGE
7月16日（日）広島クラブクアトロ
　　17日（月）高松フェストハレ
　　23日（日）仙台レンサ
　　29日（土）大阪なんばハッチ
　　30日（日）大阪なんばハッチ
8月 5日（土）福岡ドラムロゴス
　　6日（日）熊本ドラム Be-9 V1
　　11日（金）ゼップ名古屋
　　12日（土）金沢エイトホール
　　18日（金）新潟ロッツ
　　20日（日）ゼップ札幌
　　25日（金）ゼップ東京
　　26日（土）ゼップ東京
10月14日（土）沖縄市野外ステージ ※
info＜orangerange.com/＞
※は主催イベント

カ

GRANRODEO
7月 1日（土）仙台ピット
　　2日（日）仙台ピット
　　8日（土）ゼップ大阪ベイサイド
　　9日（日）ゼップ大阪ベイサイド
　　16日（日）ゼップ名古屋
　　17日（月）ゼップ名古屋
info＜www.granrodeo.net/＞

GLAY
9月23日（土）朱鷺メッセ・新潟コンベンションセンター
　　24日（日）朱鷺メッセ・新潟コンベンションセンター
　　30日（土）大阪城ホール
10月 1日（日）大阪城ホール
　　7日（土）宮城・セキスイハイムスーパーアリーナ
　　8日（日）宮城・セキスイハイムスーパーアリーナ
　　21日（土）広島グリーンアリーナ
　　22日（日）広島グリーンアリーナ
　　25日（水）日本武道館
　　27日（金）日本武道館
　　28日（土）日本武道館
11月 3日（金）北海道立総合体育センター 北海きたえーる
　　4日（土）北海道立総合体育センター 北海きたえーる
　　11日（土）横浜アリーナ
　　12日（日）横浜アリーナ
　　15日（水）大阪城ホール
　　16日（木）大阪城ホール
　　25日（土）マリンメッセ福岡
　　26日（日）マリンメッセ福岡
12月 9日（土）さいたまスーパーアリーナ
　　10日（日）さいたまスーパーアリーナ
　　16日（土）名古屋・日本ガイシホール
　　17日（日）名古屋・日本ガイシホール
info＜www.glay.co.jp/＞

go!go!vanillas
9月 9日（土）横浜ベイホール
　　10日（日）水戸ライトハウス
　　16日（土）ヘブンズロック熊谷VJ-1
　　17日（日）高崎クラブフリーズ
　　23日（土）神戸チキンジョージ
　　24日（日）滋賀U-STONE
　　28日（木）浜松窓枠
　　30日（土）長野クラブジャンクボックス
10月 1日（日）金沢エイトホール
　　6日（金）仙台レンサ
　　8日（日）秋田クラブスウィンドル
　　9日（月）盛岡クラブチェンジウェイブ
　　21日（土）高松モンスター
　　22日（日）高知 X-pt.
　　26日（木）米子AZTiClaughs
　　28日（土）広島クラブクアトロ
　　29日（日）岡山クレイジーママキングダム
11月 9日（木）宮崎SRボックス
　　11日（土）熊本B.9 V1
　　12日（日）福岡ドラムロゴス
　　18日（土）札幌ペニーレーン24
　　19日（日）札幌ペニーレーン24
info＜gogovanillas.com/＞

小松未可子
7月22日（土）渋谷ツタヤO-EAST
　　29日（土）名古屋スペードボックス
8月 6日（日）心斎橋ミュージッククラブジャニス
info＜www.toysfactory.co.jp/artist/mikakokomatsu＞

サ

THE YELLOW MONKEY
12月 9日（土）東京ドーム
　　10日（日）東京ドーム
info＜theyellowmonkeysuper.jp/＞

SILENT SIREN
6月29日（木）岡山クレイジーママキングダム
　　30日（金）岡山クレイジーママキングダム
7月 2日（日）EXシアター六本木
　　4日（火）金沢エイトホール
　　8日（土）栃木市総合文化センター
　　13日（木）新潟ロッツ
　　14日（金）新潟ロッツ
　　17日（月）仙台イズミティ21 大ホール
　　25日（火）静岡サウンドシャワーアーク
　　26日（水）静岡サウンドシャワーアーク
　　29日（土）旭川カジノドライブ
　　30日（日）札幌わくわくホリデーホール
9月18日（月）名古屋国際会議場センチュリーホール
10月 8日（日）福岡国際会議場メインホール
　　9日（月）福岡国際会議場メインホール
　　28日（土）グランキューブ大阪メインホール
　　29日（日）グランキューブ大阪メインホール
11月 3日（金）郡山市民文化センター大ホール
　　13日（月）日本武道館
　　14日（火）日本武道館
info＜silent-siren.com/＞

Suchmos
7月 2日（日）日比谷野外大音楽堂
　　9日（日）大阪城音楽堂
info＜www.suchmos.com/＞

THE ORAL CIGARETTES
11月 1日（水）ゼップ大阪ベイサイド
　　8日（水）ゼップ名古屋
　　9日（木）ゼップ北海道
　　24日（金）ライブブルー広島
12月 5日（火）新木場スタジオコースト
　　6日（水）新木場スタジオコースト
2月15日（木）大阪城ホール
info＜theoralcigarettes.com/＞

SHE'S
9月29日（金）東京・草月ホール
　　30日（土）東京・草月ホール
10月13日（金）名古屋市芸術創造センター
　　14日（土）大阪・立命館いばらきフューチャープラザ グランドホール
info＜she-s.info/＞

GENERATIONS from EXILE TRIBE
7月22日（土）長野エムウェーブ
　　23日（日）長野エムウェーブ
8月 2日（水）さいたまスーパーアリーナ
　　3日（木）さいたまスーパーアリーナ
　　5日（土）さいたまスーパーアリーナ
　　6日（日）さいたまスーパーアリーナ
　　11日（金）マリンメッセ福岡
　　12日（日）マリンメッセ福岡
　　13日（日）マリンメッセ福岡
　　30日（水）名古屋・日本ガイシホール
　　31日（木）名古屋・日本ガイシホール
9月 2日（土）名古屋・日本ガイシホール
　　3日（日）名古屋・日本ガイシホール
　　16日（土）真駒内セキスイハイムアイスアリーナ
　　17日（日）真駒内セキスイハイムアイスアリーナ
　　23日（土）青森盛運輸アリーナ
　　24日（日）青森盛運輸アリーナ
10月28日（土）マリンメッセ福岡
　　29日（日）マリンメッセ福岡
11月 8日（水）大阪城ホール
　　9日（木）大阪城ホール
　　25日（土）三重県営サンアリーナ
　　26日（日）三重県営サンアリーナ
12月 2日（土）朱鷺メッセ・新潟コンベンションセンター
　　3日（日）朱鷺メッセ・新潟コンベンションセンター
　　16日（土）静岡エコパアリーナ
　　17日（日）静岡エコパアリーナ
info＜generations-ldh.jp/＞

SCANDAL
7月 1日（土）鹿児島キャパルボホール
　　2日（日）福岡ドラムロゴス
　　4日（火）大分ドラムBe-0
　　8日（土）沖縄・桜坂セントラル
　　14日（金）ヘブンズロック宇都宮 VJ-2
　　15日（土）水戸ライトハウス
　　17日（月）豊洲ピット
info＜www.scandal-4.com/＞

SPYAIR
7月29日（土）富士急ハイランド・コニファーフォレスト
info＜www.spyair.net/＞

SPiCYSOL
7月 2日（日）代官山ユニット
info＜spicysol.com/＞

SUPER★DRAGON
8月18日（金）豊洲ピット
　　27日（日）ゼップ大阪ベイサイド
info＜super-dragon.jp/＞

Sonar Pocket
7月29日（土）狭山市市民会館
　　30日（日）狭山市市民会館
8月 5日（土）岐阜バロー文化ホール
　　6日（日）岐阜バロー文化ホール
　　12日（土）福岡市民会館
　　13日（日）福岡市民会館
　　19日（土）鹿児島宝山ホール
　　20日（日）鹿児島宝山ホール
　　26日（土）ロームシアター京都メインホール
　　27日（日）ロームシアター京都メインホール
9月 2日（土）新潟テルサ
　　3日（日）新潟テルサ
　　9日（土）札幌市教育文化会館 大ホール
　　10日（日）札幌市教育文化会館 大ホール
　　16日（土）東京エレクトロンホール宮城
　　17日（日）東京エレクトロンホール宮城
　　23日（土）広島文化学園HBGホール
　　24日（日）広島文化学園HBGホール
　　30日（土）名古屋国際会議場センチュリーホール
10月 1日（日）名古屋国際会議場センチュリーホール
　　7日（土）サンポートホール高松
　　8日（日）サンポートホール高松
　　14日（土）グランキューブ大阪メインホール
　　15日（日）グランキューブ大阪メインホール
　　21日（土）静岡市民文化会館大ホール
　　22日（日）静岡市民文化会館大ホール
11月10日（金）日本武道館
　　11日（土）日本武道館
info＜www.sonapoke.jp/＞

ナウなヤングからキラめくプリンス、
タフなロックバンドまで
イケてるメンズが勢ぞろい!

OLDCODEX



5月25日(木)撮影。カメラ小松さん。ヘアメイク松井さん、スタイリング峰岸さん、久芳さん。AD鶴羽さん。6月13日(火)インタビュー。ライター大西さん。スタッフの皆さまに感謝!!

アルバム全曲聴ける日が楽しみでなりません!

表紙巻頭取材の一環で、ヴォーカル・レコーディングと仮歌レコーディングにそっと入らせていただいたのですが、興味深すぎて、ずっと見ていたい現場でした。基本的に音源を聴いてから取材内容などを考えることが多いのですが、今回はチームOCDのご厚意で制作中の様子から読者のみなさんにお届けすることができました。早くまるっと1枚全部通して聴きたいですね!!●今回の撮影は、都内のスタジオにて。スモークで神秘的に、バキッとコントラストを付けたコンクリバック、雨の外ロケ、床板剥がして廃墟風とまさに"Where?"なシューティング。ソロだとところとんカッコイイのに、2人並んでると気がついたらヒドイことになってる(褒めてます!)。2人の立ち位置を調整しているうちに"壁ドン"体勢になってたりして、スタッフ一同大爆笑でした。Ta_2さんも「キャッ♡」ってなってたような気がします(笑)●現在、B-PASS取材班が追いかけ続けてきた全国ツアー『FIXED ENGINE』のドキュメンタリーブックを制作中なのですが、発売日が延期になってしまいご迷惑をおかけして誠に申し訳ございません。お待たせしてしまった分以上に、よりよいものになるように全力で制作しております。もうしばらくお待ちいただけますよう、何卒お願い申し上げます。(よ)

ひと言取材日記

★miwa→ライヴ本番の撮影に備え、リハも見させてもらっていて。MC.wakaさん、本番ではアドリブ入れてましたねぇ。「♪飯塚さん奥さん」はリハでは言ってなかったです(笑)。この日、「サヨナラ feat. MC.waka」4回聴きまして、頭の中でずっとリフレインしてました。(は)★flumpool→インタビュー最後に、オススメグルメ話を。元気さん、実は最初に思い浮かんだのはラーメン屋で、「でも教えたくないなぁ」ということで秘密でした。そういうのもありますよね。(は)★go!go!vanillas→P.185で話している、牧くんの愛犬・凛ちゃんの足の動きは、牧くんのインスタに上げてあるそうなので、「見てもらえばわかります」とのことです。(は)★SHE'S→Bファイルでの七夕の願い事。実はみなさんかなりの時間をかけて絞り出したお願いなのです。急に無言になり悩む姿に、SHE'Sの真面目さを感じました(笑)。(さ)★Sonar Pocket→前回ぶりにお会いしたみなさんは、こんがり日焼け姿。石垣島焼けとのことでした。(さ)★THE BEAT GARDEN→知らない人に話しかけようキャンペーンはまだ継続中とのこと。Uさんはまた新しいお友達ができたそうです。(さ)★W♠PRINCE→略称"ダブプリ"を流行らせなければ!と。(さ)

※このページの写真は〈http://www.shinko-music.co.jp/〉にアクセスするとカラーで見ることができます

山崎育三郎



6月7日(水)所属レコード会社にて、撮影&インタビュー。カメラマン大川晋児さん。、ライター吉田可奈さん。レコード会社、事務所スタッフの皆さま。バタバタの中、ありがとうございました!

どこから見てもリアルプリンスでした♪

昨年にリリースされた第1弾アルバムも最高の選曲でしたが、"Love・Summer・Happiness"をテーマに掲げた、第2弾となるカバー・アルバム『1936~your songs II~』の収録曲も、これからの季節にぴったりな最強のラインナップ! 青春時代を思い出す「生きてく強さ」など、胸キュンな楽曲揃いで、毎日激リピ中です♪ 今回は、そんなアルバムのリリース日当日、イベントの前の貴重なお時間をいただき取材をさせていただきました●アルバムイメージに併せて、まずは白壁をバックに、爽やかなシチュエーションから撮影をスタート。イベント前とあって、アルバム衣装だったのですが、なんとこのジャケットはスタイリストさんのお手製のオリジナル! グラデーションかかった鮮やかなジャケット表面が育三郎さんの様々な写真で作られていて、そのこだわり具合に感動してしまいました! ちなみにリバーシブルになっていて、記事ページ後半のソファでのカットでは、真っ白なジャケットに早変わり♪ 上下白のスーツ&ブルーのシャツで、こちらもよくお似合いでした! ●そういえば、撮影中、メイクさんが直しやすいように、自然と腰をかがめて目線を合わせていらっしゃって、そんな姿に"本当に紳士だな~"とほっこりした取材班でした~。(す)

GENERATIONS from EXILE TRIBE



5月1日(月)都内スタジオにて、撮影&インタビュー。カメラマン後藤倫人さん。ライターえびさわなちさん。レコード会社、事務所スタッフの皆さま。いつもありがとうございます!

わちゃわちゃとにぎやかな3人でした☆

4枚目となる、待望のニュー・アルバム『涙を流せないピエロは太陽も月もない空を見上げた』。これまでのシングルはもちろん、新曲も含めて、本当に素敵な一枚だなと思いました!●この日は1日アルバムの取材デー。数原龍友さん&片寄涼太さんのヴォーカルチームと、パフォーマー兼リーダーの白濱亜嵐さんの3人に登場してもらいました。先に行なったインタビューでは、作品について真摯にじっくりと語ってくれたのですが、撮影は終始楽しげな雰囲気で。B-PASSの取材はわりとその日の後半の時間帯だったので、きっと疲れてらっしゃるだろうな~と思いきや、スタジオに「お疲れさまです~!」と元気よく入ってきた3人。全員ショット→ソロショットの流れで撮影を進めたのですが、白ホリの各立ち位置に並んだ時点で、すでになんだかハイテンションなみなさん(笑)。試し撮り→微調整などの合間、談笑しているな~と思っていたら、数原さんが突然「キャリアウーマン」ネタで人気の芸人さんの真似をして3人で大爆笑! その後も、合間合間で大盛り上がり!! 記事ページでも(上の写真参照)楽しげな様子を掲載していますが、読プレ用ポラにもしっかりと「35億」と書いてくれてました~。"with G"Ver.の激レアカット、是非ご応募ください!! (す)

BACKSTAGE **B=PASS**

BACK NUMBER

表示は8%税込価格です。

好きなアーティストを完全チェック!!

最近ファンになったというキミ、"見逃した"というアナタ、バックナンバーもよろしく。

B-PASS '15.6 ￥860(税込)

●表紙・巻頭：flumpool

●BUMP OF CHICKEN／東方神起／SUPER JUNIOR-D&E／『新宿スワン』SPECIAL LIVE／DISH//／超特急／AAA／西内まりや／藤巻亮太／SCANDAL／Kalafina／FTISLAND／CNBLUE／坂本真綾／WEAVER／THE ORAL CIGARETTES／フレデリック／TRUSTRICK／heidi.／「連載：SCREW／BUMP OF CHICKEN／高橋 優／MAGIC OF LiFE／D☆DATE／千葉雄大」他

B-PASS '15.7 ￥860(税込)

●表紙・巻頭：UVERworld

●巻末特集：[Alexandros]

●AAA／ナオト・インティライミ／BBQ in つま恋 Photo Shooting Report／**OLDCODEX**／CNBLUE／超特急／家入レオ／藍井エイル／清木場俊介／アルスマグナ／ソナーポケット／高橋優／back number／UNISON SQUARE GARDEN／LEGO BIG MORL／黒木渚／新山詩織／東京カランコロン／あいみょん／BREAKERZ／GRANRODEO／Galileo Galilei／グッドモーニングアメリカ／他

B-PASS '15.8 ￥860(税込)

●表紙・巻頭：遊助

●巻末特集：SKY-HI

●GLAY／miwa／AAA／VAMPS／GACKT／DISH//／板野友美／UNISON SQUARE GARDEN／DOBERMAN INFINITY／GRANRODEO／GRANRODEO×BREAKERZ／三浦大知／K／Mayday／HY／高橋 優／井上苑子／SUPER JUNIOR-K.R.Y.／LILI LIMIT／LAMP IN TERREN／Mrs. GREEN APPLE／SPYAIR／SCREEN mode／カスタマイZ／他

B-PASS '15.9 ￥860(税込)

●表紙・巻頭：ポルノグラフィティ

●巻末特集：BREAKERZ

●LUNATIC FEST.／SCANDAL／SPYAIR／GENERATIONS from EXILE TRIBE／flumpool／AAA／Dream Ami／**OLDCODEX**／家入レオ／ファンキー加藤／ソナーポケット／Aqua Timez／LIFriends／Blu-BiLLioN／androp／ORANGE RANGE／REVALCY／清木場俊介／古川雄大／アンティック-珈琲店-／桐嶋ノドカ／lol／I Don't Like Mondays.／Kalafina／Aimer／SCREW／他

B-PASS '15.10 ￥860(税込)

●表紙・巻頭：AAA

●巻末特集：宮野真守

●BUMP OF CHICKEN／Acid Black Cherry／UVERworld／BBQ in つま恋／flumpool／SPYAIR／SCANDAL／清木場俊介／UNISON SQUARE GARDEN／FTISLAND／超特急／剛力彩芽／三浦大知／蒼井翔太／Aqua Timez／仙台貨物／DOG inThePWO／go!go!vanillas／Czecho No Republic／lynch.／J／Suck a Stew Dry／INORAN／アルスマグナ／Kalafina／他

B-PASS '15.11 ￥860(税込)

●表紙・巻頭：EXILE TAKAHIRO

●福山雅治／VAMPS／UVERworld／GENERATIONS from EXILE TRIBE／AAA／SPYAIR／DOBERMAN INFINITY／坂本真綾／堂珍嘉邦／金子ノブアキ／lynch.／黒木渚／ソナーポケット／CNBLUE／ROOT FIVE／風男塾／Mayday／WEAVER／吉澤嘉代子／X4／「連載：SCREW／BUMP OF CHICKEN／高橋 優／MAGIC OF LiFE／Kalafina／D☆DATE／千葉雄大」他

B-PASS '15.12 ￥860(税込)

●Wカバー巻頭特集1：EXILE SHOKICHI

●Wカバー巻頭特集2：SPYAIR

●バックカバー&巻末特集：DISH//

●AAA／遊助／ファンキー加藤／大原櫻子／家入レオ&大原櫻子／Dream／アルスマグナ／BREAKERZ／小室哲哉／スキマスイッチ／NIGHTMARE／BugLug／Blu-BiLLioN／the GazettE／グッドモーニングアメリカ／THE ORAL CIGARETTES／井上苑子／04 Limited Sazabys／UMI☆KUUN／ダウト／SOLIDEMO／Da-iCE／カスタマイZ／他

B-PASS '16.2 ￥860(税込)

●表紙・巻頭：miwa

●バックカバー&巻末特集：SKY-HI

●三代目 J Soul Brothers from EXILE TRIBE／ポルノグラフィティ／Acid Black Cherry／CNBLUE／KEITA／ソナーポケット／Little Glee Monster／グッドモーニングアメリカ／THE ORAL CIGARETTES／植田真梨恵／Da-iCE／ダウト／lol／東京カランコロン／山本陽介／X4／「連載：BUMP OF CHICKEN／高橋 優／MAGIC OF LiFE／Kalafina／SCREW／D☆DATE／千葉雄大」他

B-PASS '16.3 ￥860(税込)

●表紙・巻頭：遊助

●バックカバー&巻末特集：E-girls

●UVERworld／SCANDAL／flumpool／SPAYAIR／宮野真守／家入レオ／超特急／DISH//／アルスマグナ／WEAVER／KANA-BOON／Mrs. GREEN APPLE／黒猫チェルシー／Fo'xTails／SCREEN mode／Blu-BiLLioN／荒木宏文／go!go!vanillas／小野賢章／藤原さくら／I Don't Like Mondays.／LIFriends／吉澤嘉代子／iKON／BOYS AND MEN／N.Flying／他

B-PASS '16.4 ￥860(税込)

●表紙・巻頭：BUMP OF CHICKEN

●flumpool／**OLDCODEX**／UVERworld／SCANDAL／ソナーポケット／宮野真守／Kalafina／ファンキー加藤／高橋優／Galileo Galilei／GENERATIONS from EXILE TRIBE／BIGBANG／超特急／アルスマグナ／UNISON SQUARE GARDEN／BLUE ENCOUNT／AKIHIDE／アンティック-珈琲店-／Thinking Dogs／DOG inTheパラレルワールドオーケストラ／ベリーグッドマン／THE Hitch Lowke／DEEP／井上苑子／他

B-PASS '16.5 ￥860(税込)

●表紙・巻頭：flumpool

●バックカバー&巻末特集：Da-iCE

●miwa／SPYAIR／GRANRODEO／the GazettE／GACKT／三浦大知／板野友美／風男塾／SOLIDEMO／X4／anderlust／小野賢章／入野自由／藤巻亮太／The BONEZ／NIGHTMARE／黒木 渚／KANIKAPILA／BugLug／SCREW／Leola／Anly／「連載：Kalafina／BUMP OF CHICKEN／高橋 優／MAGIC OF LiFE／D☆DATE／千葉雄大」他

B-PASS '16.6 ￥860(税込)

●表紙・巻頭：AAA

●SKY-HI／BUMP OF CHICKEN／遊助／宮野真守／家入レオ／the GazettE／Aimer／LAMP IN TERREN／EXILE SHOKICHI／Galileo Galilei／ソナーポケット／西内まりや／カスタマイZ／ZYUN.／DAMIJAW／MUSCLE ATTACK／Ivy to Fraudulent Game／ラックライフ／Czecho No Republic／ハッカドロップス／「連載：高橋 優／MAGIC OF LiFE／D☆DATE／千葉雄大」他

B-PASS '16.7 ￥860(税込)

●表紙・巻頭：**OLDCODEX**

●バックカバー&巻末特集：LEGO BIG MORL

●BUMP OF CHICKEN／SCANDAL／DISH//／大原櫻子／BOYS AND MEN／ファンキー加藤／Galileo Galilei／宮野真守／X4／黒猫チェルシー／04 Limited Sazabys／フレデリック／Suck a Stew Dry／chay／Anly／LACCO TOWER／SHE'S／FAKY／Kalafina／「連載：BUMP OF CHICKEN／高橋 優／MAGIC OF LiFE／D☆DATE／千葉雄大」他



コチラもチェック!

B-PASS '16.8 ￥860(税込)

●表紙・巻頭：AKIRA&岩田剛典 HiGH&LOW THE MOVIE

●バックカバー&巻末特集：大原櫻子

●miwa／ナオト・インティライミ／UNISON SQUARE GARDEN／SPYAIR／GIRLS SPECIAL／家入レオ／植田真梨恵／新山詩織／井上苑子／塩ノ谷早耶香／家入レオ／高橋 優／ソナーポケット／Da-iCE／Mrs. GREEN APPLE／BLUE ENCOUNT／ORANGE RANGE／THE BAWDIES×go!go!vanillas／HY+BIGMAMA／ZAQ／阪本奨悟／他

B-PASS '16.9 ￥860(税込)

●表紙・巻頭：UVERworld

●バックカバー&巻末特集：SKY-HI

●THE YELLOW MONKEY／GACKT／**OLDCODEX**／SCANDAL／AAA／BOYS AND MEN／EXILE THE SECOND／蒼井翔太／浦井健治／BUMP OF CHICKEN／FTISLAND／Crossfaith／flumpool／THE ORAL CIGARETTES／Czecho No Republic／Lenny code fiction／Fo'xTails／HOWL BE QUIET／ラックライフ／THE BEAT GARDEN／吉澤嘉代子／他

B-PASS '16.10 ￥860(税込)

●表紙・巻頭：ナオト・インティライミ

●THE YELLOW MONKEY／BUMP OF CHICKEN／GRANRODEO／the GazettE／風男塾／w-inds.／高橋 優／Aimer／Goose house／SOLIDEMO／MAGIC OF LiFE／anderlust／lynch.／中田裕二／Xmas Eileen／Lenny code fiction／アルスマグナ／アンティック-珈琲店-／羽多野渉／「連載：BUMP OF CHICKEN／高橋 優／MAGIC OF LiFE／千葉雄大／The Super Ball／阪本奨悟」他

B-PASS '16.11 ￥860(税込)

●表紙・巻頭：THE YELLOW MONKEY

●バックカバー&巻末特集：宮野真守

●ポルノグラフィティ／miwa／SCANDAL／遊助／青柳 翔／フレデリック／ONE OK ROCK／植田真理恵／04 Limited Sazabys／グッドモーニングアメリカ／WEAVER／Blu-BiLLioN／ベリーグッドマン／Happiness／I Don't Like Mondays.／DAOKO／MOSHIMO／Age Factory／ハシグチカナデリヤ hugs The Super Ball／ORANGE POST REASON／他

B-PASS '16.12 ￥860(税込)

●表紙・巻頭：GACKT

●バックカバー&巻末特集：超特急

●遊助／flumpool／SPYAIR／大原櫻子／Aimer／Dream Ami／板野友美／山本 彩／Galileo Galilei／高橋 優／BLUE ENCOUNT／Da-iCE／Block B／the GazettE／THE ORAL CIGARETTES／NIGHTMARE／浦井健治／DOG inTheパラレルワールドオーケストラ／Lenny code fiction／BABYMETAL／ZYUN.／瀧川ありさ／焚吐／DOBERMAN INFINITY／GRANRODEO／他

B-PASS '17.1 ￥860(税込)

●表紙・巻頭：DISH//

●GENERATIONS from EXILE TRIBE／**OLDCODEX**／ORANGE RANGE／アルスマグナ／Mrs. GREEN APPLE／高橋優／Kalafina／Fo'xTails／YURI!!! on ICE feat.w.hatano／B.A.P／RADWIMPS／AAA／SE7EN／新山詩織／HOWL BE QUIET／96猫／THE BEAT GARDEN／三浦大知／Leola／lol／KANIKAPILA／SCREW／THE Hitch Lowke／他

B-PASS '17.2 ￥860(税込)

●表紙・巻頭：SKI-HY

●バックカバー&巻末特集：BLUE ENCOUNT

●THE YELLOW MONKEY／UVERworld／SPYAIR／E-girls／w-inds.／BOYS AND MEN／BREAKERZ／家入レオ／Little Glee Monster／Anly／入野自由／チャラン・ポ・ランタン／羽多野渉／藤原さくら／The Super Ball／SUPER★DRAGON／グッドモーニングアメリカ／SHE'S／go!go!vanillas／早見沙織／SOLIDEMO／他

B-PASS '17.4 ￥860(税込)

●表紙・巻頭：UVERworld

●バックカバー&巻末特集：LiSA

●**OLDCODEX**／SPYAIR／flumpool／大原櫻子／遊助／EXILE THE SECOND／w-inds.／lol／Anly+スキマスイッチ=／風男塾／04 Limited Sazabys／RIZE／the GazettE／雨のパレード／ベリーグッドマン／アンティック-珈琲店-／Blu-BiLLioN／Mayday／Ivy to Fraudulent Game／96猫／ReaL／瀧川ありさ／吉澤嘉代子／蒼井翔太／他

B-PASS '17.5 ￥860(税込)

●表紙・巻頭：GRANRODEO

●バックカバー&巻末特集：高橋 優

●遊助／ORANGE RANGE／SPYAIR／the GazettE／GACKT／三浦大知／GENERATIONS from EXILE TRIBE／田口淳之介／ビクターロック祭り 番外編 Ichigolchie Join 6／家入レオ×大原櫻子×藤原さくら／Dream Ami／Acid Black Cherry／Kalafina／Sonar Pocket／LEGO BIG MORL／BIGMAMA／LAMP IN TERREN／BugLug／Lenny code fiction／Xmas Eileen／LIFriends／さくらしめじ／ウソツキ／Official髭男dism／井上苑子／水瀬いのり／小野賢章／CODE-V／SOLIDEMO／「連載：高橋 優／MAGIC OF LiFE／千葉雄大／The Super Ball／阪本奨悟」他



B-PASS '17.6 ￥860(税込)

●表紙・巻頭：ゆず

●バックカバー&巻末特集：urata naoya(AAA)

●Flower／超特急／BLUE ENCOUNT／Aimer／Mrs. GREEN APPLE／Anly／板野友美／Block B／クリープハイプ／林原めぐみ／ReaL／WEAVER／HOWL BE QUIET／DOG in The パラレルワールドオーケストラ／Thinking Dogs／the peggies／魔法少女になり隊／MOSHIMO／THE BEAT GARDEN／吉田山田／SPiCYSOL／小松未可子「連載：高橋 優／MAGIC OF LiFE／千葉雄大／The Super Ball／阪本奨悟」他



B-PASS '17.7 ￥860(税込)

●表紙・巻頭：SILENT SIREN

●バックカバー&巻末特集：菅田将暉

●miwa／宮野真守／DISH//／SKY-HI／LiSA／家入レオ／Little Glee Monster／Da-iCE／BugLug／青柳 翔／THE YELLOW MONKEY／ナノ／lynch.／阪本奨悟／吉澤嘉代子／Over The Top／イトヲカシ／PELICAN FAN CLUB／noovy／ASH DA HERO／「連載：高橋 優／MAGIC OF LiFE／千葉雄大／阪本奨悟」他



編集部月間ダイアリー（May22－Jun21）

先月の引っ越しでちょっと燃え尽き、
6月は何があった?
梅雨が過ぎれば、もう夏本番かぁ

潜入! B-PASS **24時**

B-PASS STAFFS >>> ㋵→ 吉崎 ㋩→ 高橋 ㋜→ 鈴木 ㋚→ 佐藤

mon	tue	wed	thu	fri	sat	sun
5 22 ●す&さ→柳楽優弥&吉沢亮取材(as用)●	23 ●さ&す→仲村トオル取材(fs用)●	24 ●す→本郷奏多取材(as用)●よ&さ→『銀魂』試写●	25 ●す→映画『君の膵臓をたべたい』試写●さ→門脇麦取材●よ&さ→OLDCODEX表紙巻頭撮影●	26 ●す→鈴木伸之取材(as用)●	27 ●B-PASS7月号発売●	28
29 ●編集会議●す→E-girls取材●よ→早見沙織@東京キネマ倶楽部●	30 ●す&よ&さ→神木隆之介×吉沢亮×小関裕太取材(as用)●よ→羽多野渉取材●	31 ●す→RAMPAGE取材●よ→GRANRODEO取材(次号用)●	6 1 ●す→松本享恭取材(as用)●	2	3 ●よ→Kalafina@国際フォーラム●	4
5 ●は→flumpool取材●す→北村匠海取材(as用)●	6 ●す→中村倫也取材(as用)●さ→SHE'S～DREAM-PASS取材●	7 ●す→SF9(次号用)～山崎育三郎取材●さ→小野塚勇人取材(as用)～IDLMs.@代官山ユニット●は→Age Factory～バニラズ取材●	8 ●す→窪田正孝×新田真剣佑取材(as用)●さ→Blu-BiLLioN～THE BEAT GARDEN～W♠PRINCE取材●は→BRZ～三色丼取材●	9 ●す→Leola取材●よ→GRANRODEO@ゼップダイバー●は→スパドラ取材●	10	11 ●す→福田雄一監督取材(as用)●よ→林原めぐみ@中野サンプラザ●は→miwa@横浜アリーナ●
12	13 ●さ&す→藤原竜也撮影(fs用)●よ→OLDCODEXインタビュー●	14 ●は→超特急@武道館●	15 ●さ&す→吉沢亮取材(fs用)●さ→Sonar Pocket取材●よ→株主会議～UVERworld取材●	16 ●す→山崎育三郎取材(as用)●は→THE ORAL CIGARETTES@武道館●	17	18
19 ●校了その1●	20 ●す→映画『パイレーツ オブ カリビアン』イベント●校了その2●	21 ●さ→BOYS AND MEN取材(次号用)●	B-PASS ツイッター http://twitter.com/BP_30th			

EDITOR'S COLUMN >>>

いろいろ重なって会社の地縛霊みたいになっていますが、頑張るぞー! (よ)



Fire TV Stickの誘惑が。なんだかんだで手を出してしまい、部屋は片付かず。なんとかしよう。あと思ったよりデカすぎた。(は)



awesome!&fabulous stageと並行して取材期間中です～。映画にドラマに舞台と、この夏楽しみな作品がいっぱいです♪(す)



ガラケー民だった私もついにスマホへ。しかし、早くもガラケーが恋しい。●as&fs今回も豪華なラインナップです! こうご期待!(さ)



〈次号予告〉 B-PASS 9月号は7月27日(木)発売

表紙巻頭特集 **宮野真守**

登場予定アーティスト **UVERworld 超特急 高橋 優 家入レオ GRANRODEO 大原櫻子 BOYS AND MEN**

and more

※こちらは"予定"です。変更になることもありますので、ご了承下さい。

BACKSTAGE B-PASS
2017 AUGUST No.378
定価 860円(本体価格 796円)

発行人／草野夏矢 編集人／吉崎美也子 発行日／2017年6月27日(第33第8号通巻471号)
発行／株式会社シンコーミュージック・エンタテイメント
〒101-8475 東京都千代田区神田小川町2-1 HP ● http://www.shinko-music.co.jp
営業部 ☎ 03(3295)4191
B-PASS編集部 〒101-8450 東京都千代田区神田錦町1-14 ☎ 03(3292)2868 FAX 03(3292)3283
●編集長／吉崎美也子 ●副編集長／高橋波奈子 ●編集スタッフ／鈴木明日香 佐藤 恵
広告のお問い合わせは (株)シンコーミュージック・エンタテイメント広告部 ☎ 03(3293)3791

BACKSTAGE B-PASS



New Era®

Bags & Packs

Direction & Text ⇒ 曽根原興史（KONA）
Photo ⇒ 薮内努（TAKIBI）
Styling ⇒ 黒川慎太郎
Design ⇒ FLAG GRAPHIC DESIGN Inc.

New Era®のバックパック［Rucksack］¥9,000、同ハット［Adventure］¥7,000、同ジャケット［Windbreaker］¥15,000、同Tシャツ［Cotton Tee］¥4,500、同ショーツ［Sweat Half Pants］¥7,500（税別／すべてニューエラ）、その他・スタッフ私物

機能派バッグのディテールを徹底追求

シンプルなデザインとタフな作りで幅広い人々からの支持を集めているNew Era®のバッグコレクション。多彩なカラーバリエーションも人気の理由だが、注目すべきは実用性を追求した確かな機能だ。ここでは用途の異なる人気4モデルをフィーチャーし、リアルな使い手たちのスタイルから便利なディテールの詳細を紐解いていく。



アウトドアマンからの支持も厚い絶対的人気モデル

シンプルなアウトドアスタイルを追求する［Rucksack］は、3ポケット仕様。メイン収納部はホールディング・チェアが余裕を持って入る大きさで、キャップ・プロテクターが標準装備されたカバーポケットもコンパクトカメラが入るほど。スライドポケットは、トランシーバなど出し入れの多いものを入れておくのに便利だ。

Rucksack

Size *W320×H670×D240mm (28L)*
Color *Black*
Fabric *Polyester / 1680D*
Price *¥9,000+Tax*



急な天候悪化にも対応できる気の利いたディテールに注目

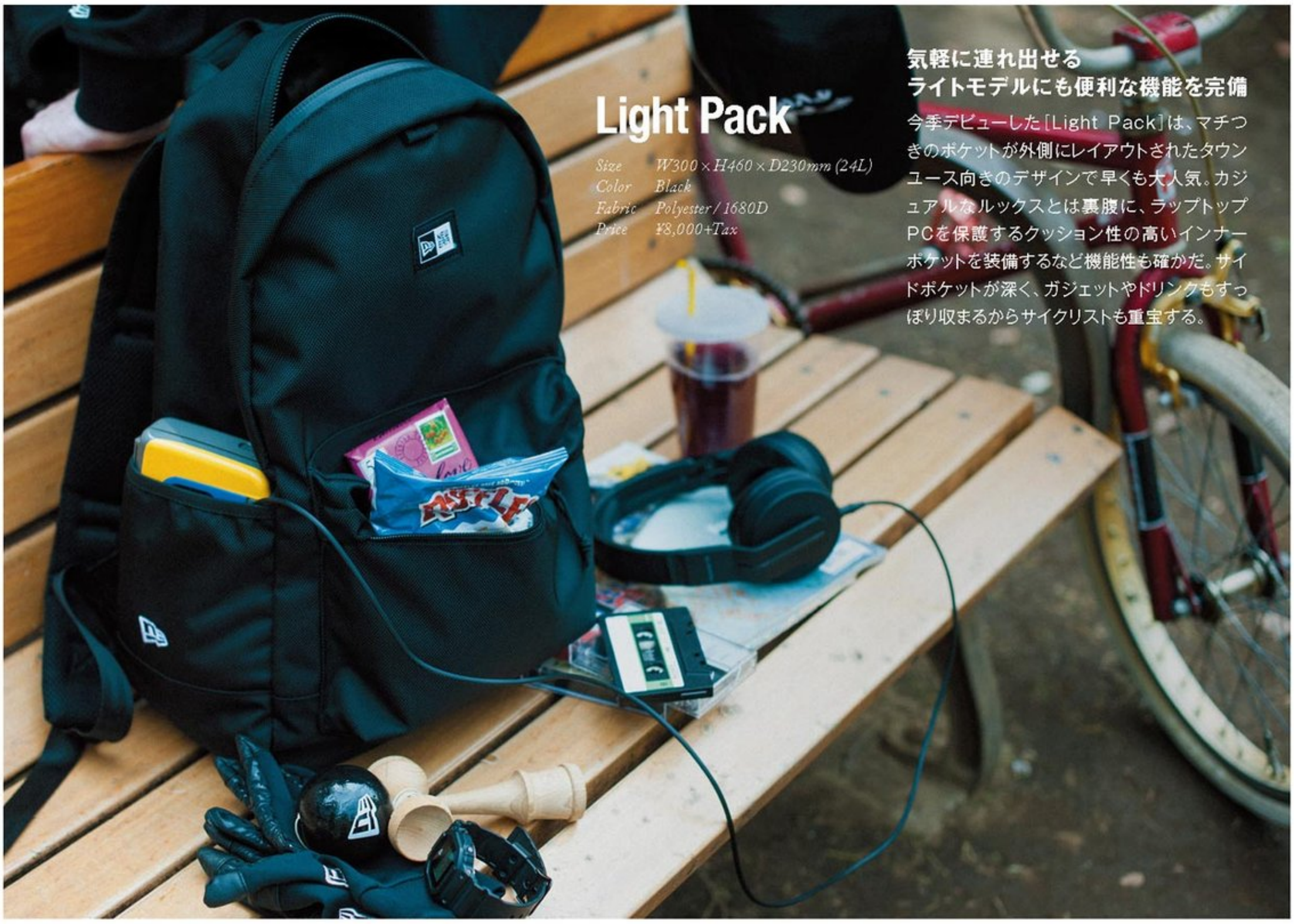
ショルダーバッグとしても活用できる2-Way仕様の［Tote Bag］は、雨の侵入を防ぐファスナー式の上蓋がデザインされ、モバイル機器を持ち歩くことの多い現代人のライフスタイルを確実にサポート。外側のポケットはタブレット端末がちょうど収まるサイズで、通勤・通学にうってつけ。メイン収納部は収納力が充分にあるから、慌ただしい朝は必要な持ち物を雑多に詰め込んでも問題なし。

Tote Bag

Size W380×H350×D170mm (22L)
Color Black
Fabric Polyester / 1680D
Price ¥10,000+Tax



New Era®のトートバッグ［Tote Bag］¥10,000、同キャップ［9FORTY™ A-Frame］¥3,600、同Tシャツ［Cotton Tee］¥3,400（税別／すべてニューエラ）、その他・スタッフ私物



Light Pack

Size *W300×H460×D230mm (24L)*
Color *Black*
Fabric *Polyester / 1680D*
Price *¥8,000+Tax*

気軽に連れ出せる ライトモデルにも便利な機能を完備

今季デビューした[Light Pack]は、マチつきのポケットが外側にレイアウトされたタウンユース向きのデザインで早くも大人気。カジュアルなルックスとは裏腹に、ラップトップPCを保護するクッション性の高いインナーポケットを装備するなど機能性も確かだ。サイドポケットが深く、ガジェットやドリンクもすっぽり収まるからサイクリストも重宝する。



New Era®のバックパック[Light Pack]¥8,000、同キャップ[The Golfer]¥5,000、同ロング・スリーブ・Tシャツ[L/S Performance Tee]¥7,200、同サングラス[Sunglasses]¥5,000(税別/すべてニューエラ)、その他・スタッフ私物



New Era®のバックパック[Smart Pack]¥10,000、同ハット[Porkpie]¥5,800、同シャツ[L/S Oxford Button Down Shirt]¥11,000(税別／すべてニューエラ)、その他・スタッフ私物



Smart Pack

Size	*W330×H480×D160mm (22L)*
Color	*Black*
Fabric	*Polyester / 1680D*
Price	*¥10,000+Tax*

**小物の整理も難なくこなす
シリーズ随一の実用派**

ビジネスマンからも支持を集めているのが、ボックス型で効率的にスペースを確保した[Smart Pack]。お馴染みのクリップループやクッション性のあるポケットなど、「ニューエラ」のバッグコレクションにおける標準的機能はもちろんのこと、インナーポケットも多彩。メッシュポケットやペンポケット、ホルダーつきのポケットなど小物類の整理に便利なディテールもまた人気の理由だろう。

●問い合わせ　ニューエラ　tel.03-5773-6733　neweracap.jp



羽多野渉 Wataru Hatano

ハートシグナル

“YURI!!! on ICE feat. W.hatano”名義でリリースした「You Only Live Once」がスマッシュヒット、声優としてのみならず、アーティストとしても一気に注目を集めた“わちゃ”こと羽多野渉が、7thシングル「ハートシグナル」をリリース! 7月から放送開始のTVアニメ『ひとりじめマイヒーロー』のオープニングテーマでもある、さわやかで甘酸っぱいラブソングについて、楽曲やMVに込めた想いをたっぷり語っていただきました!





Text ⇒ 柳川春香
Photo ⇒ 大川晋児
Hair&Make Up ⇒ 高原優子
Styling ⇒ 宇都宮春男

■ニュー・シングルのお話の前に、まずは3月に終えたライヴツアー〝LIVE CARAVAN〟のご感想から伺いたいと思います。前回ライヴ前にインタビューさせていただいたときは、「まだEX THEATER ROPPONGIに立つ実感が湧かない」と仰ってましたが、実際に立ってみていかがでしたか？

「そうですね。もうツアーが終わって結構経つんですけど、今でもEX THEATERの前を車で通るたびに、〝本当に僕ここに立ってたのかな？〟って……（笑）」

■変わってないじゃないですか！（笑）

羽多野渉



「そうですね（笑）。あの日は夢の中の出来事だったんじゃないかって、そのくらいキラキラした世界で、沢山の人が見に来てくださって、本当に幸せな空間でしたね。ファンのみんなが、どの曲もそれぞれの楽しみ方で楽しんでくれてるってことを肌で感じられましたし、ツアーを続ける中で、一緒にステージに立ってくれたダンサーさんたちとの絆も深まっていったので、その集大成になるファイナルは〝これで終わっちゃうのかぁ〟って寂しいくらいでした。印象的だったのが、EX THEATERには家族がわざわざ長野から見に来てくれて、特におばあちゃんが初めてライヴを見に来てくれたんですよ。もう80歳を超えてるんですけど、すごく楽しんでくれたみたいで。〝誰に対して歌うか〟ってことも大切だなあ、なんて思ったツアーでしたね」

■ライヴの序盤は特にしっかりしたストーリーがありましたが、決してかしこまった感じではなくて、誰でも楽しんで見られるような物語になっていましたね。

「そう言ってもらえると嬉しいです。楽曲に合わせて映像とコラボレーションしたり、自分で考えたナレーションを入れたりして、お客さんも一緒に旅をしているような表現ができたら、と思って。ストーリー仕立てにすることで、自分らしいライヴになったと思います。演出に関しては、ずっとお世話になっている舞台監督さんが、〝羽多野さんこれ好きでしょ？〟って、僕が雑談の中で言ったようなことを何倍にも膨らませて持って来てくれるんですよ。それには本当に感謝していますね」

■ライヴツアーも終わって、音楽活動5周年のプロジェクトも一区切りですが、節目を迎えて改めて感じたことは何かありましたか？

「5周年プロジェクトの締めくくりにアーティストブックを出したんですけど、そのタイトルを『Grateful』にしたんです。役者も

アーティストも、社会に生きるすべての人がそうだと思うんですけど、やっぱり一人ですべてのことをやるっていうのは難しいですよね。必ず誰かに助けてもらって、支えてもらって成り立っている。そこで普段なかなか面と向かって言えない感謝を、5周年という節目に残したいと思って。その想いがないと、音楽活動も役者としての活動も成り立たないから、自分に対して〝大事にしなさいよ〟っていうメッセージでもありますね」

■音楽活動では、楽曲を作っていただく作家さんの存在も大きいですもんね。

「そうですね。アーティストブックの中で対談企画がありまして、同じように音楽活動をしている声優仲間や、楽曲を制作していただく作家さん、アフレコでお世話になっている音響監督さんなど、いろんな立場の音のプロたちを招いてお話をさせてもらったんですよ。それはすごく面白かったですし、途方もない刺激になりましたね。同じ人間は一人もいないから、必ずみんな自分だけのオリジナルっていうものを探していく、それが人生なのかなって思うし、自分にしかできない音楽っていうのもあるんじゃないかな、って。そういう旅のようなものは、これからもずっと続けていきたいと思いました」

■まだまだ10周年、15周年と目指していきたいですもんね。そんな中での次の一手として、ニュー・シングル「ハートシグナル」が発売になります。今回は「Braver.」の作詞作曲が彦田元気さん、「ハートシグナル」の作曲がfu_mouさんということで、お二人はシングル「You Only Live Once」に続いてのご参加ですね。

「そうですね。〝You Only Live Once〟では、出会ったことのない音楽の世界に挑戦させてもらって、今まで知らなかった自分に出会えたので、お2人とまたやりたいっていう話は元々していたんですよ。そんな時に『ひとりじめマイヒーロー』の主題歌のお話をいただいて、こんなに早くまたご一緒できると思っていなかったので、すごく嬉しかったですね。せっかくまたご一緒できるからには、前作とは違う世界を表現したいとは思っていました」

■2度目ということで前回の制作と違った点はありましたか?

「彦田さんが〝ハートシグナル〟のレコーディングの時に、〝今回、羽多野さんの声をイメージして楽曲を作りました〟と仰ってくれたのが嬉しかったですね。デモを聴いた時は〝こんなにかわいい曲、自分の声に合うのかな?〟って思ったんですが、彦田さんがそう言ってくれたので、自信を持ってレコーディングできたと思います」

■羽多野さんの声をイメージして作られたということですが、羽多野さんの新鮮なヴォーカルが聴ける曲にもなっていますよね。こういった、短いフレーズで韻を重ねていくような歌詞も、今までなかったですし。

「そうなんです。〝ハートシグナル〟の作詞を担当してくれたshigeoさんとは初めてご一緒したんですが、すごくオシャレで、かつ独特な歌詞の世界なので、どんな方なんだろう?って思ったら、実は元スケボーキングの方なんですよ」

■あっ、そうだったんですね!

「僕もびっくりしたんですが、なるほどというか、ラッパーの方ならではの言葉遊びがありますよね。レコーディングの時は、僕が声優のお仕事の癖で元の音を勉強しすぎて、デモに入っていた仮歌そっくりに歌ってしまったんですよ。そこでshigeoさんから、〝そんなに仮歌を意識しなくていいですよ〟って言ってもらったりして。歌詞についても、〝少ない音数のところに何文字もぎゅっと入れてるから、それを大真面目に発音しようとしないでいいよ〟って、ラップらしい歌い方をすごく丁寧に教えていただきました。そういうリズムの部分は、今回一番挑戦させてもらった点かもしれません」

■苦労の甲斐もあって、すごく気持ちよく聴ける軽快な曲になりましたね。何回もリピートしたくなるし、通勤や通学の時に聴いたら元気が出るような。

「そうですね。〝ハートシグナル〟は歩く歩幅にちょうどいいリズムなので、ウォーキングに一緒に連れて行ってもらってもいいと思いますし、前向きになれる曲なので、朝とか通勤、通学のお供にもオススメですね」

■さらに「ハートシグナル」のMVでは、ご自分でもアイデアを色々と出されたそうで。

「はい。元々『ひとりじめマイヒーロー』のために生み出した楽曲なので、その世界観から欠片だけでもいただいて、それを元にMVで別のストーリーを作っても面白いんじゃないかと思って。『ひとりじめマイヒーロー』の中では、一つの家の中に沢山の人間が集まってきてワイワイガヤガヤ過ごしていたりとか、好きな人のためにご飯を作ったり、家のことを一生懸命お世話するシーンが、特徴的に描かれてるんですよね。そういうアットホームな部分、大切な人のために家事をやる羽多野渉、みたいなものが、MVの中で描けたらいいなと。その一方で、曲の持ってるキラキラした部分をファンタジックに表現したいというのもあって、〝主人である女の子に大切にしてもらった人形が、恩返しをするために人間の姿になって、家を片付けたり、誕生日をお祝いする〟っていうストーリー仕立てにしていただいたんです」

■そのお人形をはじめとして、いろんなかわいいアイテムが出てきますよね。

「僕、35歳にもなってですね、〝僕は人形になりたいんです!〟って、あろうことか撮影の一週間前に言ったんですよ(笑)。その一週間の間にスタッフさんがいろんな手を尽くして、MVに出てくるアイテムを揃えてくださったんです。見てくださったファンの方も〝あの人形を作りたい〟とか、〝うちにも欲しい!〟とか言ってくださって、嬉しかったですね。あとはデッキブラシを使って踊るようなシーンがあるんですけど、これは撮影当日に、他のシーンの振付を担当してくださった振付師の先生から、〝待ち時間のあいだに、デッキブラシを使ったこんな振りを考えました〟と言われまして(笑)」

■それ、その場で対応した羽多野さんもすごいじゃないですか!

「しっかり練習しました(笑)。おかげでアクティブで賑やかなシーンになったし、自分の頭の中で描いていたイメージから発展して、監督と振付師の先生のお力で人形のお茶目な内面が形になったように思っていて、それはすごく面白かったです」

■タイアップ作品とリンクする部分をどこかに取り入れるというのは、やっぱり羽多野さんのこだわりたい部分ですか?

作品とのリンクは、自分の中では非常に大事なファクターです。今回の『ひとりじめマイヒーロー』では、声優としても夏生という役をやらせていただくんですが、主題歌をやらせていただくということで、なおさら〝自分が作品に対して出来ることを最大限やらせてもらわなきゃ〟と思っていたんです



「そうですね。作品とのリンクは、自分の中では非常に大事なファクターです。今回の『ひとりじめマイヒーロー』では、声優としても夏生という役をやらせていただくんですが、主題歌をやらせていただくということで、なおさら〝自分が作品に対して出来ることを最大限やらせてもらわなきゃ〟と思っていたんです。原作ファンの方にも、『ひとりじめマイヒーロー』の一部としてMVを観てもらえたら嬉しいですし。これまでタイアップさせていただいた『ハマトラ』の時も『Dance with Devils』の時もそうで、毎回〝どんなふうに作品とのコラボができるかな?〟っていうのを考えるのがすごく楽しくて。MVの打ち合わせで、まず全部言ってみるんですよ。全部叶えるのは難しいけど、いつもスタッフさんが最大限その意見を尊重してくれるので、本当にありがたいですね」

■そうやって作品の一部を取り入れることで、羽多野さんの世界も広がっていくのかもしれませんね。続いてカップリングの「Braver.」について。こちらは「Sing and Dance!」を手掛けたfu_mouさんの作詞作曲ですが、今回はそれとはまったく印象の違うロックチューンで驚きました。どんなところからスタートしたんでしょうか?

「まず夏にシングルが出るっていうのが珍しかったので、折角なら夏っぽい楽曲をやりたいな、と思ったんです。今までもクラブサウンドとかトロピカルハウスとか、賑やかな明るい楽曲はやってきたんですけど、そういえばバンドサウンドってあまりやってないかも、ということで、夏っぽいバンドサウンドの曲をお願いしました。非常に疾走感のある、青春を感じるような、でも笑顔をくれるような楽曲になったなと思います。〝ハートシグナル〟とも地続きで聴けるような楽曲になっていますし、応援歌やメッセージソングはこれまで沢山歌ってるんですけど、〝Braver.〟は押し付けがましくない応援歌、というか」

■確かに《届かなくてもいい》とか、《超えられない壁は壊して》とか、「届けろ!」「超えろ!」って言わないところは、この曲のポイントですよね。

「そうですね。〝Braver.〟もメロディの中でラップ調に言葉を紡いでいく部分があって、ORANGE RANGEさんやFUNKY MONKEY BABYSさんのような、そういう曲に憧れもあったので、挑戦できて嬉しかったです。僕は声優というお仕事をやっているので、音域を広く持ってレコーディングをするというのが、自分の中でも楽しみどころのひと

つなんですよ。例えばORANGE RANGEさんだったら、主旋律のラップを歌うのと低音のラップを歌うのとは別の方なんですけど、それをあえて一人でやってみる、ということをしていて。ファルセットを使って1オクターブ上を歌ったり、逆に1オクターブ下げて低音で歌ったり。そんなトライもさせていただいたので、レコーディングって面白いなあと改めて思いました」

■《晴れ渡る空の下 涙して 土砂降り雨に笑って》からの展開は特に聴きどころですよね。

「声優の仕事をやっているおかげで、滑舌よく歌えましたね（笑）。何を言っているか聴こえるように歌いたかったので。ここから転調して、さらに高みを目指して行くような、その勢いで《踏み出したその一歩》につながっていくんですよね。自分の生き方とも合致するところがあってすごく気に入っている、ちょうどよい応援歌、という感じです」

■《穏やかな旅路じゃないけど 繋いできた今があるから ここにいてくれる人がいるから まだまだやれるさ》というフレーズが、5周年プロジェクトを終えて次に向かう羽多野さんにふさわしい言葉に思えたんですよ。

「確かにそうですね。fu_mouさんもライヴツアーを見に来てくださって、その時にこの楽曲の話もしたんです。勿論、みんなにとっての応援歌のつもりで歌ってるんですけど、歌っている自分にとっても、エールをたくさんいただいている楽曲ですね。そうやって歌詞から自分の一部分でも伝わったら嬉しいですし〝これはこういう意味かな?〟って、想像して聴いていただけたら嬉しいです」 B

わちゃ's source of power!

Q 羽多野さんは「Braver.」の歌詞のように、落ち込んでしまった時、どうやって元気を出しますか?

「家に居られるなら、猫との時間を沢山取ると思います。猫はもう、すべてを包み込んでくれる存在なんですよね。 普段はすごく暴れん坊なんですけど、不思議なことに、僕がすごく落ち込んじゃって何にもやる気が出ないって時は、イタズラもしないし、すごく優しく接してくれるんですよ。気持ちがわかるのかな?ってくらい。なので落ち込んだ時は、飼い猫と一緒にいたいですね」

羽多野渉





アーティスト盤



アニメ盤

New Single
ハートシグナル
2017.07.12 Release
アーティスト盤 CD+DVD ¥1,800（tax out）
アニメ盤 CD ¥1,200（tax out）

[CD]
01. ハートシグナル
02. Braver.
03. ハートシグナル（Instrumental）
04. Braver.（Instrumental）

[DVD]
ハートシグナル Music Clip

羽多野渉 ⇒
はたのわたる。3月13日生まれ。長野県出身。声優。'11年12月21日、シングル「はじまりの日に」にてアーティト・デビュー。'15年よりライヴ活動も精力的に行なっており、今年2～3月にはアーティスト・デビュー5周年を記念したアニバーサリーライヴツアーを開催した。



Sonar Pocket

ソナーポケット

レコード会社を移籍して初のシングル「一生一瞬」から、
間をおかずに届く新曲「段々男女物語」は、トロピカルサウンドを取り入れた挑戦曲。
これまでのSonar Pocketにはなかった新しい耳障り、
気持ちの良さを追究した音選びへのこだわりなど、新たな扉を開いたと言えるだろう。
10周年を視野に入れた、ソナポケのこれからを期待させる今作について、
また、7月よりスタートする全国ツアーへの意気込みも語ってもらった。

Text ⇒ 山本祥子

段々男女物語

eyeron_Vo.



matty_DJ









■2017年に入って掲げた第2章。まさに看板に偽りなしのシングルが届きました。

ko-dai「ハイ。これからツアーを廻るにあたってアルバムを出してないので、一番近いシングルがこれになるなぁと思っていて。〝段々男女物語〟は一期一会をテーマにしてるんですけど、裏テーマでサーフィンというのもあって。だから〈The same wave never comes twice〉＝同じ波なんて二度とはない。僕らがツアーで重ねる一期一会も同じ出会いなんてないよねっていう。あとはBGMとしても楽しんでもらいたい、音楽の音を楽しむっていう部分でもSonar Pocketを見せていけたらいいなと思って、今回はこういうトロピカルなサウンドの曲にしてみました」

■これまでも新しい要素だとかチャレンジを重ねてきましたけど、ここまで振りきれた楽曲、シングルはなかった気がします。

ko-dai「びっくりしました?」

■イントロから、おっ?!ってなりましたよ。

ko-dai「ハハハ。わかる。イントロで〝おっ?!〟って思うよね。サビはしっかりキャッチーにしたんだけど。3人とも音楽が好きなので、この夏、自分たちが聴きたい楽曲を出そうというか。Sonar Pocketとして珍しいだけじゃなくて、トロピカルサウンドって日本でまだそんなにやってないし。歌詞では日本で一番早い言葉を使ったり、いろんなことをしてきたんですけど、音楽家として今、トロピカルをやるのはいいよねって」

matty「サウンド的にも、テーマ的にも、夏らしさをプンプンさせている曲なので、そこも含めて今の僕らを体現できてるんじゃないかな。第2章、もっといろんなことをやっていくぞっていう狼煙になる気がしますね」

■Sonar Pocketは今まで自分たちがやりたいことにプラス、ファンの期待に応える想いが強かったと思うんです。だからインタビューでも〝ソナサポのために〟という話をよく聞いたし。しかし今回は〝自分たちが聴きたい楽曲〟が真っ先に出てきた。

eyeron「そうですね。8年目にして、こういう挑戦をやらせてもらえるのはすごくありがたいことだし、制作しながら自分たちもワクワクしたし、聴いてくれる方もそういう気持ちになってくれたらいいなぁと思う」

matty「ソナサポのために書く部分は今も変わらずあるんだけど、第1章で出しきった、求め合う曲は完結しちゃったんだと思うんです。そろそろ空気の入れ替えみたいなことをやっていかないと、ファンの人たちもきっとフレッシュさを失ってしまうから。自分たちが求めている部分を、こういう曲はどう?って提示するのはひとつの誠意なんじゃないかなという。そして〝こんな側面もあったんだ!〟みたいな発見をしてもらいたい」

■ああ、確かに。今回もどこかでパン!ってハジけて広がる展開がくるんだろうと思って聴いていたらそのまま終わったから、うわっ、めちゃめちゃかっこいい!っていう。

matty「そうそう。今まではサビで一気に盛り上がる流れとか、ストーリー性のある曲が多くて。けど今回みたいなまったりした時間の中でのいわゆる起伏がないところって、逆に日常なのかなって思って。そういう自然な姿をSonar Pocketとして描けたのは、本当によかったなぁと思いますね」

■ただタイトル「段々男女物語」を筆頭に、言葉のキャッチーさや楽曲のポップさは実は変わってなくて、だからソナポケらしくないわけでもなくて。出し方が変わったから新鮮に響くってことなんじゃないかなぁと。

eyeron「いや、まさにそうなんだと思う。思考とか手法は一緒ですもん、核になる部分も含めて」

■では、「段々男女物語」はそもそもどういう始まりだったのでしょう?

ko-dai「この曲はRyosuke〝Dr.R〟Sakaiさんというトラックメーカーのスタジオにお邪魔して、みんなでコライト(共作)していったんですけど」

matty「かなり早い段階で現状に近いカタチになったし、ko-daiがBメロを入れた瞬間、ビビッときて。ソナポケが3人になって10年経つんですけど、トップ3に入る歌のラインを入れてきたなっていう(喜)」

ko-dai「けどそのフレーズが出てきたのはめちゃくちゃ早くて。お昼過ぎにスタジオに行って、夕方前にはもう入れてたから、2番を作り終えるまで2時間半とか3時間」

■すごいっ。そして前作「一生一瞬」でも、「大サビはあっという間にできた」と言われて、まったく同じ反応した覚えが……。

eyeron「ハハハ(笑)。Sakaiさんは海外でもコラボレートされているんで、要するに、今の海外の主流がそういうカタチらしいんですよ。これ作って、これ作って、これ作ってっていう。そこにうまくはまって新たな魅力が出されたし。完成したときは、やっぱり化学変化は面白いなーと思いましたね」

matty「歌録りもSakaiさんのスタジオでやったんですけど。いつもだったらカットされてるような2人のローの帯域がそのまま活かされてて。今までなんでそこを削ってたんだろう?っていうくらい、いい声で録れてて。ずっと一緒にいたのに、いろんなスタジオでやってきたのに、もったいなかったなーって。今回の制作はものすごくいろいろな勉強をさせてもらいましたね」

ko-dai「Sakaiさんの音へのこだわりはすごくて、とことん音がいいんですよ。ローの出方の勉強をするために、ローだけにして1日聴いたりする人なので。日本と海外のトップアーティストの音を比べてみると、良くも悪くも全然違ってて。今回は海外のトップアーティストと比べても遜色ないというか、本当に良質な音に仕上げてくれたから」

eyeron「まぁ新鮮だったよね。もちろん今まで自分たちがやってきた、足し算をして広がりを持たせたり、刺激を作ったりするのもいいんですけど、今回は飛び込んでくる音ひとつひとつが最高に気持ちよくって」

■この曲は珍しく英詞が多用されていて、それが心地よいリズムを作っている。これも制

「段々男女物語」は一期一会をテーマにしてるんですけど、僕らがツアーで重ねる一期一会も同じ出会いなんてないよねって(ko-dai)

今までやってきたいいものは残しつつ、今作での挑戦みたいに、ライヴでも新たなSonar Pocketを出したいって想いが強くある(eyeron)

作過程を聞くと納得ですね。

eyeron「ほんとにそうで。これでいこうっていうテーマをバッと書き出して、俺も歌詞をバッと書いて、それもリズムじゃないですか。そういう制作のいいリズムが楽曲にうまく反映されたんだと思いますね」

ko-dai「もちろん響きやリズムを重要視しつつ、最初に言った通り、裏テーマはサーフィンだから。〝Inside〟とか、〝same wave〟とか、〝Paddle〟して辿り着いた想い〟とか、サーフ用語を使っていったら、英語が自然と多くなったっていうのはありますよね」

matty「この曲が街で流れたときに、Sonar Pocketだって一瞬でわかる人はそんなに多くないと思うんですよ。うん。それもすっごく楽しみなんですよねぇ」

■あれやこれやそれやをひっくるめて、とても大きな石を投げたなって感じがしました。

matty「挑戦という意味では、うん、やっぱりそうでしょうね」

■それはやはり昨年、ko-daiさんが生死をさまよったことで3人が意識した強い覚悟があるから投げられたんだと思うし。自分たちがやりたいことをやる、聴かせたい音楽を届けるっていう意思がね、こんなにも気持ちいい曲で伝わるって最高じゃないですか。

ko-dai「あぁ、嬉しい。そうですよね」

■だから2曲目「イニシアチブ」でのeyeronさんの〈「良い物はいい!」と声を大に 周りより自分の気持ちが肝心〉ってフレーズ、そしてファンクサウンド、爽快でした。

matty「これはライヴ用に飛び跳ねる曲がほしくて。ただ今までのロックに盛り上がる曲もまた、自分たちの中で消化しきった部分があるから。こういうファンクで、音楽要素にどんどん触れていくトラックでやるとどうなるんだろう?みたいな。結果、今までなぜやらなかったんだ?!っていう」

■本当ですよ。この曲のベースラインは聴いてるだけで心踊ります。

matty「コード数が少ないからシンプルだし、逆にそれがワンループに近い感じで、頭の中で中毒性が高く回るというか。ファンクの良さはそこなのかなって思いますよね」

ko-dai「この曲は、ブラックミュージックが得意なUTAくんっていうトラックメーカーとコライトしてて。ギターはサンプリングの音を使いつつ、音程を変えてみたり。ライヴを想定して作っていたので、フリー素材のガヤ声を思いきり入れてみたり。彼もノリでバンバンやってくれるから早くて、これも3時間とか」

■もう驚かない(笑)。だって音数ではなく、「いいね」「面白いね」を積み重ねていったムードが楽曲から伝わってきましたもん。

ko-dai「うん。だからラップしちゃうんですよね、最近」

■ククク。楽しいを追求すると?

ko-dai「ラップ癖が出ちゃう。気持ちいい耳触りを探して、フローで書いちゃうんだよなぁ。だから気がつけば2人して韻を踏みまくっているっていう(笑)」

■この曲のeyeronさんの使い方が新鮮で。スピード感を持って高め合うとか、声のコントラストで魅せるのではなく、ボディブローのようにあとから効いてくるような。

eyeron「あぁ、そうかもしれない。けど自然とこうなったというか。今回はこういう楽曲だし、考えるよりも出たもののほうがいいんじゃないの?って想いが強かったので。そしたらこう、今まで感じたことのない自分のスパイシーな味が溢れたりして」

ko-dai「今までは手法を考える音楽とか、意味を考えてもらう曲が多くて。でも夏だし、ツアーも始まるし、考えるより感じる音楽を届けたほうが刺さるだろうなっていう」

■今回の2曲と前作「一生一瞬」が入るだけで、次のツアーはかなり変わりそうです。

ko-dai「うん。変わります。まず、これまではダンサーを連れて廻ってましたけど、今回はツアータイトルに掲げた〝Reload〟、ここからまた再スタートなので、シンプルに3人で勝負しようと思っていて」

eyeron「潔くていいかなと。今までやってきたいいものは残しつつ、今作での挑戦みたいに、ライヴでも新たなSonar Pocketを出したいって想いが強くあるから」

matty「新しい演出家さんに入っていただいて、セットリストからいろいろと」

■曲も含めて固まっているんですね。

ko-dai「イメージしているのは、光と影の対比する世界観。あとは泣けるライヴにしたいなっていうのはすごく思ってますね」

eyeron「選曲が変わって楽しみ方もバージョンアップするんですけど、泣く曲では今まで以上に泣いてもらいたいと思ってて」

ko-dai「10周年につなげていくためにも1本1本を大事にして、しっかりとお客さんの心を掴んでいきたい。だからさらなる新曲も用意しているし、アンコール込みの演出にしたいなぁとも思っていて。会場で一緒に過ごすすべての一瞬を一生楽しんでいこうみたいな。だからアンコールは絶対、絶対にしてほしいんです(ニッコリ)」

B



初回限定盤



通常盤

26th Single
段々男女物語
2017.07.12 Release
初回限定盤 CD+DVD ¥1,296(tax out)
通常盤 CD ¥926(tax out)

[CD]
01. 段々男女物語
02. イニシアチブ
03. 段々男女物語(Instrumental)
04. イニシアチブ(Instrumental)
[DVD]
01. 段々男女物語(Music Video&オフショット)



イニシアチブ

カップリング曲より、メンバーが主導権を握れることって? それぞれ個性の出る結果に。

■テーマは「イニシアチブ」。ご自身が主導権を握っていることを教えてください。

ko-dai「俺はご飯屋さんでのオーダー。イニシアチブを持ってやってます」

eyeron「それはko-daiしか持ってないからね、スタッフも含めて」

■えっ、スタッフ込みでko-daiさんが?!

ko-dai「お店から決めるときもありますね。"ここの何々が食べたい"とか」

■もしソナーポケットチームが来たら、お店の方はまずko-daiさんにメニューを持っていけば間違いないと。

ko-dai「そうかも。だいたいみんな何が好きか把握してるので、それを加味しつつ選ぶっていう。とりあえず、もずく酢とポテサラと唐揚げがあればいいんで」

一同「あはははははは」

ko-dai「"酢の物を頼む"っていう視線がmattyから送られてくるから」

matty「話の流れになっちゃうんですけれども、僕はお酢に強いですね」

ko-dai&eyeron「酢のイニシアチブ?!」

matty「お酢だけじゃなくてレモンとか、酸っぱい系は全部大丈夫です」

■レモンは蜂蜜漬けとかではなくて?

matty「普通のレモンです。例えば、ラジオやテレビで罰ゲームをやるってなったときに、お酢だと全然苦にならないんですよね。過剰に反応するeyeronを見ながら、嘘だろ~?!っていうくらい」

eyeron「マジですごいから! てか、画的にはそっちが空気読めねぇやつだよ」

■オススメのお酢を挙げるとしたら?

matty「個人的に好きなのは赤酢。普通の白いお酢よりも好きですね」

■お寿司でしか食べたことないかも。他にどういう楽しみ方があるのでしょう?

matty「いや、僕はもう普通にお店でちょっともらって飲んでます、クッと」

■そ、それは上級者すぎて……。

eyeron「俺は2人のいい表情とか角度を知ってるから、アーティスト写真とか、雑誌に掲載する写真は決めたいですね」

■写真チェックのイニシアチブですか。

ko-dai「写真は自分でも撮ってるしね」

matty「気がついたら10周年のアー写とか撮ってそうだもん。てか、そのうち映像関係にもいくんじゃないですか」

eyeron「いろいろやりたいですねー」

■eyeronさんは、前作に続き今作のジャケットも担当しているんですよね。

eyeron「サウンドはもちろん、ジャケット、アー写、MV、音楽を肉付けするすべてにしっかりと第2章の血を通わせたいっていう想いが強くあるから」

■では、次回からB-PASSで撮影した際の写真チェックはeyeronさんに。

ko-dai「衣装、ヘアメイクのクレジットに並んで、写真チェッカー→eyeron」

eyeron「ククク。その職業ヤバいね」

Sonar Pocket ⇒
ソナーポケット。名古屋出身の3人組ユニット。'08年9月シングル「Promise」でメジャー・デビュー。7月29日より全国ツアー「Sonar Pocket JAPAN TOUR 2017 ~Reload~」を開催する。ファイナル公演は5年ぶりとなる日本武道館。

今、気になる人や作品の最新情報を紹介するこのコーナー。今月は、演技派女優のインタビューを!

門脇 麦 >>>

Text ⇒ 花倉有紀子





門脇 麦 ⇒
かどわきむぎ。'92年8月10日生まれ、東京都出身。現在、映画『こどもつかい』が公開中。7月15日よりNHK土曜時代ドラマ「悦ちゃん」（毎週土曜18時5分～）がスタート。映画『ナミヤ雑貨店の奇蹟』が9月23日より公開される。

役ごとに軸足をガラリと変え、少女のように天真爛漫な役から、金曜ドラマ『リバース』での母親役など見事なまでに演じきる女優・門脇 麦。そんな彼女に惹かれた人気脚本家の尾崎将也が、門脇を主役に脚本をあてがきし、監督も務めた映画『世界は今日から君のもの』が公開される。心を閉ざしがちだった主人公が、働くことや出会いにより少しずつ自分の殻を破り、広い世界へ一歩踏み出すという爽やかな物語だ。

■演じた真実ちゃんは、ゲームやイラストが得意で、少し独特な空気感を持つ女の子ですが、役作りはいかがでしたか？

「監督の尾崎さんが動きにとてもこだわっていました。〝背中を丸く〟とか、〝膝をほぼ曲げずに手をぶらんとしたままで歩く〟といった細かい指示が結構あったんですけど、それってすべて尾崎さんの日頃の癖で（笑）。尾崎さんと真実ちゃんは本当によく似ていて、どちらもそんなにおしゃべりは得意じゃないけどしっかり自分の大事なものを持っているんです。だから、真実ちゃんをただ暗いだけの引きこもりではなくて、自分の世界で大事なものを持った子にしたいと思ってました」

■独特な間合いや声色もかわいいですよね。

「間合いはまんま尾崎さんです。質問しても30秒程間があって〝あ、あれは……〟って感じなので（笑）。声はリハーサルで〝もうちょっと高く、小さく〟と指定はありましたが、実は、撮影前にノドを壊して最初の一週間ぐらいは蚊の鳴くような声しかでなくて。その結果ああなったというのもあります（笑）」

■そんな裏話が（笑）。演じるときはどのように役に入り込んでいるのでしょう？

「私、演技をすることにすごく羞恥心があるんです（苦笑）。学芸会って恥ずかしくなかったですか？　今でもそれと同じ感覚ですし、（今回演じた）真実ちゃんなら、ガーリーな服を着てポソポソ話すということに対して、ふと〝何やってんだろう？〟と自分で思うし。だから、カメラの前でいかに恥ずかしさを払拭して違和感なく立つかが大事で、そのために〝んっ!!〟って気合いを入れることをしています（笑）。私は感覚が肉体先行なので、役によって身体の具合があるんです。それを掴んで、何も考えずに立つようにしています」

この作品で今一度自分を見つめ直して、周りは関係なく本当は自分が何が好きなのかを考えるきっかけになったら

■面白い役の入れ方ですね。物語では、主人公が自分の殻を破って外の世界に踏み出していくわけですが、こういう経験は？

「学生時代にどう人間関係を構築したらいいのかわからなくなったことがあって、そのままこの仕事を始めたことから、仕事で関わる方々とコミュニケーションを上手く取れない時期があったんです。でも、それを〝人見知り〟で終わらせるのはもったいないと、自分を変えていったことですね。今は〝この人面白そう〟と思ったらどんどん話しかけますし、仕事は人との出会いの場だと思っています。そう思ってから仕事の取り組み方も変わりました。前はしんどい役が多かったこともあって、役に入り込むと日常まで引きずってしまってどんどん気持ちが重くなっていて。仕事をいただけるのは嬉しいはずなのに、しんどいときもあったけど、今では気持ちがすごくラクになりましたね」

■当時の自分のように悩みの渦中にいる人に、なんて声を掛けてあげたいですか？

「悩むのは前に進みたいからだろうし、チャンスだと思うんです。そこで諦めたらそれまでだけど、いかにもがくかが大事かなって。私は〝悶々期来た。乗り越えたら前に進める！〟って思います（笑）。そう思えるのはバレエをやっていたことが大きくて。例えば、3回転が最初はできなくても、練習すればできるようになることを子供の頃から身体で覚えてきたんです。努力してできないこともあるけど、それは運命って割り切っています」

■本作を通して伝えたいことは？

「今は情報が溢れているし、情報の影響力が大きい世の中だから、自分が本当に好きなものは何なのか、ということに向き合う時間が少なくなっていたり、本当に自分がしたいことが見えづらい世の中だと思うんです。でもこの作品で今一度自分を見つめ直して、周りは関係なく本当は自分が何が好きなのかを考えるきっかけになったらいいなって思います」

■ありがとうございます。最後に好きな音楽についても教えてください。

「最近はビートルズです。あるとき〝Let It Be〟くらいしか曲を知らないなと、他の曲も聴いてみたら、いい曲がいっぱいあることに気付きました。今ではビートルズがあれば大丈夫というほどよく聴いてます（笑）」

■一人カラオケもよく行くそうですね。

「昨日も行きましたけど、ほぼ発声のためで帰りに少し歌う程度です。ちなみに昨日は、中島みゆきさんの〝糸〟と、ちあきなおみさんの〝朝日楼〟、石川さゆりさんの〝津軽海峡・冬景色〟（笑）。もともと女性ヴォーカルが好きでノラ・ジョーンズとかシェリル・クロウとかハスキーな人が好きなんです。藤原さくらさんが歌う〝やさしさに包まれたなら〟をよく聴くので、今作の主題歌なのはすごく嬉しかったです」 B

映画『世界は今日から君のもの』 ⇒ 7月15日（土）渋谷シネパレスほか全国公開／キャスト：門脇 麦、三浦貴大、比留川游、マキタスポーツ、YOU　他／監督・脚本：尾崎将也／主題歌：藤原さくら「1995」／配給：アークエンタテインメント／／HP：sekakimi.com

映画「東京喰種 トーキョーグール」キックオフイベント

6月2日 東京・YouTube Space Tokyo







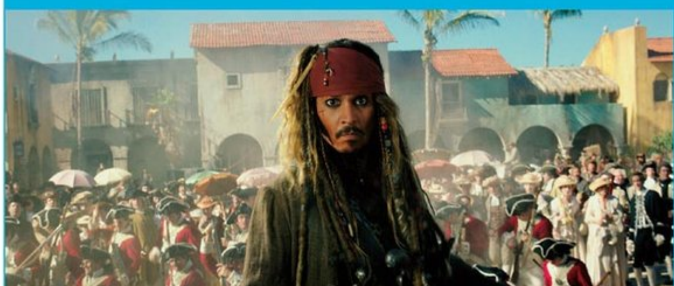
ある事件をきっかけに、人間を捕食する"喰種"と人間のハーフとなった金木(カネキ)研が、"人間"と"喰種"の2つの世界を知っていく様を描いた漫画『東京喰種 トーキョーグール』。世界的大ヒットとなっている本作の実写映画が7月29日より上映決定! 上映に先立って、6月2日にYouTube Space Tokyoにてキックオフイベントが行なわれた。当日は、カネキこと金木研役の窪田正孝、萩原健太郎監督、大角正(松竹/常務取締役映像本部長)、永江智大(松竹/プロデューサー)が登壇し、原作者の石田スイ先生もテキストでリアルタイム参加。YouTubeで全世界に同時中継される中、慣れない同時通訳やタブレット端末を使った石田先生とのやりとりに場が和みつつ、主題歌情報(RADWIMPSの野田洋次郎によるソロプロジェクト・illionが歌う「BANKA」に決定)やワールドプレミアの日程、スペシャル映像などが次々に解禁された。石田先生の熱望により主演に決まったという窪田は、オファーを受けた感想を「サプライズ!」と回答し、役作りについて「カネキ以外のキャラがすごく強くて、(カネキは)人間側と喰種側、両方に触れ合って形成されていくので、ニュートラルに受け止めるほうに徹していました。あとは、(喰種の時に装着する)マスクが苦しかったです(笑)」とコメント。さらに、世界5都市の喰種ファンと中継を繋ぎながらの質疑応答タイムにも丁寧に答え、最後は「東京喰種という作品が1人でも多くの方に、もっと世界の方に届くことを心から願っています」と想いを語った。

(文■斉藤 碧)

映画『東京喰種 トーキョーグール』は、7月29日全国ロードショー。

映画『パイレーツ・オブ・カリビアン/最後の海賊』夏祭りプレミア

6月20日 品川プリンスホテル ステラボール





映画『パイレーツ・オブ・カリビアン/最後の海賊』
7月1日(土)全国ロードショー
監督:ヨアヒム・ローニング AND エスペン・サンドベリ
キャスト:ジョニー・デップ、ハビエル・バルデム ほか
配給:ウォルト・ディズニー・ジャパン



L to R 栗山千明 カヤ・スコデラリオ ジョニー・デップ ブレントン・スウェイツ 中川大志

この日行なわれたジャパンプレミアには、ジョニー・デップをはじめとする"パイレーツ"キャスト陣を待ちわびる熱烈なファン2000人が会場内外に集結。ステージに設置された巨大な海賊船に、孤高の海賊ジャック・スパロウを演じるジョニー・デップ、新たな相棒 ヘンリー・ターナーを演じるブレントン・スウェイツ、女性天文学者 カリーナ役のカヤ・スコデラリオが登場し、この日一緒に登壇した栗山千明(カリーナ役の日本語吹替を担当)、中川大志(ヘンリー役の日本語吹替を担当)と、上海で行なわれたワールドプレミア以来の再会を熱いハグなどで喜びあう。

さらに、キャストたちへのプレゼントとして日本の代表的な祭り、「よさこい」パフォーマンスで日本流のおもてなしを実施。海賊<パイレーツ>の装いのパフォーマー総勢54名(早稲田大学"踊り侍")が会場中に現われ、本作のテーマ曲"彼こそが海賊"に合わせた本日限りの熱いスペシャルパフォーマンスを披露。これぞ日本の"夏祭り"!というド派手な演出に会場のボルテージは最高潮に達し、これにはジョニー・デップも周りを見渡し大興奮!

最後にジョニー・デップの「アリガトウ! ジャパン!」の言葉を合図に、大砲をイメージした特効が放たれ、7月1日の日本公開へむけて、『パイレーツ・オブ・カリビアン/最後の海賊』の夏祭りプレミアは大歓声の中、華やかに幕を閉じた。

連載 千葉雄大のドレミファソラシどろん♪

Vol.79 Kan Sano 編

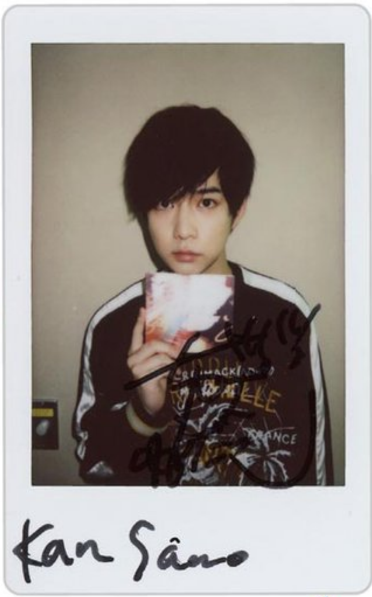
■プロフィール■
千葉雄大⇒ちばゆうだい。'89年3月9日生まれ。宮城県出身。現在、映画『帝一の國』に出演中。今後は、映画『兄に愛されすぎて困ってます』（6月30日公開）、映画『亜人』（9月30日公開）、平成29年度後期 連続テレビ小説「わろてんか」［10月2日（月）〜2018年3月31日（土）《全151回》］など、他作品も多数控えている。



最近はインドアに拍車がかかって、
家の中にわりとずっといるんです。
特段変わったこともしてないのですが、
のんびりごろごろするのが好きなもので。
でも、ソファでごろごろしていると
たまに重力に負けて
ソファに埋もれていくような気持ちになるので、
いかんいかん、と立ち上がってみるのですが、
先日は立ち上がった足で
バーベキューに参加しました。
昔から仲良しの輪ができていると
後からそこに入るのがすごく苦手で、
今回のバーベキューは
初めましての方ばかりだったので
イスでもじもじしてたのですが、
全員ぼくより年上だったので、
長男が末っ子根性出してみたところ
輪に入れたかはわからないけれど、
周りでマイムマイムできるくらいは
楽しかったです。
アウトドアもいいものだな、と思いました。
最近は音楽もいろいろ新規開拓しておりまして。
新しい世界をみるのはとてもたのしい。
そんな近ごろの僕でした。



Kan Sano
3rd Album
『k is s』
2016.12.7 Release



☆連載ポラプレゼント☆
連載で使用したポラを読者1名様にプレゼント。希望の方は、官製ハガキに〒＆住所、氏名、年齢、電話番号、連載の感想を明記の上、〈〒101-8450 B-PASS連載 千葉雄大の「ドレミファソラシどろん♪」係〉までご応募ください（'17年7月26日当日消印有効）。当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます。

連載 阪本奨悟

SHOGO'S FILTER SEASON 2 No.2



まずはチェリフェス！ 初の山形県LIVE！ 天気も良くて、お客さんも温かい。最高っすね



チェリフェス！ 打ち上げ！ 隠れ地酒と呼ばれる「五薫」

どうも！阪本奨悟です！
今月僕は、東北キャンペーンに行ってきました。
久々の東北！
そして、人生初の山形県でのLIVEもありました！
東北の皆さん、ほんと温かくて安心しました。
お陰様で楽しくLIVEができました！
ありがとうございました！
引き続き、阪本頑張っていくぞー！



関係者の方々に少し早めの誕生日を祝って頂き、最高のキャンペーンになりました！

阪本奨悟⇒さかもとしょうご。'93年6月13日生まれ。兵庫県出身。'17年5月31日にメジャーデビュー・シングル「鼻声 / しょっぱい涙」をリリースした。

awesome! Vol.20

オーサム！

豪華撮り下ろし＋
超ロングインタビュー満載!

全国書店にて
好評発売中!!!
¥1,620（tax in）
B5変型判／256P



映画『帝一の國』56ページ大特集!!

表紙 菅田将暉

志尊 淳／萩原利久
クリープハイプ
成田 凌／中村倫也／吉沢 亮／山田裕貴／青柳 翔
真剣佑／阪本奨悟／片寄涼太(GENERATIONS)
小池徹平／市原隼人／成河／山崎育三郎／長谷川博己

awesome! Vol.21 7月10日発売!!
表紙巻頭:映画『銀魂』大特集!!

表紙への道 OLDCODEX 編

今回の撮影は夜めからスタート！　あいにくの雨だったのですが、お願いして外ロケも敢行。濃くて楽しいシューティングでした












1. 試し撮りをしてはチェック、の繰り返し。スモークやライトを確認中
2. こっそりと狙っていたら発見されちゃいました。ピースサインかわいい
3. キリッとシリアスなTa_2さん。ヒザが見えているデザインにどきどき
4. コンクリートバックで2ショット。どのカットも良いので表紙に悩みます
5. いつのまにかYORKE.さんが照明を手持ち。めっちゃ照らされてます
6. なぜかその流れでこのポジショニング。気がついたら壁ドンになってた
7. 雨でも夜でも2人はいつもフリーダム。ふと見ると向こう側に行ってた
8. ラストのシチュエーションへ。スタジオの床板を全部剥がして盛りました
9. 「これどう?」とYORKE.さんが木箱を発見。いろんなポージングを試す
10. これはキメカットかな。最終的には木箱の中に入っていたような記憶

B PLUS FILE

今月はメンズが勢揃い。撮影の裏側、庶民派グルメ、梅雨時期にぴったりの1曲に、愛犬自慢に、七夕の願いごと……盛りだくさんです!!

グルメレコメンド

隆太&一生さんには以前聞いたので、今回は誠司&元気さんのオススメを



今月のおすすめ人 **flumpool**

癖になる日々の一品

うさぎ
担々麺　¥950

吉野家 吉呑み
牛すい　¥350

かわいい"うさぎ"が出迎えてくれます





2辛。色的には激辛そうですけど、程よい辛さ

牛と豆腐と玉ネギとネギと。やさしーい味





編集部近くの吉野家。夜はこの装い

誠司「渋谷のうさぎ。そこの担々麺が旨い」
■担々麺好きなんですか?
誠司「辛いのが好きなんで、そこのお店はラー油が辛いっていうより、山椒辛いんですよ。もともと山椒は苦手だったんですけど、そこで食べたら、旨いなぁと思って、そこから山椒の辛さが好きになりました」
■担々麺屋さん?
誠司「いや、ラーメン屋で、担々麺以外にもありますよ。普通に醤油ラーメンとかも」
元気「なか卯の担々うどん、めっちゃ旨ない?」
誠司「旨いけど(笑)」
元気「冷やし担々うどん、食って!　めっちゃ旨いから」
■元気さんはなか卯にします?
元気「なか卯だったら……吉呑み」
誠司「何、吉呑みって?」
元気「夜の間だけ、ちょうちん出る吉野家があんの。居酒屋メニューが出て、アルコールと、牛煮込みとか一品料理があって、もうベロベロなって、2500円とか」
隆太「やっすいな」
元気「早く仕事終わったら、ほんとにずっと吉野家に、ひとりで4時間ぐらいいる(笑)」
一生「ひとりで4時間とか本気で無理」
隆太「帰れよ(笑)」
■確かに(笑)。ひとりなら家でいい。
元気「でもほんとにひとりで呑みやすいんですよ。吉呑みのオススメメニューは牛すい、あれがすごい。肉吸い、みたいな。すげぇ旨くて。牛すい麺もあって。牛すいをいっつも食べてる。ハイボールと、牛すい」

編集部コメント
まずは渋谷へ。お昼時で、6人ぐらいの行列が。20分ぐらい待ちました。お客さんのほとんどが担々麺で、人気のようです。3辛まで選べて、2辛を。おー、辛そう。うん、確かに辛い、でもイケる!!　山椒も麻辣も刺激的ですが、コクがあって奥深い味わい。麺と絡んで、これはクセになる辛さ&美味しさでした。そして初・牛すい。小ぶりの鉢に出てきまして、スープがキラキラ光ってる。熱々で、鰹ベースのあっさり出汁、お肉の脂と相まっていい味出てる〜。このお出汁、ずっと飲んでられるわぁ(笑)。

making check!!

雨天だったわけではないですが、
室内3連発の撮影風景
背景や衣裳がカラフルですね

check 1

DOBERMAN INFINITY

5.18 都内スタジオ













1 夏っぽく!と、KAZUKIとSWAYは鮮やかなイエロー背景で。会うたびにかっこ良くなるKAZUKI

2 上がパープル、下がグリーン、バックがイエロー。カラフルな色味の中にもクールさがキラッ!

3 年上組はシャーベットブルーで大人っぽくさわやかに。優しい表情にドキッとさせられたGSさん

4 黒×赤の組み合わせがシブかっこいいKUBO-Cさん。いつも優しいんですが、目力がスゴイ!

5 ゴージャスな赤のセットアップとサングラスが夏っぽさ満開だったP-CHOさん、おしゃれ!

6 ラストは白ホリバックで集合カットを。HIP HOPグループならではのポージングがキマってるんです!

check 2

山崎育三郎

6.7 レコード会社









1 今回のアルバムの雰囲気に合わせて、まずは白い壁をバックにスラッと爽やかな全身カットを

2 衣装のジャケットはスタイリストさん特注。肩に羽織ったり、半身にかけたり〜と様々なVer.で撮影

3 続いて、ソファに座りつつ、ライティング抑えめの、しっとりクールなカットを。上下白もお似合い!

4 顔前で手を合わせていただき、グググッと寄ります。目線ありも良いですが、アンニュイな横顔も素敵♪

b Tunes ♪♬

雨の日に聴きたい曲

W♠PRINCE



KOUKI

L'Arc~en~Ciel
「Singin' in the Rain」

昔っから雨と言えばこの曲です。タイトルからしてそうだし、ちょっとオシャレな感じで始まるんですけど。それを聴きながらアンニュイな気持ちになります(笑)。アンニュイな気分になりたいので、雨の日は(笑)。

KENSUI

徳永英明
「レイニーブルー」

本家の徳永英明さんの曲も聴くんですけど、それをカバーしているアーティストさんってめっちゃいて。ジェジュン(JYJ)とか、韓国の方が多いですよね。そういうのを聴いて、雨の日は気分を落したくなります(笑)。

check 3

羽多野渉

5.30 レコード会社









1 会議室の一角をお借りしてセッティング。シングルタイトルにちなんで、大きなハート型バルーンと

2 重そうに持ち上げてますけど、中味空気(笑)。お茶目なわちゃさんのおかげで笑いが絶えません

3 スタッフ全員で「バレンタインカードにもできるかも!」と盛り上がっていたラブリーさ♡

4 2パターンめは、梅雨シーズンを意識してしっとりと。紫陽花とわちゃさん、切なげな表情にキュン

your pet show



アルバム収録の「グッドドギー」という名曲。その主役を紹介!

牧 達弥
(go!go!vanillas)





凛(りん)
ロングコートチワワ／♀／6ヵ月

「犬は、ちっちゃい頃からずっと欲しくて、サンタにシベリアンハスキーを頼んだけど、来なかったっていうのもあって。でまあ、自分も年齢的にも落ち着いてきて、犬欲しいなって思ってる中で、それこそアルバム制作に関係してくるんですけど、今回家で作ることが多かったから、疲れたなぁと思ったら、散歩してペットショップに行くっていうのが日課になっていたんですよ。で、ある時にポメラニアンがいて、ポメラニアンって今、人気じゃないですか。ギガちゃんとかで。だから犬もわかってて、ゲージの前に行くと、"私でしょ? 開けて!"って感じで。店員さんが"抱いてみます?"って開けてくれた時に、凛が来ようとしたんです。けど、そのポメラニアンと偶然当たっちゃって、凛がビクってなって、すっと背中を向けたんですよ。それが可愛くて、この子じゃなくて、こっちの子抱かしてくださいって言って、抱かしてもらって。ずっと俺の膝の上でじーっとしてて、もぉー飼おう!って思って(笑)。そこは口車に乗せられましたけどね。"こんな大人しくて、匂いももう覚えましたよ!"とか言われて(笑)。これ返すのは無理やなって思ったし、単純に欲しいのがでかかったので、もう飼います!って。その日に連れて帰りました」

■性格的には大人しい感じですか?

「大人しいですね。でも人懐っこすぎて。俺のこと飼い主だと思ってないんじゃないかなっていう時けっこうあります」

進太郎「スタンダードって思われてるよね(笑)」

■あ、うちのパパっていうのじゃなくて(笑)。

「パパとかじゃなくて、最初に知ってる人っていう。人に対しては大丈夫なんですけど、けっこうビビリかもしれないですね。散歩行きたてぐらいの時に、大人のチワワがいて、最初はクンクンって鼻で臭い合ったりして、いい感じかな?って思って、帰り際にもう1回行かせたら、ワン!って吠えられたんすよ。そしたらもうピーンってなって、壁の端の見えないところまで行って隠れようとして。その経験から、犬に対してはね、ちょっと。THE ORAL CIGARETTESの拓也も飼っていて、誕生日が4日違いで、ほぼほぼいっしょだから、いろんな相談をし合ってるんですけど、こないだ初めて会わせたら、ちょっとまだビビってましたね」

■では、凛ちゃんのここがたまらん、っていうところは?

「お腹の、下腹の肉がめっちゃ気持ちいい(笑)。あと、人が来ると、"はい、撫でてください"って伏せ状態で、足が平泳ぎの時みたいになるんですよ。カエルみたいにその足をヒョコヒョコヒョコヒョコってやるのが大好きです(笑)」

■じゃあ、ちょっと煮詰まったら、凛ちゃんの足を。

「そう、ヒョコヒョコヒョコヒョコってやって、"よし、OK! もう大丈夫です、お帰りなさい"って、俺もDTMに戻る、と(笑)。そんな感じでやってましたね」

Let's make a wish

もうすぐ七夕。この2組に願いごとを書いてもらいました!

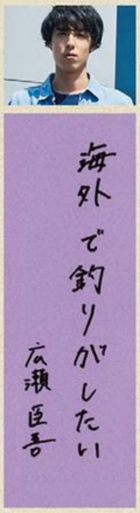
SHE'S

井上竜馬
Vo.



吉岡里帆さんが好きだから。願いと言われたそれしか出てこない(笑)。もしかしたらB-PASS見てるかもしれないですよね。

広瀬臣吾
B.



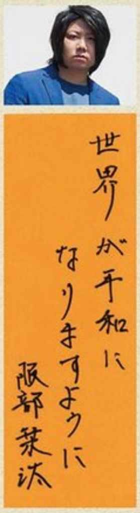
単純に釣りが好きだから。

木村雅人
Dr.



僕も好きだからです。

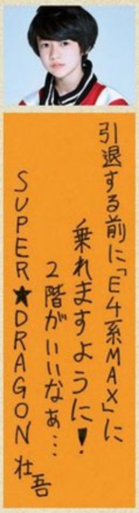
服部栞汰
Dr.



今の時代に一番大事なもの。世界が平和でないと、みんなの願いも叶わないから。3人の願いを叶えるための願い。自分の願いを捨ててます(笑)。

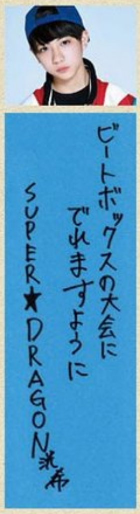
SUPER★DRAGON

壮吾



上越で走っている2階立て新幹線。2020年に引退することが決まっていて、2階立て新幹線の歴史がそこで終わっちゃうんです。短距離でもいいから乗りたい。

洸希



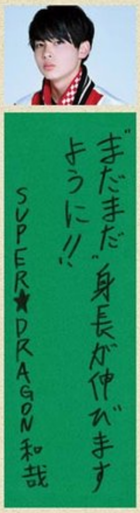
世界大会も出たいですけど、とりあえず日本の大会に1個でもいいから出てみたい。

彪馬



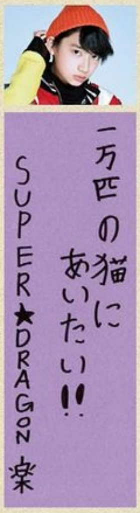
180cmが目標で。今172cmなんで、今年中に絶対175cmは越したいなって思ってます。よく寝てるし、牛乳も好きなんで大丈夫です!

和哉



夏で5cm伸ばします!

楽



会ったことない猫、たくさんいるんで、いろんな種類の猫に囲まれて、ワシャーってやりたい。ダイブしたい。

毎年暑さを更新しているような気もしますが、どうやら今年はさらに猛暑とのこと。水分をとりつつ、Bプレスも楽しんで。

アーティストなんでもベスト5 vol.185

夏場は食料の日持ちが難しく、冷蔵庫に入れっぱなしでも不安ですよね。あえて減らしているのではなく、普段から冷蔵庫に何も入ってなさそうなアーティストをランキング！　必要最低限しかいれてない？　そもそも家ではごはんを食べない？　結果はいかに……。

今月のお題　冷蔵庫に何も入っていなさそうなアーティスト

今月の1位は、GACKTさん。「ワインとチーズのイメージ」「外食が多そう」「そもそも冷蔵庫がなくて、代わりに専属シェフがいそう」私生活を想像しにくいミステリアスなGACKTさん。食べ物に関して非常に詳しい反面、自炊のイメージはなかなか湧かないのかもしれません。2位は、星野源さん。「料理のイメージがない」「ツアーに出てるか、制作でスタジオにこもってそうだから」ミュージシャンらしい生活をしてそうとの意見。3位は菅田将暉さん。「友達との外食が多そう」「とにかく忙しいから」常にいろんな活動をされてるので、家を空けることも多そうですよね。4位のSKY-HIさんは「ストイックな生活で必要最低限しかなさそう」など。以上の結果となりました。あくまでイメージですので、実際は、お料理上手さんもいるのかも……？

9月号のお題　結婚式の友人代表のスピーチがうまそうなアーティスト

6月と言えばジューンブライド。結婚式で行なわれるスピーチには、"3つの袋"など定番の名言もありますが、新郎新婦はもちろん、ご家族や友人、列席者を飽きさせず、印象に残る話術が必須。笑いも入れられると尚よし。そんな、高度なテクニックが必要な、スピーチがうまそうなアーティストとは一体？　理由もぜひ書いてくださいね。

投票方法　P.160にあるプレゼント応募ハガキの記入欄に記入して投票してください。グループ名ではなく、個人名で投票を。7月15日到着分までOK!　あなたがランキングしてみたいお題も大募集中ですっ!!

1位　GACKT ―― 443pt


2位　星野源 ―― 416pt


3位　菅田将暉 ―― 366pt


4位　SKY-HI ―― 322pt


5位　藤原基央（BUMP OF CHICKEN） ―― 304pt


6位 EXILE ATSUSHI ― 294pt ／7位 アサヒ（Little Glee Monster） ― 287pt ／8位 二宮和也（嵐） ― 261pt／9位 野田洋次郎（RADWIMPS） ― 230pt ／10位 YOSHIKI ― 213pt

少数票　リョウガ（超特急）、尾崎世界観（クリープハイプ）、yukihiro（L'Arc～en～Ciel）、米津玄師、伊藤一朗（Every Lille Thing）

B・PASS用語解説48時

今月は、楽器まわりの演奏用語をピックアップ。ライヴでの楽しみ方が増えるかも？　覚えて、好きなアーティストをチェック!

1●チョーキング

ギターソロなどを聴いていると、音が「キュイーン」って鳴るときがありますよね。あのキュイーンのことを「チョーキング」と言います。チョーキングとは、弦を弾いた後に、弦を押さえている指をそのまま上にグイっとあげることで、音の高さを変えるという奏法のこと。ひとことでチョーキングと言っても種類がいろいろありまして、音を1音とか、半音とか、4分の1音あげるといった具合に、かなり細かく分かれています。「キュイーン」はものすごく奥が深いものなんですよ。ただ、このチョーキング、実は和製英語のため、海外では通じませんのでご注意を！　海外では弦を「曲げる（＝bend）」という動きから、ベンディングと呼ばれています。

2●オカズ

ギターがジャカジャカ鳴っているんだけど、ヴォーカルのメロディが途切れた瞬間に、たまにちょっと離しめというか、耳を引くフレーズが入っているのを聴いたことありませんか？　もしくはドラムがリズムを刻んでいる途中で、同じくメロディがなくなったときに、それまで刻んでいたリズムとは違ったフレーズを叩いていたりとか。そういう、基本の演奏をしつつも、ヴォーカルの邪魔にならないように入れるフレーズのことを、ギターやベースでは「オブリガード（通称：オブリ）」、ドラムでは「フィルイン（通称：フィル）」といいます。で、そういったフレーズの俗称として呼ばれているのが「オカズ」。オカズを聴くと、その人のプレイヤーとしてのセンスやスキルが分かるし、聴かせどころでもあるので、みんなかなり真剣に考えています。是非とも耳をすませて聴いてみてください。

3●セーハ

ギターでコードを弾くときに、1本の指で複数の弦を押さえることを「セーハ」（もしくは「バレー」）といいます。セーハをして弾くコードの代表格が「F」。これは、人差し指1本で全ての弦を押さえるというものなのですが、とりあえずギターを始めてみたものの、多くの人がFを弾けずに挫折してしまうという「ギターあるある」があるぐらい、初心者にとってセーハはひとつの難関です。弾けるようになるためには練習あるのみなのですが、コツ

◆私のおばあちゃんが、雨の日に傘を忘れ、頭にビニール袋を被って帰ってきた……。

（愛知県／あさり）

B 頭限定だけど、簡易的なしのぎにはなるよね。被って歩く様は不審者だけど……。

◆家で「お母さんどこー？」と言ったら、「今いないよ～」と返ってきた。明らかに母の声なのだが。

（埼玉県／人生のピークは小6）

B かくれんぼじゃないんだから、お母さん。これで、本当にいなかったらホラー。

◆生まれつき天パ（くせ毛）の友達が、初めてストレートパーマをかけてくると近所の理容室に入り、**パンチ**になって現われた。

（福井県／コロ）

B 一体何があったの。その店では、パーマと言えばパンチのみだったのだろうか……。

◆歌手のさだまさしと菅田将暉の名前の区別がつかないおばあちゃん。

（愛知県／？）

B 母音はほぼ一緒だから、響きだけだと間違えちゃうかもね。さださんの役もやってるし。

◆夢で、自分がロケットの一部になって飛んで行くのを見ました。

（神奈川県／水玉ぼうそう中）

B 無事宇宙まで飛んで行けたんだろうか。その夢の深層心理が気になりすぎる。

◆学校の先生が教室に入って来たとき、寝グセが鉄腕アトムみたいだった。

（埼玉県／りんご）

B 先生、ちょっと寝坊したのかな。それとも格闘して負けるほど強い寝グセだったのかな。

エキセントリックおたより

言い間違いや、空耳も日常のエキセントリックですよね。クスッと笑えたらすぐハガキへ！

◆電車内で小さな男の子がぐずっていて、見かねたお母さんが「そんなことじゃ仮面ライダーになれないよ！」と言ったら、すぐにキリッとなって大人しくなった。

（東京都／ちょこ）

B 小さな子供に有効な魔法の言葉。立派に育って仮面ライダーになってくれ。

◆実習の前、風邪を引いてしまい、母が病院を予約してくれたのですが、行ってみると予約が入ってない。電話しようと外に出ると、耳鼻科の隣りにある皮膚科に入っていたことが判明。

（大阪府／天然ボケ）

B それだけ病院が並んでいたら間違えるかも？　さすがに皮膚科で風邪は診てくれないよね。

◆誕生日を携帯の電話番号にしていたからか、誕生日当日に何度も非通知の迷惑電話（無言）がかかってきた。せめて「おめでとう」と言ってくれ……。

（北海道／咲けない）

B 確かに。迷惑電話でも、一言くれたら迷惑じゃなくてお祝い電話だもんね。

◆「何かお茶請けありますか？」と言われ、お茶請けの意味を知らなかった私は、「これ？」と**茶こし**を見せたら爆笑された。

（静岡県／POCO）

B 確かにお茶は受けているけども。新しい言葉を知れてよかったよかった。

◆お花見に行って友人が持ってきた手作り弁当に、きゅうりが1本入っていた。

（兵庫県／人生バカ色）

B 桜を見ながらきゅうりをかじるって、どこのカッパですか。そんな楽しみ方もある？

◆子供が「ママ、あれ録画した？　あげないブタだっけ？」→私「そんなのあったっけ？」→子「あっ！　くれないブタだった」→私「あ～！「紅の豚」か～」。

（東京都／Orion）

B なるほど。日本語の面白さを感じるやりとりで感心しちゃうけど、そんなブタやだな。

◆今年に入って、アイロンがぱっくり2つに割れ、テーブルの柱が折れ、ペンダントが切れました。こわい……。

（大阪府／ミユ）

B それだけ続くならお祓いに行くのがいいのかも。どれも寿命なだけかもだけど、一応ね。

◆コンビニで○○円以上で引けるくじキャンペーンをしていて、2回引いたらどちらもガリガリ君のアイスが当たりました。次の日に別のコンビニにで買い物をして、くじを引いたらまたガリガリ君が！　暑い日が続いていたので、知人達にあげたら喜んでもらえました。

（山形県／こんぶ）

B どんだけガリガリ君運があるの!?　それは喜ばれるでしょう。私にも分けてほしい。

◆よく言い間違えをする母が弁当を買いに行った際に、〝ガパオライス〟を見たことを私に「ガラパゴスあったよ」と話してきた。

（沖縄県／さやぴー）

B 間違えるにしてもよく出てきたな、ガラパゴス。毎回、脳の体操になりそうね。

◆愛犬が「犬神家の一族」並みに両足をピンと立てたままお昼寝をしていました。

（埼玉県／グレープフルーツ太郎）

B どんな身体能力？　どんな夢を見ているのか気になるとこ。

としてはセーハする人差し指の側面（親指側）を弦に置くなど、さまざまな攻略法がありますので、ぶつかってしまった人はいろいろ調べてみましょう！

4●キメ

サビに入る前とか間奏とかに多いんですが、演奏している人達が同時に音を一瞬だけ止めて、またバーン！と全員で弾く、みたいなやつを聴いたことはないでしょうか。あのことを一瞬だけ演奏をとめるということから「ブレイク」と呼ぶのですが、普段は「キメ」と呼ばれることが多いです。全員でバシっとかっこよくキメる、みたいなイメージで捉えていただければと。

5●くう

たとえば「タカタカタカタカ」というリズムがあったとして、それを「タカタターカタカ」と演奏するとします。実際に口に出してもらえると分かりやすいんですけど、ちょっと前のめりな感じがしませんか？　こういうリズムのことをシンコペーションというのですが、このように、元々ある拍を前に食い込ませて演奏することを「くう」と言います。例えば、誰かと話していたとき、その人が話し終わる前に話し始めてしまう状況ってありますよね。いわゆる「食い気味」っていうやつですけど、まさにそのイメージです。

6●アドリブ演奏／インプロビゼーション

お芝居の世界で使われる「アドリブ」という言葉。「自由に」という意味ですが、音楽の世界にもアドリブはあります。たとえば「ここはアドリブでよろしく」と言われたら、プレイヤーが即興で自由に演奏をするといった感じ。とはいえ、もちろんルールはあるので好き勝手に弾いていいわけではなく、リハーサルなどで事前に準備することも多いですが、そういった即興演奏のことを「アドリブ演奏」といいます。で、「インプロビゼーション」ですが、多少の違いはあるものの、ぶっちゃけアドリブと同じく即興演奏という意味で使われています。でも、アドリブよりも聞き慣れていないのもあって、インプロビゼーションのほうが、なんとなくかっこいい感じがしますね。略して「インプロ」と言うともっといい感じ！

イラスト帝國 PLUS + 4コマSHOW

アーティストを好きに描いて送るだけで、もうあなたも立派なイラスト帝國民です。イラストでのアーティスト愛をぜひ表現してくださいね～

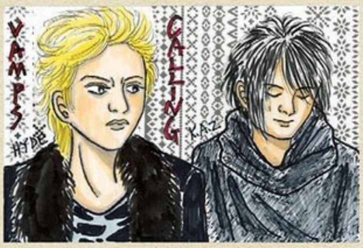


L'Arc～en～Ciel 兵庫県／イコ
そこはさすがにお描いにしづらい気がするよ……。

結成20周年イヤーを締めくくる新曲



BUMP OF CHICKEN 福岡県／S-arrow
「リボン」のMVのワンシーン。モノクロだけど、表情は優しくて温かでいいですね。まさに20年の歩みを歌う、この曲を表現してるようです



VAMPS 北海道／アルジャ～ノン
ガッツリおでこを出すスタイルも似合ってますね～!



UVERworld 栃木県／直輝
ちょっぴり訝しげな表情に見える? 特徴捉えてます



阿部真央 福岡県／PM8:49
遠くを見つめるあべまさん。鼻から唇の感じ似てますね

ライヴ記事を参照して新たなイラスト待ってます!



シド 岩手県／須藤
8月に新曲をリリース。みなさん唇が艶やかです……



WANIMA 山口県／アヤカ
笑い声が聞こえてきそう。ビビッドな色使いもGOODです



miwa 東京都／茉由
miwaさんのキラキラした目も、さらさらの髪の毛も鉛筆で丁寧に再現! 似てますし、絵に風を感じるくらいにリアルです。



CHEMISTRY 大阪府／さよ
復活ライヴに、新曲、おめでたいことです。ウインク素敵

◆家のうさぎは、フンをした後、早く掃除しろと言わんばかりに私の顔とフンを交互に見る。（福島県／みゆず）

B すごい……！ どちらがご主人なんだか。でも目線で訴えてくる感じ、わかります。

◆3歳になる息子が、マントをつけたら飛べると思い、飛んだところ田んぼに落ちた。（京都府／NAO）

B ケガはなかったそうでよかった。飛ぶには特殊な訓練が必要なんだよ、息子さん。

◆フレンチトーストを作って、お皿に移そうとしたら滑りが良すぎてそのまま三角コーナーへダイブした。（新潟県／98円）

B お皿が滑走路に。そういうことも予期して、今度から安全なところで移すべし。

◆なんとなくUFOキャッチャーをしてみたら、お菓子がガバガバとれてしまい、UFOキャッチャーの周りにギャラリーが。（京都府／とみも）

B 無欲の勝利。お菓子はたくさんあっても困らないし、ヒーロー気分でいいね。

◆ライヴが始まる前にキーホルダーを落とした。しかし、帰るときに私の足元に転がって帰って来た。何万人もいたのに。（広島県／サランラップ）

B 壮大な旅をしてきたのか、近隣を彷徨っていただけなのか。無事戻ってきてよかった。

◆説教している友達の鼻毛が2本も出ていた。（京都府／ゆずこなつみ）

B それだけで説得力がなくなるというか。怒られてる側の集中力が切れちゃうよね。

◆ペットの犬の昼寝の場所を、モルモットが邪魔して取ってしまっていた。（埼玉県／ゆずず）

B モルモット、かなり大きそう……。態度も大きいのは、犬よりおうちで先輩だからなの？

◆職場のおじさんにもらった正露丸の小瓶が、わざわざ**ドクロ**を印刷してあってかわいかった。（兵庫県／みー）

B 勝手に飲まれないようにしてるの？ お茶目だとしても、ちょっとドキッとするわ。

◆電車に乗り遅れたときに限って、友達に会えます。（愛知県／さゆり）

B ということは、友達はいつも出るのが遅いんだな。会えるのがいいのか、悪いのか。

◆社会の授業中、先生が急に歌いはじめた。生徒に手拍子を求め、しまいには紙吹雪をまいてました。（宮城県／ゆっぴ）

B 先生によるフラッシュモブではなく、ただのワンマンライヴ……。なぜに。

◆「今度サプライズでプレゼントあげるね！」と友達に言われた。（神奈川県／友アゲハ）

B そうやって告知されることによってハードルが上がるということを友人はまだ知らない。

◆誕生日に学校に行くと、机の上にいっぱいのお菓子のサプライズが！（石川県／まろん）

B こっちは告知なしだったのね。机の上って結構なスペースあるけど、どう持って帰ったの。

エキセントリックおたより Eccentric letters

◆うちの90歳になる祖母が、「新聞に"きゅうりみゅうみゅう"が載ってたよ」と言うので、何かと思い見てみたら、きゃりーぱみゅぱみゅでした。（埼玉県／まいちゃんこ）

B 言いにくさではどっこいどっこい。90歳のおばあさまにも知られている、きゃりーちゃん。

◆母がくじで自転車を当てた。喜んで見に行ったら**子供用**だった。私はもう21歳……。（岡山県／かな太郎）

B せっかく当たったのに、むしろありがた迷惑な。身内に乗れそうなお子さんいません？

◆目が悪く、猫好きな私。よく道端に落ちているビニール袋を猫と間違えて近づくことが多々。ある日、どうせビニール袋と思って歩いていたら本物の猫で、あまりの驚きに飛び上がってしまった。（神奈川県／あき）

B めげずにビニールに向かって行く姿に感動すら覚えるのに、ついに出会えてその反応。

◆友人が大学入学のため、地元を離れるときにおばあちゃんが泣いたので、「ゴールデンウィークに帰って来るね」と行ったら、泣きながら「帰ってくるなー」って言われたらしい。（京都府／青リンゴアメ）

B おばあちゃんなりのエールでしょうけど、言われた側は「泣いてるのに……」って思うよね。

◆最近、天井裏からピイッと鳴き声がする。何か生き物が住みついたのかなと家族で話していたが、1ヵ月後に火災報知器の電池切れの音と判明。（神奈川県／なつめ）

B 微笑ましく思ってたら、危ない危ない。気づいてよかった。和やかなお宅ですね。

◆特急に乗ったときに、運転席の近くで運転のマネをして楽しそうにしている乗客のおじさんがいた。（長野県／ひよこっこ）

B そういう子供は見かけるけど、おじさんも！ いくつになっても電車好きなんですねえ。

◆友達によく変な癖だねって言われることが、兄妹4人とも共通していたことが発覚した。（千葉県／ゆみーる）

B 兄妹で似るのはわかるけど、それも4人で共通ってすごいな！ どんな癖なんだ。

◆目の前で歩いていた先生がプリントをばさばさと落として、私と友人2人で拾ったらwith Bっぽくなった。（埼玉県／しじみ）

B どんだけ颯爽とした拾い方だったんだ。先生は、角度つけて「35億」って言ってね。

◆商談に同行した新人が、暇すぎて目の前のペットボトルの文字をノートに書き写していた。（東京都／かなっこ）

B 暇を悟られないように写経のごとく成分表示を写すとは……。そんな暇なことある？

今月のB-PRESSはいかがでしたでしょうか？ Bプレスは皆さまからのお便り命！ アーティストのイラストは「イラスト帝国」、ストーリーができちゃったり、ライヴレポートは「4コマSHOW」へ。「なんでもベスト5」の投票や、とっておきの小ネタはプレゼント応募ハガキにたっぷり記入してくださいね。その他、要望などもなんなりと～!!

すべての宛先は
〒101-8450
東京都千代田区神田錦町1-14-2F
B-PASS ⑧『○○○○○』係

JVC

Bluetooth対応ポータブルヘッドホン HA-S38BT

カラー:ブラック、レッド、ホワイト
オープン価格(市場実勢価格 5,000円前後/税別)



ワイヤレスヘッドホンのユーザーから要望の高い、長時間再生に応えた大容量バッテリーを搭載。長時間+ワイヤレスで、約17時間の連続再生を可能にしたモデルです。その中でも本機種は、3色あって気軽に好きな音楽を楽しめるカジュアル志向のアイテム。音質もバスブーストモードを使えば、ベース音の迫力がさらに増します。また、フラット折りたたみ機構を採用しており、持ち運ぶ際もとっても便利です。

●問い合わせ先/JVCケンウッド カスタマーサポートセンター
フリーダイヤル 0120-2727-87(固定電話)
ナビダイヤル 0570-010-114(携帯電話・PHP)
http://www3.jvckenwood.com

audio-technica



ワイヤレスヘッドホン ATH-CKR35BT

カラー:ブラック、ブルー、ゴールド、ピンク、レッド、シルバー
オープン価格(市場実勢価格 6,000円前後/税別) 発売日:6月23日

音本来の豊かさを追求したSound Reality seriesに、インナーイヤータイプのワイヤレスヘッドホンが登場。高性能を凝縮したドライバーを搭載し、心地よいクリアな中高域が特長です。スタイルに合わせて選べる6カラー、襟元にバッテリーケースを固定するClip-Onスタイルで安定装着できるのもうれしいです。耳元で音楽や動画、通話の操作ができる、便利なインラインコントローラー付き。

●問い合わせ先/お客様相談窓口 0120-773-417
https://www.audio-technica.co.jp

Let's Sing!
カラオケで盛り上がろう!

今号の表紙を飾ってくれたOLDCODEXのカラオケ人気曲をランキングでご紹介。あなたの十八番は入っていますか?



JOYSOUNDでよく歌われているOLDCODEXの曲は?

①Rage on
②カタルリズム
③Dried Up Youthful Fame
④Aching Horns
⑤WALK
⑥Feed A
⑦Lantana
⑧Scribble,and Beyond
⑨Deal with
⑩The Misfit Go
⑪night flight
⑫美しい背骨
⑬Anthem
⑭The Experience
⑮スクリプト
⑯Eyes in chase
⑰kick out
⑱mono frontier
⑲HEAVEN
⑳Seek your turn

JOYSOUND調べ
集計期間:2017年6月